国府台での１年間

教養部長　千葉　司

平成２３年度から東京医科歯科大学のカリキュラムが大きく変わりました。専門科目において医学科と歯学科のカリキュラムの一部が融合した医歯学融合教育が始まりました。それに伴い国府台キャンパスで行っていた教養教育が全学科で１年（実質的には0.9 年）に短縮されました。われわれ教養部教員はもう少し時間をかけてゆとりのある教養教育を行いたかったのですが、全体的なカリキュラムを検討していくと、教養教育に割ける時間は限られたものとなってしまいました。

その限られた時間の中で、今まで以上の教養教育を皆さんに提供するにはどうすればよいかを考えて作られたのが、平成２３年度から始まった新カリキュラムです。従来型の教育に加えて、新たに開講する特色ある科目群が『教養総合講座』と『主題別教育科目』です。

『教養総合講座』では、メインのテーマ（本年度は、「現代の科学技術がもたらす光と影」）を決め、それに沿ってグループ別に課題探索型の学習（「基礎ゼミ」）をすると共に、大学で学んでいくための基本的なスキル、情報の探索・収集と処理の能力（「情報リテラシー」）および文章表現力（「文章表現」）を鍛えます。

医学科・歯学科の学生に課す『主題別教育科目』では、２年進級時に選択する各主題にそった自然科学・人文社会科学・外国語の各領域にまたがる選択科目（「主題別選択Ⅰ」および「主題別選択Ⅱ」）を学ぶと共に３年次に開講される「主題別人文社会科学セミナー」に向けての学習をし、自ら問題を設定し、結論を導出するという作業を通して、最終的に一つのまとまったレポートを完成させることを目指します。

両科目とも始まったばかりでまだ手探りの状態ですが、これらの科目が意義のあるものになるか否かは、皆さんがどの程度主体的にこれらの科目に関わるか否かにかかっています。

教養は博識とは違います。広く深い知識を持っていることは必要条件ですが、十分条件ではありません。いろいろなことを通して自分を磨くこと（人格の陶冶）が不可欠です。それには、国府台での１年間は十分とは言えませんが、時間は使い方によって半分になることも、倍になることもあります。自分で限界を決めないでいろいろなことに挑戦して下さい。成功体験しかない人も多いと思いますが、失敗を恐れないで下さい。人は成功体験よりも失敗体験から多くのことを学ぶことができます。国府台で実り多い１年間を過ごされることを願っています。

「全学共通科目教育要項」は一人に一冊配付します。
紛失しても再配布はしません。
今年度一年間使用しますので、大切に取り扱ってください。

目　次

Ⅰ　平成 25 年度授業計画

教養部学年歴・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

授業時間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

教養部カレンダー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

教養部時間割・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

火曜授業時間割・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

火曜授業実施地区表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

Ⅱ　全学共通科目の履修について

１．　教養教育の目的と概要

１）医学科／歯学科の教養教育の概要・・・・・・・・・・・・・・・

２）保健衛生学科／口腔保健学科の教養教育の概要・・・・・・・・・

２．　必修科目と選択科目

医学部医学科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

歯学部歯学科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

医学部保健衛生学科看護学専攻・・・・・・・・・・・・・・・・・・

医学部保健衛生学科検査技術学専攻・・・・・・・・・・・・・・・・

歯学部口腔保健学科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

３．　各科目の履修手続きについて

１）人文社会科学科目の選択と手続きについて・・・・・・・・・・・

２）外国語科目のクラス分けについて・・・・・・・・・・・・・・・

３）物理学の講義科目の選択について・・・・・・・・・・・・・・・

４）自由選択科目について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

５）履修の手続きについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

６）履修取消について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

７）試験と成績評価について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

８）学力認定試験について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

９）GP（Grade Point）について・・・・・・・・・・・・・・・・・

４．　主題別教育（医学科・歯学科）について・・・・・・・・・・・

１．必修・選択必修科目

１）人文科学・社会科学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
哲学Ⅰ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
哲学Ⅱ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
倫理学Ⅰ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
倫理学Ⅱ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
心理学Ⅰ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
心理学Ⅱ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
宗教学Ⅰ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
宗教学Ⅱ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
芸術Ⅰ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
芸術Ⅱ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
歴史学ＢⅠ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
歴史学ＢⅡ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
民俗学Ⅱ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
科学史Ⅰ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
科学史Ⅱ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
文学ＡⅠ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
文学ＡⅡ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
文学ＢⅠ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
文学ＢⅡ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
法学Ⅰ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
法学Ⅱ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
政治学Ⅰ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
政治学Ⅱ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
経済学Ⅰ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
経済学Ⅱ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
社会学ＡⅠ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
社会学ＢⅠ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
社会学ＢⅡ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
社会思想史Ⅰ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
社会思想史Ⅱ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
文化人類学Ⅰ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
文化人類学Ⅱ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
社会科学特論ＡⅠ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

社会科学特論 AⅡ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
日本事情 AⅠ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
日本事情 AⅡ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

2）自然科学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
物理学入門 (a)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
物理学入門 (b)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
生物学入門・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
生物学入門 A／B・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
化学入門・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
数学（微積分 M)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
数学（微積分 D)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
数学（線形代数)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
数学基礎・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
統計学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
物理学（力学 a)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
物理学（力学 b)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
物理学（力学 c)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
物理学（電磁気学 a)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
物理学（電磁気学 b)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
物理学（電磁気学 c)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
化学（一般化学Ⅰ・Ⅱ）(医)・・・・・・・・・・・・・・・・・・
化学（一般化学Ⅰ・Ⅱ）(歯)・・・・・・・・・・・・・・・・・・
化学（一般化学Ⅰ・Ⅱ）(検)・・・・・・・・・・・・・・・・・・
化学基礎 A・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
化学基礎 B・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
生物学(細胞・遺伝子)M・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
生物学（構造・機能）M ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
生物学（細胞・遺伝子）D・T・・・・・・・・・・・・・・・・・
生物学（構造・機能）D・T・・・・・・・・・・・・・・・・・・
生物学基礎 A／B・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
物理学実験・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
化学実験・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
生物学実験・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
科学基礎実験 A・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
科学基礎実験 B・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

科学基礎演習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
情報科学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
情報科学（再履修）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
情報処理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

３）外国語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
英語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
英語 a、英語 c・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
英語 b、英語 d・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
日本語 a・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
日本語 b・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
日本語 c・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
日本語 d・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
ドイツ語 a/c・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
ドイツ語 b/d・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
フランス語 a/b/c/d・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
フランス語 a/c・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
フランス語 b/d・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
中国語 a/c+b/d・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
スペイン語 a/b/c/d・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

４）保健体育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
スポーツ・健康科学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
フィットネスマネージメント・・・・・・・・・・・・・・・・・・

５）教養総合講座・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

２．自由選択科目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
Ｓ・物理で視た人体と医療機器・・・・・・・・・・・・・・・・・
Ｓ・メンタルトレーニング・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
Ｓ・医歯学生のための法学概論・・・・・・・・・・・・・・・・・
Ｓ・Introductory　Life Science　In　English・・・・・・・・・
Ｒ・整数論・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
Ｓ・翻訳演習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
Ｓ・離散構造講義・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
Ｒ・講義と実習によるバイオサイエンスＡ・・・・・・・・・・・
Ｓ・Digital Language and Literacy Project・・・・・・・・・・
Ｓ・一般化学演習 A・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
Ｓ・一般化学演習 B・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
Ｓ・応用数学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
Ｓ・量子論入門・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
Ｓ・漢文講読 A・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
Ｓ・中国近現代史・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
Ｓ・異文化交流・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
Ｓ・数理生物学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
Ｓ・情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
Ｓ・Word Power ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
Ｓ・『古事記』講読・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
Ｓ・フランス語でニュースを読む・・・・・・・・・・・・・・・・
Ｓ・電気と磁気・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
Ｓ・BASIC 言語 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
Ｒ・離散構造１・２・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
Ｓ・数学解析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
Ｓ・実用統計学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
Ｓ・糖の科学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
Ｓ・初級フランス語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
Ｒ・講義と実習によるバイオサイエンス B・・・・・・・・・・・
Ｓ・タンパク質の科学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
Ｓ・医療と社会システム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
Ｓ・Life Science　in　English・・・・・・・・・・・・・・・・
Ｒ・点子ちゃんとアントンを読む・・・・・・・・・・・・・・・・
Ｒ・符号理論・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
Ｓ・現代パフォーミングアーツ・・・・・・・・・・・・・・・・・

Ｓ・微分方程式入門・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
Ｓ・彫刻・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
Ｓ・計算機による数学Ａ／Ｂ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
Ｓ・生体分子分光学演習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
Ｓ・電磁気学演習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
Ｓ・水の科学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
Ｓ・漢文講読Ｂ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
Ｓ・イギリス文学講読・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
Ｓ・現代物理学入門・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
Ｓ・現代中国論・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

●夏季集中型自由選択科目

Ｓ・機械・科学・人間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
Ｓ・分子分光学演習・基礎編・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
Ｓ・フィットネスキャンプ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
Ｓ・ウニの発生と海産生物の観察実習・・・・・・・・・・・・・・・

●冬季・春季集中型自由選択科目

Ｓ・野外運動実習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

１．連携教育科目

医療人間学概論（倫理学）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
医療人間学概論（法学）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
医療人間学セミナーⅠ（倫理学）・・・・・・・・・・・・・・・・・
医療人間学セミナーⅡ（倫理学）・・・・・・・・・・・・・・・・・
医療人間学セミナーⅠ（法学）・・・・・・・・・・・・・・・・・・
医療人間学セミナーⅡ（法学）・・・・・・・・・・・・・・・・・・

２．専門教育科目

１）医学科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
２）看護学専攻・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
３）検査技術学専攻・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
４）歯学科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
５）口腔保健学科
　　口腔保健衛生学専攻・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
　　口腔保健工学専攻・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

Ⅳ　学生生活のために

１．毎日の学生生活・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

２．福利・厚生サービスなど・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

３．国府台地区施設の利用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

４．諸手続の窓口一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

Ⅴ　履修に関する規則

１．東京医科歯科大学学則・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

２．東京医科歯科大学全学共通科目履修規則・・・・・・・・・・・・

３．東京医科歯科大学試験規則・・・・・・・・・・・・・・・・・・

Ⅵ　建物配置図・専任教員連絡先

１．国府台地区建物配置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

２．湯島地区建物配置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

３．専任教員連絡先・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

Ⅰ．平成 25 年度授業計画

第１学年　教養部学年暦

区　分		期　間	行　事
前期	授　　業	平成25年 4月15日（月）～ 平成25年 7月30日（火）	4月5日（金）新入生健康診断 （湯島地区※） 4月8日　（月）入学式（湯島地区※） 4月9日（火）教養部オリエンテーション 4月10日（水）～4月11日（木） 新入生校外オリエンテーション （箱根湯本・冨士屋ホテル） 4月12日（金）教養部ガイダンス （湯島地区※） 4月16日（火）抗体検査 （湯島地区※） 4月18日（木）破傷風予防接種 5月11日（土）体育祭 5月14日（火）一般定期健康診断 （湯島地区※） 10月12日（土）創立記念日 10月19日（土）～ 10月20日（日） お茶の水祭（湯島地区※） 12月4日（水）インフルエンザ予防接種 3月20日（木）進級発表
	補　　講	平成25年 7月31日（水） 平成25年 9月18日（水）～ 平成25年 9月27日（金）	
	定期試験	平成25年 9月10日（火）～ 平成25年 9月13日（金）	
	夏季休業	平成25年 8月 1日（木）～ 平成25年 9月 6日（金）	
後期	授　　業	平成25年 9月30日（月）～ 平成26年 2月10日（月）	
	冬季休業	平成25年12月24日（火）～ 平成26年 1月 3日（金）	
	補　　講	平成26年 2月 5日（水）～ 平成26年 2月 7日（金）	
	定期試験	平成26年 2月12日（水）～ 平成26年 2月18日（火）	
	春季休業	平成26年 2月19日（水）～ 平成26年 3月31日（月）	

※　（湯島地区）は湯島キャンパスでの行事です。

授業時間

時限	国府台地区	湯島地区
1時限	９：１０～１０：４０	８：５０～１０：２０
2時限	１０：５０～１２：２０	１０：３０～１２：００
3時限	１３：１０～１４：４０	１２：５０～１４：２０
4時限	１４：５０～１６：２０	１４：３０～１６：００
5時限	１６：３０～１８：００	１６：１０～１７：４０
6時限	１８：１０～１９：４０	

※　国府台地区および湯島地区建物配置図については　　頁以降を参照してください。

※　授業時間割の記載は、授業科目名・(担当教員名)・使用教室です。

(教養部時間割の教室表記)

１～１３：１番教室～１３番教室

Ｃ：計算機実習室

ヒポゼミ２：ゼミナール室２

第1学年　平成25年度教養部カレンダー

前期	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	授業回数
4月						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30			前期
						健康診断							入学式	教養部オリエンテーション	オリエンテーション 新入生校外		教養部ガイダンス			〈授業〉	湯島	〈授業〉				〈授業〉						昭和の日	〈授業〉			月 15回
5月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31												火 15回
	〈授業〉		憲法記念日	みどりの日	こどもの日	振替休日	〈授業〉				体育祭		〈授業〉	湯島	〈授業〉					〈授業〉						〈授業〉												水 15回
6月				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30											木 15回
						〈授業〉							〈授業〉							〈授業〉						〈授業〉												金 15回
7月						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31						
						〈授業〉							〈授業〉							海の日	〈授業〉						〈授業〉							〈授業〉	〈月曜授業〉	補講				
8月		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31										
	夏季休業					夏季休業							夏季休業							夏季休業						夏季休業												
9月					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30									
						夏季休業							〈月曜授業〉	前期試験						敬老の日	教養総合講座	補講	〈金曜授業〉			秋分の日	教養総合講座		補講				〈授業〉（後期）						

後期	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	授業回数
10月							1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31		後期
							湯島	〈授業〉					〈授業〉	湯島	〈授業〉					体育の日	湯島	〈授業〉			お茶の水祭	〈授業〉	湯島	〈授業〉				〈授業〉	湯島	〈授業〉			月 15回
11月			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30										火 15回 湯島教育（専門等）
		〈授業〉			文化の日	振替休日	湯島	〈授業〉					〈授業〉	湯島	〈授業〉					〈授業〉	湯島	〈授業〉			勤労感謝の日	〈授業〉	湯島	〈授業〉										水 15回
12月					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31								
						〈授業〉	湯島	〈授業〉					〈授業〉	湯島	〈授業〉					〈授業〉	湯島	〈授業〉				天皇誕生日	冬季休業						冬季休業					木 15回
1月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31											
	元日	冬季休業				〈授業〉	湯島	〈授業〉					成人の日	湯島	〈授業〉					〈授業〉	湯島	〈授業〉				〈授業〉	湯島予備日	水曜補講	木曜補講	金曜補講										金 15回
2月				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28												
						〈授業〉	湯島予備日	補講					〈月曜授業〉	建国記念の日	後期試験					後期試験	学力認定試験	春季休業（再試験）					春季休業（再試験）											
3月				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31								
						春季休業							春季休業							春季休業			進級発表	春分の日			春季休業					春季休業						

平成25年度前期　教養部時間割

第1学年

		医学科	歯学科	検査技術学	口腔保健工学	口腔保健衛生学	看護学
月	1	歴史学BⅠ（東洋史）（五味）3 文学AⅠ（土佐）1	哲学Ⅰ（田中）8	文化人類学Ⅰ（板橋）9			日本事情AⅠ（増田）ヒポゼミ2
	2	社会学AⅠ（板橋）9 心理学Ⅰ（近藤）1	経済学Ⅰ（川村）6 宗教学Ⅰ（爪田）7	社会学BⅠ（皆吉）8	政治学Ⅰ（面）3		
	3	数学（微積分M）（医）（中口）1	化学（一般化学Ⅰ）（歯）（奈良）7	ドイツ語a（Sch）3 ドイツ語b（立川）5	ドイツ語a（青木）4 フランス語a（中島）2 ～6/10 フランス語b（中島）2 6/17～	フランス語b（中島）2 6/17～ フランス語b（満島）8 6/17～ 中国語a（家永）10	
	4	ドイツ語a（Sch）3 ドイツ語a（青木）4 ドイツ語b（立川）5 フランス語a（中島）2 ～6/10 フランス語b（中島）2 6/17～	フランス語b（満島）8 6/17～ 中国語b（家永）10 スペイン語a（笛田）6 日本語a（増田）ヒポゼミ2	情報科学（徳永・齋藤）C	生物学入門（松本）1		
	5	物理学（力学a）（千葉）7 物理学（力学b）（水谷）8 物理学（力学c）（越野）1			統計学（清田）6	情報科学（徳永・齋藤）C	
火	1	生物学入門（中野、産賀［生］）1～3時限（第2週～第4週）、2～3時限（第6週）、2時限（第7週） 化学入門（勝又[化]）1時限～4時限（第2週～第4週） 物理学入門(a)／(b)（千葉、水谷[物]）1、2時限（第2週～第4週、第6・7週、）、1時限（第8週～第9週） 1／7(生物)、9／8(物理)、2(化学)					
	2	生物学（細胞・遺伝子M）（医）（服部）1 （6週目から）	生物学（細胞・遺伝子D・T）（歯・検査）（松本・伊藤）7 （6週目から）	化学基礎A／B（澤野／奈良・勝又・宮園）湯島キャンパス 1時限～2時限（第1週～第5週）8／9　1時限～2時限（第6・7週）　2時限（第8週～第15週）			
	3						
	4	教養総合講座　（5週目から）（全教員）全教室					
	5						
水	1	化学（一般化学Ⅰ）（医）（奈良）1	数学（微積分D）（歯）（中口）7	化学（一般化学Ⅰ）（検）（澤野・渡邊）6		英語a（O'Ne）8 英語a（Fos）9 英語a（Mar）2 英語a（Kni）4	
	2	英語b（Fos）C 英語b（O' Ne）11 英語b（猪熊）5 英語b（畔柳）10 英語a（Kni）4 英語a（Mar）8		ドイツ語b（清水）7 ドイツ語a（Sch）3	ドイツ語b（立川）6 フランス語a（中島）2 中国語b（家永）9		
	3	ドイツ語b（清水）8 ドイツ語b（立川）6 ドイツ語a（Sch）4 フランス語a（中島）2 中国語a（家永）9 スペイン語b（大貫）7 日本語b（大北）12		英語b（畔柳）5 英語b（猪熊）3		S・メンタルトレーニング（谷木）11	
	4	S・医歯学生のための法学概論（飛田）第1・3水曜日 8 S・Introductory Life Science In English（産賀）第1・3水曜日 2 R・整数論（清田）第1・3水曜日を除く 3 S・翻訳演習（畔柳）第1・3水曜日を除く 4 S・離散構造講義（徳永）第1・3水曜日を除く 11 R・講義と実習によるバイオサイエンスA（服部）第1・3水曜日を除く 5 S・Digital Language and Literacy Project（O'ne）第1・3水曜日を除く 10 S・物理で視た人体と医療機器（千葉）第1・3水曜日を除く 6		S・メンタルトレーニング（谷木）7			
	5						
木	1	英語a（Mar）2 英語a（菅原）5 英語b（猪熊）4 英語b（畔柳）3	情報処理（徳永・中口・齋藤）C ・6	英語a（O' Ne）8 英語a（Fos）9			
	2	情報処理（徳永・中口・齋藤）C ・6	英語a（Fos）9 英語a（O' Ne）8 英語a（Mar）2			英語b（畔柳）3 英語b（猪熊）4 英語b（菅原）5	
	3	フィットネスマネージメント（林・今野・浅川）体育館／グラウンド／1／C	S・一般化学演習A（奈良）6	数学基礎（中口）7	情報科学（徳永・齋藤）C	統計学（清田）8	
	4		S・一般化学演習B（奈良）6	統計学（清田）8			
	5	スポーツ・健康科学（清水・湊・谷木）1					
金	1	科学史Ⅰ（矢島）7 文学BⅠ（土佐）6 文化人類学Ⅰ（板橋）9 社会思想史Ⅰ（山岡）4 S・応用数学（水谷）2					
	2	倫理学Ⅰ（田中）8 芸術Ⅰ（青木ほか）7/13 法学Ⅰ（飛田）1 社会科学特論AⅠ（飯田）3 社会学AⅠ（板橋）9 S・量子論入門（梅崎）2 S・漢文講読A（土佐）12 S・中国近現代史（家永）4						
	3	化学実験／生物学実験／物理学実験（勝又・澤野・奈良）[化]（松本・中野・服部）[生]（千葉・越野・水谷・梅崎）[物] 化学実験室／生物学実験室／物理学実験室／C／1／7 ※5/25、6/29、7/31(火)生物学実験　6		フィットネスマネージメント（林・高岡・浅川）体育館／グラウンド／1／C			
	4						
	5			スポーツ・健康科学（二宮・湊・谷木）1			

※　教室のヒポゼミ2について―ヒポクラテスホール4Fｾﾐﾅｰﾙ室2

※　教室のCについて―　ヒポクラテスホール2Fの計算機実習室

必修科目（一部選択必修）

湯島地区での授業

1番教室～7番教室：ヒポクラテスホール
8番教室～9番教室：管理研究棟2F
10番教室～12番教室：管理研究棟3F
13番教室：プレハブ教室（校舎案内参照）

夏季集中型自由選択科目	S・フィットネスキャンプ（林・田井・谷木）9月	S・機械・科学・人間（土佐）8月
	S・ウニの発生と海産生物の観察実習（服部・伊藤）9月	S・分子分光学演習・基礎編（奈良）8月・9月

平成25年度後期　教養部時間割

第1学年

		医学科	歯学科	検査技術学	口腔保健工学	口腔保健衛生学	看護学
月	1	哲学Ⅱ（田中）8	文学AⅡ（土佐）1	文化人類学Ⅱ（板橋）10		日本事情AⅡ S・異文化間交流（増田）2	S・数理生物学（中口）9
	2	民俗学Ⅱ（板橋）7 / 歴史学BⅡ（西洋史）（小森）2 / 政治学Ⅱ（面）3 / 心理学Ⅱ（近藤）1	社会学BⅡ（皆吉）10 / 経済学Ⅱ（川村）4 / 社会科学特論AⅡ（尾内）6			S・情報（中口）5 / S・Word Power（Foss）C / S・『古事記』講読（土佐）11 / S・フランス語でニュースを読む（中島）12	
	3	生物学（構造・機能M）（医）（服部）1	化学（一般化学Ⅱ）（歯）（奈良・澤野）7	ドイツ語d（立川）5 / ドイツ語c（青木）4	ドイツ語c（Sch）3	フランス語d（中島）2 / フランス語d（満島）10 / 中国語d（家永）9	
	4	ドイツ語d（立川）5 / ドイツ語c（Sch）3 / ドイツ語c（青木）4 / フランス語d（中島）2	フランス語d（満島）10 / 中国語d（家永）9 / スペイン語c（笛田）6 / 日本語c（増田）ヒポゼミ2	化学（一般化学Ⅱ）（検）（澤野・奈良）8	生物学基礎（服部）1		
	5	物理学（電磁気学a）（千葉）7	物理学（電磁気学b）（水谷）10	物理学（電磁気学c）（越野）1		S・電気と磁気（千葉）2 / S・実用統計学（徳永）C／6	S・BASIC言語 情報科学（補習コース）（清田）C／5
火	1	湯島／専門教育	湯島／専門教育・連携教育（前半8回）		湯島 ／ 専門教育		湯島 ／ 専門教育・連携教育
	2		科学基礎実験A（後半7回）（勝又・澤野・奈良・服部・松本・中野）化学学生実験室／生物学学生実験室／7				
	3						
	4						
	5	R・離散構造2（徳永）共用セミナー室9（湯島）					
水	1	化学（一般化学Ⅱ）（医）（奈良・渡邊）1	生物学（構造・機能D・T）（歯・検）（松本・伊藤）7		S・数学解析（中口）9	英語c（O'Ne）10 / 英語c（Fos）5 / 英語c（Mar）2 / 英語c（Kni）4	
	2	英語d（Fos）C / 英語d（畔柳）3 / 英語d（O'Ne）11	英語c（Mar）6 / 英語d（猪熊）4 / 英語c（Kni）10	ドイツ語c（Sch）5 / ドイツ語d（立川）8	ドイツ語d（清水）7	フランス語c（中島）2 / 中国語c（家永）9	
	3	ドイツ語c（Sch）4 / ドイツ語d（清水）7 / ドイツ語d（立川）8 / フランス語c（中島）2	中国語c（家永）9 / スペイン語d（大貫）6 / 日本語d（大北）12	英語d（畔柳）3	英語d（猪熊）5	情報科学（補習コース）（徳永）C	
	4	S・糖の科学（勝又）化学学生実験室 / S・初級フランス語（満島）第1・3水曜日 10 / S・Life Science in English（産賀）第1・3水曜日 4 / S・医療と社会システム（飛田）第1・3水曜日 2	S・タンパク質の科学（澤野）第1・3水曜日を除く 3 / R・講義と実習によるバイオサイエンスB（服部）第1・3水曜日を除く 6 / R・点子ちゃんとアントンを読む（Sch）第1・3水曜日を除く 5 / R・符号理論（清田）第1・3水曜日を除く 7	S・現代パフォーミングアーツ（徳永）第1・3水曜日を除く 12 / S・微分方程式入門（中口）第1・3水曜日を除く 9	S・彫刻（本郷）第1週～第7週 13		
	5	S・医歯学生のための法学概論（飛田）第1・3水曜日 8					
木	1	数学（線形代数）（清田）1	英語c（Mar）3 / 英語c（菅原）2 / 英語d（猪熊）5 / 英語d（畔柳）4	英語c（Fos）9	英語c（O'Ne）8		
	2	英語c（O'Ne）8 / 英語c（Fos）9 / 英語c（Mar）3	数学（線形代数）（清田）1			英語d（畔柳）4 / 英語d（猪熊）5 / 英語d（菅原）2	
	3	フィットネスマネージメント（水野・林・今野）体育館／グラウンド／1／C	S・計算機による数学A 情報科学（補習コース）（中口）第1週～第8週 C		科学基礎演習（澤野・越野）10（口腔保健と看護）	科学基礎実験B（前半7回）（勝又・澤野・奈良）化学学生実験室／7（口腔保健と看護）	科学基礎演習（澤野・越野）10（口腔保健と看護）
	4						
	5	S・生体分子分光学演習（奈良）5・6時限（開講日指定）化学教員実験室 / S・計算機による数学B（中口）5・6時限（第1週～第8週）C					前期ドイツ語補習授業（Sch）2
金	1	科学史Ⅱ（矢島）7	社会思想史Ⅱ（山岡）6	文化人類学Ⅱ（板橋）10	文学BⅡ（土佐）1		S・電磁気学演習（梅崎）2 / S・水の科学（奈良）3
	2	宗教学Ⅱ（宮田）7 / 民俗学Ⅱ（板橋）10 / 芸術Ⅱ（室田）11 / 法学Ⅱ（飛田）8 / 倫理学Ⅱ（田中）6			S・漢文講読B（土佐）12	S・イギリス文学講読（猪熊）2 / S・現代物理学入門（水谷）3	R・離散構造1（徳永）4 / S・現代中国論（家永）5
	3	化学実験／生物学実験／物理学実験（勝又・澤野・奈良）[化]（松本・中野・服部）[生]（千葉・越野・水谷・梅崎）[物] 化学実験室／生物学実験室／物理学実験室／C／1／7		フィットネスマネージメント（水野・林・高岡）体育館／グラウンド／6／C			
	4						
	5						

※ 教室のCについて― ヒポクラテスホール2Fの計算機実習室

※ 教室のヒポゼミ2について―ヒポクラテスホール4Fｾﾐﾅｰﾙ室2

1番教室～7番教室：ヒポクラテスホール
8番教室～9番教室：管理研究棟2F
10番教室～12番教室：管理研究棟3F
13番教室：プレハブ教室（校舎案内参照）

必修科目（一部選択必修）　　湯島地区での授業

冬季・春季集中型自由選択科目　　S・野外運動実習（水野・田井・麓）2月

医学科第1学年　平成25年度火曜授業時間割

前期　　は湯島地区

日時		9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
4/16	火	医学科ガイダンス（9:00～15:40）				
日時		9:10～10:40	10:50～12:20	13:10～14:40	14:50～16:20	16:30～18:00
4/23	火	生物学入門 （中野・産賀）1/7 化学入門 （勝又）2 物理学入門 （千葉・水谷）8/9	生物学入門 （中野・産賀）1/7 化学入門 （勝又）2 物理学入門 （千葉・水谷）8/9	生物学入門 （中野・産賀）1/7 化学入門 （勝又）2	化学入門 （勝又）2	
4/30	火	生物学入門 （中野・産賀）1/7 化学入門 （勝又）2 物理学入門 （千葉・水谷）8/9	生物学入門 （中野・産賀）1/7 化学入門 （勝又）2 物理学入門 （千葉・水谷）8/9	生物学入門 （中野・産賀）1/7 化学入門 （勝又）2		オリエンテーション 16:30～17:30 鈴木章夫記念講堂
5/7	火	生物学入門 （中野・産賀）1/7 化学入門 （勝又）2 物理学入門 （千葉・水谷）8/9	生物学入門 （中野・産賀）1/7 化学入門 （勝又）2 物理学入門 （千葉・水谷）8/9	生物学入門 （中野・産賀）1/7 化学入門 （勝又）2	化学入門 （勝又）2	
5/14	火	健康診断	健康診断	健康診断	教養総合講座 （全教員）鈴木章夫記念講堂	教養総合講座 （全教員）鈴木章夫記念講堂
5/21	火	物理学入門 （千葉・水谷）8/9 化学入門 （勝又）2	物理学入門 （千葉・水谷）8/9 生物学入門 （中野・産賀）1/7	生物学入門 （中野・産賀）1/7	教養総合講座 （全教員）全教室	教養総合講座 （全教員）全教室
5/28	火	物理学入門 （千葉・水谷）8/9	物理学入門 （千葉・水谷）8/9 生物学入門 （中野・産賀）1/7	教養総合講座 （全教員）全教室	教養総合講座 （全教員）全教室	教養総合講座 （全教員）全教室
6/4	火	物理学入門 （千葉・水谷）8/9	生物学（細胞・遺伝子M） （服部）1	生物学（細胞・遺伝子M） （服部）1	教養総合講座 （全教員）全教室	教養総合講座 （全教員）全教室
6/11	火	物理学入門 （千葉・水谷）8/9	生物学（細胞・遺伝子M） （服部）1	生物学（細胞・遺伝子M） （服部）1	教養総合講座 （全教員）全教室	教養総合講座 （全教員）全教室
6/18	火		生物学（細胞・遺伝子M） （服部）1	生物学（細胞・遺伝子M） （服部）1	教養総合講座 （全教員）全教室	教養総合講座 （全教員）全教室
6/25	火		生物学（細胞・遺伝子M） （服部）1	生物学（細胞・遺伝子M） （服部）1	教養総合講座 （全教員）全教室	教養総合講座 （全教員）全教室
7/2	火		生物学（細胞・遺伝子M） （服部）1	生物学（細胞・遺伝子M） （服部）1	教養総合講座 （全教員）全教室	教養総合講座 （全教員）全教室
7/9	火		生物学（細胞・遺伝子M） （服部）1	生物学（細胞・遺伝子M） （服部）1	教養総合講座 （全教員）全教室	教養総合講座 （全教員）全教室
7/16	火		生物学（細胞・遺伝子M） （服部）1	生物学（細胞・遺伝子M） （服部）1	教養総合講座 （全教員）全教室	教養総合講座 （全教員）全教室
7/23	火		生物学（細胞・遺伝子M） （服部）1		教養総合講座 （全教員）全教室	教養総合講座 （全教員）全教室
7/30	火	月曜授業				
夏季休業		平成25年8月1日～9月6日				
前期試験		平成25年9月10日～9月13日				

後期　講義室：M&Dタワー2階共用講義室2

日時		9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
10/1	火	履修説明	国際医療/Professionalism オリエンテーション	多彩なキャリア1・2		
10/8	火	医学の歴史と展望1	症候学導入 オリエンテーション	国際医療1 グループ英語討論	国際医療1：講義	
10/15	火	国際医療1：TBL	医学の歴史と展望2	国際医療2 グループ英語討論	国際医療2：講義	
10/22	火	国際医療2：TBL	医学の歴史と展望3	国際医療2 グループ英語討論	国際医療3：講義	
10/29	火	国際医療3：TBL	多彩なキャリア3	症候学導入1		
11/5	火	医学の歴史と展望4	多彩なキャリア4	症候学導入2		
11/12	火	症候学導入3		Professionalism1 グループ英語討論	多彩なキャリア5	
11/19	火	症候学導入4		Professionalism2 グループ英語討論	多彩なキャリア6	
11/26	火	症候学導入5		Professionalism3 グループ英語討論	メンタルヘルスケア	
12/3	火	症候学導入6		Professionalism4 グループ英語討論	PBL オリエンテーション	
12/10	火	PBL1		卒前留学の意義		
12/17	火	PBL2		実習1 オリエンテーション	実習2 オリエンテーション	
冬季休業		平成25年12月24日～平成26年1月3日				
1/7	火	【実習1・2】 ・CC学生Shadowing ・臨床系教員Shadowing ・看護師Shadowing／BLS ・患者Shadowing				
1/14	火					
1/21	火					
1/28	火					
2/4	火	総括（卒業時の獲得資質について）		研究者養成コースの説明	予備	
後期試験		平成26年2月12日～2月18日				
春季休業		平成26年2月19日～3月31日				

保健衛生学科（看護学専攻）第1学年　平成25年度火曜授業時間割

前期　　は湯島地区

日時		8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50
4/16	火	化学基礎－1 （澤野・宮園） OH第3講義室/歯学科演習室1・2	化学基礎－2 （澤野・宮園） OH第3講義室/歯学科演習室1・2	12:30～13:20　抗体検査(随時) 13:20～専攻ガイダンス (3号館7階　保健衛生学講義室4)	基礎看護学Ⅰ(1)(齋藤) (3号館7階　保健衛生学講義室4)	基礎看護学Ⅰ(2)(齋藤) (3号館7階　保健衛生学講義室4)
4/23	火	化学基礎-補習 （澤野）第4ゼミ室	化学基礎－3 （澤野・宮園） OH第3講義室/歯学科演習室1・2	基礎看護学Ⅰ(3)(齋藤) (3号館7階　保健衛生学講義室4)	基礎看護学Ⅰ(4)(齋藤) (3号館7階　保健衛生学講義室4)	
4/30	火	化学基礎-補習 （澤野）第4ゼミ室	化学基礎－4 （澤野・宮園） OH第3講義室/歯学科演習室1・2	基礎看護学Ⅰ(5)(齋藤) (3号館7階　保健衛生学講義室4)	基礎看護学Ⅰ(6)(齋藤) (3号館7階　保健衛生学講義室4)	オリエンテーション 16:30～17:30：鈴木章夫記念講堂
5/7	火	化学基礎-補習 （澤野）第4ゼミ室	化学基礎－5 （澤野・宮園） OH第3講義室/歯学科演習室1・2	基礎看護学Ⅰ(7)(齋藤) (3号館7階　保健衛生学講義室4)	基礎看護学Ⅰ(8)(齋藤) (3号館7階　保健衛生学講義室4)	
5/14	火	健康診断	健康診断	健康診断	教養総合講座 （全教員）鈴木章夫記念講堂	教養総合講座 （全教員）鈴木章夫記念講堂
日時		9:10～10:40	10:50～12:20	13:10～14:40	14:50～16:20	16:30～18:00
5/21	火	化学基礎-補習 （澤野）8	化学基礎－6 （澤野・勝又）8/9		教養総合講座 （全教員）全教室	教養総合講座 （全教員）全教室
5/28	火	化学基礎-補習 （澤野）8	化学基礎－7 （澤野・勝又）8/9	教養総合講座 （全教員）全教室	教養総合講座 （全教員）全教室	教養総合講座 （全教員）全教室
6/4	火		化学基礎－8 （澤野・勝又）8/9		教養総合講座 （全教員）全教室	教養総合講座 （全教員）全教室
6/11	火		化学基礎－9 （澤野・勝又）8/7		教養総合講座 （全教員）全教室	教養総合講座 （全教員）全教室
6/18	火		化学基礎－10 （澤野・勝又）8/9		教養総合講座 （全教員）全教室	教養総合講座 （全教員）全教室
6/25	火		化学基礎－11 （澤野・勝又）8/9		教養総合講座 （全教員）全教室	教養総合講座 （全教員）全教室
7/2	火		化学基礎－12 （澤野・奈良）8/9		教養総合講座 （全教員）全教室	教養総合講座 （全教員）全教室
7/9	火		化学基礎－13 （澤野・奈良）8/9		教養総合講座 （全教員）全教室	教養総合講座 （全教員）全教室
7/16	火		化学基礎－14 （澤野・奈良）8/9		教養総合講座 （全教員）全教室	教養総合講座 （全教員）全教室
7/23	火		化学基礎－15 （澤野・奈良）8/9		教養総合講座 （全教員）全教室	教養総合講座 （全教員）全教室
7/30	火	月曜授業				
夏季休業		平成25年8月1日～9月6日（基礎看護学実習Ⅰ期間を除く）				
基礎看護学実習Ⅰ（7/31～8/3）【医学部・歯学部附属病院、3号館18階保健衛生学講義室1、3号館17階看護学実習室1・2・症例検討室】						
前期試験		平成25年9月10日～9月13日				

後期

日時		8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50
10/1	火	医療人間学概論(倫理学・藤井)-1 (3号館18階 保健衛生学講義室1)	医療人間学概論(法学・森本)-1 (3号館18階保健衛生衛生学講義室1)	解剖学Ⅰ(1)(星) (3号館18階保健衛生衛生学講義室1)	解剖学Ⅰ(2)(星) (3号館18階保健衛生衛生学講義室1)	看護心理学(1)(田上) (3号館8階保健衛生学講義室2)
10/8	火	医療人間学概論(倫理学・藤井)-2 (3号館18階 保健衛生学講義室1)	医療人間学概論(法学・森本)-2 (3号館18階保健衛生衛生学講義室1)	解剖学Ⅰ(3)(星) (3号館18階保健衛生衛生学講義室1)	解剖学Ⅰ(4)(星) (3号館18階保健衛生衛生学講義室1)	看護心理学(2)(田上) (3号館8階保健衛生学講義室2)
10/15	火	医療人間学概論(倫理学・藤井)-3 (3号館18階 保健衛生学講義室1)	医療人間学概論(法学・森本)-3 (3号館18階保健衛生衛生学講義室1)	解剖学Ⅰ(5)(星) (3号館18階保健衛生衛生学講義室1)	解剖学Ⅰ(6)(星) (3号館18階保健衛生衛生学講義室1)	看護心理学(3)(田上) (3号館8階保健衛生学講義室2)
10/22	火	医療人間学概論(倫理学・藤井)-4 (3号館18階 保健衛生学講義室1)	医療人間学概論(法学・森本)-4 (3号館18階保健衛生衛生学講義室1)	解剖学Ⅰ(7)(星) (3号館18階保健衛生衛生学講義室1)	解剖学Ⅰ(8)(星) (3号館18階保健衛生衛生学講義室1)	看護心理学(4)(田上) (3号館8階保健衛生学講義室2)
10/29	火	医療人間学概論(倫理学・藤井)-5 (3号館18階 保健衛生学講義室1)	医療人間学概論(法学・森本)-5 (3号館18階保健衛生衛生学講義室1)	解剖学Ⅰ(9)(星) (3号館18階保健衛生衛生学講義室1)	解剖学Ⅰ(10)(星) (3号館18階保健衛生衛生学講義室1)	看護心理学(5)(田上) (3号館8階保健衛生学講義室2)
11/5	火	医療人間学概論(倫理学・藤井)-6 (3号館18階 保健衛生学講義室1)	医療人間学概論(法学・森本)-6 (3号館18階保健衛生衛生学講義室1)	解剖学Ⅰ(11)(星) (3号館18階保健衛生衛生学講義室1)	解剖学Ⅰ(12)(星) (3号館18階保健衛生衛生学講義室1)	看護心理学(6)(田上) (3号館8階保健衛生学講義室2)
11/12	火	医療人間学概論(倫理学・藤井)-7 (3号館18階 保健衛生学講義室1)	医療人間学概論(法学・森本)-7 (3号館18階保健衛生衛生学講義室1)	解剖学Ⅰ(13)(星) (3号館18階保健衛生衛生学講義室1)	解剖学Ⅰ(14)(星) (3号館18階保健衛生衛生学講義室1)	看護心理学(7)(田上) (3号館8階保健衛生学講義室2)
11/19	火	医療人間学概論(倫理学・藤井)-8 (3号館18階 保健衛生学講義室1)	医療人間学概論(法学・森本)-8 (3号館18階保健衛生衛生学講義室1)	解剖学Ⅰ(15)(星) (3号館18階保健衛生衛生学講義室1)	解剖学Ⅰ(16)(星) (3号館18階保健衛生衛生学講義室1)	看護心理学(8)(田上) (3号館8階保健衛生学講義室2)
11/26	火	医療人間学ｾﾐﾅｰⅠ(法学・倫理学)-1 (講義室は下記の太枠参照)	医療人間学ｾﾐﾅｰⅠ(法学・倫理学)-2 (講義室は下記の太枠参照)	看護の統合と実践Ⅰ(1)(深堀) (3号館8階保健衛生学講義室2)	看護の統合と実践Ⅰ(2)(深堀) (3号館8階保健衛生学講義室2)	
12/3	火	医療人間学ｾﾐﾅｰⅠ(法学・倫理学)-3 (講義室は下記の太枠参照)	医療人間学ｾﾐﾅｰⅠ(法学・倫理学)-4 (講義室は下記の太枠参照)	看護の統合と実践Ⅰ(3)(深堀) (3号館8階保健衛生学講義室2)	看護の統合と実践Ⅰ(4)(深堀) (3号館8階保健衛生学講義室2)	
12/10	火	医療人間学ｾﾐﾅｰⅠ(法学・倫理学)-5 (講義室は下記の太枠参照)	医療人間学ｾﾐﾅｰⅠ(法学・倫理学)-6 (講義室は下記の太枠参照)	看護の統合と実践Ⅰ(5)(深堀) (3号館8階保健衛生学講義室4)	看護の統合と実践Ⅰ(6)(深堀) (3号館8階保健衛生学講義室4)	←講義室注意
12/17	火	医療人間学ｾﾐﾅｰⅠ(法学・倫理学)-7 (講義室は下記の太枠参照)	医療人間学ｾﾐﾅｰⅠ(法学・倫理学)-8 (講義室は下記の太枠参照)	看護の統合と実践Ⅰ(7)(深堀) (3号館8階保健衛生学講義室2)	看護の統合と実践Ⅰ(8)(深堀) (3号館8階保健衛生学講義室2)	
冬季休業		平成25年12月24日～平成26年1月3日				
1/7	火	医療人間学ｾﾐﾅｰⅡ(法学・倫理学)-1 (講義室は下記の太枠参照)	医療人間学ｾﾐﾅｰⅡ(法学・倫理学)-2 (講義室は下記の太枠参照)	看護の統合と実践Ⅰ(9)(深堀) (3号館8階保健衛生学講義室2)	看護の統合と実践Ⅰ(10)(深堀) (3号館8階保健衛生学講義室2)	
1/14	火	医療人間学ｾﾐﾅｰⅡ(法学・倫理学)-3 (講義室は下記の太枠参照)	医療人間学ｾﾐﾅｰⅡ(法学・倫理学)-4 (講義室は下記の太枠参照)	看護の統合と実践Ⅰ(11)(深堀) (3号館8階保健衛生学講義室2)	看護の統合と実践Ⅰ(12)(深堀) (3号館8階保健衛生学講義室2)	
1/21	火	医療人間学ｾﾐﾅｰⅡ(法学・倫理学)-5 (講義室は下記の太枠参照)	医療人間学ｾﾐﾅｰⅡ(法学・倫理学)-6 (講義室は下記の太枠参照)	看護の統合と実践Ⅰ(13)(深堀) (3号館8階保健衛生学講義室2)	看護の統合と実践Ⅰ(14)(深堀) (3号館8階保健衛生学講義室2)	
1/28	火	医療人間学ｾﾐﾅｰⅡ(法学・倫理学)-7 (講義室は下記の太枠参照)	医療人間学ｾﾐﾅｰⅡ(法学・倫理学)-8 (講義室は下記の太枠参照)	看護の統合と実践Ⅰ(15)(深堀) (3号館8階保健衛生学講義室2)	看護の統合と実践Ⅰ(16)(深堀) (3号館8階保健衛生学講義室2)	
火曜補講		平成26年2月4日				
後期試験		平成26年2月12日～2月18日				
春季休業		平成26年2月19日～3月31日				

◆医療人間学セミナー講義室
医療人間学ｾﾐﾅｰⅠ・Ⅱ（法学）：3号館18階　保健衛生学講義室1
医療人間学ｾﾐﾅｰⅠ・Ⅱ（倫理学）：3号館8階　保健衛生学講義室2
※上記は予定。変更の場合は掲示する。

保健衛生学科（検査技術学専攻）第1学年　平成25年度火曜授業時間割

前期　　は湯島地区

日時		8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50
4/16	火	専攻ガイダンス （3号館7階　保健衛生学講義室5）	先端医療技術論(1)(赤澤) （3号館7階　保健衛生学講義室5）	13:00～抗体検査（随時）		
日時		9:10～10:40	10:50～12:00	12:50～14:20	14:50～16:20	16:30～18:00
4/23	火	生物学入門 （中野・産賀）1/7	生物学入門 （中野・産賀）1/7	生物学入門 （中野・産賀）1/7		
		化学入門 （勝又）2	化学入門 （勝又）2	化学入門 （勝又）2	化学入門 （勝又）2	
		物理学入門 （千葉・水谷）8/9	物理学入門 （千葉・水谷）8/9			
4/30	火	生物学入門 （中野・産賀）1/7	生物学入門 （中野・産賀）1/7	生物学入門 （中野・産賀）1/7		オリエンテーション 16:30～17:30 鈴木章夫記念講堂
		化学入門 （勝又）2	化学入門 （勝又）2	化学入門 （勝又）2		
		物理学入門 （千葉・水谷）8/9	物理学入門 （千葉・水谷）8/9			
5/7	火	生物学入門 （中野・産賀）1/7	生物学入門 （中野・産賀）1/7	生物学入門 （中野・産賀）1/7		
		化学入門 （勝又）2	化学入門 （勝又）2	化学入門 （勝又）2	化学入門 （勝又）2	
		物理学入門 （千葉・水谷）8/9	物理学入門 （千葉・水谷）8/9			
5/14	火	健康診断 病院見学ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ(10:00～保_講義室5)	病院見学 先端医療技術論(2)(赤澤)	健康診断	教養総合講座 （全教員）鈴木章夫記念講堂	教養総合講座 （全教員）鈴木章夫記念講堂
5/21	火	物理学入門 （千葉・水谷）8/9	物理学入門 （千葉・水谷）8/9		教養総合講座 （全教員）全教室	教養総合講座 （全教員）全教室
		化学入門 （勝又）2	生物学入門 （中野・産賀）1/7	生物学入門 （中野・産賀）1/7		
5/28	火	物理学入門 （千葉・水谷）8/9	物理学入門 （千葉・水谷）8/9	教養総合講座 （全教員）全教室	教養総合講座 （全教員）全教室	教養総合講座 （全教員）全教室
			生物学入門 （中野・産賀）1/7			
6/4	火	物理学入門 （千葉・水谷）8/9	生物学（細胞・遺伝子D・T） （松本・伊藤）7	生物学（細胞・遺伝子D・T） （松本・伊藤）7	教養総合講座 （全教員）全教室	教養総合講座 （全教員）全教室
6/11	火	物理学入門 （千葉・水谷）8/9	生物学（細胞・遺伝子D・T） （松本・伊藤）7	生物学（細胞・遺伝子D・T） （松本・伊藤）7	教養総合講座 （全教員）全教室	教養総合講座 （全教員）全教室
6/18	火		生物学（細胞・遺伝子D・T） （松本・伊藤）7	生物学（細胞・遺伝子D・T） （松本・伊藤）7	教養総合講座 （全教員）全教室	教養総合講座 （全教員）全教室
6/25	火		生物学（細胞・遺伝子D・T） （松本・伊藤）7	生物学（細胞・遺伝子D・T） （松本・伊藤）7	教養総合講座 （全教員）全教室	教養総合講座 （全教員）全教室
7/2	火		生物学（細胞・遺伝子D・T） （松本・伊藤）7	生物学（細胞・遺伝子D・T） （松本・伊藤）7	教養総合講座 （全教員）全教室	教養総合講座 （全教員）全教室
7/9	火		生物学（細胞・遺伝子D・T） （松本・伊藤）7	生物学（細胞・遺伝子D・T） （松本・伊藤）7	教養総合講座 （全教員）全教室	教養総合講座 （全教員）全教室
7/16	火		生物学（細胞・遺伝子D・T） （松本・伊藤）7	生物学（細胞・遺伝子D・T） （松本・伊藤）7	教養総合講座 （全教員）全教室	教養総合講座 （全教員）全教室
7/23	火		生物学（細胞・遺伝子D・T） （松本・伊藤）7		教養総合講座 （全教員）全教室	教養総合講座 （全教員）全教室
7/30	火	月曜授業				
夏季休業		平成25年8月1日～9月6日				
前期試験		平成25年9月10日～9月13日				

後期

日時		8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50
10/1	火	先端医療技術論(3)(赤澤) （3号館7階　保健衛生学講義室5）	医療人間学概論(法学・森本)-1 （3号館18階保健衛生衛生学講義室1）	人体構造学講義Ⅰ(1)(星) （3号館18階保健衛生衛生学講義室1）	人体構造学講義Ⅰ(2)(星) （3号館18階保健衛生衛生学講義室1）	
10/8	火	先端医療技術論(4)(赤澤) （3号館7階　保健衛生学講義室5）	医療人間学概論(法学・森本)-2 （3号館18階保健衛生衛生学講義室1）	人体構造学講義Ⅰ(3)(星) （3号館18階保健衛生衛生学講義室1）	人体構造学講義Ⅰ(4)(星) （3号館18階保健衛生衛生学講義室1）	
10/15	火	先端医療技術論(5)(赤澤) （3号館7階　保健衛生学講義室5）	医療人間学概論(法学・森本)-3 （3号館18階保健衛生衛生学講義室1）	人体構造学講義Ⅰ(5)(星) （3号館18階保健衛生衛生学講義室1）	人体構造学講義Ⅰ(6)(星) （3号館18階保健衛生衛生学講義室1）	
10/22	火	先端医療技術論(6)(赤澤) （3号館7階　保健衛生学講義室5）	医療人間学概論(法学・森本)-4 （3号館18階保健衛生衛生学講義室1）	人体構造学講義Ⅰ(7)(星) （3号館18階保健衛生衛生学講義室1）	人体構造学講義Ⅰ(8)(星) （3号館18階保健衛生衛生学講義室1）	
10/29	火	先端医療技術論(7)(赤澤) （3号館7階　保健衛生学講義室5）	医療人間学概論(法学・森本)-5 （3号館18階保健衛生衛生学講義室1）	人体構造学講義Ⅰ(9)(星) （3号館18階保健衛生衛生学講義室1）	人体構造学講義Ⅰ(10)(星) （3号館18階保健衛生衛生学講義室1）	
11/5	火	先端医療技術論(8)(赤澤) （3号館7階　保健衛生学講義室5）	医療人間学概論(法学・森本)-6 （3号館18階保健衛生衛生学講義室1）	人体構造学講義Ⅰ(11)(星) （3号館18階保健衛生衛生学講義室1）	人体構造学講義Ⅰ(12)(星) （3号館18階保健衛生衛生学講義室1）	
11/12	火	先端医療技術論(9)(赤澤) （3号館7階　保健衛生学講義室5）	医療人間学概論(法学・森本)-7 （3号館18階保健衛生衛生学講義室1）	人体構造学講義Ⅰ(13)(星) （3号館18階保健衛生衛生学講義室1）	人体構造学講義Ⅰ(14)(星) （3号館18階保健衛生衛生学講義室1）	
11/19	火		医療人間学概論(法学・森本)-8 （3号館18階保健衛生衛生学講義室1）	人体構造学講義Ⅰ(15)(星) （3号館18階保健衛生衛生学講義室1）	人体構造学講義Ⅰ(16)(星) （3号館18階保健衛生衛生学講義室1）	
日時		9:10～10:40	10:50～12:00	12:50～14:20	14:50～16:20	16:30～18:00
11/26	火		科学基礎実験A （勝又・澤野・奈良）化学学生実験室	科学基礎実験A （勝又・澤野・奈良）化学学生実験室	科学基礎実験A （勝又・澤野・奈良）化学学生実験室	
12/3	火		科学基礎実験A （勝又・澤野・奈良）化学学生実験室	科学基礎実験A （勝又・澤野・奈良）化学学生実験室	科学基礎実験A （勝又・澤野・奈良）化学学生実験室	
12/10	火		科学基礎実験A （勝又・澤野・奈良）化学学生実験室	科学基礎実験A （勝又・澤野・奈良）化学学生実験室	科学基礎実験A （勝又・澤野・奈良）化学学生実験室	
12/17	火		科学基礎実験A （勝又・澤野・奈良）化学学生実験室	科学基礎実験A （勝又・澤野・奈良）化学学生実験室	科学基礎実験A （勝又・澤野・奈良）化学学生実験室	
冬季休業		平成25年12月24日～平成26年1月3日				
1/7	火		科学基礎実験A （勝又・澤野・奈良）化学学生実験室	科学基礎実験A （勝又・澤野・奈良）化学学生実験室	科学基礎実験A （勝又・澤野・奈良）化学学生実験室	
1/14	火		科学基礎実験A （服部・松本・中野）生物学学生実験室	科学基礎実験A （服部・松本・中野）生物学学生実験室	科学基礎実験A （服部・松本・中野）生物学学生実験室	
1/21	火		科学基礎実験A （服部・松本・中野）生物学学生実験室	科学基礎実験A （服部・松本・中野）生物学学生実験室	科学基礎実験A （服部・松本・中野）生物学学生実験室	
1/28	火					
火曜補講		平成26年2月4日				
後期試験		平成26年2月12日～2月18日				
春季休業		平成26年2月19日～3月31日				

医療人間学概論（法学）
3号館18F：保健衛生学講義室1およびM＆Dタワー2F共用講義室2

歯学科第1学年　平成25年度火曜授業時間割

前期　　は湯島地区

日時		8:50～10:20	10:30～12:00	12:50～14:20	14:30～16:00	16:10～17:40
4/16	火	カリキュラム提示／ 歯学概説－1 演習室(歯科棟南4階)	歯学概説 (歯学部及び歯学部附属病院見学) 演習室(歯科棟南4階)	12:00～14:00 保健管理センター抗体検査	歯学概説 (歯学部及び歯学部附属病院見学) 演習室(歯科棟南4階)	
日時		9:10～10:40	10:50～12:20	13:10～14:40	14:50～16:20	16:30～18:00
4/23	火	生物学入門 (中野・産賀)1/7	生物学入門 (中野・産賀)1/7	生物学入門 (中野・産賀)1/7		
		化学入門 (勝又)2	化学入門 (勝又)2	化学入門 (勝又)2	化学入門 (勝又)2	
		物理学入門 (千葉・水谷)8/9	物理学入門 (千葉・水谷)8/9			
4/30	火	生物学入門 (中野・産賀)1/7	生物学入門 (中野・産賀)1/7	生物学入門 (中野・産賀)1/7		オリエンテーション 16:30～17:30 鈴木章夫記念講堂
		化学入門 (勝又)2	化学入門 (勝又)2	化学入門 (勝又)2		
		物理学入門 (千葉・水谷)8/9	物理学入門 (千葉・水谷)8/9			
5/7	火	生物学入門 (中野・産賀)1/7	生物学入門 (中野・産賀)1/7	生物学入門 (中野・産賀)1/7		
		化学入門 (勝又)2	化学入門 (勝又)2	化学入門 (勝又)2	化学入門 (勝又)2	
		物理学入門 (千葉・水谷)8/9	物理学入門 (千葉・水谷)8/9			
5/14	火	健康診断	健康診断	健康診断	教養総合講座 (全教員)鈴木章夫記念講堂	教養総合講座 (全教員)鈴木章夫記念講堂
5/21	火	物理学入門 (千葉・水谷)8/9	物理学入門 (千葉・水谷)8/9		教養総合講座 (全教員)全教室	教養総合講座 (全教員)全教室
		化学入門 (勝又)2	生物学入門 (中野・産賀)1/7	生物学入門 (中野・産賀)1/7		
5/28	火	物理学入門 (千葉・水谷)8/9	物理学入門 (千葉・水谷)8/9	教養総合講座 (全教員)全教室	教養総合講座 (全教員)全教室	教養総合講座 (全教員)全教室
			生物学入門 (中野・産賀)1/7			
6/4	火	物理学入門 (千葉・水谷)8/9	生物学(細胞・遺伝子D・T) (松本・伊藤)7	生物学(細胞・遺伝子D・T) (松本・伊藤)7	教養総合講座 (全教員)全教室	教養総合講座 (全教員)全教室
6/11	火	物理学入門 (千葉・水谷)8/9	生物学(細胞・遺伝子D・T) (松本・伊藤)7	生物学(細胞・遺伝子D・T) (松本・伊藤)7	教養総合講座 (全教員)全教室	教養総合講座 (全教員)全教室
6/18	火		生物学(細胞・遺伝子D・T) (松本・伊藤)7	生物学(細胞・遺伝子D・T) (松本・伊藤)7	教養総合講座 (全教員)全教室	教養総合講座 (全教員)全教室
6/25	火		生物学(細胞・遺伝子D・T) (松本・伊藤)7	生物学(細胞・遺伝子D・T) (松本・伊藤)7	教養総合講座 (全教員)全教室	教養総合講座 (全教員)全教室
7/2	火		生物学(細胞・遺伝子D・T) (松本・伊藤)7	生物学(細胞・遺伝子D・T) (松本・伊藤)7	教養総合講座 (全教員)全教室	教養総合講座 (全教員)全教室
7/9	火		生物学(細胞・遺伝子D・T) (松本・伊藤)7	生物学(細胞・遺伝子D・T) (松本・伊藤)7	教養総合講座 (全教員)全教室	教養総合講座 (全教員)全教室
7/16	火		生物学(細胞・遺伝子D・T) (松本・伊藤)7	生物学(細胞・遺伝子D・T) (松本・伊藤)7	教養総合講座 (全教員)全教室	教養総合講座 (全教員)全教室
7/23	火		生物学(細胞・遺伝子D・T) (松本・伊藤)7		教養総合講座 (全教員)全教室	教養総合講座 (全教員)全教室
7/30	火	月曜授業				
夏季休業		平成25年8月1日～9月6日				
前期試験		平成25年9月10日～9月13日				

後期

日時		8:50～10:20	10:30～12:00	12:50～14:20	14:30～16:00	16:10～17:40
10/1	火	歯学概説－2 歯学科第4講義室	歯学概説－3 歯学科第4講義室	最新の歯学-1 歯学科第4講義室	最新の歯学-2 歯学科第4講義室	
10/8	火	早期臨床体験実習				
10/15	火	早期臨床体験実習(歯学部附属病院各診療科長)				
10/22	火	学生臨床総合実習見学				
10/29	火	各診療科外来見学・病棟見学				
11/5	火	(　10/8 － 11/5　まで第4講義室)				
11/12	火	(　11/12　は歯学部特別講堂)				
11/19	火	歯学史－1 歯学科第4講義室	歯学史－2 歯学科第4講義室	歯学概説－4 歯学科第4講義室	最新の歯学-3 歯学科第4講義室	
11/26	火	最新の歯学-4 歯学科第4講義室	最新の歯学-5 歯学科第4講義室	歯学概説－5 歯学科第4講義室	歯学史－3 歯学科第4講義室	
12/3	火	最新の歯学-6 歯学科第4講義室	医の倫理-1(田中・森本) 歯学科第4講義室	歯学概説－6 歯学科第4講義室	歯学史－4 歯学科第4講義室	
12/10	火	最新の歯学-7 歯学科第4講義室	医の倫理-2(田中・森本) 歯学科第4講義室	歯学概説－7 歯学科第4講義室	歯学史－5 歯学科第4講義室	
12/17	火	最新の歯学-8 歯学科第4講義室	医の倫理-3(田中・森本) 歯学科第4講義室	歯学概説－8 歯学科第4講義室	歯学史－6 歯学科第4講義室	
冬季休業		平成25年12月24日～平成26年1月3日				
1/7	火	歯学概説－9 歯学科第4講義室	医の倫理-4(田中・森本) 歯学科第4講義室	基礎情報医歯学－1 (大谷 他)	図書館情報検索室(M&Dタワー4階)	
1/14	火	歯学概説－10 歯学科第4講義室	医の倫理-5(田中・森本) 歯学科第4講義室	基礎情報医歯学－2 (大谷 他)	図書館情報検索室(M&Dタワー4階)	
1/21	火	最新の歯学-9 歯学科第4講義室	医の倫理-6(田中・森本) 歯学科第4講義室	基礎情報医歯学－3 (大谷 他)	図書館情報検索室(M&Dタワー4階)	
1/28	火	最新の歯学-10 歯学科第4講義室	医の倫理-7(田中・森本) 歯学科第4講義室	基礎情報医歯学－4 (大谷 他)	図書館情報検索室(M&Dタワー4階)	
火曜補講		平成26年2月4日				
後期試験		平成26年2月12日～2月18日				
春季休業		平成26年2月19日～3月31日				

口腔保健衛生学専攻　平成25年度　専門科目時間割

前期　　は湯島地区

週	日時		8:50～10:20	10:30～12:00	12:50～14:20	14:30～16:00	16:10～17:40
1	4/16	火	化学基礎－1 (澤野・宮園) OH第3講義室/歯学科演習室1・2	化学基礎－2 (澤野・宮園) OH第3講義室/歯学科演習室1・2	口腔保健と専門職（1） 1号館７階　第1講義室 (遠藤)	口腔保健と専門職（2） 1号館７階　第1講義室 (遠藤)	
2	4/23	火	化学基礎-補習 (澤野) 第4ゼミ室	化学基礎－3 (澤野・宮園) OH第3講義室/歯学科演習室1・2	口腔保健と専門職（3） 1号館７階　第1講義室 (遠藤)	口腔保健と専門職（4） 1号館７階　第1講義室 (遠藤)	
3	4/30	火	化学基礎-補習 (澤野) 第4ゼミ室	化学基礎－4 (澤野・宮園) OH第3講義室/歯学科演習室1・2	口腔保健と専門職（5） 1号館７階　第1講義室 (遠藤)	口腔保健と専門職（6） 1号館７階　第1講義室 (遠藤)	オリエンテーション 16:30～17:30 鈴木章夫記念講堂
4	5/7	火	化学基礎-補習 (澤野) 第4ゼミ室	化学基礎－5 (澤野・宮園) OH第3講義室/歯学科演習室1・2	口腔保健と専門職（7） 1号館７階　第1講義室 (遠藤)	口腔保健と専門職（8） 1号館７階　第1講義室 (遠藤)	
5	5/14	火	健康診断	健康診断	健康診断	教養総合講座 (全教員)鈴木章夫記念講堂	教養総合講座 (全教員)鈴木章夫記念講堂
日時			9:10～10:40	10:50～12:20	13:10～14:40	14:50～16:20	16:30～18:00
6	5/21	火	化学基礎-補習 (澤野)8	化学基礎－6 (澤野・勝又)8/9		教養総合講座 (全教員)全教室	教養総合講座 (全教員)全教室
7	5/28	火	化学基礎-補習 (澤野)8	化学基礎－7 (澤野・勝又)8/9	教養総合講座 (全教員)全教室	教養総合講座 (全教員)全教室	教養総合講座 (全教員)全教室
8	6/4	火		化学基礎－8 (澤野・勝又)8/9		教養総合講座 (全教員)全教室	教養総合講座 (全教員)全教室
9	6/11	火		化学基礎－9 (澤野・勝又)8/9		教養総合講座 (全教員)全教室	教養総合講座 (全教員)全教室
10	6/18	火		化学基礎－10 (澤野・勝又)8/9		教養総合講座 (全教員)全教室	教養総合講座 (全教員)全教室
11	6/25	火		化学基礎－11 (澤野・勝又)8/9		教養総合講座 (全教員)全教室	教養総合講座 (全教員)全教室
12	7/2	火		化学基礎－12 (澤野・奈良)8/9		教養総合講座 (全教員)全教室	教養総合講座 (全教員)全教室
13	7/9	火		化学基礎－13 (澤野・奈良)8/9		教養総合講座 (全教員)全教室	教養総合講座 (全教員)全教室
14	7/16	火		化学基礎－14 (澤野・奈良)8/9		教養総合講座 (全教員)全教室	教養総合講座 (全教員)全教室
15	7/23	火		化学基礎－15 (澤野・奈良)8/9		教養総合講座 (全教員)全教室	教養総合講座 (全教員)全教室

後期

週	日時		8:50～10:20	10:30～12:00	12:50～14:20	14:30～16:00	16:10～17:40
1	10/1	火	栄養と代謝（1） 1号館７階　第2講義室 (小野寺)	栄養と代謝（2） 1号館７階　第2講義室 (小野寺)	人体の構造と機能Ⅰ（1） 1号館７階　第1講義室 (坂本)	人体の構造と機能Ⅰ（2） 1号館７階　第1講義室 (坂本)	社会保障Ⅰ（1） 1号館７階　第1講義室
2	10/8	火	栄養と代謝（3） 1号館７階　第2講義室 (小野寺)	栄養と代謝（4） 1号館７階　第2講義室 (小野寺)	人体の構造と機能Ⅰ（3） 1号館７階　第1講義室 (坂本)	人体の構造と機能Ⅰ（4） 1号館７階　第1講義室 (坂本)	歯科衛生学概論Ⅰ（1） 1号館７階　第1講義室 (遠藤)
3	10/15	火	栄養と代謝（5） 1号館７階　第2講義室 (小野寺)	栄養と代謝（6） 1号館７階　第2講義室 (小野寺)	社会保障Ⅰ（2） 1号館７階　第1講義室	社会保障Ⅰ（3） 1号館７階　第1講義室	歯科衛生学概論Ⅰ（2） 1号館７階　第1講義室 (遠藤)
4	10/22	火	社会保障Ⅰ（4） 1号館７階　第1講義室	社会保障Ⅰ（5） 1号館７階　第1講義室	臨床体験実習（1） 1号館７階　第1講義室 (白田・遠藤)	臨床体験実習（2） 1号館７階　第1講義室 (白田・遠藤)	歯科衛生学概論Ⅰ（3） 1号館７階　第1講義室 (遠藤)
5	10/29	火	社会保障Ⅰ（6） 1号館７階　第1講義室	社会保障Ⅰ（7） 1号館７階　第1講義室	臨床体験実習（3） 1号館７階　第1講義室　(白田・遠藤)	臨床体験実習（4） 1号館７階　第1講義室　(白田・遠藤)	歯科衛生学概論Ⅰ（4） 1号館７階　第1講義室　(遠藤)
6	11/5	火	栄養と代謝（7） 1号館７階　第2講義室 (小野寺)	栄養と代謝（8） 1号館７階　第2講義室 (小野寺)	人体の構造と機能Ⅰ（5） 1号館７階　第1講義室 (井関)	人体の構造と機能Ⅰ（6） 1号館７階　第1講義室 (坂本)	歯科衛生学概論Ⅰ（5） 1号館７階　第1講義室 (遠藤)
7	11/12	火	人体の構造と機能Ⅰ（7） 1号館７階　第1講義室 (坂本)	栄養と代謝（9） 1号館７階　第2講義室 (森田)	社会保障Ⅰ（8） 1号館７階　第1講義室	社会保障Ⅰ（9） 1号館７階　第2講義室	歯科衛生学概論Ⅰ（6） 1号館７階　第1講義室 (遠藤)
8	11/19	火	人体の構造と機能Ⅰ（8） 1号館７階　第1講義室 (坂本)	栄養と代謝（10） 1号館７階　第2講義室 (森田)	社会保障Ⅰ（10） 1号館７階　第2講義室	社会保障Ⅰ（11） 1号館７階　第2講義室	歯科衛生学概論Ⅰ（7） 1号館７階　第1講義室 (遠藤)
9	11/26	火	人体の構造と機能Ⅰ（9） 1号館７階　第1講義室 (杉本)	栄養と代謝（11） 1号館７階　第2講義室 (森田)	社会保障Ⅰ（12） 1号館７階　第1講義室	社会保障Ⅰ（13） 1号館７階　第1講義室	歯科衛生学概論Ⅰ（8） 1号館７階　第1講義室 (遠藤)
10	12/3	火	人体の構造と機能Ⅰ（10） 1号館７階　第1講義室 (杉本)	栄養と代謝（12） 1号館７階　第2講義室 (森田)	社会保障Ⅰ（14） 1号館７階　第1講義室	社会保障Ⅰ（15） 1号館７階　第1講義室	歯科衛生学概論Ⅱ（1） 1号館７階　第2講義室 (遠藤)
11	12/10	火	人体の構造と機能Ⅰ（11） 1号館７階　第1講義室 (坂本)	栄養と代謝（13） 1号館７階　第2講義室 (森田)	歯科衛生学概論Ⅱ（2） 1号館７階　第2講義室 (遠藤)	公衆衛生学（1） 1号館７階　第2講義室 (品田)	公衆衛生学（2） 1号館７階　第2講義室 (品田)
12	12/17	火	人体の構造と機能Ⅰ（12） 1号館７階　第1講義室 (坂本)	栄養と代謝（14） 1号館７階　第2講義室 (飯村)	歯科衛生学概論Ⅱ（3） 1号館７階　第2講義室 (遠藤)	公衆衛生学（3） 1号館７階　第2講義室 (品田)	公衆衛生学（4） 1号館７階　第2講義室 (品田)
冬季休業			平成25年12月24日～平成26年1月3日				
13	1/7	火	人体の構造と機能Ⅰ（13） 1号館７階　第1講義室 (杉本)	栄養と代謝（15） 1号館７階　第2講義室 (飯村)	歯科衛生学概論Ⅱ（4） 1号館７階　第2講義室 (遠藤)	公衆衛生学（5） 1号館７階　第2講義室 (品田)	公衆衛生学（6） 1号館７階　第2講義室 (品田)
14	1/14	火	人体の構造と機能Ⅰ（14） 1号館７階　第1講義室 (杉本)	歯科衛生学概論Ⅱ（5） 1号館７階　第2講義室 (遠藤)	歯科衛生学概論Ⅱ（6） 1号館７階　第2講義室 (遠藤)	公衆衛生学（7） 1号館７階　第2講義室 (品田)	
15	1/21	火	人体の構造と機能Ⅰ（15） 1号館７階　第1講義室 (井関)	歯科衛生学概論Ⅱ（7） 1号館７階　第2講義室 (遠藤)	歯科衛生学概論Ⅱ（8） 1号館７階　第1講義室 (遠藤)	公衆衛生学（8） 1号館７階　第2講義室 (品田)	
16	1/28	火	臨床体験実習（5） 1号館７階　第1講義室 (白田・遠藤)	臨床体験実習（6） 1号館７階　第1講義室 (白田・遠藤)	臨床体験実習（7） 1号館７階　第1講義室 (白田・遠藤)	臨床体験実習（8） 1号館７階　第1講義室 (白田・遠藤)	
17	2/4	火	専門科目定期試験日				

口腔保健工学専攻　平成25年度　専門科目時間割

前期　　は湯島地区

日時		8:50～10:20	10:30～12:00	12:50～14:20	14:30～16:00	16:10～17:40
4/16	火	化学基礎－1 （澤野・宮園） OH第3講義室/歯学科演習室1・2	化学基礎－2 （澤野・宮園） OH第3講義室/歯学科演習室1・2	12:00～　抗体検査　保健管理センター 13:20～14:50 口腔保健工学概論A-1 （大木・遠藤） 1号館7階　口腔保健衛生学専攻第3講義室	15:00～16:30 口腔保健工学概論A-2 （口腔保健学科教員） 1号館6階　歯学部演習室	
4/23	火	化学基礎－補習 （澤野）第4ゼミ室	化学基礎－3 （澤野・宮園）OH第3講義室/歯学科演習室1・2	口腔保健工学概論A-3 （口腔保健学科教員）1号館6階　歯学部演習室	口腔保健工学概論A-4 （口腔保健学科教員）1号館6階　歯学部演習室	
4/30	火	化学基礎－補習 （澤野）第4ゼミ室	化学基礎－4 （澤野・宮園）OH第3講義室/歯学科演習室1・2	口腔保健工学概論A-5 （口腔保健学科教員）1号館6階　歯学部演習室	口腔保健工学概論A-6 （口腔保健学科教員）1号館6階　歯学部演習室	オリエンテーション 16:30～17:30：鈴木章夫記念講堂
5/7	火	化学基礎－補習 （澤野）第4ゼミ室	化学基礎－5 （澤野・宮園）OH第3講義室/歯学科演習室1・2	口腔保健工学概論A-7 （口腔保健学科教員）1号館7階口腔保健衛生学専攻第3講義室	口腔保健工学概論A-8 （口腔保健学科教員） 1号館7階　口腔保健衛生学専攻第3講義室	
5/14	火	健康診断	健康診断	健康診断	教養総合講座 （全教員）鈴木章夫記念講堂	教養総合講座 （全教員）鈴木章夫記念講堂
日時		9:10～10:40	10:50～12:20	13:10～14:40	14:50～16:20	16:30～18:00
5/21	火	化学基礎－補習 （澤野）8	化学基礎－6 （澤野・勝又）8/9		教養総合講座 （全教員）全教室	教養総合講座 （全教員）全教室
5/28	火	化学基礎－補習 （澤野）8	化学基礎－7 （澤野・勝又）8/9	教養総合講座 （全教員）全教室	教養総合講座 （全教員）全教室	教養総合講座 （全教員）全教室
6/4	火		化学基礎－8 （澤野・勝又）8/9		教養総合講座 （全教員）全教室	教養総合講座 （全教員）全教室
6/11	火		化学基礎－9 （澤野・勝又）8/9		教養総合講座 （全教員）全教室	教養総合講座 （全教員）全教室
6/18	火		化学基礎－10 （澤野・勝又）8/9		教養総合講座 （全教員）全教室	教養総合講座 （全教員）全教室
6/25	火		化学基礎－11 （澤野・勝又）8/9		教養総合講座 （全教員）全教室	教養総合講座 （全教員）全教室
7/2	火		化学基礎－12 （澤野・奈良）8/9		教養総合講座 （全教員）全教室	教養総合講座 （全教員）全教室
7/9	火		化学基礎－13 （澤野・奈良）8/9		教養総合講座 （全教員）全教室	教養総合講座 （全教員）全教室
7/16	火		化学基礎－14 （澤野・奈良）8/9		教養総合講座 （全教員）全教室	教養総合講座 （全教員）全教室
7/23	火		化学基礎－15 （澤野・奈良）8/9		教養総合講座 （全教員）全教室	教養総合講座 （全教員）全教室
7/30	火	月曜授業				
夏季休業		平成25年8月1日～9月6日				
前期試験		平成25年9月10日～9月13日				
9/17	火	教養総合講座（全教員）全教室				
9/24	火	教養総合講座（全教員）全教室				
9/25	水	早期臨床体験実習-1～15 （口腔保健学科口腔保健工学専攻教員、大学院医歯学総合研究科歯学系教員等） 歯学部附属病院外来、歯科技工士学校、歯科技工部、学外歯科技工所				
9/26	木					
9/28	金					

後期

日時		8:50～10:20	10:30～12:00	12:50～14:20	14:30～16:00	16:10～17:40
10/1	火	技術倫理-1 （皆吉）口腔保健工学専攻第2講義室	人体の構造と機能Ⅰ-1 （杉本）口腔保健工学専攻第2講義室	早期臨床体験実習-16～18 （口腔保健学科口腔保健工学専攻教員、大学院医歯学総合研究科歯学系教員等） 歯学部附属病院外来、歯科技工士学校、歯科技工部、学外歯科技工所		
10/8	火	技術倫理-2 （皆吉）口腔保健工学専攻第2講義室	人体の構造と機能Ⅰ-2 （田畑）口腔保健工学専攻第2講義室	早期臨床体験実習-19～21 （口腔保健学科口腔保健工学専攻教員、大学院医歯学総合研究科歯学系教員等） 歯学部附属病院外来、歯科技工士学校、歯科技工部、学外歯科技工所		
10/15	火	技術倫理-3 （皆吉）口腔保健工学専攻第2講義室	人体の構造と機能Ⅰ-3 （田畑）口腔保健工学専攻第2講義室	早期臨床体験実習-22～23 （口腔保健学科口腔保健工学専攻教員）口腔保健工学専攻第2講義室		
10/22	火	技術倫理-4 （皆吉）口腔保健工学専攻第2講義室	人体の構造と機能Ⅰ-4 （田畑）口腔保健工学専攻第2講義室	形態認識造形学-1 （伊藤）口腔保健工学専攻第2講義室	形態認識造形学実習A-1 （伊藤）口腔保健工学専攻第4実習室	形態認識造形学実習A-2 （伊藤）口腔保健工学専攻第4実習室
10/29	火	技術倫理-5 （皆吉）口腔保健工学専攻第2講義室	人体の構造と機能Ⅰ-5 （田畑）口腔保健工学専攻第2講義室	形態認識造形学実習A-3 （伊藤）口腔保健工学専攻第4実習室	形態認識造形学-2 （伊藤）口腔保健工学専攻第2講義室	形態認識造形学実習A-4 （伊藤）口腔保健工学専攻第4実習室
11/5	火	技術倫理-6 （皆吉）口腔保健工学専攻第2講義室	人体の構造と機能Ⅰ-6 （杉本）口腔保健工学専攻第2講義室	メディア情報学基礎-1 （木下）口腔保健工学専攻第1講義室	形態認識造形学実習A-5 （伊藤）口腔保健工学専攻第4実習室	形態認識造形学実習A-6 （伊藤）口腔保健工学専攻第4実習室
11/12	火	技術倫理-7 （皆吉）口腔保健工学専攻第2講義室	人体の構造と機能Ⅰ-7 （杉本）口腔保健工学専攻第2講義室	メディア情報学基礎-2 （大谷）口腔保健工学専攻第1講義室	形態認識造形学-3 （伊藤）口腔保健工学専攻第2講義室	形態認識造形学実習A-7 （伊藤）口腔保健工学専攻第4実習室
11/19	火	技術倫理-8 （皆吉）口腔保健工学専攻第2講義室	人体の構造と機能Ⅰ-8 （杉本）口腔保健工学専攻第2講義室	メディア情報学基礎-3 （佐々木）口腔保健工学専攻第1講義室	形態認識造形学実習A-8 （伊藤）口腔保健工学専攻第4実習室	形態認識造形学実習A-9 （伊藤）口腔保健工学専攻第4実習室
11/26	火	口腔保健材料力学A-1 （高橋）口腔保健工学専攻第2講義室	人体の構造と機能Ⅰ-9 （杉本）口腔保健工学専攻第2講義室	メディア情報学基礎-4 （佐々木）口腔保健工学専攻第1講義室	形態認識造形学-4 （伊藤）口腔保健工学専攻第2講義室	形態認識造形学実習A-10 （伊藤）口腔保健工学専攻第4実習室
12/3	火	口腔保健材料力学A-2 （高橋）口腔保健工学専攻第2講義室	人体の構造と機能Ⅰ-10 （杉本）口腔保健工学専攻第2講義室	メディア情報学基礎-5 （木下）口腔保健工学専攻第1講義室	形態認識造形学実習A-11 （伊藤）口腔保健工学専攻第4実習室	形態認識造形学実習A-12 （伊藤）口腔保健工学専攻第4実習室
12/10	火	口腔保健材料力学A-3 （高橋）口腔保健工学専攻第2講義室	人体の構造と機能Ⅰ-11 （杉本）口腔保健工学専攻第2講義室	メディア情報学基礎-6 （木下）口腔保健工学専攻第1講義室	形態認識造形学-5 （伊藤）口腔保健工学専攻第2講義室	形態認識造形学実習A-13 （伊藤）口腔保健工学専攻第4実習室
12/17	火	口腔保健材料力学A-4 （高橋）口腔保健工学専攻第2講義室	人体の構造と機能Ⅰ-12 （杉本）口腔保健工学専攻第2講義室	メディア情報学基礎-7 （佐々木）口腔保健工学専攻第1講義室	形態認識造形学実習A-14 （伊藤）口腔保健工学専攻第4実習室	形態認識造形学実習A-15 （伊藤）口腔保健工学専攻第4実習室
冬季休業		平成25年12月24日～平成26年1月3日				
1/7	火	口腔保健材料力学A-5 （高橋）口腔保健工学専攻第2講義室	人体の構造と機能Ⅰ-13 （杉本）口腔保健工学専攻第2講義室	メディア情報学基礎-8 （木下）口腔保健工学専攻第1講義室	形態認識造形学-6 （伊藤）口腔保健工学専攻第2講義室	形態認識造形学実習A-16 （伊藤）口腔保健工学専攻第4実習室
1/14	火	口腔保健材料力学A-6 （高橋）口腔保健工学専攻第2講義室	人体の構造と機能Ⅰ-14 （杉本）口腔保健工学専攻第2講義室	形態認識造形学実習A-17 （伊藤）口腔保健工学専攻第4実習室	形態認識造形学実習A-18 （伊藤）口腔保健工学専攻第4実習室	形態認識造形学-7 （伊藤）口腔保健工学専攻第2講義室
1/21	火	口腔保健材料力学A-7 （高橋）口腔保健工学専攻第2講義室	人体の構造と機能Ⅰ-15 （杉本）口腔保健工学専攻第2講義室	形態認識造形学実習A-19 （伊藤）口腔保健工学専攻第4実習室	形態認識造形学実習A-20 （伊藤）口腔保健工学専攻第4実習室	形態認識造形学実習A-21 （伊藤）口腔保健工学専攻第4実習室
1/28	火	口腔保健材料力学A-8 （高橋）口腔保健工学専攻第2講義室	形態認識造形学-8 （伊藤）口腔保健工学専攻第2講義室	形態認識造形学実習A-22 （伊藤）口腔保健工学専攻第4実習室	形態認識造形学実習A-23 （伊藤）口腔保健工学専攻第4実習室	
2/4	火	専門科目試験				
春季休業		平成26年2月19日～3月29日				

平成25年度火曜授業実施地区表

<table>
<tr><td></td><td colspan="2">医学科</td><td>歯学科</td><td>看護学</td><td>検査技術学</td><td>口腔保健学科</td></tr>
<tr><td>第1週(4/16)</td><td colspan="2">湯島キャンパス</td><td rowspan="5">湯島キャンパス</td><td>湯島キャンパス</td><td rowspan="5">湯島キャンパス</td></tr>
<tr><td>第2週(4/23)</td><td colspan="2" rowspan="3">国府台キャンパス
(4/30のみ16:30より湯島)</td><td rowspan="3">国府台キャンパス
(4/30のみ16:30より湯島)</td></tr>
<tr><td>第3週(4/30)</td></tr>
<tr><td>第4週(5/7)</td></tr>
<tr><td>第5週(5/14)</td><td colspan="2">湯島キャンパス</td><td>湯島キャンパス</td></tr>
<tr><td>第6週(5/21)</td><td colspan="5" rowspan="11">国府台キャンパス</td></tr>
<tr><td>第7週(5/28)</td></tr>
<tr><td>第8週(6/4)</td></tr>
<tr><td>第9週(6/11)</td></tr>
<tr><td>第10週(6/18)</td></tr>
<tr><td>第11週(6/25)</td></tr>
<tr><td>第12週(7/2)</td></tr>
<tr><td>第13週(7/9)</td></tr>
<tr><td>第14週(7/16)</td></tr>
<tr><td>第15週(7/23)</td></tr>
<tr><td>第16週(7/30)月曜授業</td></tr>
<tr><td>9/10</td><td colspan="5">国府台キャンパス(定期試験)</td></tr>
<tr><td>9/17</td><td colspan="5" rowspan="2">国府台キャンパス(教養総合講座)</td></tr>
<tr><td>9/24</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td></td><td colspan="2">医学科</td><td>歯学科</td><td>看護学</td><td>検査技術学</td><td>口腔保健学科</td></tr>
<tr><td>第1週(10/1)</td><td colspan="3" rowspan="15">湯島キャンパス</td><td rowspan="8">湯島キャンパス</td><td rowspan="16">湯島キャンパス</td></tr>
<tr><td>第2週(10/8)</td></tr>
<tr><td>第3週(10/15)</td></tr>
<tr><td>第4週(10/22)</td></tr>
<tr><td>第5週(10/29)</td></tr>
<tr><td>第6週(11/5)</td></tr>
<tr><td>第7週(11/12)</td></tr>
<tr><td>第8週(11/19)</td></tr>
<tr><td>第9週(11/26)</td><td rowspan="8">国府台キャンパス</td></tr>
<tr><td>第10週(12/3)</td></tr>
<tr><td>第11週(12/10)</td></tr>
<tr><td>第12週(12/17)</td></tr>
<tr><td>第13週(1/7)</td></tr>
<tr><td>第14週(1/14)</td></tr>
<tr><td>第15週(1/21)</td></tr>
<tr><td>第16週(1/28)</td></tr>
<tr><td>第17週(2/4)補講</td></tr>
<tr><td>2/18</td><td colspan="3">学力認定試験</td><td colspan="3">春期休業</td></tr>
</table>

Ⅱ．全学共通科目の履修について

１．教養教育の目的と概要

アメリカでは、医師／歯科医師を目指す人々は、通常、4 年生大学を卒業した後で、メディカル／デンタル・スクールに進み、4 年間の専門教育を受けます。ロースクールやビジネス・スクールについても考え方は同じで、これらはいずれも学部教育の上に立つ専門大学院としての地位を与えられています。職業に必要な知識や技術を身につけるだけならば、高校卒業後にただちに専門教育を開始することも可能でしょうし、その方が効率的なようにも見えますが、そうした近道を例外的にしか認めていないのは、これらの専門職が何よりも「公共的な」使命と責任を帯びた職業と見なされているからでしょう。医学／歯学を学ぶ人は、入学時にすでに社会的な自立をとげ、高い志と幅広い一般教養、基礎的な言語能力と基礎学力を備えている必要があると考えられているわけです。

残念ながら日本の現行制度（6 年生専門教育）では、アメリカほど教養教育に十分な時間をかけることは困難ですが、かといって教養教育の重要性や必要性に日米で大きな開きがあるわけではありません。自国の歴史や文化についての知識は、国際間でのコミュニケーションに必須の前提です。また、新聞紙上で日々取り上げられている国際紛争、財政危機、環境破壊、失業、貧困、テロ、少年犯罪や家庭内暴力といった問題は決して私たちに無縁な問題ではなく、日々の医療現場にも深く影を落としています。

しかし、こうしたテーマについてじっくりと読書をしたり、関連ある講義を聴いたりする機会は、高校にも、また専門課程にもほとんどありません。短期間ではありますが、国府台キャンパスでは、専門教育に耐えうる基礎学力を鍛えるとともに、広く社会と人間についての認識を深め、広い知的裾野をもった高度な真の専門人を目指していただきたいと思います。

ここで将来の自分の進路や職業についての自覚を新たにしながら、その展望の上に立って国府台キャンパスでしっかりとした基礎固めを行ってください。

1）医学科／歯学科の教養教育の概要

各学年における教育の基本方針と履修科目（下線は必修科目、下線なしは選択必修または自由選択科目）は以下のとおりです。

学期	基本方針	目標	履修科目（下線は必修科目）
第１学年 （前期）	広げる	入門講義や概論を通じて、知識を広げ、自然科学や人文社会科学の基本的な方法を学ぶ。	物理学入門・化学入門・生物学入門 数学（微分積分学）、物理学（力学）、化学（一般化学Ⅰ）、生物学（細胞・遺伝子） 物理学実験、化学実験、生物学実験 情報処理 英語 ドイツ語/フランス語/中国語/スペイン語 人文社会科学（３科目以内） スポーツ・健康科学 フィットネスマネージメント 教養総合講座 自由選択科目（S 科目、R 科目）
第１学年 （後期）	固める	より高度な講義・演習等を通じて、基礎学力を固める。	数学（線形代数）、物理学（電磁気学）、化学（一般化学Ⅱ）、生物学（構造・機能） 物理学実験、化学実験、生物学実験 英語 ドイツ語/フランス語/中国語/スペイン語 人文社会科学 フィットネスマネージメント 自由選択科目（S 科目、R 科目）
第２学年	深める	自然科学、人文社会科学、語学のすべての領域を複合的に学ぶことにより、主題に対する理解を深める。	生命科学基礎 主題別選択Ⅰ 歯学科のみ：連携教育（教養英語、情報科学演習、サイエンス PBL、生命科学（人体の生物学）、生命科学（生物物理化学）、人文社会科学総合講義）
第３学年	創る	自己問題提起・解決型の創造力を身につける	主題別選択Ⅱ 主題別人文社会科学セミナー

2）保健衛生学科/口腔保健学科の教養教育の概要

教育の基本方針と履修科目（下線は必修科目、下線なしは選択必修または自由選択科目）は以下のとおりです。

学期	基本方針	目標	履修科目（下線は必修科目）
第１学年 （前期）	広げる	入門講義や概論を通じて、知識を広げ、自然科学や人文社会科学の基本的な方法を学ぶ。	【看護学専攻・口腔保健学科】 生物学入門、化学基礎、情報科学、統計学、英語 ドイツ語/フランス語/中国語 人文社会科学（3 科目以内） スポーツ・健康科学 フィットネスマネージメント 教養総合講座 自由選択科目（S 科目、R 科目） 【検査技術学専攻】 物理学入門・化学入門・生物学入門 数学基礎、物理学（力学）、化学（一般化学Ⅰ）、生物学（細胞・遺伝子） 情報科学、統計学 英語 ドイツ語/フランス語/中国語 人文社会科学（3科目以内） スポーツ・健康科学 フィットネスマネージメント 教養総合講座 自由選択科目（S 科目、R 科目）
第１学年 （後期）	固める	より高度な講義・演習等を通じて、基礎学力を固める。	【看護学専攻・口腔保健学科】 生物学基礎 科学基礎実験 B、科学基礎演習 英語 ドイツ語/フランス語/中国語 人文社会科学 フィットネスマネージメント 看護のみ：連携教育（医療人間学概論（倫理学）、医療人間学概論（法学）、医療人間学セミナー） 自由選択科目（S 科目、R 科目） 【検査技術学専攻】 物理学（電磁気学）、化学（一般化学Ⅱ）、生物学（構造・機能） 科学基礎実験 A 英語 ドイツ語/フランス語/中国語 人文社会科学 フィットネスマネージメント 連携教育（医療人間学概論（法学）） 自由選択科目（S 科目、R 科目）

２．必修科目と選択科目

各学科の履修すべき科目や単位数について、詳しく解説をします。
最初に国府台地区および湯島地区で履修すべき科目の一覧表を示します。
全員が指定されたクラスで授業を受ける「必修科目」、ある科目群の中から指定された数の科目を選択して履修する「選択必修科目」、すべての科目の中から自由に科目を選択して履修する「自由選択科目」があります。

医学部医学科

授業科目名		開講学期		単位	備考
		前期	後期		
必修科目	数学	○	○	2	
	物理学	○	○	2	
	化学	○	○	2	
	生物学	○	○	2	
	英語	○	○	4	
	物理学実験	○	○	1	
	化学実験	○	○	1	
	生物学実験	○	○	1	
	情報処理	○		1	
	スポーツ・健康科学	○		1	
	フィットネスマネージメント	○	○	1	
	教養総合講座	○		1	
選択必修科目	人文社会科学の４科目	○	○	8	１科目２単位
	物理学入門 化学入門 生物学入門	○		1	いずれか１科目
	ドイツ語 フランス語 中国語 スペイン語 ※日本語	○	○	4	いずれか１科目 ※日本語は留学生のみ
自由選択科目(S・R)		○	○	2	１科目１単位
１年生必要単位数合計				３４	
教養	生命科学基礎			2	
	主題別選択Ⅰ			1	
２年生必要単位数合計				3	
教養	主題別選択Ⅱ			1	
	主題別人文社会科学セミナー			2	
３年生必要単位数合計				3	
医学科全学共通教育科目必要単位数合計				４０	

履修しなければならない科目は以下のとおりです。

カッコ内に（選択・必修等の別／開講学期）を示します。

＜１年生＞

①物理学入門／化学入門／生物学入門（選択必修）

物理学、化学、生物学のうち、入学試験で選択しなかった科目について必ず履修してください。

②数学・物理学・化学・生物学（必修／前・後期）

いずれも自然系の基礎を固めるための必修科目です。

科目によってはクラス分けが行われますので、クラス分けの指示に注意してください。

③物理学実験・化学実験・生物学実験（必修／前・後期）

④情報処理（必修／前期）

コンピュータを用いた情報処理の基礎を学びます。

⑤人文社会科学（選択必修／前・後期）

合計４科目、８単位を選択し、履修してください。前期に履修登録できる最大科目数は３科目です。

⑥ 英語（必修／前・後期）

週に２コマ、TOEFL の結果によるクラス分けで授業を行います。

⑦ ドイツ語／フランス語／中国語／スペイン語（選択必修／前・後期）

第２外国語としてドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語を選択して履修します。

いずれも週に２コマ、前・後期に続けて行われます。

ドイツ語のクラス分けについては、授業開始までに別途掲示します。

フランス語、中国語のクラスは、医学科・歯学科のクラスと保健衛生学科・口腔衛生学科の２クラスに分かれます。指定の時間帯に履修してください。フランス語ｂ・ｄの履修の仕方については最初の授業時に説明します。スペイン語は医学科・歯学科のみの１クラスです。

⑧ スポーツ・健康科学（必修／前期）

⑨ フィットネスマネージメント（必修／前・後期）

⑩ 教養総合講座（必修／前期）

⑪ 自由選択科目（選択／前・後期）

各自の興味・関心に合わせて自由に選択できる科目です。

医学科・歯学科は合計２単位必要です。各学期に少なくとも１科目以上の自由選択科目を履修するようにしましょう。

＜２年生＞

⑫ ２年生は、木曜日午前中に医学科、歯学科合同で教養教育（生命科学基礎、主題別選択Ⅰ）が行われます。

＜３年生＞

⑬ ３年生は、木曜日午前中に医学科、歯学科合同で教養教育（主題別選択Ⅱ、主題別人文社会科学セミナー）が行われます。

歯学部歯学科

授業科目名		開講学期		単位	備考
		前期	後期		
必修科目	数学	○	○	2	
	物理学	○	○	2	
	化学	○	○	2	
	生物学	○	○	2	
	英語	○	○	4	
	物理学実験	○	○	1	
	化学実験	○	○	1	
	生物学実験	○	○	1	
	情報処理	○		1	
	スポーツ・健康科学	○		1	
	フィットネスマネージメント	○	○	1	
	教養総合講座	○		1	
選択必修科目	人文社会科学の４科目	○	○	8	１科目２単位
	物理学入門 化学入門 生物学入門	○		1	いずれか１科目
	ドイツ語 フランス語 中国語 スペイン語 ※日本語	○	○	4	いずれか１科目 ※日本語は留学生のみ
自由選択科目（S・R）		○	○	2	１科目１単位
１年生必要単位数合計				３４	
教養	生命科学基礎			2	
	主題別選択Ⅰ			1	
連携教育	教養英語			4	
	情報科学演習			1	
	サイエンスＰＢＬ			1	
	生命科学（人体の生物学）			2	
	生命科学（生物物理化学）			2	
	人文社会科学総合講義			2	
２年生必要単位数合計				１５	
教養	主題別選択Ⅱ			1	
	主題別人文社会科学セミナー			2	
３年生必要単位数合計				3	
歯学科全学共通教育科目必要単位数合計				５２	

履修しなければならない科目は以下のとおりです。

カッコ内に（選択・必修等の別／開講学期）を示します。

＜１年生＞

① 物理学入門／化学入門／生物学入門（選択必修／前期）
物理学、化学、生物学のうち、入学試験で選択しなかった科目について必ず履修してください。

② 数学・物理学・化学・生物学（必修／前・後期）
いずれも自然系の基礎を固めるための必修科目です。
科目によってはクラス分けが行われますので、クラス分けの指示に注意してください。

③ 物理学実験・化学実験・生物学実験（必修／前・後期）

④ 情報処理（必修／前期）
コンピュータを用いた情報処理の基礎を学びます。

⑤ 人文社会科学（選択必修／前・後期）
合計４科目、８単位を選択し、履修してください。前期に履修登録できる最大科目数は３科目です。

⑥ 英語（必修／前・後期）
週に２コマ、TOEFL の結果によるクラス分けで授業を行います。

⑦ ドイツ語／フランス語／中国語／スペイン語（選択必修／前・後期）
第２外国語としてドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語を選択して履修します。
いずれも週に２コマ、前・後期に続けて行われます。
ドイツ語のクラス分けについては、授業開始までに別途掲示します。
フランス語、中国語のクラスは、医学科・歯学科のクラスと保健衛生学科・口腔衛生学科の２クラスに分かれます。指定の時間帯に履修してください。フランス語ｂ・ｄの履修の仕方については最初の授業時に説明します。スペイン語は医学科・歯学科のみの１クラスです。

⑧ スポーツ・健康科学（必修／前期）

⑨ フィットネスマネージメント（必修／前・後期）

⑩ 教養総合講座（必修／前期）

⑪ 自由選択科目（選択／前・後期）
各自の興味・関心に合わせて自由に選択できる科目です。
医学科・歯学科は合計２単位必要です。各学期に少なくとも１科目以上の自由選択科目を履修するようにしましょう。

＜２年生＞

⑫ ２年生は、木曜日午前中に医学科、歯学科合同で教養教育（生命科学基礎、主題別選択Ⅰ）が行われます。また、火曜日（一部木曜日）に歯学科のみを対象に連携教育（教養英語、情報科学演習、サイエンス PBL、生命科学（人体の生物学）、生命科学（生物物理化学）、人文社会科学総合講義）が行われます。

＜３年生＞

⑬ ３年生は、木曜日午前中に医学科、歯学科合同で教養教育（主題別選択Ⅱ、主題別人文社会科学セミナー）が行われます。

医学部保健衛生学科看護学専攻

種類	科目名	開講学期		単位	備考
		前期	後期		
必修科目	英語	○	○	4	
	生物学入門	○		1	
	化学基礎	○		1	
	生物学基礎		○	1	
	統計学	○		1	
	情報科学	○		1	
	スポーツ・健康科学	○		1	
	フィットネスマネージメント	○	○	1	
	教養総合講座	○		1	
	医療人間学概論（倫理学）		○	1	
	医療人間学概論（法　学）		○	1	
選択必修科目	人文社会科学の４科目	○	○	8	１科目２単位
	科学基礎実験Ｂ		○	1	いずれか１科目
	科学基礎演習				
	ドイツ語	○	○	4	いずれか１科目 ※日本語は留学生のみ
	フランス語				
	中国語				
	※日本語				
	医療人間学セミナーⅠ		○	1	Ⅰ（前半）、Ⅱ（後半）合わせて１単位
	医療人間学セミナーⅡ		○		
自由選択科目（S・R）		○	○	1	
必要単位数合計				２９	

履修しなければならない科目は以下のとおりです。

カッコ内に（選択・必修等の別／開講学期）を示します。

① 科学基礎実験Ｂ、科学基礎演習（選択必修／後期）
　科学基礎実験Ｂは基礎的な実験を行います。科学基礎演習は、化学と物理の基礎的な演習を行います。
② 統計学（必修／前期）
③ 情報科学（必修／前期）
④ 生物学入門（必修／前期）
⑤ 化学基礎（必修／前期）
⑥ 生物学基礎（必修／後期）
⑦ 人文社会科学（選択必修／前・後期）
　合計４科目、８単位を選択し、履修してください。前期に履修登録できる最大科目数は３科目です。
⑧ 英語（必修／前・後期）
　週に２コマ、TOEFL の結果によるクラス分けで授業を行います。
⑨ ドイツ語／フランス語／中国語（選択必修／前・後期）
　第二外国語としてドイツ語・フランス語・中国語を選択して履修します。いずれも週に２コマ、前・後期続けて行われます。ドイツ語のクラス分けについては、授業開始までに別途掲示します。
　フランス語、中国語のクラスは、医学科・歯学科のクラスと保健衛生学科・口腔衛生学科の２クラスに分かれます。指定の時間帯に履修してください。フランス語ｂ・ｄの履修の仕方については最初の授業時に説明します。
⑩ スポーツ・健康科学（必修／前期）
⑪ フィットネスマネージメント（必修／前・後期）
⑫ 教養総合講座（必修／前期）
⑬ 医療人間学概論（法学）（必修／後期）
⑭ 医療人間学概論（倫理学）（必修／後期）
⑮ 自由選択科目（選択／前・後期）
　各自の興味・関心に合わせて自由に選択できる科目です。
⑯ 医療人間学セミナー（選択必修／後期）
　医療人間学セミナーⅠ（前半）、Ⅱ（後半）別に倫理学・法学のいずれかを選択してください。

・医学部保健衛生学科看護学専攻学生の科目受講に関する留意事項

保健師免許取得後の申請により、「養護教諭二種免許状」を取得することができます。養護教諭二種免許状取得に当たっては、教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める「日本国憲法」、「体育」、「外国語コミュニケーション」、「情報機器の操作」の科目（各 2 単位）を取得しておくことが必須です。

そのため、将来保健師免許による養護教諭二種免許状の取得を希望する学生は、免許状取得に必要な本学の対応科目「法学Ⅰ」(2 単位)を履修し単位を修得しておくことが必要です。本学においては、その他の科目に関しては、必須科目に含まれているため、卒業時の単位を修得していれば、申請条件を満たします。

文部科学省令に定める科目 （養護教諭二種免許状取得に必要な科目）	本学の対応科目
「日本国憲法」（2 単位） 「体育」（2 単位） 「外国語コミュニケーション」(2 単位) 「情報機器の操作」（2 単位）	「法学Ⅰ」（2 単位） 「スポーツ健康科学」(1 単位)と「フィットネスマネージメント」(1 単位) 「英語」（4 単位） 「情報科学Ⅰ」（1 単位）と「統計学」（1 単位）

医学部保健衛生学科検査技術学専攻

種類	科目名	開講学期		単位数	備考
		前期	後期		
必修科目	英語	○	○	4	
	数学基礎	○		1	
	統計学	○		1	
	物理学	○	○	2	
	化学	○	○	2	
	生物学	○	○	2	
	情報科学	○		1	
	科学基礎実験Ａ		○	1	
	スポーツ・健康科学	○		1	
	フィットネスマネージメント	○	○	1	
	教養総合講座	○		1	
	医療人間学概論（法学）		○	1	
選択必修科目	人文社会科学の４科目	○	○	8	１科目２単位
	物理学入門 生物学入門 化学入門	○		1	いずれか１科目
	ドイツ語 フランス語 中国語 ※日本語	○	○	4	いずれか１科目 ※日本語は留学生のみ
自由選択科目（S・R）		○	○	1	
必要単位数合計				３２	

履修しなければならない科目は以下のとおりです。

カッコ内に（選択・必修等の別／開講学期）を示します。

① 物理学入門／化学入門／生物学入門（選択必修／前期）
物理学、化学、生物学のうち、入学試験で選択しなかった科目を必ず履修してください。

② 物理学・化学・生物学（必修／前・後期）
いずれも自然系の基礎を固めるための必修科目です。
科目によってはクラス分けが行われますので、クラス分けの指示に注意してください。

③ 科学基礎実験Ａ（必修／後期）
化学と生物の基礎的な実験を行います。

④ 統計学（必修／前期）

⑤ 情報科学（必修／前期）

⑥ 数学基礎（必修／前期）

⑦ 人文社会系科目（選択必修／前・後期）
合計４科目、８単位を選択し、履修してください。前期に登録できる最大科目数は３科目とします。

⑧ 英語（必修／前・後期）
週に２コマ、TOEFL の結果によるクラス分けで授業を行います。

⑨ ドイツ語／フランス語／中国語（選択必修／前・後期）
第二外国語としてドイツ語・フランス語・中国語を選択して履修します。いずれも週に２コマ、前・後期続けて行われます。ドイツ語のクラス分けについては、授業開始までに別途掲示します。フランス語、中国語のクラスは、医学科・歯学科のクラスと保健衛生学科・口腔衛生学科の２クラスに分かれます。指定の時間帯に履修してください。フランス語ｂ・ｄの履修の仕方については最初の授業時に説明します。

⑩ スポーツ・健康科学（必修／前期）

⑪ フィットネスマネージメント（必修／前・後期）

⑫ 教養総合講座（必修／前期）

⑬ 医療人間学概論（法学）（必修／後期）

⑭ 自由選択科目（選択／前・後期）
各自の興味・関心に合わせて自由に選択できる科目です。

歯学部口腔保健学科

種類	科目名	開講学期		単位数	備考
		前期	後期		
必修科目	英語	○	○	4	
	生物学入門	○		1	
	化学基礎	○		1	
	生物学基礎		○	1	
	統計学	○		1	
	情報科学	○		1	
	スポーツ・健康科学	○		1	
	フィットネスマネージメント	○	○	1	
	教養総合講座	○		1	
選択必修科目	人文社会科学の４科目	○	○	8	１科目２単位
	科学基礎実験Ｂ		○	1	いずれか１科目
	科学基礎演習				
	ドイツ語	○	○	4	いずれか１科目 ※日本語は留学生のみ
	フランス語				
	中国語				
	※日本語				
自由選択科目(S・R)		○	○	1	
必要単位数合計				２６	

履修しなければならない科目は以下のとおりです。

カッコ内に（選択・必修等の別／開講学期）を示します。

① 科学基礎実験Ｂ、科学基礎演習（選択必修／後期）
　科学基礎実験Ｂは基礎的な実験を行います。科学基礎演習は、化学と物理の基礎的な演習を行います。専攻によって、選択してほしい科目が異なる場合があります。
② 統計学（必修／前期）
③ 情報科学（必修／前期）
④ 生物学入門（必修／前期）
⑤ 化学基礎（必修／前期）
⑥ 生物学基礎（必修／後期）
⑦ 人文社会科学科目（選択必修／前・後期）
　合計４科目、８単位を選択し、履修してください。前期に登録できる最大科目数は３科目とします。
⑧ 英語（必修／前・後期）
　週に２コマ、TOEFL の結果によるクラス分けで授業を行います。
⑨ ドイツ語／フランス語／中国語（選択必修／前・後期）
　第二外国語としてドイツ語、フランス語または中国語を選択して履修します。いずれも週に２コマ、前・後期続けて行われます。ドイツ語の３年次編入生の授業は、前期は月曜３・４時限、後期は月曜３時限と水曜２時限に行います。１年生と異なりますので注意してください。フランス語、中国語のクラスは、医学科・歯学科のクラスと保健衛生学科・口腔衛生学科の２クラスに分かれます。指定の時間帯に履修してください。フランス語ｂ・ｄの履修の仕方については最初の授業時に説明します。

⑩ スポーツ・健康科学（必修／前期）
⑪ フィットネスマネージメント（必修／前・後期）
⑫ 教養総合講座（必修／前期）
⑬ 自由選択科目（選択／前・後期）
　各自の興味・関心に合わせて自由に選択できる科目です。

※ 社会福祉士の国家受験資格取得を目指す学生について、法学Ⅰ、「心理学Ⅰ＋心理学Ⅱ」または「社会学ＢⅠ＋社会学ＢⅡ」の単位を修得することが条件になっています。また、２年次進級後の単位取得はできませんのでご注意ください。

３．各科目の履修手続について

第１学年

１）人文社会科学科目の選択と手続きについて

人文社会科学科目は、１年間のうちに４科目・８単位を修得する必要があります。時間割のバランス等から、前期に履修できる科目数は３科目までに制限しますので、よく考えて受講科目を決め、申請してください。後期は申請科目数の制限を設けません。授業は原則的に５０名規模です。（５０名以上のクラスにおいては、成績評価は相対評価に拠ることを原則とします。）

まず、本シラバスに掲載された人文社会科学科目の科目紹介をよく読んで、履修したい科目を選びます。4 月 15 日（月）・19 日（金）には、希望する授業に必ず出席し、授業の様子などを自分で確認してください。そのうえで、「人文社会科学科目第1 次申請カード」に履修したい科目等を記入し、4 月 19 日（金）13:00 までに、教養教務・支援掛の前に設置された「人社申請カード提出箱」に、各自忘れずに提出してください。

人数制限を超えた科目については、機械的に抽選して振り分けたうえ、履修の可否を 4 月 22 日（月）までに掲示します。1 次抽選にもれた場合には、2 次募集を行う科目の中から各自 2 次申請をしてください。2 次募集が行われる科目および2 次申請提出期限については、1 次抽選結果とともに掲示します。後期の申請日程は前期末に掲示します。

２年次への進級要件を満たすために、人文社会科学（８単位以上）を計画的に履修するようにしましょう。また、いったん履修登録をした科目は、最後まで責任をもって単位取得に努めてください。

なお、やむを得ない事情によって履修の継続が困難になった場合に限り、履修の取消を認めます。ただし以下のア）イ）の場合には、取消は認められませんので注意してください。

ア）その科目が、抽選をおこなった科目である場合。

イ）取消期間内に所定の手続きを取らなかった場合。

取消が認められないにもかかわらず、授業に出なかった場合には、「×（履修放棄）」と成績表に記載されます。

２）外国語科目のクラス分けについて

外国語の授業は、他の授業とは別に編成したクラスで行います。

英語のクラスは、入学後に実施する TOEFL の結果にしたがって編成します。試験はガイダンス当日に実施するので、新入生は必ず受けてください。

英語（前・後期）の授業は、医学科と歯学科からなるクラス（水曜日２時限と木曜日１もしくは２時限に開講）、保健衛生学科と口腔保健学科からなるクラス（水曜日１もしくは３時限と木曜日１もしくは２時限に開講）で行います。

第二外国語については、入学手続き時に提出された希望に基づいてクラス分けを行います。「どちらでも良い」とした人はガイダンス時に配付する名簿で結果を確認してください。

なお、TOEFL 実施後、約１週間で英語のクラス名簿を掲示しますので、指定された教室で説明を受けてください。変更があった場合はガイダンス時に説明します。

3）物理学の講義科目の選択について

『物理学』

【医歯】および【検査】の学生は、『物理学』（第１学年前・後期、２単位）が必修となっています。
講義内容としては、前期は力学（剛体を含む）を後期は電磁気学を学びますが、教育効果を考えてそれぞれ３つの講義科目を開講しています。前期には「物理学（力学ａ）」「物理学（力学ｂ）」「物理学（力学ｃ）」が、後期には「物理学（電磁気学ａ）」「物理学（電磁気学ｂ）」「物理学（電磁気学ｃ）」が開講されます。ただし、「力学ａ」と「電磁気学ａ」、「力学ｂ」と「電磁気学ｂ」、「力学ｃ」と「電磁気学ｃ」はセットになっていますので、ａ、ｂ、ｃの科目を混ぜて履修することはできません。
さらに、科目の選択には下記の制限がありますので注意をしてください。

１．「物理学（力学ａ）」および「物理学（電磁気学ａ）」を選択できるのは、【歯】の入試（センター試験 and/or ２次試験）で物理を選択しなかった人、【検査】の人および留学生だけです。
２．「物理学（力学ｂ）」および「物理学（電磁気学ｂ）」を選択できるのは、【医】の入試（センター試験 and/or ２次試験）で物理を選択しなかった人、【歯】【検査】および留学生です。
３．「物理学（力学ｃ）」および「物理学（電磁気学ｃ）」は、学科、専攻に関係なく誰でも選択できます。

これを学科、入試（センター試験 and/or ２次試験）での科目選択から分類し直すとそれぞれの人が選択できる科目は次のようになります。

１．医学科で入試物理の選択者・・・「力学ｃ」＋「電磁気学ｃ」のみ
２．医学科で入試物理の非選択者および歯学科で入試物理の選択者・・・「力学ｃ」＋「電磁気学ｃ」
　　または「力学ｂ」＋「電磁気学ｂ」
３．歯学科で入試物理の非選択者および検査技術学専攻、留学生の人・・・「力学ｃ」＋「電磁気学ｃ」、
　　「力学ｂ」＋「電磁気学ｂ」、「力学ａ」＋「電磁気学ａ」のうちのいずれか

『物理学入門』

【医歯】および【検査】の学生で、入試物理（センター試験 and/or ２次試験）を選択しなかった人は、前期（火曜日）に開講される「物理学入門」を必ず履修してください。
本年度は２クラス開講します。
【歯】【検査】および【留学生】は、「物理学入門ａ」を【医】は、「物理学入門ｂ」を履修して下さい。

【看護】【口腔】の学生は進級のために『物理学』『物理学入門』を履修する必要はありませんが、物理に興味のある人は、自由選択科目の「Ｓ・物理で視た人体と医療機器」や「Ｓ・電気と磁気」を選択してください。　不明の点がある人は、科目担当教員（千葉または越野）に問い合わせてください。

4）自由選択科目について

自由選択科目は他の授業科目と区別するため、科目の前にＳまたはＲの記号を付けています。

Ｓ科目　：講義、セミナー、実験と授業形態は様々です。
Ｒ科目　：原書講読を基本とした自由選択科目です。
　　古今東西の原書や論文をじっくりと読む科目です。

各自の興味、関心に合わせて科目を選び、下記のとおり定められた単位数以上を履修してください。

医学部医学科・歯学科	：２単位
医学部保健衛生学科	：１単位
歯学部口腔保健学科	：１単位

○　自由選択科目には、履修可能な人数（募集人数）に制限があります。
○　受講資格を確認のうえ選択してください。
○　希望者数が募集人数を上回ったときは、初回の授業のときに人数調整を行なうことがありますので履修を希望する人は必ず出席して不利益を被らないようにしてください。
○　募集人数に満たない科目は、次回の授業で追加の受講者を募ります。最初に希望した科目を履修できなかった場合は、それらの科目から選択して申請することができます。
○　集中型Ｓ科目も他の科目と同様に履修期間に登録しますが、追加募集がある場合は開講前に追加申請できる場合があります。
○　２年次への進級要件を満たすために、自由選択科目をできるだけ多く履修するように教員側は指導していますが、いったん履修登録した科目は最後まで責任を持って単位取得に励んでください。

5）履修の手続きについて

①　履修届
○　履修科目が決定したら、webclass により履修届を各学期の決められた期間内に送信してください。
○　送信後に届内容を必ず確認してください。訂正は同期限までに修正してください。
○　履修登録に基づき定期試験の座席表が作成されますので、１科目でも未登録があるとその科目の受験資格を失うことがあります。ただし、再履修科目については、当該科目の担当教員の指導に従ってください。

②　履修届提出期間　　前期　4 月 22 日（月）～　4 月 26 日（金）
　　後期　9 月 30 日（月）～ 10 月 11 日（金）

6）履修取消について

履修登録した科目のうち、やむを得ない事情により履修ができなくなった場合には、取消を許可する科目があります。履修取消期間に申請すれば、登録抹消ができ、総登録単位数から除かれます。

ただし、履修取消を認めるか認めないかは科目によって異なりますので、担当の先生に確認した上で、履修取り消しの手続きを行ってください。

申請の用紙は教養教務・支援掛にありますので、申請書に必要事項を記載の上、提出して下さい。

7）試験と成績評価について

各学期末に定期試験を実施し、その成績を基に科目の単位認定を行います。ただし科目によっては定期試験の成績だけでなく平常点が加味される場合や定期試験に替えてレポート・その他の課題が課される場合があります。いずれも担当教員の指示に従ってください。試験と成績評価に関する教養部のルールについては、巻末に掲載してある規則を参照してください。　ここでは、特に留意する点を列記します。

○　後期までに必要単位数を修得できなかった場合は、教養部において留年となります。
○　単位不足のまま専門科目を履修する仮進級の制度はありません。
○　試験の成績評価については、巻末の「東京医科歯科大学全学共通科目履修規則」を参照してください。
各科目について５段階評価（秀・優・良・可・不可・不可（×））を通知します。
このうち、不可（×）は履修放棄または試験中に不正行為をした者に対する評価で、この評価のついた科目は、再試験を受験することができません。
従って不可（×）のついた科目を単位修得するためには再履修する必要があります。
履修登録した人文社会科学あるいは自由選択科目のうち、進級要件に関係のない科目として履修放棄した科目の不可（×）の印は、卒業時の成績表の科目欄には残りませんが、履修登録単位数に加算されますので、GPA(grade point average)では評価が下がります。
○　不可となった科目の単位を修得するためには、原則としてその科目を再履修する必要があります。
再履修については、担当教員の指示に従ってください。
○　授業が前期・後期にわたる科目については、最終学期後に総合成績を通知します。
前期・後期を通して行われる科目は、通常前期にも定期試験を行いますが、その成績は教員の手元で管理され、後期の定期試験後に総合成績が出ます。なお、前期の定期試験を行わない科目もあります。
○　科目の後に小文字のアルファベットがついている科目（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、日本語）では、アルファベットすべての授業の総合成績によってその科目全体の成績判定が行われます。例えば英語ａ、ｂ、ｃ、ｄは、４つの成績の総合で英語（４単位）という１つの科目の単位が認定されます。
○　病気や事故などで定期試験を受けられなかった人は、追試験願を提出することができます。
詳細は巻末の「東京医科歯科大学試験規則」を参照してください。

8）学力認定試験について

医学科および歯学科の学生は、後期試験期間に、数学・物理学・化学・生物学の４科目について、期待される学力を有しているかどうかの学力認定試験を実施します。

この試験は、上記科目に関して基本的な学力が身についているかどうかを判定する試験です。学力認定試験の成績に基づいて２年次の授業のクラス分けに使われる場合があります。なお、認定試験の範囲は必ずしも必修科目の講義内容の範囲内で収まるわけではありません。

試験範囲の予定
数　学：微積分、線形代数
物理学：力学、電磁気学
化　学：一般化学Ⅰ・Ⅱ（無機・物理化学、有機化学）、化学実験
生物学：細胞・遺伝子、構造・機能、生物学実験

追って試験範囲の詳細については知らせる。

9）GP（Grade Point）について

GP（Grade Point）で成績を評価する場合は、次のとおりです。

成績評価	秀	優	良	可	不可
ＧＰ	4.0	3.0	2.0	1.0	0
成績区分	90 点以上	89～80 点	79～70 点	69～60 点	59 点以下

※　全学共通科目履修規則第７条第２項に該当する科目を除く。

主題別教育（医学科・歯学科）について

【目的】

人間とは何か。これまで、偉大な先人達が、「人間」の解明にあらゆる観点からいどみ、説明を試みてきました。それらは、「知」として蓄積され、私たちをさらなる思索へと導いてくれます。

あらゆる学問は、この人間について思索をめぐらせ、理論化しようとするところから始まったといってもよいでしょう。人間とは甚だ不可思議な、得体の知れない存在です。私たちは、このよく分からない人間として、よく分からない人間が構築する世界で、よく分からない人間と一緒に生きていかねばなりません。人間をめぐる思索は、自分自身の姿、あるいは自分たちが生きる世界の構造を明らかにしようとする営みにほかならず、人間として生きていく上での必然的行為であり、人間の宿命であるともいえます。

主題別教育は、この「人間」という存在について、人間を生物的社会的存在たらしめている要素である「文化」「生命」「言語」「制度」「時間」という５つの視点から考えてみようという取り組みです。

ゴールは、3 年次に行う「主題別人文社会科学セミナー」です。このセミナーでは、各主題に分かれて、担当者の指導のもと、自ら問題を設定し、調査・考察・討論を経て、一定の結論を導出します。1 年次および 2 年次には、その準備として、視野を広げ、基礎的な知識や考え方を身につけます。

セミナー修了時には、みなさんは、自分が選択した主題の観点を中心に、「人間」という存在について、自分なりの考えを持つことになるでしょう。もちろん、それは「絶対的な正解」ではありません。しかし、各自が、3 年間かけてたどりついた一つの「結論」です。

そして、この「結論」は、さらなる「新たな問い」を生みだし、「思索」を促し、「新たな結論」へとみなさんを導くでしょう。この、「問い」から「結論」へ、そして「新たな問い」へという、とどまるところを知らない学問のダイナミズムを体験すること、そして、自ら思索する力強さを身につけること、これが主題別教育の目的です。

ここでの取り組みは、将来、「人間」そのものを対象とすることになる医学・歯学系の皆さんを支える、大きな力となるはずです。

【５つの主題】

文化と人間　　生命と人間　　言語と人間　　制度と人間　　時間と人間

各主題の目的は次の通りです。

文化と人間	文化とは、人間が創造し習得する精神的な価値の総体である。また、文化とは象徴的記号の体系である。そのような文化を理解することによって、人間の本質を捉えようとすることが目的である。
生命と人間	人間を含むあらゆる生物には生命が宿っている。医療はその生命と常に向き合わなければならない。その生命の多様な現象と、それに対する人間の様々な認識のありようを理解することが目的である。
言語と人間	人間と動物とを区別する最大の要素は言語の使用にある。人間は言語によって、自らの世界を構築してきた。その言語に関する様々な事象を理解することによって、人間の本質を捉えようとすることが目的である。
制度と人間	社会的生物である人間は、様々な制度に取り巻かれて生きている。その制度を相対的に理解することと、制度の構造を分析することによって、人間のありようを理解することが目的である。
時間と人間	人間は時間的存在であり、時間的拘束のもとに生きている。時間を相対的に理解し、その構造を明らかにすることによって、人間存在の本質を理解することが目的である。

上の５つの主題の中から、１つ選択します。各主題とも、定員は約３０名です。

３年次の「主題別人文社会科学セミナー」は、この主題に分かれて開講されます。各セミナーは、１年次の人文社会科学科目の「主題に関連の深い科目」の担当者が担当する予定です（この１年次人文社会科学の「主題に関連の深い科目」については、次の【各学年の履修について】で説明します)。

どの主題に進むかを決定する時期は、２年進級時です。１年生の２月に「希望調査」を取り、希望を考慮しながら、各主題とも約３０名になるように振り分けます。

１年生の間に、色々な科目を履修しながら、自分がどの主題を選択するかを考えておいて下さい。

【各学年の履修について】

１年生：基盤の形成

必修科目・必修選択科目・自由選択科目などで、さまざまな分野の科目が開講されています。それらに取り組むことにより、それぞれの学問分野における基礎的な知識や、科学的な思考方法を身につけます。

同時に、人間に関する根源的な問いに対して、これまで人間自身がどのようにアプローチし、どのように理論化してきたのかということを学びます。そして、「問いの継続と発展」という学問のありようを理解します。

１年生は、このように３年生のセミナーに向けて基礎体力を養いながら、自分がどの主題に進むかを考える期間です。

特に、人文社会科学科目には、「主題に関連の深い科目」は設けられています（下表）。自分が進むかもしれないと思う主題については、その「主題に関連の深い科目」の中にある科目を、積極的に履修しておくことをお勧めします。

主題に関連の深い科目は次の通りです。各授業の内容については、それぞれのシラバスを参照して下さい。

主題	関連の深い科目
文化と人間	文化人類学Ⅰ、文化人類学Ⅱ、民俗学Ⅱ、社会学ＡⅠ
生命と人間	哲学Ⅰ、哲学Ⅱ、倫理学Ⅰ、倫理学Ⅱ
言語と人間	文学ＡⅠ、文学ＡⅡ、文学ＢⅠ、文学ＢⅡ
時間と人間	歴史学ＢⅠ、歴史学ＢⅡ、社会思想史Ⅰ、社会思想史Ⅱ
制度と人間	政治学Ⅰ、政治学Ⅱ、法学Ⅰ、法学Ⅱ

２・３年生前期：主題別選択科目―視点の拡充―

２・３年生では、前期の木曜日午前中に、「主題別選択科目」が開講されます。

「主題別選択科目」とは、主題について考察できる、様々な学問分野にまたがった複合的な内容の選択科目です。各科目とも、５０分間の授業が７回行われます。２年生と３年生が合同で受講します。具体的には、各主題において、下表のような科目が開講されます。開講科目は、若干の変更の可能性があります。

自分が選択した主題の「主題別選択科目」の中から、２年前期の前半７回、前期の後半７回、３年前期の前半７回、前期の後半７回にそれぞれ１科目ずつ履修します。前半７回と後半７回、合計２科目を履修して、１単位取得となります。

（例）「言語と人間」を選択した学生

→２年前期の前半７回「語り（ナラティヴ）の構造」履修

〃　　後半７回「文化・言語・狂気」履修

（この２科目で１単位取得）

３年前期の前半７回「ドイツとヨーロッパの社会」履修

〃　後半７回「数理理論と形式言語」履修

（この２科目で１単位取得）

主題	*主題別選択科目（25 年度開講予定）*	
	２・３年の前期前半７回（50 分×7 回）	２・３年の前期後半７回（50 分×７回）
文化と人間	いのちと医療の歴史学（田中） 文化・言語・笑い（板橋） スポーツと健康（林） バルト『エッフェル塔』を読む（中島） ドイツとヨーロッパの社会（シンチ） 現代の日中関係（社会と文化）（家永） 社会の中の数学（清田） 物理数学演習　（越野） 社会の中の科学（奈良） 食品の科学（澤野）	文化・言語・狂気（板橋） いのちと医療の倫理学（田中） スポーツと心（林） バルト『表徴の帝国』を読む（中島） ドイツとヨーロッパの現在（シンチ） 現代の日中関係（政治と経済）（家永） タンパク質科学の光と影（奈良） 民主主義を再考する（藤井）
生命と人間	いのちと医療の歴史学（田中） スポーツと健康（林） ゆらぎの科学（千葉） 物理数学演習（越野） 食品の科学（澤野） 生物の中の糖（勝又） 宇宙と生命（服部） 医療の社会学（藤井） ヒトの脳と言語（産賀）	いのちと医療の倫理学（田中） スポーツと心（林） 物理で視た人体と医療機器（千葉） タンパク質科学の光と影（奈良） 植物の科学（澤野） 老化と寿命（服部） 生物リズム（産賀）
言語と人間	語り（ナラティヴ）の構造（土佐） 文化・言語・笑い（板橋） バルト『エッフェル塔』を読む（中島） ドイツとヨーロッパの社会（シンチ） ヒトの脳と言語（産賀）	語り（ナラティヴ）と時間（土佐） 文化・言語・狂気（板橋） バルト『表徴の帝国』を読む（中島） ドイツとヨーロッパの現在（シンチ） 数理理論と形式言語（清田） 微分方程式演習（越野）
制度と人間	いのちと医療の歴史学（田中） バルト『エッフェル塔』を読む（中島） ドイツとヨーロッパの社会（シンチ） 現代の日中関係（社会と文化）（家永） 社会の中の数学（清田） 社会の中の科学（奈良） 医療の社会学（藤井）	バルト『表徴の帝国』を読む（中島） ドイツとヨーロッパの現在（シンチ） 現代の日中関係（政治と経済）（家永） 数理理論と形式言語（清田） 微分方程式演習（越野） 危険物の科学（勝又） 民主主義を再考する（藤井）
時間と人間	語り（ナラティヴ）の構造（土佐） ドイツとヨーロッパの社会（シンチ） 現代の日中関係（社会と文化）（家永） ゆらぎの科学（千葉） 食品の科学（澤野） 宇宙と生命（服部） 医療の社会学（藤井）	語り（ナラティヴ）と時間（土佐） いのちと医療の倫理学（田中） ドイツとヨーロッパの現在（シンチ） 現代の日中関係（政治と経済）（家永） 数理理論と形式言語（清田） 物理で視た人体と医療機器（千葉） 微分方程式演習（越野） 植物の科学（澤野） 老化と寿命（服部） 民主主義を再考する（藤井） 生物リズム（産賀）

また、３年次に行われる主題別人文社会科学セミナーの担当者から、２年生の間にやっておくべき課題が提示される場合があります。２年生は、「主題別選択科目」を受講し、同時にその課題に取り組みながら、主題に関する視点の拡充をめざします。

３年生：主題別人文社会科学セミナー―思考の深化―

３年生では、主題ごとに、セミナーを受講します。

各主題の学生３０人を、１０人ずつのグループＡ・Ｂ・Ｃに分けます。セミナーは、このグループごとに、７回ずつ行われます。セミナーを担当する教員は、１年次人文社会科学の「主題に関連の深い科目」担当教員の予定です。

セミナーと平行して、「医療と法」および「医療と社会」という二つの講義科目が７回ずつ開講されます。グループごとに「セミナー」「医療と法」「医療と社会」を７回ずつ受講します。そして、学年の最後に開講される「総括セミナー」において、主題に関する自らの取り組みをレポートにまとめます。「総括セミナー」は、主題ごとに３０人全員が参加し、討論を経てレポート執筆に取り組みます。

グループ（各１０人）	前期		後期	
	前半７回	後半７回	前半７回	後半７回
グループＡ	セミナー	医療と社会	医療と法	総括セミナー（レポート執筆）
グループＢ	医療と法	セミナー	医療と社会	
グループＣ	医療と社会	医療と法	セミナー	

１年生において基礎力を身に付け、自ら問いを見出す意識を養い、２年生「主題別選択科目」において視野を広げてきました。３年生「主題別人文社会科学セミナー」では、それらを前提にして、問題を設定し結論の導出を目指します。

問題設定は、自らの興味や関心にもとづいて、担当教員のアドバイスを受けながら、学生それぞれが設定します。その問題について、調査や考察を行い、またその結果を他の受講生と共有して、問題点を指摘しあいながら結論を導き出すのが「セミナー」です。そして、これらを集大成するのが、「総括セミナー（レポート執筆）」です。

「総括セミナー（レポート執筆）」、ここがこの主題別教育のゴール地点となります。

「総括セミナー（レポート執筆）」までの予定

4 月 18 日（木）：各主題でオリエンテーション。
担当者より、セミナー計画・日程・ミニ論文の問題設定の仕方などについて説明。

4 月 25 日（木）～11 月 21 日（木）：セミナーと講義

12 月 5 日（木）～平成 26 年 2 月 6 日（木）：総括セミナー

2 月 21 日（金）：提出締切（予定）

【今後の予定】

2 年生　4 月～9 月　「主題別選択Ⅰ」受講

3 月　「主題別人文社会科学セミナー」履修の説明

3 年生　4 月～9 月　「主題別選択Ⅱ」受講

4 月～3 月　「主題別人文社会科学セミナー」受講

【成績・評価について】

主題別選択Ⅰ・Ⅱ　前半と後半をあわせてそれぞれ 1 単位。

原則としてレポート（80 点）、出席（20 点）で評価。

ただし、レポートの代替として、授業の最終日に試験を実施することがある。

主題別人文社会科学セミナーと講義　あわせて 2 単位

原則として講義における試験と総括セミナーにおけるレポート（80 点）、出席（20 点）で評価。

Ⅲ．開講科目の紹介

人文科学・社会科学科目　目次

哲学Ⅰ ……
哲学Ⅱ ……
倫理学Ⅰ ……
倫理学Ⅱ ……
心理学Ⅰ ……
心理学Ⅱ ……
宗教学Ⅰ ……
宗教学Ⅱ ……
芸術Ⅰ ……
芸術Ⅱ ……
歴史学ＢⅠ（東洋史） ……
歴史学ＢⅡ（西洋史） ……
民俗学Ⅱ ……
科学史Ⅰ ……
科学史Ⅱ ……
文学ＡⅠ ……
文学ＡⅡ ……
文学ＢⅠ ……
文学ＢⅡ ……
法学Ⅰ ……
法学Ⅱ ……
政治学Ⅰ ……
政治学Ⅱ ……
社会学ＡⅠ ……
社会学ＢⅠ ……
社会学ＢⅡ ……
経済学Ⅰ ……
経済学Ⅱ ……
社会思想史Ⅰ ……
社会思想史Ⅱ ……
文化人類学Ⅰ ……
文化人類学Ⅱ ……
社会科学特論ＡⅠ ……
社会科学特論ＡⅡ ……
日本事情ＡⅠ ……
日本事情ＡⅡ ……

１．必修・選択必修科目

1）人文科学・社会科学

人文科学・社会科学分野の科目は、医療の道を歩もうとする皆さんの目には、一般教育の中で最も役に立たないものと見えるでしょう。その一方で、意識の高い人には、医療従事者に必要な幅広い教養や豊かな感性、また倫理観や判断力を身につけるためにあることが理解されているはずです。

人文科学・社会科学分野の履修に際しては、その「身につけるため」という考えは、目先の目的意識によっているなら、かえって有害となるかもしれません。むしろ「役に立たない」という発想を持つことが肝要です。なぜなら、人文科学・社会科学分野の科目は、すべて人間とその社会を対象にしており、多様にして固有の諸学を修得するには、利用価値を求めて垣間見るのではなく、どっぷりとその世界に浸ることがなにより望ましいからです。

人文科学・社会科学の各科目に盛り込まれた、人間のあるいは個あるいは集団における、時間的また空間的な種々の課題が深く追究されている跡をたどり、それぞれの内容をじっくりと堪能してください。

その過程では、自ら課題を見いだすこと、解決のために考察を重ねること、その結果を的確に表現することが求められるでしょう。

〈人間〉という得体の知れない生き物の営みを捉え直す作業を通し、主体的に課題を解き明かそうとする態度が身についた時、この分野の科目は、結果として〈人間〉の心と身体に向き合う皆さんの将来の職業に、大きく役立ってくるはずです。

日本文学史に名を残す文学者には、森鴎外・斎藤茂吉を初め、医学を本業とする人物も少なくありません。彼らの医療活動と創作活動を結ぶものは、おそらく人間への深い眼差しにあるでしょう。人間を扱う諸科目を、可能な限り多く履修し、あれこれと思いをめぐらして、豊かさを身に備えてください。

「日本事情」は、外国人留学生用に設けられたもので、外国人留学生以外は履修することができません。

外国人留学生には、日本事情ＡⅠ(前期)、AⅡ(後期)の２科目が開設されています。

留学生の必要に応じて、日本事情ＢⅠ(前期)、BⅡ(後期)の２科目も開設されます。

日本事情Ａと日本事情ＢのⅠ(前期)とⅡ(後期)の合計を、自由教育講義系の人文・社会分野の２科目・4単位、あるいは、4科目・8単位として履修することができます。

履修にあたっては、担当教員とよく相談してください。

留学の目的は、留学生が専門の分野で学習・研究の成果をあげることだけでなく、大学内外での人々との交流と相互啓発をとおして、日本・日本人についての理解を深め、自己を豊かにし、伸びやかな心で日本人と交わり、自国と日本の平和・交流の一端を担うことにあります。日本事情の授業では、学習者がこの留学の目的を実現するために必要な基礎的な知識・能力の獲得を目指して開講されています。

※医学科・歯学科「主題別教育」に関する注意事項

３年生にかけて「主題別教育」が行われます（概要については、　～　頁参照)。

人文社会科学のいくつかの科目は、「主題に関連の深い科目」に指定されています。

３年次の「主題別人文社会科学セミナー」は、この「主題に関連の深い科目」の教員が担当する予定です。

頁に掲載されている表で確認の上、自分が進む可能性のある主題については、「主題に関連の深い科目」を積極的に履修することを勧めます。

また、３年次には、「主題別人文社会科学セミナー」と平行して、「医療と法」「医療と社会」という講義科目が開講されます。これらは、医療をとりまく社会的問題について、講義形式で考察する必修科目です。医療が直面する問題について、法律、経済、政治などの側面から考察します。将来、医療の世界で生きることになる皆さんにとっては、必須の内容です。

主題別教育については、本冊子の　～　頁を熟読し、どの主題に進むかをよく考えておいて下さい。また、分からないことや相談したいことがある時には、いつでも来て下さい。

科　目　名 （英　訳）	哲学Ⅰ Philosophy I	開講学期 曜日・時限	前期 月曜日１時限
対象学年	１年生	単位数	２単位
受講資格		募集人数	
担当教員	田中 智彦		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

私たちは徹頭徹尾、世界と関係している。だからこそ私たちがそのことに気づく唯一つの方法は、そのように世界と関係する運動を中止することなのである。〔中略〕それは常識や自然的態度のもっている諸確信を放棄することではない（それどころか逆に、そうした諸確信こそ哲学の恒常的なテーマなのだ）。そうではなく、むしろそれらの確信がまさにあらゆる思惟の前提として「自明のもの」になっており、しかしそうとは気づかれないで通用しているからこそ、そうするのである。

メルロ＝ポンティ『知覚の現象学』

この授業では上の言葉を導きの糸にして、「わたし」あるいは「自己」というものの成り立ちについて考察します。それはいいかえれば、「わたし」が「わたし」としてあること、ありうることの根拠を、あらためて問う試みです。そしてそこからは、「わたし」と「他者」との間には、また「世界」との間には、どのような関係性があるのか、ありうるのかという問いへと、さらに議論は展開していくことになるでしょう。

なお、授業は講義形式で行います。また受講に際しては、哲学に関する知識の多寡は問われません。「自明のもの」をあらためて「思考する」こと、そのことへの興味があれば、さしあたりは十分です。

●授業の目的 (Primary goal)

上記の試みをつうじて、私たちの生とそれが営まれるこの世界とについて理解を深めること。

●到達目標 (Objectives)

(1) 「わたし」「他者」およびそれらに関連する哲学のテーマについて基本的な理解を得ること。
(2) 「世界の解像度を上げる」ことの面白さと大切さを知り、自分でも取り組めるようになること。

●授業計画 (Schedule)

この授業では順次、以下の論点を取り上げていきます。

(1) 「わたし」あるいは「自己」の成り立ちについて
(2) 「わたし」あるいは「自己」と「他者」との関係性について
(3) それらをふまえたときに見えてくる「世界」のありようについて

●成績評価の方法 (Grading scheme) 評価 （ 筆記試験, レポート, その他 ） のいずれか

再評価 （ 有・無 ）

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

授業では教科書は使用せず、そのつどレジュメを配布します。

参考書としてさしあたり以下の文献を挙げておきます。その他にも授業のなかで随時紹介していきます。

内田樹『寝ながら学べる構造主義』文藝春秋、2002年。
熊野純彦『西洋哲学史』岩波書店、2006年。

科　目　名 （英　訳）	哲学Ⅱ Philosophy Ⅱ	開講学期 曜日・時限	後期 月曜日１時限
対象学年	１年生	単位数	２単位
受講資格		募集人数	
担当教員	田中　智彦		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

身体性は存在と所有の境界ゾーンである。あらゆる所有はある仕方で、私の身体に関連して定義される。私の身体は、絶対的な所有であるというそのことによって、いかなる意味でも所有であることをやめるものである。所有することとは、所有物を自由にすることができるということ、所有物に対して力を所有するということである。この自由にすること、あるいはこの力ということには、必ず有機体の介在が含まれている。ところが、この有機体そのものは、まさにそのことによって、私がそれを自由にできるとは言えなくなるのである。　マルセル『存在と所有』

この授業では上の言葉を導きの糸にして、私たちの「生命」と「身体」について考察します。またそれらと深く関係する他の論点についても――たとえば「健康」「正常」といった概念、あるいは「病む」「老いる」といった経験についても――あわせて考察してゆきます。そしてそのことは、私たち人間にとって「生」とは、「死」とは何かということを、あらためて問うことにもつながるでしょう。

なお、授業は講義形式で行います。また受講に際しては、哲学に関する知識の多寡は問われません。「自明のもの」をあらためて「思考する」こと、そのことへの興味があれば、さしあたりは十分です。

●授業の目的　(Primary goal)

上記の試みをつうじて、私たちの生命・身体とそれらが住まうこの世界とについて理解を深めること。

●到達目標　(Objectives)

(1)　「生命」「身体」およびそれらに関連する哲学のテーマについて基本的な理解を得ること。
(2)　「世界の解像度を上げる」ことの面白さと大切さを知り、自分でも取り組めるようになること。

●授業計画　(Schedule)

この授業では順次、以下の論点を取り上げていきます。

(1)　「身体」と「世界」との関係性について
(2)　「生命」をめぐる思考の歴史と現在について
(3)　「健康」「正常」「病」といった概念について

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験，レポート，その他　）　のいずれか

再評価（有・無）

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

授業では教科書は使用せず、そのつどレジュメを配布します。
参考書としてさしあたり以下の文献を挙げておきます。その他にも授業のなかで随時紹介していきます。

内田樹『死と身体』医学書院、2004年。
鷲田清一『悲鳴をあげる身体』PHP研究所、1998年。

科　目　名 （英　訳）	倫理学Ⅰ Ethics I	開講学期 曜日・時限	前期 金曜日２時限
対象学年	１年生	単位数	２単位
受講資格		募集人数	
担当教員	田中 智彦		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

創造的な注意とは存在しないものに現実に注意を向けることである。道端に転がっている生気のない無名の肉体には人間性は存在しない。それでも立ち止まって見つめるサマリア人は、この不在の人間性に注意を向けているのであり、そしてその後に続く行いは、そこで問われているのが真の注意であることを証し立てているのである。　ヴェイユ『著作集Ⅳ』〔一部改訳〕

ヴェイユは『ルカによる福音書』に登場する「善きサマリア人」のたとえ話にこのような注釈をつけました。この授業ではこうしたヴェイユの視点を導きの糸にして、「人間の尊厳」「いのちの尊厳」について考察してゆきます。

「人間の尊厳」も「いのちの尊厳」も、すでに語り尽くされている感があるかもしれません。あるいはその大切さは承知していても、どこか「机上の空論」でしかないような印象が否めないかもしれません。またそれゆえに、「人間の尊厳」や「いのちの尊厳」の名の下に「死」が語られ、「死を与える」ことまでもが正当化されても、私たちはさして違和感を覚えなくなっているのかもしれません。しかし、はたして「尊厳」とは、本当にそのようなものでしかないのでしょうか。

この授業ではあらためてそうした問いを立て、「人間の尊厳」「いのちの尊厳」という概念の意義と問題点を検討するとともに、一般にそう思われているのとは異なる解釈の可能性を探ります。その試みは、これらの概念とは不可分の「人権」について、さらには私たち「人間」の生と死について、再考することにもつながるでしょう。なお、授業は講義形式で行います。

●授業の目的 (Primary goal)

上記の試みをつうじて、「倫理的であるとはどういうことか」について理解を深めること。

●到達目標 (Objectives)

(1) 「人間の尊厳」「いのちの尊厳」およびそれらに関連する論点について基本的な理解を得ること。
(2) 「世界を別の視点から見る」ことの面白さと大切さを知り、自分でも取り組めるようになること。

●授業計画 (Schedule)

この授業では次のような論点を取り上げていきます。

(1) 「人間の尊厳」「いのちの尊厳」をめぐる理論と歴史について
(2) 「倫理」と「法」および他の諸領域との区別、あるいは混同について
(3) 生命倫理、とりわけ脳死・臓器移植、尊厳死・安楽死について

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価　（　筆記試験，レポート，その他　）　のいずれか

再評価（有・無）

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

授業では教科書は使用せず、そのつどレジュメを配布します。

参考書としてさしあたり以下の文献を挙げておきます。その他にも授業のなかで随時紹介していきます。

大庭健『いのちの倫理』ナカニシヤ出版、2012年。
金森修『動物に魂はあるのか――生命を見つめる哲学』中央公論新社、2012年。

科　目　名 （英　訳）	倫理学Ⅱ Ethics Ⅱ	開講学期 曜日・時限	後期 金曜日２時限
対象学年	１年生	単位数	２単位
受講資格		募集人数	
担当教員	田中　智彦		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

人間の思考のなかで重要なのは、彼らが考えたことよりも、むしろ彼らによって考えられなかったことのほうなのである。このノン・パンセは、初めから人間のもろもろの思考を体系化し、それ以降はこれを際限なく言語であげつらいうるものとなし、さらにこれについて考える、という任務にむかって限りなく開かれたものにするのである。　フーコー『臨床医学の誕生』

この授業では上の言葉を導きの糸にして、「生命倫理（学）」について考察してゆきます。もっともそれは、生命倫理について概説することでもなければ、学説史をたどることでもありません。生命倫理において「思考されずにあること」「語られずにあること」を問うことによって、すなわち、生命倫理の「ノン・パンセ」を問うことによって、今日の生と死をめぐる倫理のありようを批判的に検討する試みです。そしてそのことは、いわゆる「医の倫理」はもとより、生と死をめぐる「倫理」が具えるべき視点を、いわば裏側から照らし出すことになるでしょう。なお、授業は講義形式で行います。

●授業の目的　(Primary goal)

上記の試みをつうじて、「倫理的であるとはどういうことか」について理解を深めること。

●到達目標　(Objectives)

(1)　現代の生と死のありようと医学・医療の特質が提起する倫理の問いについて基本的な理解を得ること。
(2)　「世界を別の視点から見る」ことの面白さと大切さを知り、自分でも取り組めるようになること。

●授業計画　(Schedule)

この授業では次のような論点を取り上げていきます。
(1)　医学・医療の特質とそこから要請される倫理の問いについて
(2)　生命倫理の来歴と特質およびそれらに具わる倫理的な問題について
(3)　生と死をめぐる法、政治、経済の問題と、倫理のありようとについて

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）　のいずれか

再評価（有・無）

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

授業では教科書は使用せず、そのつどレジュメを配布します。
参考書としてさしあたり以下の文献を挙げておきます。その他にも授業のなかで随時紹介していきます。
香川知晶『命は誰のものか』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2009年。
小松美彦・香川知晶編著『メタバイオエシックスの構築』NTT出版、2010年。

科　目　名 （英　訳）	心理学Ⅰ Psychology　I	開講学期 曜日・時限	前期 月曜日２時限
対象学年	１年生	単位数	２単位
受講資格		募集人数	
担当教員	近藤　育代		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

心理学は、人の行動とその背後にある心理過程を理解することを目指す学問です。その研究領域は非常に幅広く、様々な専門分野に分かれています。「心理学Ⅰ」ではその中でも感覚と知覚、思考、記憶、学習、感情、動機づけと欲求、ストレスと健康、といった領域を取り上げ、心理学を初めて学ぶ人を対象に基礎的な内容について概説します。その中で、「心」に対する客観的な視点と科学的なアプローチを理解することを目的とします。

●授業の目的　(Primary goal)

心理学の各研究領域に関する基礎的なテーマを概説しながら、心理学の基本知識を習得します。また、心理学的な考え方を身につけ、自己および他者理解につながる視点をもてるようになることを目指します。

●到達目標　(Objectives)

各研究領域の基礎的トピックについて解説し、その理解度を確認するため授業時に適宜小課題を実施します。各テーマに関する研究の紹介や心理検査・実験の体験を通して、「心」を理解するための科学的枠組みを知り、自分や他者を含めた人間全体を客観的に理解する能力を養うことを目標とします。

●授業計画　(Schedule)

１．ガイダンス：授業の説明、心理学の歴史と心についての考え方
２．感覚と知覚：感覚の種類や測定方法、知覚の働き
３．思考：知識の構造、問題解決を妨害・促進する要因
４．記憶：記憶の仕組みとメカニズム
５．学習１：古典的条件づけ、強化と消去
６．学習２：道具的条件づけ、シェーピング
７．学習３：観察学習、知覚運動学習
８．感情１：感情の種類と特徴、表出プロセス、測定方法
９．感情２：感情を体験・認識するメカニズム
１０．動機づけと欲求１：動機づけのタイプ、欲求不満と対処方法
１１．動機づけと欲求２：「やる気」が下がる状況・上がる状況
１２．ストレスと健康１：ストレスとは何か、ストレッサーとストレス反応
１３．ストレスと健康２：ストレスモデルとストレス対処の考え方
１４．ストレスと健康３：リラクセーション法
１５．まとめと理解度の確認

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）　再評価（ 有・無 ）

出席状況および授業時の学習状況などの平常点と、試験によって総合的に評価します。

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

教科書は指定しません。必要な資料については授業中にプリントを配布します。
また、授業で紹介したテーマについて詳しく知りたい場合は以下が参考になります。

・山内弘継・橋本宰（監修）（2006）「心理学概論」　ナカニシヤ出版
・鹿取廣人・杉本敏夫（1996）「心理学」　東京大学出版会
・西本武彦・大藪泰・福沢一吉・越川房子（編著）（2009）「テキスト　現代心理学入門」　川島書店

科　目　名 （英　訳）	**心理学Ⅱ** Psychology　Ⅱ	開講学期 曜日・時限	後期 月曜日２時限
対象学年	１年生	単位数	２単位
受講資格		募集人数	
担当教員	近藤　育代		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

心理学は、人の行動とその背後にある心理過程を理解することを目指す学問です。その研究領域は非常に幅広く、様々な専門分野に分かれています。「心理学Ⅱ」ではその中でも性格、知能、発達、社会、臨床といった領域を取り上げ、心理学を初めて学ぶ人を対象に基礎的な内容について概説します。その中で、「心」に対する客観的な視点と科学的なアプローチを理解することを目的とします。

●授業の目的　(Primary goal)

心理学の各研究領域に関する基礎的なテーマを概説しながら、心理学の基本知識を習得します。また、心理学的な考え方を身につけ、自己および他者理解につながる視点をもてるようになることを目指します。

●到達目標　(Objectives)

各研究領域の基礎的トピックについて解説し、その理解度を確認するため授業時に適宜小課題を実施します。各テーマに関する研究の紹介や心理検査・実験の体験を通して、「心」を理解するための科学的枠組みを知り、自分や他者を含めた人間全体を客観的に理解する能力を養うことを目標とします。

●授業計画　(Schedule)

１．ガイダンス：授業の説明、心理学の諸分野と研究方法
２．性格１：性格の捉え方、パーソナリティ理論
３．性格２：性格検査の体験
４．性格３：パーソナリティ理解の方法と様々な性格検査
５．知能：知能の概念、知能検査
６．発達１：発達の規定因と影響因、初期経験の重要性
７．発達２：新生児期・乳幼児期・児童期・青年期の発達
８．発達３：ピアジェの認知的発達段階、エリクソンの発達課題
９．社会１：自己の形成過程、自己意識と自尊感情
１０．社会２：対人認知の過程、対人魅力
１１．社会３：社会的影響
１２．臨床１：精神分析
１３．臨床２：クライエント中心療法
１４．臨床３：行動療法、認知行動療法
１５．まとめと理解度の確認

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）　再評価（有・無）

出席状況および授業時の学習状況などの平常点と、試験によって総合的に評価します。

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

教科書は指定しません。必要な資料については授業中にプリントを配布します。
また、授業で紹介したテーマについて詳しく知りたい場合は以下が参考になります。

・山内弘継・橋本宰（監修）（2006）「心理学概論」　ナカニシヤ出版
・鹿取廣人・杉本敏夫（1996）「心理学」　東京大学出版会
・西本武彦・大藪泰・福沢一吉・越川房子（編著）（2009）「テキスト　現代心理学入門」　川島書店

科 目 名 （英 訳）	宗教学Ⅰ Religious Studies Ⅰ	開講学期 曜日・時限	前期 月曜日２時限
対象学年	１年生	単位数	２単位
受講資格		募集人数	
担当教員	爪田 一寿		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

①三大宗教（キリスト教、イスラーム、仏教）の歴史と基本的な教義を概観し、②宗教の本質について考察していく。①については、映画を中心とする映像資料を用いる予定である。

●授業の目的 (Primary goal)

三大宗教に対する理解を深めるとともに、信じる／信じないという二項対立的な態度を超えて、宗教に向き合うことの大切さに気付くことを目指す。

●到達目標 (Objectives)

①三大宗教の開祖・聖典・歴史・教義についての基本的な知識を修得する。

②様々な宗教現象について自ら考えることが出来るようになる。

●授業計画 (Schedule)

第１回：オリエンテーション
（宗教とは何か？／宗教を学ぶ意味）
第２回：キリスト教①
第３回：キリスト教②
第４回：キリスト教③
第５回：イスラーム①
第６回：イスラーム②
第７回：イスラーム③
第８回：仏教①
第　９回：仏教②
第１０回：仏教③
第１１回：現代社会の課題と宗教①
第１２回：現代社会の課題と宗教②
第１３回：現代社会の課題と宗教③
第１４回：再び宗教とは何かを考える
第１５回：まとめ（質疑応答）
第１６回：予備日

●成績評価の方法 (Grading scheme)

出席（30%）、期末試験（30%）、期末レポート（40%）で評価する。

評価 （ 筆記試験, (レポート), その他 ）　　再評価 （ (有)・無 ）

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

教科書：成美堂出版編集部［編］『一冊でわかるイラストでわかる図解宗教史』（成美堂出版、2008年）

参考書：

１）宗教学全般

脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫、1997年）

橋爪大三郎『世界がわかる宗教社会学入門』（ちくま文庫、2006年）

２）キリスト教

荒井献『イエスとその時代』（岩波新書、1974年）、荒井献 『イエス・キリスト＜上＞三福音書による』（講談社学術文庫、2001年）、荒井献 『イエス・キリスト＜下＞その言葉と業』（講談社学術文庫、2001年）

土井健司『キリスト教を問いなおす』（ちくま新書、2003年）

３）イスラーム

井筒俊彦『マホメット』（講談社学術文庫、1989年）、中村廣治郎『イスラム教入門』（岩波新書、1998年）

片倉もとこ『イスラームの日常世界』（岩波新書、1991年）

４）仏教

早島鏡正『ゴータマ・ブッダ』（講談社学術文庫、1990年）山折哲雄『仏教とは何か ブッダ誕生から現代宗教まで』（中公新書、1993年）、釈徹宗『いきなりはじめる仏教生活』（新潮文庫、2011年）、手塚治虫『ブッダ』全12巻（潮ビジュアル文庫、2002年） ※上記の他は講義内で適宜紹介する。

科　目　名 （英　訳）	**宗教学Ⅱ** Religious Studies Ⅱ	開講学期 曜日・時限	後期 金曜日２時限
対象学年	１年生	単位数	２単位
受講資格		募集人数	
担当教員	宮田　義矢		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

授業では世界の大宗教、宗教学の様々なアプローチ、宗教の関わる事件などを取り上げます。講義形式で行いますが、授業内容と関わる問題について毎回、リアクションペーパーを提出してもらいます。

●授業の目的　(Primary goal)

信じない人は信じる人の気持ちが、信じる人は信じない人や別の宗教を信じる人の気持がわからないといいます。しかし、現在もなお、様々な宗教が多くの人々や社会と関わりあっていることを知れば、「わからない」で済ませてしまい見ようとしていなかった、のっぴきならない人間・他者の姿が見えてきます。

この授業ではそのための「目」を養うことも目的とします。ですから、宗教について「もう少し知ろう」とする姿勢で授業に臨んでください。

●到達目標　(Objectives)

宗教学的な考え方に基づき、宗教に関わる問題を分析的に記述できること。

●授業計画　(Schedule)

第一回のみ内容は決まっています。「はじめに（ガイダンス、宗教学の立場）」です。

以降のトピックは、みなさんの興味にあわせて取り上げる内容と順番を変更する場合があります。

① 宗教学の様々なアプローチ
- 「カルト」とオウム真理教
- 宗教心理学（E．K．ロスなど）

② 世界や日本の諸宗教と現代
- 聖典と現代アメリカのキリスト教
- 偶像、イスラーム教風刺画事件、政教分離

③ 身近なあるいは周知の事柄を事例に
- メディアと宗教、宗教の関わる事件、医療と宗教

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（有・無）

期末試験の得点に、リアクションペーパーの得点を加え評価します。詳細は第一回目の講義で説明しますので、受講を考えている方は、必ず出席してください。

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

教科書は特に定めず、授業毎にレジュメを配布します。

参考書は、

- 島薗進[ほか]編『宗教学キーワード』有斐閣、2006年
- 中村圭志『信じない人のための〈宗教〉講義』みすず書房、2007年
- 藤田庄市『宗教事件の内側』岩波書店、2008年
- 井上順孝『映画で学ぶ現代宗教』弘文堂、2009年
- 岡田典夫[ほか]著『はじめて学ぶ宗教:自分で考えたい人のため』有斐閣、2011年

科　目　名 （英　訳）	芸術 I ART　I	開講学期 曜日・時限	前期 金曜日２時限
対象学年		単位数	２単位
受講資格	医学科、歯学科	募集人数	２０名
担当教員	青木　宏希･東京芸術大学各分野の教員		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

この科目は、彫刻、絵画、工芸、デザイン、映像メディアなどの芸術における様々な分野の表現について講義と実習を通して学ぶ。

●授業の目的　(Primary goal)

芸術の視点から、人間、社会、歴史、分野、表現等について幅広く捉え、特に人間と美術の関わりについて探求する。

●到達目標　(Objectives)

人間活動としての芸術とその歴史、表現について理解する。人間と美術の関わりについて理解する。特定分野の表現を実習で実現できる。

●授業計画　(Schedule)

第1回　芸術Ｉガイダンス（青木　宏希）及び彫刻論　　原口　健一（4/19）
第2回　彫刻論　　青木　宏希　（4/26）
第3,4回　絵画論　　斎藤　典彦（5/10、5/17）
第5,6回　映像メディア論　木津　文哉　（5/24, 5/31）
第7,8回　工芸論　　豊福　誠　（6/7, 6/14）
第9～13回　実習　　青木　宏希　（6/21, 28, 7/5, 12, 19）
第14回　東京芸術大学学内見学
（通常授業時間外、夏季休業中等を検討中）（実施日は実習日の初日にアナウンスする。）

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（ 有・無 ）

レポート、出席点、実習作品等で総合的に評価する。

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

教科書は特に指定しない。参考書等は適宜指定する。また、実習に必要な描画材料等については講義の中で指示する。

東京芸術大学の各施設等の見学では、講義を行った教員の制作の現場を訪れ、講義と実際の制作を結び付ける機会とし、あわせて東京芸術大学大学美術館及び石工室等も見学する。実施日については、検討中である。見学は夏季休業中に行われる予定である。詳細な日時については実習授業時間内に指示する。

科　目　名 （英　訳）	**芸術Ⅱ** ART　Ⅱ	開講学期 曜日・時限	後期 金曜日２時限
対象学年	１年生	単位数	２単位
受講資格		募集人数	
担当教員	室田　尚子		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

〈社会における芸術音楽と大衆音楽〉

歴史的にみて、「芸術音楽」と「大衆音楽」というジャンルが互いに影響し合う中で生まれた音楽は少なくない。本講義では、社会状況との密接な関連の中から生まれた、これらジャンルのはざまに位置する音楽を紹介しながら、社会の中の音楽のあり方について考えていく。

●授業の目的　(Primary goal)

「芸術音楽」と「大衆音楽」というジャンルや、そのはざまに位置する音楽のすがたを知ることで、社会における音楽のあり方を考える。

●到達目標　(Objectives)

①音楽を社会における文化活動のひとつとしてとらえ、その多様なあり方を知ること。
②音楽における「ジャンル」について問題意識を持つこと。
③ひろく、「音楽とは何か」について考え、それを言語化すること。

●授業計画　(Schedule)

１．概論～「芸術音楽」と「大衆音楽」
２．西洋音楽の崩壊と再生～ワーグナーとその後
３．ジャズとシャンソンの影響圏
４．芸術キャバレーとその音楽
５．オペラの解体～クルト・ヴァイルの『三文オペラ』
６．現代社会におけるジャンルの問題
７．商業音楽としてのクラシック
８．社会が音楽をうみだす～映画『カストラート』をめぐって
９．映画の音楽
１０．ジェンダーと音楽～オペラ『蝶々夫人』をめぐる諸問題
１１．ネットと音楽～ヴォーカロイドの可能性
１２．特撮と音楽～仮面ライダーというジャンル
１３．ヴィジュアル系の地平
１４．ビッグ・イン・ジャパン
１５．学期末試験

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）　再評価（ 有・無 ）

出席状況　30%　＋　学期末試験　70%　を基準とし総合的に評価する。

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

教科書：特に指定しない。

参考書：小沼純一監修『あたらしい教科書８　音楽』（プチグラパブリッシング、2006年）、井上貴子／森川卓夫／室田尚子／小泉恭子『ヴィジュアル系の時代　ロック・化粧・ジェンダー』（青弓社、2003年）、井上貴子編著『日本でロックが熱かったころ』（青弓社、2009年）、東谷護編著『ポピュラー音楽へのまなざし』（勁草書房、2003年）、など。

科 目 名 （英 訳）	歴史学BⅠ（東洋史） History B Ⅰ(Asian History)	開講学期 曜日・時限	前期 月曜日１時限
対象学年	１年生	単位数	２単位
受講資格		募集人数	
担当教員	五味 知子		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

〈中国近世社会史〉

17～19世紀の中国社会の特徴を知り、現代日本とは異なる時代・地域のありようについて考察することを通し、異なる社会や文化を理解する素地を養うことを目指します。

17～19世紀の中国は王朝でいうと明代後期から清代に当たります。皇帝が頂点に立ち、科挙に合格した官僚が統治に当たる体制の下、経済的に繁栄し、人口も増加しました。また、文化的にも成熟を見ました。近代以降、中国の政治体制は変化しましたが、現代中国の道徳観・死生観・家族観などには、王朝期の中国社会から引き継がれている部分も見られます。そのため、近世中国社会の特徴を知ることは現代中国を理解する助けともなります。

具体的には18世紀後半から19世紀初期の地方官の記録を手がかりに、当時の社会の特徴について講義形式で解説します。地方官から見て、当時の社会にはどのような問題があり、地方官はそれをどう解決しようとしたのでしょうか。一人の地方官の記録から次第に広げていくようなミクロヒストリー的視点を持って、歴史を見直していきましょう。

●授業の目的 (Primary goal)

①中国史についての理解を深める。
②近世の中国社会の特徴を知る。
③異なる時代や地域の社会・文化についての思考力・理解力を身につける。

●到達目標 (Objectives)

①近世の中国社会の特徴について理解し、それに基づいて現代中国の現象についても歴史的背景を踏まえた考察ができるようにする。
②自分で文献を調べ、歴史的知識を踏まえたレポートを書けるようにする。

●授業計画 (Schedule)

１、オリエンテーション　２、大学で学ぶ歴史学　３～４、地方官・下役人　５～６、裁判・法律　７～８、地方の特色　９～10、家族　11、善会・善堂　12、死生観　13、経済　14～15、まとめ

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（ 有・無 ）

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

教科書はとくに使用せず、プリントを配布します。

参考書は随時授業中に紹介しますが、たとえば、E.H.カー（清水幾太郎訳）『歴史とは何か』岩波新書、1962年、宋慈（徳田隆訳）『中国人の「死体観察学」―「洗冤集録」の世界』雄山閣出版、1999年、滋賀秀三『中国家族法の原理』創文社、1967年、J・スペンス（山本英史訳）『ある農婦の死――十七世紀、中国の現実と夢幻』平凡社、1990年、夫馬進『中国善会善堂史研究』同朋舎出版、1997年などがあります。

科　目　名 （英　訳）	歴史学ＢⅡ（西洋史） History　Ⅱ	開講学期 曜日・時限	後期 月曜日２時限
対象学年	１年生	単位数	２単位
受講資格		募集人数	
担当教員	小森　宏美		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

歴史、ヨーロッパ、西洋史について考えるための基礎を学ぶ。このいずれもが不変ではなく、自他のかかわりの中で時代の移り変わりとともに変化している。それらの現在的意味を理解すると同時に、現在の社会のあり方を相対化する視点を得る（講義形式）。

●授業の目的　(Primary goal)

「現在の生の関心のみこそが人を動かして過去の事実を知ろうとさせることができる」（クローチェ）という言明の含意を、具体的歴史事象とその歴史叙述との関係から理解することを目的とする。西洋史の基礎知識は事前にはとくに必要としないが、歴史学の考え方に関心を持っていることを期待する。

●到達目標　(Objectives)

・次の（1）～（3）についての理解
（1）歴史学の守備範囲と方法論、（2）歴史叙述の可能性と限界、（3）「歴史」の社会的位置の変遷
・現時点における過去のとらえかたと、そうしたとらえかたがされる背景について知る。

●授業計画　(Schedule)

[第1回]イントロダクション
[第2回]歴史学の方法論・歴史観の変遷
[第3回]古代（ギリシアとローマ）
[第4回]中世（時代区分、フランク王国）
[第5回]中世（教皇と皇帝、十字軍）
[第6回]近世（宗教と国家）
[第7回]近代（神聖ローマ帝国）
[第8回]近代（フランス革命とドイツ、ネイション）
[第9回]近代（ロシア、ハプスブルクの民族問題）
[第10回]第一次世界大戦（国際連盟と少数民族問題）
[第11回]両大戦間期（民主主義の難問）
[第12回]第二次世界大戦
[第13回]冷戦期
[第14回]「ヨーロッパ」の再統合と拡大
[第15回]確認とまとめ

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験，レポート，その他　）

再評価（有・無）

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

教科書はなし。レジュメを配布します。

【参考書】上村忠男『知の棘：歴史が書きかえられる時』（岩波書店）
小森宏美『エストニアの政治と歴史認識』（三元社）
塩川伸明『民族とネイション：ナショナリズムという難問』（岩波新書）
野田宣雄『歴史をいかに学ぶか：ブルクハルトを現代に読む』（PHP新書）

科　目　名 （英　訳）	民俗学Ⅱ Folklore　Ⅱ	開講学期 曜日・時限	後期 月曜日２時限 金曜日２時限
対象学年	１年生	単位数	２単位
受講資格		募集人数	
担当教員	板橋　作美		

月曜と金曜の授業はまったく同じです。どちらか一つだけ選んでください。

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

日本の俗信、迷信について講義します。

それらはふつう、非合理的・非科学的なもの、馬鹿馬鹿しいどころか有害なものとすらされています。しかし、それらの信仰・信念をもっているのはわれわれ人間です。それらも人間の営みのひとつです（犬や猫に迷信はあるでしょうか）。逆に言えば、それらを通して、人間というもの、あるいは文化というものを考えることができます。この授業では、そういう考え方で日本の迷信をとりあげるのであり、迷信をとおして、日本文化、日本人のものの考え方をさぐります。

●授業の目的　(Primary goal)

物事に対して、なにも考えずにそのまま受け入れたり、きちんと考えることなく否定するのではなく、それらが存在したり発生するにはかならずなんらかの原因、理由、わけがあるはずだという前提に立ち、そのわけを探求することを学ぶのが本講義の目的です。そのための材料として、迷信は適したものの一つだと言えます。迷信は、なにも考えることなく鵜呑みされるか、はじめから拒否され、まともな考察の対象とされることがほとんどないからです。

●到達目標　(Objectives)

とくに二つの方法論を学びます。一つは、対象の物事を社会的背景のなかでとらえる方法です。人間は社会的存在ですから、人間に関わる社会現象、文化現象は、かならず社会的刻印を負っているという考え方です。もう一つは、人間の精神活動のありさまから説明しようとする方法です。われわれは、一面では、自然科学的法則、論理学的論理とは別の、文化的法則、文化的論理（日常的な論理）に従って認識し、思考し、そして行動しているからです。これらのことを理解することを目標にしています。

●授業計画　(Schedule)

憑きもの信仰（キツネ憑きとか犬神憑きのこと）
- 実態、世界の精霊憑依信仰との関係、その発生の理由とメカニズム
- シャマニズム（神などが人に乗り移るとされる信仰、とくに奄美・沖縄のユタ）
- シャマンが病気の治療者であること
- シャマンは、しばしば自らの病気（とくに精神的病気）を治すためにシャマンになること
- シャマンが、しばしば女装したり男装すること

怪異
- 不思議なことが起きる時間、不思議なことが起きる空間、人間をめぐる不思議
- 迷信（予兆、占い、まじない、禁忌）

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（有・無）

試験および出席状況をもとに、総合的に評価します。

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

教科書、参考図書はとくにありません（授業内容をまとめて扱っているような書籍はありません。）

科 目 名 （英 訳）	科学史Ⅰ History of Science Ⅰ	開講学期 曜日時限	前期 金曜日１時限
対象学年	１年生	単 位 数	２単位
受講資格		募集人員	
担当教員	矢島 道子		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

この授業では古代から現代に至る科学の歴史を、古生物学や地質学の歴史を通して概観してゆく。
講義形式をとる。

●授業の目的 (Primary goal)

古代から現代に至る科学の歴史をたどってゆくと、１６、１７世紀からだんだんと近代化され、現代化されていくのを理解する。さらに、それぞれの時代で科学が社会の中でどんな位置にあったかも理解する。

また、女性が科学の中でどんな位置にあったかということも考えていきたい。

こうした試みをつうじて、科学の時間軸(歴史性)と空間軸（社会性）を形成し、科学の「いま」への理解を深めていく。

●到達目標 (Objectives)

１．恐竜という生物の存在がどのように確立していったかを理解する。
２．自然史から地質学や古生物学がどのように誕生していったかを理解する。
３．科学の歴史を記述するための時間軸、空間軸を形成する。
４．19 世紀の地質学をになった研究者、化石発掘人が社会ではどのような位置にあったかを理解する。
５．女性は地質学・古生物学にどのようにかかわったかを理解する。

●授業計画 (Schedule)

第1回オリエンテーション（本講義の目的と進め方について）
第2回『アインシュタインの妻』とかけて恐竜の復元ととく
第3回　恐竜の復元から学ぶこと
第4回　自然史の歴史
第5回　ガリレオから始まる近代科学
第6回　ガリレオの現代的解釈
第7回　ダーウィンは何をしたか
第8回　ダーウィンは地質学者
第9回　19 世紀に女性地質学者はいたか
第10回　生物の進化はどう解釈されているか
第11回　日本の進化論受容の歴史
第12回　ノーベル賞とマリー・キュリー
第13回　DNA 研究とロザリンド・フランクリン
第14回　現代科学と科学の捏造
第15回「まとめ」「学力考査とその解説」「理解度の確認および質問」

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価　（筆記試験, レポート, その他）

原則として、期末の試験、レポート、出席等の平常点をもとに総合的に評価する。再評価（有・無）

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

教科書　特定のテキストはない。以下の３冊は担当教員が執筆しているので、授業内容をよく補完する。
吉川惣司・矢島道子『メアリー・アニングの冒険ー恐竜学をひらいた女化石屋』2003年　朝日選書
矢島道子・和田純夫編『はじめての地学史・天文学史』2004 年　ベレ出版
矢島道子『化石の記憶ー古生物学の歴史をさかのぼる』2008 年　東京大学出版会

科 目 名 （英 訳）	科学史Ⅱ History of Science Ⅱ	開講学期 曜日時限	後期 金曜日１時限
対象学年	１年生	単 位 数	２単位
受講資格		募集人員	
担当教員	矢島 道子		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

この授業では、地球の歴史や生命の歴史をどうやって編纂してきたかをさぐることによって、近代科学の営みを概観してゆく。講義形式をとる。

●授業の目的 (Primary goal)

地球史や生命史がどのようにして確立してきたかをたどってゆくと、民間等の伝承から、鉱物・岩石・化石・地層などの実際のものをどのように解釈するかという方向でだんだんと近代化され、現代化されてきたことがわかる。それでは、近代性を導いたのは一体なにであるかという問題が生じてくる。実際の化石に触れながら、科学の時間軸(歴史性)と空間軸（社会性）を認識し、科学の「いま」への理解を深めていく。

●到達目標 (Objectives)

１．地球や生物についての思考がどのように確立してきたかを理解する。
２．自然史から地質学、古生物学がどのように誕生してきたかを理解する。
３．科学の歴史を記述するための時間軸、空間軸を認識する。
４．絶滅した生物を復元することは大変難しいことを理解し、復元科学の特質を理解する。
５．進化論が社会の中でどのように受け入れられてきたかを理解する。

●授業計画 (Schedule)

第１回オリエンテーション（本講義の目的と進め方について）
第２回　地球のはじまりに関する言説について
第３回　海洋の起原に関する言説について
第４回　生命の起原に関する言説について
第５回　大気の起原に関する言説について
第６回　地球の歴史の区分のしかた
第７回　三葉虫と燕石に関する言説について
第８回　石炭と大陸の分裂に関する言説について
第９回　大山脈の形成に関する言説について
第10回　アンモナイトと恐竜に関する言説について
第11回　恐竜の絶滅に関する言説について
第12回　哺乳動物の時代に関する言説について
第13回　進化論の導入
第14回　総合説と創造説
第15回「まとめ」「学力考査とその解説」「理解度の確認および質問」

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価　（　筆記試験，レポート，その他　）

原則として、期末の試験、レポート、出席等の平常点をもとに総合的に評価する。再評価（ 有・無 ）

● 教科書及び参考書(Textbooks and materials)

教科書　特定のテキストはない。以下の３冊は担当教員が執筆しているので、授業内容をよく補完する。
矢島道子『地球からの手紙』1993年　国際書院
矢島道子・和田純夫編『はじめての地学史・天文学史』2004年　ベレ出版
矢島道子『化石の記憶―古生物学の歴史をさかのぼる』2008年　東京大学出版会

科　目　名 （英　訳）	文学ＡⅠ Literature　A I	開講学期 曜日・時限	前期 月曜日１時限
対象学年	１年生	単位数	２単位
受講資格		募集人数	
担当教員	土佐　朋子		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

〈　神話と伝説　〉

文学ってどのようにして始まったのだろう？そもそも人類はなぜ文学を必要としたのだろう？

本授業では、このような問いを前提として、講義形式で日本の神話と伝説について考察する。

日本という国家が成立した7～8世紀、文学は、まず、神を語ることから始められ、次いで権力者、日本でいえば天皇を語った。そして、市井一般のプライベートを語るようになっていった。このような文学の発生と変遷は、『古事記』『万葉集』『風土記』に記された「神話」や「伝説」に見ることができる。

本授業では、これらの文学作品を実際に読み味わうことを通して、「神話」化および「伝説」化という文学的営為を理解し、日本の神話の特質や伝説の構造などを考察する。

文学は常に時代や歴史によって産み出されるものであり、だからこそ普遍性を持ち得る。日本文学の始原における「語り」の世界について、理解を深めていきたい。

講義形式である。

●授業の目的　(Primary goal)

日本の「神話」と「伝説」を読むことにより、日本文学の発生と変遷およびその特質について理解を深める。

●到達目標　(Objectives)

①日本文化に対する理解を深め、自ら主体的に考えを深めることができるようになること。
②日本の「神話」「伝説」に関する基本的な知識を身につけ、自分なりの解釈を持つこと。
③日本の古典文学に対する理解を深め、相対的に現代における日本の文化や文学に対する理解も深めること。

●授業計画　(Schedule)

１．オリエンテーション・日本文学の始原
２．黄泉の国神話と三貴子の誕生
３．天岩屋戸神話
４～５．スサノヲ神話―英雄の誕生―
６～７．大国主神の物語
８．天孫降臨とニニギノミコト
９～10．海幸と山幸の物語
11～12．ヤマトタケルの物語―伝説化される英雄―
13～14．軽太子と軽大郎女の物語―悲恋の歌物語―
15．まとめとレポート

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験，レポート，その他　）

再評価（ 有・ 無 ）

授業への参加状況（出席状況・小レポートの平常点）50%　+　レポート　50%

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

教科書：特になし。プリントを使用する。

参考書：本居宣長『古事記伝』（岩波文庫）、西郷信綱『古事記の世界』（岩波新書）、『新編日本文学全集　古事記』（小学館）、『古典文学大系　古事記』（岩波書店）、『日本古典集成　古事記』（新潮社）、『新編日本古典文学全集　日本書紀』（小学館）、『新編日本古典文学全集　風土記』（小学館）など。

科　目　名 （英　訳）	文学ＡⅡ Literature　AⅡ	開講学期 曜日・時限	後期 月曜日１時限
対象学年	１年生	単位数	２単位
受講資格		募集人数	
担当教員	土佐　朋子		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

〈　「ことば」の虚構性　〉

日本の文学はどのようにして始まったのだろうか。

『万葉集』は、その最初期に編纂された、日本のほとんど初めての文学作品の一つである。この８世紀という時代は、日本文化にとって一大ルネッサンス期であり、言語観、死生観などあらゆる認識が大きな転換を遂げることとなった。そのような時代を背景として、「文学」も大きく変容しながら豊かな表現性を獲得してゆく。常に最先端の斬新な表現を開拓しようとしていた「古代」の文学は、極めて都会的で革新的なものだと言えよう。

その「語り」の可能性を追求した「文学」の挑戦について、作品にもとづいて具体的に考察する。

講義形式である。

●授業の目的　(Primary goal)

日本文学がどのように始まったのか、その始原と変容とを理解し、「ことばと人間」の関係性について主体的に思考する力を身につける。

●到達目標　(Objectives)

①日本の文化・文学の特質を理解する。

②『万葉集』を中心とした日本の古典文学に対する理解を深める。

③言葉によって語るということの意味を、主体的に考えられるようになる。

●授業計画　(Schedule)

１．オリエンテーション・「ことば」の虚構性

２～３．呪術から抒情へ

４～６．英雄の系譜―文学創造の原動力とは―

７～９．柿本人麻呂による「語り」の革新

10～13．高橋虫麻呂による「ものがたり」

14．まとめ

15．レポート

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価（筆記試験，レポート，その他　）　再評価（有・無）

出欠状況・小レポート（その日の授業のまとめ）　５０%

学期末レポート　５０%

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

教科書：なし。プリントを使用。

参考書：山本健吉・池田弥三郎『万葉百歌』（中公新書1963）、斎藤茂吉『万葉秀歌　上・下』（岩波新書1938）、中西進『万葉の秀歌　上・下』（講談社現代新書1984）、土橋寛『万葉開眼　上・下』（日本放送出版協会1978）、谷馨『額田姫王』（紀伊国屋書店1967）、三浦佑之『浦島太郎の文学史　恋愛小説の発生』（五柳書院1989）、渡辺護『万葉挽歌の世界　未完の魂』（世界思想社1993）、松尾光編『万葉集１０１の謎』（新人物往来社2000）、桜井満監修『万葉集を知る事典』（東京堂出版2000）など。なお、『新編日本古典文学全集　万葉集１～４』（小学館）、『日本古典文学集成　万葉集』（新潮社）は訳が見やすいが、授業の説明と同じとは限らないので注意すること。

科　目　名 （英　訳）	文学ＢⅠ Literature　ＢⅠ	開講学期 曜日・時限	前期 金曜日１時限
対象学年	１年生	単位数	２単位
受講資格		募集人数	
担当教員	土佐　朋子		

● 授業の概要 (Outline of content and teaching method)

〈 「死」から「詩」への昇華―「亡妻文学」の系譜①― 〉

本授業では「亡妻文学」の系譜を意識しながら、文学において人の死がどのように描かれているかを考察する。「亡妻文学」は、８世紀『万葉集』から21世紀村上春樹『ノルウェーの森』にいたるまで脈々と続く文学の伝統の一つにあげることができる。

本授業では、近代に入って「亡妻文学」をある意味復活させたといってもよい、高村光太郎『智恵子抄』を主に取り上げる。夫であり詩人もある光太郎が、最愛の妻の死をどのように詩に昇華させていったのか、また、智恵子が統合失調症になったのはなぜかなどについて、「言葉」を「読む」ことを通して考察する。

講義を中心として進め、受講生に意見を求めることがある。

●授業の目的 (Primary goal)

人の死がどのように言語化されるのかということに対する理解を深める。

●到達目標 (Objectives)

①文学作品を精読する力を身につけること。

②作品世界を適切に理解して、そこから自分なりの問題意識を持てるようになること。

●授業計画 (Schedule)

１．　オリエンテーション―本授業の目的―
２～３．亡妻文学の系譜とは。
４～５．明治期文学における古代文学の「復活」
６～７．高村光太郎と高村智恵子―明治という時代―
８～９．『智恵子抄』とは。
10～11．『智恵子抄』第１期作品―新しい「恋愛」を求めて―
12～13．『智恵子抄』第２期作品―神仙のヲトメとしての智恵子造形―
14～15．『智恵子抄』第３期作品―智恵子の死―

●成績評価の方法 (Grading scheme) 評価　（筆記試験,　レポート,　その他　）　再評価（ 有・無 ）

出欠状況＋小レポート（授業のまとめ）＋参加度→５０%
学期末レポート　→５０%

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

教科書：中村稔編・高村光太郎『校本　智恵子抄』（角川文庫、1999年）。

参考書：伊藤信吉『鑑賞智恵子抄』（角川書店、1965年）、上杉省和『智恵子抄の光と影』（大修館、1999年）大島龍彦・大島裕子編著『『智恵子抄』の世界』（新典社、2004年）、大島龍彦『智恵子抄の新見と実証』（新典社、2008年）、『新潮日本文学アルバム　高村光太郎』（新潮社、1984年）、北川太一『高村光太郎シリーズ　智恵子相聞―生涯と紙絵―』（蒼史社、2004年）、北川太一他『光太郎と智恵子』（新潮社とんぼの本、1995年）、駒尺喜美『高村光太郎のフェミニズム』（朝日新聞社朝日文庫、1992年）、伊藤信吉他『紙絵と詩　智恵子抄』（社会思想社現代教養文庫、1965年）、伊藤信吉編『光太郎のうた』（社会思想社現代教養文庫、1962年）、関良一『近代文学注釈大系　近代詩』（有精堂、1963年）、伊藤信吉編『近代文学鑑賞講座16　高村光太郎・宮沢賢治』（角川書店、1959年）など。

科　目　名 （英　訳）	文学ＢⅡ Literature　BⅡ	開講学期 曜日・時限	後期 金曜日１時限
対象学年	１年生	単位数	２単位
受講資格		募集人数	
担当教員	土佐　朋子		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

〈　近・現代文学における死や病の表象　〉

本授業は、近代以降の文学作品を読むことを通して、西洋諸国から近代的学問・技術・思想が流入してきた明治期以降の文学における人の死や病がどのように描かれてきたのかを考察する。

いくつかのテーマを設定し、作品を通して考察します。今年度のテーマは、亡妻文学、病が創り上げる時空、自らの「痛み」と「死」、医療者の造形を考えています。

講義を中心として進める。

●授業の目的　(Primary goal)

近代以降の文学作品を、「医学と文学」「文学における生と死」「文学に表現された病」といった観点から、主体的に読み解く力を身につけ、人間はなにゆえ語るのかという問題について充分に考えること。

●到達目標　(Objectives)

①日本文学・文化に対する理解を深めること。

②文学作品を精読する力を身につけること。

③作品世界を適切に理解して、そこから自分なりの問題意識を持てるようになること。

●授業計画　(Schedule)

１．オリエンテーション―授業の目的と方法―

２～５．亡妻文学の系譜②（※①は前期文学ＢⅠの内容のため、それを受講していることが望ましいが、繰り返しながら進めるので、必ずしも受講している必要はない。）

『智恵子抄』から堀辰雄『風立ちぬ』、そして村上春樹『ノルウェーの森』へ

６～９．病が創り上げる時空

堀辰雄『風立ちぬ』、横光利一『花園の思想』の場合

北条民雄『いのちの初夜』の場合

10～12．自らの「痛み」と「死」

田山花袋『一兵卒』の場合

梶井基次郎『のんきな患者』の場合

13～14．医療者の造形

森鷗外が描いた医療者像―『カズイスチカ』を中心に―

遠藤周作『海と毒薬』から見る「医療」の姿

15．レポートおよびまとめ

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（筆記試験，レポート，その他　）　再評価（有・無　）

出欠＋小レポート（授業のまとめ）＋参加度→５０％　　学期末レポート→５０％

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

教科書：なし。プリントを配布する。

参考書：スーザン・ソンタグ著・富山太佳夫訳『隠喩としての病い　エイズとその隠喩』（みすず書房1992）、丸山俊彦『痛みの心理学』（中公新書1989）、小此木啓吾『対象喪失』（中公新書1979）、大森荘蔵『時間と自我』（青土社1992）、福田眞人『結核という文化　病の比較文化史』（中公新書2001）、同『結核の文化史―近代日本における病のイメージ』（名古屋大学出版社1995）、秦郁彦『病気の日本近代史』（文藝春秋2011）、荒井裕樹『隔離の文学』（書肆アルス2011）藤野豊『「いのち」の近代史』（かもがわ出版2001）、藤野豊『ハンセン病　反省なき国家』（かもがわ出版2008）等

科　目　名 （英　訳）	法学Ⅰ Law I	開講学期 曜日・時限	前期 金曜日２時限
対象学年	１年生	単位数	２単位
受講資格		募集人数	
担当教員	飛田　綾子		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

公権力と個人との関係を主たるテーマとして、日本国憲法の人権分野を中心に論じる。原則として講義形式で行うが、毎回の出席が求められる。なお、医療に関連した事項は、「医歯学生のための法律概論」で取り扱う点をご了承願いたい。また、後期に開講される「法学Ⅱ」も併せて履修することが望ましい。

●授業の目的 (Primary goal)

断片的な知識や訴訟回避を目的とした技術的事項にとどまらない、日本国憲法を中心とした基礎的な事項に関する本質的な理解の習得を目的とする。専攻とは異なる学問領域であっても、将来の医療界の第一線の担い手として、幅広い学問的素養を身につける姿勢でのぞむべきである。

●到達目標 (Objectives)

（1）日本国憲法の人権分野に関する基本的な概念・理念を理解できる。
（2）現代社会に生じている憲法上の論点について、自ら主体的かつ批判的に考察することができる。
（3）それに対する自らの関わり方を考えることができる。

●授業計画 (Schedule)

第１回 ：学問の自由、大学の自治の意義
第２回 ：立憲主義とは何か
第３回 ：包括的基本権
第４回 ：法の下の平等
第５回 ：思想良心の自由、信教の自由
第６回 ：表現の自由
第７回 ：経済的自由
第８回 ：人身の自由
第９回 ：生存権
第 10 回：教育を受ける権利
第 11 回：労働基本権
第 12 回：参政権
第 13 回：その他の人権規定
第 14 回：成年後見制度の概要
第 15 回：前半のまとめ

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）　再評価（有・無）

学期末試験 70%（1．講義で扱った領域に関して憲法学が論じている基本的な事柄を説明できること、2．講義で説明した判例や学説の問題点や対立点を説明できることを評価対象とする）、小レポート 30%（授業中に複数回行う）による。

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

教科書：指定せず、毎回配布するレジュメによるが、最新版の基本的な六法が手元にあると好ましい。
参考書：芦部信喜『憲法（第5版）』（岩波書店・2011年）3,255円
渋谷秀樹・赤坂正浩『憲法１人権（第４版）』（有斐閣アルマ・2010 年）2,100 円
辻村みよ子『憲法（第4版）』（日本評論社・2012年）3,990円

科　目　名 （英　訳）	法学Ⅱ LawⅡ	開講学期 曜日・時限	後期 金曜日２時限
対象学年	１年生	単位数	２単位
受講資格		募集人数	
担当教員	飛田　綾子		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

公権力と個人との関係を主たるテーマとして、日本国憲法の統治機構分野について論じる。原則として講義形式で行うが、毎回の出席が求められる。なお、「法学Ⅱ」のみの受講も歓迎するが、前期の「法学Ⅰ」を履修しているとより理解が深まる。

●授業の目的　(Primary goal)

断片的な知識や訴訟回避を目的とした技術的事項にとどまらない、日本国憲法の基礎的な事項に関する本質的な理解の習得を目的とする。専攻とは異なる学問領域であっても、将来の医療界の第一線の担い手として、幅広い学問的素養を身につける姿勢でのぞむべきである。

●到達目標　(Objectives)

（1）日本国憲法の統治機構分野に関する基本的な概念・理念を理解できる。
（2）現代社会に生じている憲法上の論点について、自ら主体的かつ批判的に考察することができる。
（3）それに対する自らの関わり方を考えることができる。

●授業計画　(Schedule)

第１回　：権力分立の意義
第２回　：国民主権と国民代表制
第３回　：国会１－国会の地位と組織
第４回　：国会２－国会・議院・国会議員の権能
第５回　：内閣１－議院内閣制
第６回　：内閣２－内閣の組織と権能
第７回　：裁判所１－司法権独立の意義
第８回　：裁判所２－司法権の範囲と限界
第９回　：財政
第 10 回：地方自治
第 11 回：天皇制をめぐる諸問題
第 12 回：平和主義
第 13 回：憲法改正条項と改正の限界
第 14 回：日本国憲法制定過程と憲法改正をめぐる動向
第 15 回：全体のまとめ

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）　再評価（有・無）

学期末試験 70%（1．講義で扱った領域に関して憲法学が論じている基本的な事柄を説明できること、2．講義で説明した判例や学説の問題点や対立点を説明できることを評価対象とする）、小レポート 30%（授業中に複数回行う）による。

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

教科書：指定せず、毎回配布するレジュメによるが、最新版の基本的な六法が手元にあると好ましい。
参考書：芦部信喜『憲法（第5版）』（岩波書店・2011年）3,255円
渋谷秀樹・赤坂正浩『憲法２統治（第４版）』（有斐閣アルマ・2010 年）2,205 円
辻村みよ子『憲法（第4版）』（日本評論社・2012年）3,990円

科　目　名 （英　訳）	政治学Ⅰ Politics　I	開講学期 曜日・時限	前期 月曜日２時限
対象学年	１年生	単位数	２単位
受講資格		募集人数	
担当教員	面　一也		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

政治の混迷が叫ばれて久しい。この閉塞から抜け出すには、新党結成や政界再編といった表層の現象だけでなく、より深層の根源的危機に関する省察が、不可欠であると思われる。本授業では、今日の政治状況を、その成立の理論的背景に遡りつつ解明しながら、そこに見出される諸問題に対してどのように応答できるかを、批判的に考察する。授業は講義形式で行なう。

●授業の目的　(Primary goal)

現代政治に関する理論的知見を系譜立てて習得しながら、今日なお克服されるべき政治的諸問題について、批判的に考察する能力を養う。

●到達目標　(Objectives)

１　現代政治に関する理論的知見を系譜的に習得すること。
２　今日の政治的諸課題について理解すること。
３　上記の課題に対する応答可能性について、批判的に考察できること。

●授業計画　(Schedule)

第１回　　授業全体のイントロダクション
第２～６回　　トマス・ホッブズ
- 第２回：近代政治学の幕開け
- 第３回：ブルジョア的人間の誕生
- 第４回：自然状態（戦争）から社会状態（平和）へ
- 第５回：絶対国家リヴァイアサン　　第６回：ホッブズ以降の政治

第７～１０回　　フリードリヒ・ニーチェ
- 第７回：キリスト教と奴隷道徳への批判
- 第８回：近代デモクラシーとブルジョア的末人
- 第９回：大いなる政治と健康な社会
- 第１０回：ソクラテスの問題（僭主と政治）

第１１～１４回　　アレクサンドル・コジェーヴ
- 第１１回：ブルジョア的人間の欲望
- 第１２回：承認をめぐる闘争
- 第１３回：主人と奴隷の弁証法
- 第１４回：歴史の終わり（＝現代）と末人社会

第１５回　　学期末試験の予定

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験，レポート，　その他　）

再評価（　有　・　無　）

学期末に実施する論述式の筆記試験によって評価する。

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

教科書に代えて、授業時に引用資料を配布する。
参考書：藤原保信・飯島昇藏編著『西洋政治思想史』新評論(1995)
　　その他、授業時に適宜指示する。

科　目　名 （英　訳）	政治学Ⅱ Politics Ⅱ	開講学期 曜日・時限	後期 月曜日２時限
対象学年	１年生	単位数	２単位
受講資格		募集人数	
担当教員	面　一也		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

政治の混迷が叫ばれて久しい。この閉塞から抜け出すには、新党結成や政界再編といった表層の現象だけでなく、より深層の根源的危機に関する省察が、不可欠であると思われる。本授業では、今日の政治状況を、その成立の理論的背景に遡りつつ解明しながら、そこに見出される諸問題に対してどのように応答できるかを、批判的に考察する。授業は講義形式で行なう。

●授業の目的 (Primary goal)

現代政治に関する理論的知見を系譜立てて習得しながら、今日なお克服されるべき政治的諸問題について、批判的に考察する能力を養う。

●到達目標 (Objectives)

１　現代政治に関する理論的知見を系譜的に習得すること。
２　今日の政治的諸課題について理解すること。
３　上記の課題に対する応答可能性について、批判的に考察できること。

●授業計画 (Schedule)

第１回　　授業全体のイントロダクション
第２～５回　　カール・シュミット
- 第２回：政治的なものの概念、友と敵の区別
- 第３回：快適なサルたちの娯楽社会
- 第４回：近代社会における精神的虚無
- 第５回：権威国家とナチズム

第６～１０回　　ジョン・ロールズ
- 第６回：公正としての正義、善と正の区別
- 第７回：正義の二原理
- 第８回：ロールズ批判と正義論の修正
- 第９回：正義の国際戦争　　第１０回：ロールズ以降

第１１～１４回　　ミシェル・フーコー
- 第１１回：真理への系譜学的問い
- 第１２回：権力の規律／訓練テクノロジー
- 第１３回：司牧権力と生政治
- 第１４回：権力ゲームへの抵抗と新しい主体の可能性

第１５回　学期末試験の予定

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価　（　筆記試験，レポート，　その他　）

再評価（　有　・　無　）

学期末に実施する論述式の期末試験によって評価する。

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

教科書に代えて、授業時に引用資料を配布する。
参考書：藤原保信・飯島昇藏編著『西洋政治思想史』新評論（1995）
その他、授業時に適宜指示する。

科　目　名 （英　訳）	経済学Ⅰ (Economics Ⅰ)	開講学期 曜日・時限	前期 月曜日・２時限
対象学年	１年生	単位数	２単位
受講資格		募集人数	
担当教員	川村　顕		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

経済学は、ミクロ経済学とマクロ経済学の2つに大別されます。経済学Ⅰではそれらのうち、ミクロ経済学の基礎を学びます。ミクロ経済学の大きなテーマの1つは、「モノやサービスの価格はどのように決まるか?」ということであり、本講義ではこの点を明らかにしていきます。

●授業の目的　(Primary goal)

経済学で重要な概念は、「選択」と「市場」です。人々がどのような選択を積み重ね、どのような市場で取引することで価格が形成されるか。この「選択」も「市場」も、どちらも私たちの日常にある具体的なものですが、経済学では極めて抽象化された概念として取り扱います。また、厳密な議論を行うための言語として数学を用います。これらの道具に慣れることで、私たちが直接、間接に遭遇する経済現象、特に価格変動について、ある程度説明できるようになります。

●到達目標　(Objectives)

受講生は本講義を通じて、事象の抽象化を行えるようになること、および、論理的思考ができるようになることが期待されます。

●授業計画　(Schedule)

1. (ミクロ)経済学とは何か?
2. 企業と供給(1)：生産関数
3. 企業と供給(2)：費用関数
4. 企業と供給(3)：供給曲線
5. 家計と需要(1)：効用関数
6. 家計と需要(2)：需要曲線
7. 家計と需要(3)：弾力性
8. 市場均衡(1)：均衡とその変化、均衡の安定性
9. 市場均衡(2)：余剰分析、規制と課税の経済効果
10. 不完全競争(1)：独占(、収穫逓増)
11. 不完全競争(2)：寡占
12. 市場の失敗(1)：外部性
13. 市場の失敗(2)：公共財
14. 市場の失敗(3)：不確実性、効率性と分配
15. まとめ

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（有・無）

(1)期末試験および、(2)平常点(出席、受講態度等)を基に評価します。

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

教科書：石井安憲、永田良、若田部昌澄編（2007）「経済学入門〈第2版〉」、東洋経済新報社。

参考書：

1. ジョセフ・E・スティグリッツ（2006）「スティグリッツ　ミクロ経済学〈第3版〉」、東洋経済新報社。
2. N・グレゴリー・マンキュー（2005）「マンキュー経済学　ミクロ編〈第2版〉」、東洋経済新報社。

科　目　名 （英　訳）	経済学II (Economics II)	開講学期 曜日・時限	後期 月曜日・２時限
対象学年	１年生	単位数	２単位
受講資格		募集人数	
担当教員	川村　顕		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

経済学は、ミクロ経済学とマクロ経済学の2つに大別されます。経済学IIではそれらのうち、マクロ経済学の基礎を学びます。マクロ経済学の基本的なテーマの1つは、「一国の所得はどのように決まるか?」ということであり、本講義ではこの点を明らかにしていきます。

●授業の目的　(Primary goal)

経済学Iのシラバスで述べたのと同様に、マクロ経済学でも極めて抽象化された概念を取り扱います。また、厳密な議論を行うための言語として数学を用います。これらの道具に慣れることで、一国の所得決定メカニズムについて、ある程度説明できるようになります。

●到達目標　(Objectives)

受講生は本講義を通じて、事象の抽象化、および、論理的思考ができるようになることが期待されます。また、経済政策の理論的背景の一部を説明できるようになることが目標です。

●授業計画　(Schedule)

1. (マクロ)経済学とは何か?
2. マクロ経済指標と日本経済：マクロデータの概説
3. 国民所得の決定(1)：均衡国民所得とは何か
4. 国民所得の決定(2)：乗数効果とは何か
5. 国民所得の決定(3)：財政政策と乗数効果
6. 開放マクロ経済(1)：開放マクロ経済モデルの定式化
7. 開放マクロ経済(2)：小国モデル
8. 開放マクロ経済(3)：二国開放マクロ経済モデル
9. 資産市場と国民所得(1)：資産市場の導入、財市場の均衡
10. 資産市場と国民所得(2)：資産市場の均衡
11. 資産市場と国民所得(3)：同時均衡モデル
12. マクロ経済の2大問題(1)：景気循環
13. マクロ経済の2大問題(2)：経済成長
14. マクロ経済の2大問題(3)：ソローモデル
15. まとめ

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（有・無）

(1)期末試験および、(2)平常点(出席、受講態度等)を基に評価します。

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

教科書：石井安憲、永田良、若田部昌澄編（2007）「経済学入門<第2版>」、東洋経済新報社。

参考書：

1. ジョセフ・E・スティグリッツ（2006）「スティグリッツ　ミクロ経済学<第3版>」、東洋経済新報社。
2. N・グレゴリー・マンキュー（2005）「マンキュー経済学　ミクロ編<第2版>」、東洋経済新報社。

教科書は、ミクロ経済学とマクロ経済学の両方がコンパクトにまとめられています。そのため、紙幅の都合で詳細な説明が割愛されている個所があります。読んでみて不明な点は、参考書にあたるといいでしょう。

科　目　名 （英　訳）	社会学ＡＩ Sociology　ＡＩ	開講学期 曜日・時限	前期 月曜日２限時 金曜日２時限
対象学年	１年生	単位数	２単位
受講資格		募集人数	
担当教員	板橋　作美		

月曜と金曜の授業はまったく同じです。どちらか一つだけ選んでください。

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

単に人間が寄り集まっているだけでは社会ではありません。さまざまな取り決め、約束事、規約の成立によって、人間集合は社会集団になります。この授業は、社会を社会たらしめている基本的な規約について講義します。

●授業の目的　(Primary goal)

上記の規約は、その社会に生きる人たちにとっては、まるで空気のようなもので、その存在すら気づいていないことが多く、また気づいても、それは自然法則と同じように、どの社会でも同じ、普遍的なものだと思われています。この授業では、出自、結婚、家族などに関する社会的約束事が社会で異なっていること、ときには正反対と思えるほど大きく違うこともあることを、具体例に基づいて説明し、社会の規約の多様性の理解、認識を深めることを目的としています。

●到達目標　(Objectives)

社会の多様性を理解したうえで、われわれの考え方、行動が、それぞれの社会の決まりに大きな影響を受けている、あるいは縛られている、ということを知ること、また同時に、そうであるなら異なる社会との関係はどうあるのかを理解することを目標としています。

●授業計画　(Schedule)

序説
血縁、出自（３回）
婚姻（３回）
家族（３回）
親族、親類（２回）
擬制的親族
「家」、墓
地域集団

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート,　その他　）

再評価（ 有・無 ）

試験および出席状況をもとに、総合的に評価します。

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

教科書、参考図書はとくにありません。
（授業内容をまとめて扱っているような書籍はありません。）

科　目　名 （英　訳）	**社会学ＢⅠ** Sociology B I	開講学期 曜日・時限	前期 月曜日　２時限
対象学年	１年生	単位数	２単位
受講資格		募集人数	
担当教員	皆吉　淳平		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

私たちは日常生活のなかで、「社会」という言葉をなにげなく使っています。

さまざまな出来事が起こり、日々うつりかわる「社会」。いったい、その「社会」とは、何なのでしょうか。社会学は、この「社会」について、ミクロからマクロまでの幅広い視野で考える学問領域です。

この授業では、そうした社会学のこれまでの試みを振り返りながら、身近な出来事への新たな捉え方の可能性を探ってゆくことを目指します。（社会学がこれまで扱ってきた多様な対象のなかでも、医療に関わる話題も取り上げてゆきます。）なお授業は、講義形式で行います。

●授業の目的　(Primary goal)

「社会学」のものの見方・考え方についての理解を深め、それらを用いて現代社会の問題を考える。

●到達目標　(Objectives)

授業計画に対応して、以下の目標の達成を目指します。

①社会学のものの見方・考え方を理解する

②相互行為としてのコミュニケーション、現代社会における家族、都市と公共性などの諸問題について社会学的な見方・考え方を理解する

③現代社会の諸問題について、社会学的想像力を発揮して考えられるようになる

●授業計画　(Schedule)

第 1 回　　イントロダクション――「社会学」とは何なのか?

第 2-5 回　社会学のものの見方・考え方――基礎的な概念枠組みの説明

相互行為、近代化、社会システムなど社会学の基礎知識を説明します

第 6-7 回　現代社会の諸問題と社会学（1）――都市と公共性

都市と公共性の問題について、まちかどの看板や様々なまちづくりを取り上げて考えます

第 8-9 回　現代社会の諸問題と社会学（2）――「家族」と社会

現代社会の家族観について、「生殖補助医療」を取り上げて考えます

第10-12回　現代社会の諸問題と社会学（3）――コミュニケーションと身体

相互行為としてのコミュニケーションについて、「ALS」や「長期脳死」の事例から考えます

第13-14回　現代社会の諸問題と社会学（4）――科学技術のリスクと信頼

科学技術のもたらすリスクと信頼について、「原発」問題を取り上げて考えます。

第15回　　まとめ

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（ 有・無 ）

レポートに平常点（出席状況、コメントペーパーの提出状況など）を加味して総合的に評価します。

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

教科書：西原和久、油井清光編『現代人の社会学・入門――グローバル化時代の生活世界』有斐閣、2010年

参考書：社会学の一般的な教科書および社会学を包括的に紹介するものとして以下があります。

長谷川公一、浜日出夫、藤村正之、町村敬志『社会学』有斐閣、2007年

アンソニー・ギデンズ『社会学　（第５版）』而立書房、2009年

佐藤俊樹『社会学の方法』ミネルヴァ書房、2011年

市野川容孝『ヒューマニティーズ　社会学』岩波書店、2012年

友枝敏雄・山田真茂留編『Ｄｏ！　ソシオロジー』有斐閣、2007年

そのほか具体的な問題に関するものなど、必要に応じて、授業時に紹介します。

科　目　名 （英　訳）	**社会学ＢⅡ** Sociology BⅡ	開講学期 曜日・時限	後期 月曜日　２時限
対象学年	１年生	単位数	２単位
受講資格		募集人数	
担当教員	皆吉　淳平		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

私たちは日常生活のなかで、「社会」という言葉をなにげなく使っています。

さまざまな出来事が起こり、日々うつりかわる「社会」。いったい、その「社会」とは、何なのでしょうか。社会学は、この「社会」について、ミクロからマクロまでの幅広い視野で考える学問領域です。

この授業では、社会学のなかでも「医療」を対象とする社会学を取り上げ、現代社会の様々な出来事への新たな捉え方の可能性を探ってゆくことを目指します。なお授業は、講義形式で行います。

●授業の目的　(Primary goal)

「社会学」のものの見方・考え方についての理解を深め、それらを用いて医療の問題を考える。

●到達目標　(Objectives)

授業計画に対応して、以下の目標の達成を目指します。

①医療の社会学の基礎概念を理解する

②現代社会において、医学・医療がどのように社会と関係しているのかについて理解を深める

③現代社会の医学・医療が直面する諸問題について、社会学的想像力を発揮して考えられるようになる

●授業計画　(Schedule)

第 1 回　　イントロダクション――「医療」と「社会学」はどう関係しているのか?

第 2-4 回　医療の社会学の基礎（1）――医学・医療の成り立ちと社会

近代医学やその技術の成り立ちとその性質について、歴史的な視点も交えて説明します

第 5-8 回　医療の社会学の基礎（2）――医療社会学の基礎概念

役割理論、専門職論、医療化論、医原病論など医療の社会学の基礎知識を説明します

第 9-10回　現代社会における医療と社会（1）「病」をめぐる語り

病の経験をめぐる「ナラティブ・アプローチ」について考えます

第11-12回　現代社会における医療と社会（2）資源化する人体

医療と社会が関わる問題として「臓器移植」について考えます

第13-14回　現代社会における医療と社会（3）グローバル化と医療ツーリズム

グローバル化した現代社会の問題として医療ツーリズムなどについて考えます

第15回　　まとめ

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験, (レポート), その他　）

再評価（ 有・(無) ）

レポートに平常点（出席状況、コメントペーパーの提出状況など）を加味して総合的に評価します。

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

教科書：藤村正之編『いのちとライフコースの社会学』弘文堂、2011年

参考書：医療の社会学の入門的な書籍、社会学的な視野から医療を取り上げたものとして以下があります。

進藤雄三・黒田浩一郎編『医療社会学を学ぶ人のために』世界思想社、1999年

佐藤純一・土屋貴志・黒田浩一郎編『先端医療の社会学』世界思想社、2010年

中川輝彦・黒田浩一郎編『よくわかる医療社会学』ミネルヴァ書房、2010年

山中浩司『医療技術と器具の社会史――聴診器と顕微鏡をめぐる文化』大阪大学出版会、2009年

金子雅彦『医療制度の社会学――日本とイギリスにおける医療提供システム』書肆クラルテ、2012年

日比野由利・柳原良江編『テクノロジーとヘルスケア――女性身体へのポリティクス』生活書院、2011年

小松美彦・香川知晶編『メタバイオエシックスの構築へ』ＮＴＴ出版、2010年

そのほか具体的な問題に関するものなど、必要に応じて、授業時に紹介します。

科　目　名 （英　訳）	**社会思想史Ⅰ** History of Social and Political Thought I	開講学期 曜日・時限	前期 金曜日１時限
対象学年	１年生	単位数	２単位
受講資格		募集人数	
担当教員	山岡　龍一		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

質疑応答を交えた、講義形式で行う。「社会」とは何であるのか、「社会の中で生きる」ことについてどのように考えることができるのか、といった問いを、思想史の方法を使って吟味するやり方を示し、その材料を与える。題材としては西洋の、古代ギリシアから中世にわたる社会思想をとりあげ、「社会」というものに関する、さまざまな考え方を紹介し、そこにある自分にとって〈親和的な要素〉と〈異質的な要素〉を、学生が自ら理解できるようにする。さまざまな「社会」観を紹介するだけでなく、「社会」をとらえる知的方法として、どのようなものがあったのか、そして、方法の採用が、対象の理解の内容に、どのような影響を与えるのか、という問題も考える。

「社会」を記述的のみならず、規範的にも理解する方法を考察する。この点に関しては、特に「自由」と「正義」の問題に光を当てて、「より善き社会」というテーマをめぐる、さまざまな思想を紹介し、検討する。

●授業の目的 (Primary goal)

前近代期の社会思想への理解を得ることによって学生が、「社会」に関して自分が今抱いている意見や見解を、自分自身で批判的に反省できるようになること。そのことによって、「社会の中で自分が生きる」ということに関して学生が、自分自身の力で考えていくことでできるようになることが、目指される。

社会や人間について論じた古典的なテクストを、学生が自分の力で読解することができるようになること。

●到達目標 (Objectives)

講義のあいだに、学生に対して質問をするので、そのときに学生が自分自身の言葉で答えることができるようになること。

学生が自分の問題意識を涵養するために、自分の力で文献を選択し、自分の力で文献を読むことができるようになること。

エッセイ形式のテストにおいて、講義の内容に関する適切な理解を示し、講義の内容に則った仕方で自分の考えを簡潔に論じることができるようになること（そのためには、いくつかの基本的で、重要な語彙を、講義を通じて自分のものとすることが必要である）。

●授業計画 (Schedule)

１．イントロダクション ／ ２．オイコスとポリス ／ ３．ソクラテスの生と思想 ／ ４．プラトンとアテナイ ／ ５．プラトンの正義論 ／ ６．プラトンのイデア論と社会観 ／ ７．アリストテレスのプラトン批判 ／ ８．アリストテレスのコイノーニアー観 ／ ９．アリストテレスの正義論 ／ １０．キケロとローマ共和政 ／ １１．キケロの自然法論 ／ １２．キリスト教における人間と社会 ／ １３．アウグスティヌスの政治社会論 ／ １４．アウグスティヌス主義とアリストテレス主義 ／ １５．トマス・アクィナスの政治社会論

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（有・無）

出席と、講義中の質疑応答でのパフォーマンス（全体の10%）。

エッセイ形式の試験による評価（全体の90%）。再評価は、全講義を出席した者にのみ、レポートで行う。

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

教科書は無い。参考書については講義の最初に、参考文献表を配布する。当座の参考書は以下の通り。

山岡龍一『西洋政治理論の伝統』放送大学教育振興会、2009年

水田洋『新稿　社会思想小史』ミネルヴァ書房、2006年

木崎喜代治、筒井清忠、阪上孝『社会思想史』有斐閣、1987年

科　目　名 （英　訳）	**社会思想史Ⅱ** History of Social and Political Thought Ⅱ	開講学期 曜日・時限	後期 金曜日１時限
対象学年	１年生	単位数	２単位
受講資格		募集人数	
担当教員	山岡　龍一		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

質疑応答を交えた、講義形式で行う。「社会」とは何であるのか、「社会の中で生きる」ことについてどのように考えることができるのか、といった問いを、思想史の方法を使って吟味するやり方を示し、その材料を与える。題材としては西洋の、ルネサンス期から現代にわたる社会思想をとりあげ、「社会」というものに関する、さまざまな考え方を紹介し、そこにある自分にとって〈親和的な要素〉と〈異質的な要素〉を、学生が自ら理解できるようにする。さまざまな「社会」観を紹介するだけでなく、「社会」をとらえる知的方法として、どのようなものがあったのか、そして、方法の採用が、対象の理解の内容に、どのような影響を与えるのか、という問題も考える。

「社会」を記述的のみならず、規範的にも理解する方法を考察する。この点に関して、特に「自由」と「正義」の問題に光を当てて、「より善き社会」というテーマをめぐる、さまざまな思想を紹介し、検討する。

●授業の目的 (Primary goal)

近・現代期の社会思想の理解を得ることによって学生が、「社会」に関して自分が今抱いている意見や見解を、自分自身で批判的に反省できるようになること。そのことによって、「社会の中で自分が生きる」という主題に関して学生が、自分自身の力で考えていくことができるようになることが、目指される。

社会や人間について論じた古典的なテクストを、学生が自分の力で読解することができるようになること。

●到達目標 (Objectives)

講義のあいだに、学生に対して質問をするので、そのときに学生が自分自身の言葉で答えることができるようになること。

学生が自分の問題意識を涵養するために、自分の力で文献を選択し、自分の力で文献を読むことができるようになること。

エッセイ形式のテストにおいて、講義の内容に関する適切な理解を示し、講義の内容に則った仕方で自分の考えを簡潔に論じることができるようになること（そのためには、いくつかの基本的で、重要な語彙を、講義を通じて自分のものとすることが必要である）。

●授業計画 (Schedule)

１．マキアヴェッリの人間観 ／ ２．マキアヴェッリと近代共和主義の伝統 ／ ３．近代知のパラダイム：デカルトとベーコン ／ ４．ホッブズの人間観 ／ ５．ホッブズの政治社会論 ／ ６．ロックの人間観 ／ ７．ロックの政治社会論 ／ ８．ヒュームの人間論 ／ ９．ヒュームとスミスの社会論 ／ １０．ルソーの近代社会批判 ／ １１．ルソーの政治社会論 ／ １２．ヘーゲルの人倫論 ／ １３．マルクスと近代社会 ／ １４．功利主義思想 ／ １５．社会正義論の現在

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価 （ 筆記試験, レポート, その他 ）

再評価（ 有・無 ）

出席と、講義中の質疑応答でのパフォーマンス（全体の10%）。

エッセイ形式の試験による評価（全体の90%）。再評価は、全講義を出席した者にのみ、レポートで行う。

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

教科書は無い。参考書については講義の最初に、参考文献表を配布する。当座の参考書は以下の通り。

山岡龍一『西洋政治理論の伝統』放送大学教育振興会、2009年

水田洋『新稿　社会思想小史』ミネルヴァ書房、2006年

木崎喜代治、筒井清忠、阪上孝『社会思想史』有斐閣、1987年

ディヴィッド・バウチャー、ポール・ケリー『社会正義論の系譜』飯島、佐藤他訳、ナカニシヤ出版、2002年

科　目　名 （英　訳）	文化人類学Ⅰ Cultural Anthropology　I	開講学期 曜日・時限	前期 月曜日１時限 金曜日１時限
対象学年	１年生	単位数	２単位
受講資格		募集人数	
担当教員	板橋　作美		

月曜と金曜の授業はまったく同じです。どちらか一つだけ選んでください。

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

人間は、文化と切り離して考えることはできません。文化的存在であることが人間であるということです。

でも、そういう「文化」とは、いったいなになのでしょう。

ふつう、「文化」は、自動車やパソコンなどの物、芸術や哲学などの無形物を含めて、人間の身体的・精神的活動によって生み出されたものを言います。

しかし、この授業では、より深い、あるいは高い次元、あるいはそれ以前の段階での「文化」を考えます。具体的には、「文化」という概念は、どうとらえることができるかを考えます。それは、人間的存在とはどういうことであるかを、「文化」というものを考えることによって、考えることでもあります。

さらに、「文化」という概念あるいは言葉のもつ歴史性、政治性について考えます。「文化」は、時には支配や差別の道具に使われることすらあるのです。

以上のことを講義形式でおこないます。

●授業の目的　(Primary goal)

この授業の目的は、「文化」を考えることによって、自らの知識と思考のあり方を、根源的に問いなおし、それらを相対化する契機を与えることです。より具体的に言えば、人間が文化的存在であることを知ることであり、私たちがもっているほとんどの知識と思考法は、特定の文化に拘束されたものであり、決して真に客観的なものでも、自由なものでもないということを知ってもらうことです。

●到達目標　(Objectives)

文化の多様性と拘束性の認識、自己の相対化、そのうえでの異文化交流、異文化理解についての真の理解が可能になること。

●授業計画　(Schedule)

序説

文化の多様性・拘束性

　文化の檻、色彩、男と女、近親相姦の禁忌

世界把握・世界制作

　言語、論理、カオスとコスモス、禁止と異常・偶然、笑いと狂気

文化という言葉・文化を語る権利

　相対主義と普遍主義、本質主義と構築主義、オリエンタリズム、ポストコロニアリズム批判、異文化理解の可能性と不可能性

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート,　その他　）

再評価（ 有・無 ）

試験および出席状況をもとに、総合的に評価します。

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

教科書、参考図書はとくにありません（授業内容をまとめて扱っているような書籍はありません。）

科　目　名 （英　訳）	文化人類学Ⅱ Anthropology　Ⅱ	開講学期 曜日・時限	後期 月曜日１時限 金曜日１時限
対象学年	１年生	単位数	２単位
受講資格		募集人数	
担当教員	板橋　作美		

月曜と金曜の授業はまったく同じです。どちらか一つだけ選んでください。

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

文化人類学の研究対象は常に人間の文化、社会ですが、それをどのようにとらえるか、つまり研究・分析方法はさまざまあり、また変わってきました。文化人類学は方法論の学問と言えます。この授業では、文化人類学での構造主義について講義します。ただ、注意しておくと、構造主義というと、思想や哲学を思い浮かべる人が多いのですが、授業で扱うのは、あくまでも文化人類学における構造主義であり、文化的・社会的対象をどのようにとらえるのか、分析するのか、という方法論、考え方についてです。

●授業の目的　(Primary goal)

構造主義的人類学では、文化現象、社会現象を考えるとき、われわれが直接観察することができるのは、いわば表現形であり、その次元だけでいくら考察してもわかりえることには限界があり、真の理解に至るには、その表現形を成立させている背後（？）の構造をとらえなければならないと考えます。たとえるなら、ニュートンがリンゴが落ちたという個別の具体的事例（表現形）から、万有引力の原理を導き出したのと似ています。この授業は、物事を構造主義的にとらえる方法について紹介、説明します。

●到達目標　(Objectives)

方法論を紹介するといっても、抽象的に話すのでは理解しにくいと思います。魚をさばく方法の一つの三枚におろすということを理解してもらうのには、言葉で説明するだけでなく、実際にアジやサバなどを三枚におろしてみせるのがよいでしょう。構造主義についても、以下のように、具体的な問題を通して理解してもらおうと思っています。また、はじめから構造主義の話になるより、まずはそれ以前の文化人類学の理論の流れを紹介したほうが、構造主義の理解がより容易になると思われますので、構造主義以前の理論を簡単に振り返ります。この授業によって、受講者が、さまざまな物事について考えるときの、ひとつの方法を知り、身につけられることを目標にしています。

●授業計画　(Schedule)

序説
構造主義以前の理論(1):進化主義と伝播主義の方法と問題点
構造主義以前の理論(2):機能主義の方法と問題点
構造言語学(ソシュールとヤーコブソン)
「関係」
婚姻システムにみる「構造」(オーストラリアカリエラ人の婚姻システムとクラインの四元群)
日本の民話と俗信にみる「構造」(クラインの四元群の別の表現形)
神話にみる「構造」その一(オイディプス神話の二つの分析)
神話にみる「構造」その二(日本神話)
神話にみる「構造」その三(アスディワル武勲詩)

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（有・無）

試験および出席状況をもとに、総合的に評価します。

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

教科書、参考図書はとくにありません（授業内容をまとめて扱っているような書籍はありません。）

科　目　名 （英　訳）	**社会科学特論ＡⅠ** Advanced Studies: Social Science A I	開講学期 曜日・時限	前期 金曜日２時限
対象学年	１年生	単位数	２単位
受講資格		募集人数	
担当教員	飯田　卓		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

この授業では、いわゆるグローバリゼーションとして進行している現代社会の構造変動を問題とします。グローバリゼーションという現象を広義に解釈するならば、それは新自由主義が台頭し情報化が進展する 1970 年代以降、とりわけ市場メカニズムが世界を席巻するとともにコンピュータ・ネットワークによって世界の時間的・空間的距離が大幅に圧縮された 80 年代から 90 年代にかけて急速にはじまる現象だけに限られません。

すなわち、グローバリゼーションを地球的規模の相互依存関係の成立とみなすならば、16 世紀にはじまる近代以降の歴史はグローバリゼーションの歴史でもあるのです。というのも、近代国家は一方で明確に境界画定された領土を有した主権国家として誕生し、その内部において政治、経済、文化（宗教・芸術）、教育、科学といった機能分化を実現してきましたが、他方でウェストファリア体制のもとに諸国家間には一定の緊張をはらみつつも相互依存関係が成立していたという意味で、近代社会ははじめから国家を単位とした世界システムとして形成されてきたからです。

このようにグローバリゼーションは少なくとも近代の誕生とともにはじまる現象と言えますが（近代以前に求める見方もあります）、とくに 20 世紀後半から今日までに至る狭義のグローバリゼーションは、近代以降のそれとは様相を異にします。そのような現代のグローバリゼーションを主題化するためには、中世や近代を含む歴史的文脈だけでなく、社会的領域における機能分化の変容も視野に収めたうえで、近代社会と現代社会との差異を際立たせてゆく必要があるでしょう。なお、授業は講義形式で行う予定です。

●授業の目的　(Primary goal)

まずは近代国家の構造をその歴史的な形成過程にそって概観したうえで、近代社会の機能分化と国家間システムとしてのウェストファリア体制について考察します。つぎに近代から現代までに至るグローバリゼーション過程を外観し、とくに近代社会における機能分化がグローバリゼーションの進展にともなってどのように変容してきているのかについて考察します。以上を踏まえたうえで、最後にグローバリゼーションのゆくえとともに現代社会が抱える問題点について考察します。

●到達目標　(Objectives)

とくに政治、経済、文化の関係に着目しつつ、歴史的文脈のなかでグローバリゼーションという現象を捉えられるようになること。

●授業計画　(Schedule)

第 1 回 : オリエンテーション、第 2 回 : グローバリゼーションとは何か、第 3 回 : 主権国家とウェストファリア体制（1）、第 4 回 : 主権国家とウェストファリア体制（2）、第 5 回 : 近代社会における機能分化（1）、第 6 回 : 近代社会における機能分化（2）、第 7 回 : 近代以降のグローバリゼーション、第 8 回 : 現代のグローバリゼーション（1）、第 9 回 : 現代のグローバリゼーション（2）、第 10 回 : 現代社会における機能分化の変容（1）、第 11 回 : 現代社会における機能分化の変容（2）、第 12 回 : グローバル社会の編成原理（1）、第 13 回 : グローバル社会の編成原理（2）、第 14 回 : グローバリゼーションのゆくえ、第 15 回 : 総括（理解度の確認）

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（ 有・無 ）

受講態度、および論述試験における論理構成力と批判力を中心に評価します。期末試験とは別に授業中に小テストを一回実施する可能性もあります。

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

教科書についてはレジュメを配布します。参考書については教場にて適宜指示しますが、さしあたり以下のものを挙げておきます。

ニクラス・ルーマン『社会の社会１・２』（2009 年、法政大学出版局）

ウルリッヒ・ベック『グローバル化の社会学――グローバリズムの誤謬―グローバル化への応答』（2005 年、国文社）

ウルリッヒ・ベック『ナショナリズムの超克――グローバル時代の世界政治経済学』（2008 年、NTT 出版）

科　目　名 （英　訳）	社会科学特論ＡⅡ （科学技術とリスクの政治学） Advanced Studies: Social Science AⅡ	開講学期 曜日・時限	後期 月曜日２時限
対象学年	１年生	単位数	２単位
受講資格		募集人数	
担当教員	尾内　隆之		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

この授業は、公共的問題としての科学技術について社会科学の視点から見ていきます。福島第一原発事故であらためて思い知らされた通り、科学技術はそのメリットとともに計り知れないリスクをもたらすものでもあります。一方で、科学技術には社会の発展の原動力として多くの資金が費やされ、政策決定者や企業などの利害と密接に結びついています。きわめて公共的な問題（強い表現をとるなら「政治的」な問題）となっている科学技術とその社会的影響について、理論と事例の両面から考察します。

授業は講義形式を基本にはしますが、科学技術の主要な応用領域である「医療」を担う受講生の皆さんの関心を汲み取りながら、発言の機会をなるべく増やし、「ともに考える」スタイルを目指します。

●授業の目的　(Primary goal)

科学技術の価値や意義、およびその社会的影響への対応のあり方を考察すること。

●到達目標　(Objectives)

① 何がどのように問題となっているのか、実状を幅広く知り、
② 科学技術が今日の社会においてどのような位置にあり、また、科学技術（ないし専門家）に何が求められているかを考えるための、基本的な視座、方法論を身につけ、
③ 科学技術と社会や政治・政策との相互作用のあり方について、自分なりの意見を持つこと。

●授業計画　(Schedule)

① イントロダクション
② 科学技術の進歩と「ブダペスト宣言」
③「トランス・サイエンス問題」とは何か
④ 先端技術と倫理の衝突
⑤ 社会における「専門家」の位置づけ
⑥ リスク評価をどう使うか
⑦ 科学知・専門知と「法」
⑧～⑮ 事例研究（原発事故，地震予知・災害対策，遺伝子組換え作物，脳死・臓器移植，出生前診断，医療・健康政策など）

※　順序は入れ替わる可能性もあります。
※　事例研究で取り上げるトピックは、受講生の関心や希望を取り入れながら決定します。

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験，(レポート)，その他　）

再評価（ 有・(無) ）

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

教科書は指定しない。

参考書　金森修・中島秀人(編)『科学論の現在』（2002）勁草書房
藤垣裕子(編)『科学技術社会論の技法』（2005）東大出版会
小林傳司『トランス・サイエンスの時代』（2005）NTT出版
平川秀幸『科学は誰のものか』（2010）NHK生活人新書
グレゴリー・Ｅ・ペンス『医療倫理１，２』（2001）みすず書房

科目名 (英訳)	日本事情ＡⅠ People and Life in Japan	開講学期 曜日時限	前期 月曜日１時限
対象学年	１年生	単位数	２単位
受講資格	外国人留学生	募集人員	
担当教員	増田 光司		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

日本の地理・歴史･政治の概略を学び、並行して、自国の歴史・地理・文化などについて簡単な発表を行う。
また、必要に応じて、自国の農業、近代化の問題などについて小作文を書く。

●授業の目的 (Primary goal)

自国や日本について自分の考えを、客観的な視座から、日本語で明確に述べられるための基礎的な知識･技能の獲得を目指す。

●到達目標 (Objectives)

日本の地理・歴史･政治の概略的知識の獲得。
自国の歴史・地理・文化などについて日本語で簡単な発表を行うための知識・技能の習得。

●授業計画 (Schedule)

学習者のレベルとニーズに応じたものとするが、概略は次のとおりである。

授業週	講義内容／学習者の活動
1～3	オリエンテーション。日本の地理
4～8	日本の歴史／自国の歴史･地理･文化などの発表
9～11	日本の政治など
12～15	公害､差別､宗教観、市川の地理･歴史など

●成績評価の方法 (Grading scheme) 評価 （ 筆記試験, レポート, その他 ）

再評価（ 有・無 ）

期末試験は行わない。
小テスト、提出レポート、学習者の活動（発表･授業参加）を点数化したものを基礎資料として評価する。
出席･授業への参加態度なども評価に加える(評価全体の 20%)。

●教科書及び参考図書 (Textbooks and materials)

担当教員作成のハンドアウトなど

科 目 名 (英 訳)	日本事情ＡⅡ People and Life in Japan AII	開講学期 曜日時限	後期 月曜日１時限
対象学年	１年生	単位数	２単位
受講資格	外国人留学生	募集人員	
担当教員	増田 光司		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

日本人学習者を対象とした自由選択科目「異文化間交流」と合同の授業を行う。

以下の各項については、自由選択科目「異文化間交流」の授業案内を参照すること。

●授業の目的 (Primary goal)

●到達目標 (Objectives)

●授業計画 (Schedule)

●成績評価の方法 (Grading scheme)

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

自然科学科目　目次

生物学入門……86
生物学入門Ａ／Ｂ……87
物理学入門 (a)……88
物理学入門 (b)……89
化学入門……90
数学（微積分Ｍ）……91
数学（微積分Ｄ）……92
数学（線形代数）……93
数学基礎……94
情報科学……95
情報科学（再履修）……96
情報処理……97
統計学……98
物理学（力学ａ）……99
物理学（力学ｂ）……100
物理学（力学ｃ）……101
物理学（電磁気学ａ）……102
物理学（電磁気学ｂ）……103
物理学（電磁気学ｃ）……104
物理学実験……105
化学（一般化学Ⅰ・Ⅱ）(医)……106
化学（一般化学Ⅰ・Ⅱ）(歯)……107
化学（一般化学Ⅰ・Ⅱ）(検)……108
化学基礎Ａ……109
化学基礎Ｂ……110
化学実験……111
生物学(細胞・遺伝子)　Ｍ……112
生物学（構造・機能）Ｍ……113
生物学（細胞・遺伝子）Ｄ・Ｔ……114
生物学（構造・機能）Ｄ・Ｔ……115
生物学基礎Ａ／Ｂ……116
生物学実験……117
科学基礎演習……118
科学基礎実験Ａ……119
科学基礎実験Ｂ……120

2）**自然科学**

自然科学系の科目は、人文科学・社会科学系と異なり「自然」を理解しようとする学問です。理解しようとする対象によって、物理学、化学、生物学などの違いが生じます。数学はこれらの自然科学の全体に深く関係する学問分野です。物理学、化学、生物学は、数学とは異なり、実験科学です。実験科学では、自然の現象を観察あるいは観測して得られた結果をもとに、仮説を立て実験を行ないこれを検証し、できるだけ基本的な法則に基づいて自然を理解しようとします。この考えは、最初は物理学に取り入れられ、化学、生物学にもこの手法が深く浸透してきました。医学・歯学を正しく理解するためには、このような科学の方法論を理解するとともに、物理学、化学、生物学の知識も不可欠になっています。したがって、いずれの科目でも、講義によって基本的な知識を学ぶとともに、実験によって現象の観察や観測の基本を学びます。また自由選択科目としても自然科学系の多くの科目が開講されていますので、各自の興味や弱点を考えて取捨選択し、積極的に学んでください。

● 数学の指針

数学は自然科学の全分野にわたって必要欠くべからざる存在となっており、これは医学・歯学においても例外ではありません。その意味で、微分積分学、線形代数学や統計学を学ぶことは是非とも必要なことです。 しかしながら、大学における数学教育は、このような数学的知識や技術の習得だけが目的ではありません。

むしろ「論理的思考能力」を育成することに最大の重点が置かれているといっていいでしょう。ここでいう「論理的思考能力」というのは、与えられた前提・条件から、正確に推論を行って結論を得る能力であり、かつ、その推論を正確に記述する能力を意味します。 高校までの学習においては、ともすると試験問題の正解を得ることに重点がおかれ、その正解を得る過程での正確な推論や証明の記述能力は軽視されがちです。学生諸君は「論理的思考能力の育成」が数学を学ぶ最大の目的であることを強く意識し「自分で考え」、「疑問点が自分で解決できないときは必ず質問する」という態度で学ぶことが必要です。

● 物理学の指針

現代医歯学では、現象を観測あるいは観察して得られた結果を、できるだけ基本的な法則に基づいて理解しようとする物理学の考え方だけでなく、物理学の知識そのものも欠かせないものになってきています。これらの要請に応えるために平成２３年度から始まった新カリキュラムでは３０コマの講義（医学科・歯学科・検査技術学専攻）と１０週の物理学実験（医学科・歯学科）が必修で課せられています。講義では、前期に「力学」、後期に「電磁気学」を学びますが、科目の成績は通年の「物理学」として評価されます。その他に、バラエティに富んだ自由選択科目（S 科目）を開講しています。自分の興味や弱点等を考えて取捨選択をし、積極的に学んで下さい。

	医学科	歯学科	検査	看護・口腔保健
１年前期	物理学入門（b）	物理学入門（a）	物理学入門（a）	
	物理学（力学ｃ）	**物理学（力学ｂ）**	**物理学（力学ａ）**	S・物理で視た人体と医療機器
	S・応用数学	S・量子論入門		
１年後期	**物理学（電磁気学ｃ）**	**物理学（電磁気学ｂ）**	**物理学（電磁気学ａ）**	S・電気と磁気
	S・電磁気学演習	S・現代物理学入門		
２年後期（湯島）	**生命科学基礎 物理学Ａ**（波動）	**生命科学基礎 物理学Ｂ**（波動）		

1）**ゴシック**は必修科目、Ｓは自由選択科目

2）「物理学入門」は医学科・歯学科・検査技術専攻の第１学年のうち、入学試験（センター試験 and/or ２次試験）で物理を選択しなかった人のための必修科目

3）「物理学(力学ａ)」「物理学(力学ｂ)」「物理学(電磁気学ａ)」「物理学(電磁気学ｂ)」は、受講条件がある（ 85 頁参照）

4）生命科学基礎は、「生物」「化学」「物理」の各分野を１年間で、各１０週ずつ学ぶ。
「物理学A」「物理学B」のクラス分けは、１年生の最後に行われる学力認定試験の結果に基づいて行う。

● 化学の指針

化学は、医学・歯学・看護学・検査技術学・口腔保健学を学ぶ者にとって最も重要な基礎科目のひとつです。したがって、高校で習得してきた化学の知識を再確認し理解を深めながら、さらに高度の知識を積み重ね、学部で学ぶ生化学、生理学、薬理学などを理解するための基礎をつくらなければなりません。

この目標に向けて、講義、演習、実習を通して化学の理解を深めるとともに、実験の基本を習得します。学部学科専攻により、履修すべき科目が異なりますので、間違いのないように表を参考にして下さい。

学部、学科、専攻	必修科目	選択必修科目
医学部医学科	前期・後期：化学（一般化学Ⅰ・Ⅱ） 前期・後期：化学実験	前期：化学入門（←入試化学非選択者）
医学部保健衛生学科 検査技術学専攻	前期・後期：化学（一般化学Ⅰ・Ⅱ） 後期：科学基礎実験Ａ	前期：化学入門（←入試化学非選択者）
医学部保健衛生学科 看護学専攻	前期：化学基礎 （A・B）	後期：科学基礎実験Ｂ 科学基礎演習のいずれか１科目
歯学部歯学科	前期・後期：化学（一般化学Ⅰ・Ⅱ） 前期・後期：化学実験	前期：化学入門（←入試化学非選択者）
歯学部口腔保健学科	前期：化学基礎（A・B）	後期：科学基礎実験Ｂ 科学基礎演習のいずれか１科目

医学科・歯学科・保健衛生学科検査技術学専攻のうち入試で化学を選択しなかった方は「化学入門」（前期）を選択必修科目として履修することになります。

保健衛生学科看護学専攻・口腔保健学科の方はプレイスメント試験により「化学基礎」（前期・必修）のクラス分けを行います。

自由選択科目として、前期に「S・一般化学演習Ａ・Ｂ」（医学科・歯学科対象）、「S・分子分光学演習：基礎編」（集中型、全学科対象）、後期に「S・タンパク質の科学」（医学科、歯学科、検査技術学専攻対象）、「S・糖の科学」（全学科対象）、「「S・水の科学」（全学科対象）が開講されます。

アドバンスコースとして、後期に「S・生体分子分光学演習」（全学科対象）が開講されます。

● 生物学の指針

講義系の科目では、生物学の基本的な知識を習得することに加え、これらの知識が医療の領域まで応用されていることを理解し、実験系の科目では、自然現象を観察して得られた結果をもとに、仮説を立て実験を行ない、これを検証する方法の基礎を学ぶことを目的とします。

平成23年度からの新カリキュラムでは、必修科目として下表の科目を開講します。

＊の科目は、医学科・歯学科・保健衛生学科検査学専攻の学生で、本学の入学試験（理科）で「生物」を選択しなかった学生が履修する科目です。
＃の科目は、保健衛生学科看護学専攻・口腔保健学科の学生対象の科目で、入学後にプレイスメント試験を行い、その成績に応じて2クラスに分けます。

学科専攻	必修科目
医学科	前期：生物学入門＊ 前期：生物学 (細胞・遺伝子) M 前期＋後期：生物学実験 後期：生物学 (構造・機能) M
保健衛生学科 （看護学専攻）	前期：生物学入門＃ 後期：生物学基礎
保健衛生学科 （検査技術学専攻）	前期：生物学入門＊ 前期：生物学 (細胞・遺伝子) D・T 後期：生物学 (構造・機能) D・T 後期：科学基礎実験 A
歯学科	前期：生物学入門＊ 前期：生物学 (細胞・遺伝子) D・T 前期＋後期：生物学実験 後期：生物学 (構造・機能) D・T
口腔保健学科	前期：生物学入門＃ 後期：生物学基礎

上記以外に、知識を深めることや論理的思考能力の向上を目指した自由選択科目もいくつか開講しています。積極的に学ぶことを望みます。

● 物理学の講義科目の選択について

『物理学』

【医歯】および【検査】の学生は、『物理学』（第１学年前・後期、２単位）が必修となっています。講義内容としては、前期は力学（剛体を含む）を後期は電磁気学を学びますが、教育効果を考えてそれぞれ３つの講義科目を開講しています。前期には「物理学（力学ａ）」「物理学（力学ｂ）」「物理学（力学ｃ）」が、後期には「物理学（電磁気学ａ）」「物理学（電磁気学ｂ）」「物理学（電磁気学ｃ）」が開講されます。ただし、「力学ａ」と「電磁気学ａ」、「力学ｂ」と「電磁気学ｂ」、「力学ｃ」と「電磁気学ｃ」はセットになっていますので、ａ、ｂ、ｃの科目を混ぜて履修することはできません。さらに、科目の選択には下記の制限がありますので注意をしてください。

１．「物理学（力学ａ）」および「物理学（電磁気学ａ）」を選択できるのは、【歯】の入試（センター試験 and/or ２次試験）で物理を選択しなかった人、【検査】の人および留学生だけです。
２．「物理学（力学ｂ）」および「物理学（電磁気学ｂ）」を選択できるのは、【医】の入試（センター試験 and/or ２次試験）で物理を選択しなかった人、【歯】【検査】および留学生です。
３．「物理学（力学ｃ）」および「物理学（電磁気学ｃ）」は、学科、専攻に関係なく誰でも選択できます。

これを学科、入試（センター試験 and/or ２次試験）での科目選択から分類し直すとそれぞれの人が選択できる科目は次のようになります。

１．医学科で入試物理の選択者・・・「力学ｃ」＋「電磁気学ｃ」のみ
２．医学科で入試物理の非選択者および歯学科で入試物理の選択者・・・「力学ｃ」＋「電磁気学ｃ」または「力学ｂ」＋「電磁気学ｂ」
３．歯学科で入試物理の非選択者および検査技術学専攻、留学生の人・・・「力学ｃ」＋「電磁気学ｃ」、「力学ｂ」＋「電磁気学ｂ」、「力学ａ」＋「電磁気学ａ」のうちのいずれか

『物理学入門』

【医歯】および【検査】の学生で、入試物理（センター試験 and/or ２次試験）を選択しなかった人は、前期（火曜日）に開講される「物理学入門」を必ず履修してください。
本年度は２クラス開講します。
【歯】および【検査】の人は、「物理学入門（ａ）」を
【医】の人は、「物理学入門（ｂ）」を履修して下さい。

【看護】【口腔】の学生は進級のために『物理学』『物理学入門』を履修する必要はありませんが、物理に興味のある人は、自由選択科目の「Ｓ・物理で視た人体と医療機器」や「Ｓ・電気と磁気」を選択してください。
不明の点がある人は、千葉または越野に問い合わせてください。

科 目 名 （英 訳）	**物理学入門（a）** Introduction to Physics (a)	開講学期 曜日・時限	前期 火曜日１時限
対象学年	１年生	単位数	１単位
受講資格	歯学科・検査（入試で生物・化学を選択した者）	募集人数	
担当教員	千葉　司		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

みなさんは「物理」を難しい公式を暗記し、それに数値を代入して計算をするだけの科目だと毛嫌いをしていないでしょうか。医歯系の分野では生物と化学を学んでいれば十分だと考えていないでしょうか。そのように思っている人は、まず教科書の中にある「ワンポイント物理講座」を拾い読みして下さい。医療の分野でも多くのことが物理学と関係していると分かると思います。みなさんの日常生活ではさらに多くのことが物理学と関係しています。自然科学の中で最も基本となる分野が物理学で、自然を理解するのに欠かせない学問です。この授業は、みなさんの物理学に対するアレルギーをできるだけ取り除くこと、自然現象は数式で表すことができることを理解していただくことを目指した入門講義です。この授業では前期に平行して開講される「物理学（力学a）」の理解を深めることも目指しています。

●授業の目的 (Primary goal)

高校物理の物理未履修者に対して、物理アレルギーを取り除き大学での物理の学習に備えること。

●到達目標 (Objectives)

1. 放射線の基本的な性質を述べられる。
2. 物体の運動を数式で表すことができる。
3. 物体が受ける力を見つけられ、物体の運動方程式を立てられる。
4. 身近な力を数式で表すことができる。
5. エネルギーや運動量についてその概念を説明できる。
6. 波の性質を理解し、それを数式で表すことができる。
7. 電場と磁場についてその概念を説明できる。

(6. 7. については時間の関係で省略する場合もある)

●授業計画 (Schedule)

4/23～5/28（5/14を除く） 1コマ 講義 ＋ 1コマ 演習
6/4, 11 1コマ 講義＋演習
6/18に試験を予定しています。

●成績評価の方法 (Grading scheme) 評価 （ 筆記試験, レポート, その他 ）

再評価 （ 有・無 ）

原則として試験で評価する。平常点を評価に加味することもある。

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

教科書：「まるわかり！ 基礎物理」栗子 研著 南山堂 (2011年)
参考書：「Primary 大学テキスト これだけは押さえたい！ 物理」金原粲編著 実教出版
「アドバンシング物理 新しい物理入門」 J.オグボーン・M.ホワイトハウス著 笠耐監訳 丸善
「基礎固め 物理」 澤田 肇著 化学同人
「高校の物理が根本からわかる本 力学編」 鈴木誠治著 中経出版 など

なお、授業についての連絡、授業・宿題のポイント等については、下記の web page を参照のこと。
「物理の扉2013」 (http://members.jcom.home.ne.jp/chiba.tks/ 教養部の web page［物理］の履修者のページからたどれます)

科　目　名 （英　訳）	**物理学入門（b）** Introduction to Physics (b)	開講学期 曜日・時限	前期 火曜日 １・２時限 （第２週～第４週） １時限 （第６週～第１１週）
対象学年	１年生	単位数	１単位
受講資格	医学科（入試で生物・化学を選択した者）	募集人数	
担当教員	水谷　雅志		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

物理学は自然科学の中で最初に成立し（力学）、他の自然科学（特に化学、天文学）と相互に刺激し合いながら発展し、現代の「分子・原子、エネルギー」に基づく自然観を確立しました。近年、それは「分子生物学」の成立を促し、分野横断的な自然の理解は益々進んでいます。この授業は、このように分野の相互関係を深める自然科学を理解するための物理学入門講義です。この授業では前期に平行して開講される「物理学（力学b）」を補うべく、「力学」を中心に学びます。入学前に課されたレポートの結果や受講者の高校での履修状況を考慮して、受講者の理解がなされていない分野を重点的に講義し、演習も適宜取り入れていきます。余裕があれば、熱力学などの力学以外の分野や、トピック的な話題を取り上げる予定です。

●授業の目的 (Primary goal)

高校物理での不足を補って、大学での物理の学習に備えること。

●到達目標 (Objectives)

１．物体の運動の記述方法を学び、位置、速度、加速度を求めることができる。
２．物体が受ける力を見つけられ、物体の運動方程式を立式できる。
３．典型的な力学現象を運動方程式を解くことで解析できる。
４．仕事とエネルギーの概念を理解し、その間の関係式を立式でき、それらを用いて力学現象を解析できる。
５．力積と運動量の概念を理解する。運動量保存則を用いて力学現象を解析できる。

●授業計画 (Schedule)

１．初めに、物理量、単位（第1章）
２．物体の運動（１）（第3章　3-1）
３．力のつり合い（１）（第2章）
４．力のつり合い（２）（第2章　2-3）
５．力と運動（第4章）
６．物体の運動（２）（第4章、第3章　3-2）
７．等速円運動と単振動（１）（第5章　5-1 ）
８．等速円運動と単振動（２）（第5章　5-2）
９．仕事とエネルギー（１）（第6章）
10．仕事とエネルギー（２）（第6章）
11．力積と運動量（１）（プリント配布）
12．力積と運動量（２）（プリント配布）

（上記カッコ内は使用教科書の章）

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（有・無）

定期試験（100%）で決めます。授業参加度や課題提出などを平常点として加味することもあります。

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

教科書：「Primary　大学テキスト　これだけは押さえたい！　物理」金原粲編著　実教出版
参考書：「まるわかり！基礎物理」時政孝行、栞子研著　南山堂、「アドバンシング物理　新しい物理入門」　J.オグボーン・M.ホワイトハウス著　笠耐監訳　丸善、「基礎固め　物理」　澤田　肇著　化学同人、「高校の物理が根本からわかる本　力学編」　鈴木誠治著　中経出版　など。

科 目 名 （英 訳）	生物学入門 An Introduction to Biology	開講学期 曜日時限	前期 火曜日１～４時限 （第２週～４週）
対象学年	１年生	単 位 数	１単位
受講資格	医学科・歯学科・検査技術学専攻（入試で生物を選択しなかった者）	募集人員	
担当教員	産賀　崇由、中野　真樹		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

この授業では、入学試験で生物学を選択しなかった学生あるいは高等学校で生物学を履修せずに入学した学生を対象とする。生物学の基礎的知識に加えて、生物学と医療との結びつきについて具体例を挙げて説明する。

●授業の目的　(Primary goal)

生物の構造上および機能上の単位である細胞に関する基本的な知識を習得する。また、代謝と遺伝の仕組みを理解し、これらの異常が疾患の原因になることを理解する。

●到達目標　(Objectives)

1. 細胞の基本構造と細胞内小器官の機能を説明することができる。
2. 生物を構成する物質の種類と機能を説明することができる。
3. 代謝と遺伝の仕組みを説明することができる。
4. 生物学と医療との結びつきについて具体例を挙げて説明することができる。

●授業計画　(Schedule)

第　1回　細胞（1）－ 細胞の構成
第　2回　細胞（2）－ 生体膜、細胞骨格
第　3回　生物の構成成分（1）－ 構成元素、タンパク質、糖質
第　4回　生物の構成成分（2）－ 脂質、核酸
第　5回　酵素と代謝（1）－ 酵素反応、糖代謝
第　6回　酵素と代謝（2）－ アミノ酸・脂質・核酸代謝
第　7回　遺伝（1）－ メンデルの法則
第　8回　遺伝（2）－ 遺伝の多様性、ヒト遺伝学
第　9回　遺伝（3）－ 遺伝子と形質
第 10 回　遺伝子複製と発現（1）－ DNA の複製、転写、翻訳
第 11 回　遺伝子複製と発現（2）－ DNA 構造変化による遺伝子発現の調節
第 12 回　遺伝子複製と発現（3）－ DNA 損傷と修復機構

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価（ 筆記試験, レポート, その他：出席 ）

再評価（ 有・無 ）

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

【教科書】

「生物学の基礎ー生き物の不思議を探るー」　和田勝 著　東京化学同人
必要に応じて関連資料を配布する。

【参考書】

「イラスト生化学・分子生物学」　前野正夫、磯川桂太郎 著　羊土社
「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学　第２版」　和田勝 著　羊土社
「Essential 細胞生物学　第２版」　Bruce Alberts 他 著　中村桂子 他 訳　南江堂

科 目 名 （英 訳）	生物学入門 A/B An Introduction to Biology A/B	開講学期 曜日時限	前期 月曜日４時限
対象学年	１年生	単 位 数	１単位
受講資格	看護学専攻・口腔保健学科	募集人員	
担当教員	松本　幸久		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

生物は細胞から成り、細胞の機能によって生命現象が発現される。この授業では、細胞の構造と機能、遺伝情報について説明する。同時に、細胞の構造と機能の異常が疾患の原因となることを具体例を挙げて説明する。

●授業の目的　(Primary goal)

細胞の構造を理解する。遺伝子発現と酸素呼吸を分子レベルで理解する。さらに、これらの基本的な知識を活用することによって、ある種の疾患の原因を説明できることを理解する。

●到達目標　(Objectives)

1. 細胞を構成する細胞小器官と細胞膜の構造と機能を説明することができる。
2. 遺伝および遺伝子とは何か、説明することができる。
3. 遺伝子発現機構と転写調節機構を分子レベルで説明することができる。
4. 代謝とは何か、説明することができる。
5. 酸素呼吸の意義とその反応過程を説明することができる。

●授業計画　(Schedule)

第 1回　生物とは？ – 生命現象、多細胞生物の構造とその階層性（器官、組織、細胞）
第 2回　細胞の構造 – 細胞小器官の構造と機能
第 3回　生体膜の構造と機能
第 4回　細胞を構成している物質の種類と機能 – タンパク質、糖、脂質、核酸
第 5回　遺伝 – メンデルの法則、遺伝子の連鎖、染色体の乗換え
第 6回　遺伝子の化学構造、遺伝子の複製
第 7回　遺伝子発現機構 – 転写、RNA スプライシング、翻訳
第 8回　中間試験
第 9回　転写調節機構
第 10 回　DNA 損傷と修復機構
第 11 回　遺伝子発現メカニズムの異常と疾患
第 12 回　遺伝子操作技術の医療への応用
第 13 回　代謝 – 生体内での化学反応、酵素、エネルギー変換
第 14 回　酸素呼吸の概要と ATP 合成
第 15 回　酸素呼吸を構成する反応系 - 解糖系、クエン酸（TCA）回路、電子伝達系

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価（ 筆記試験, レポート, その他：出席 ）

再評価（ 有・無 ）

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

【教科書】　「医療・看護系のための生物学」　田村隆明 著　裳華房（2010 年）
必要に応じて関連資料を配布する。

【参考書】　「改訂第 2 版 はじめの一歩のイラスト生化学・分子生物学」　前野正夫、磯川桂太郎 著　羊土社（2008 年）
「やさしい基礎生物学」　南雲保 編　羊土社（2011 年）

科 目 名 （英 訳）	**化学入門** Introduction of Chemistry	開講学期 曜日・時限	前期　火曜日１～４時限 （第２週～４週）
対象学年	１年生	単 位 数	１単位
受講資格	医学科、歯学科　検査技術専攻で入試で化学を選択しなかった者	募集人数	
担当教員	勝又　敏行　（奈良　雅之）		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

入試で化学を選択しなかったものに対し、高校卒業レベルの化学の知識を身につけるために開講する。高校レベルの化学を理解していないと、学部レベルはもちろん、大学教養レベルの化学（一般化学、化学実験など）すらついていけなくなるであろう。この授業では物理化学の基礎の他に、無機化学、有機化学の基礎も扱う。

●授業の目的　(Primary goal)

高校までの化学を復習し、化学、化学実験の受講するうえでの前提になる基礎知識を習得することを目的とする。

●　到達目標　(Objectives)

高校卒業レベルの化学の知識を身につけ、大学での講義に対応できるようになることを目標とする。

●　授業計画　(Schedule)

1. 物質の構造　物質の構成要素：元素・単体・化合物、原子と分子
   化学結合、化学量論：原子量・分子量・式量、化学反応式
2. 物質の状態　物質の状態変化と粒子の運動：物質の三態・蒸発熱・融解熱と沸点・融点、
   気体：気体定数と状態方程式・理想気体と実在気体、
   溶液：溶液の濃度と溶解度・希薄溶液の性質、コロイド
3. 物質の変化　化学反応と熱：熱化学方程式・結合エネルギー、
   酸と塩基の反応：水素イオン濃度とpH・中和反応と中和滴定、
   酸化還元反応、化学反応の速さと化学平衡
4. 単体と無機化合物　周期表と元素の分類、典型元素、遷移元素
5. 有機化合物　有機化合物の特徴と分類、脂肪族炭化水素、酸素を含む脂肪族化合物、芳香族化合物
6. 高分子化合物　高分子化合物の特徴と分類、天然物高分子化合物、合成高分子化合物

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（有・無）

出席状況、試験（小テスト含む）の合計で総合評価する。

●　教科書および参考書　(Textbooks and materials)

教科書：　大学生のための例題で学ぶ化学入門　大野公一、村田滋、錦織紳一　著 2005 年発行

参考図書：臨床検査学講座　化学　岡崎三代、奈良雅之　著　医歯薬出版株式会社　2005 年発行
大学生のための基礎シリーズ 3　「化学入門」下井守、村田滋　著　東京化学同人　2005 年発行
化学入門　大野公一ほか　著　共立出版　1997 年発行

科　目　名 （英　訳）	数学（微積分M） Mathematics (Calculus M)	開講学期 曜日・時限	前期 月曜日３時限
対象学年	１年生	単位数	線形代数と合わせて２単位
受講資格	医学科	募集人数	
担当教員	中口悦史		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

高校でもすでに学んだ微積分を改めて，極限操作に基づく数学の体系の基礎として，多変数の微積分まで範囲を広げて，物理学，化学，経済学など諸分野における応用を含めて学ぶ。板書による講義と演習を交えながら授業を進め，毎回１題の演習問題の時間を設ける。

●授業の目的 (Primary goal)

極限操作の理論の基礎としての微分積分学を学び，科学の基礎としての数学の重要性を認識する。

●到達目標 (Objectives)

１変数および多変数の微積分における基本的な公式を理解し，的確に運用することができる。

●授業計画 (Schedule)

第１回　ガイダンス，実数の性質と集合
第２回　数列と級数，極限，級数の収束判定法
第３回　関数と連続性，連続関数の性質，主な初等関数
第４回　微分の定義と諸公式，関数の増減と極値
第５回　平均値の定理，Taylorの定理，Maclaurin展開
第６回　関数の凸性，逆関数の微分法，不定形の極限
第７回　２変数の空間の集合と位相，２変数関数と連続性
第８回　偏微分の定義，２変数関数の平均値の定理，全微分
第９回　合成関数の微分・偏微分，陰関数定理，極値問題
第１０回　定積分の定義，積分の平均値の定理，不定積分と原始関数，微積分学の基本定理
第１１回　置換積分法，部分積分法，Taylorの定理（積分形の剰余項），不定積分の計算法
第１２回　広義積分の定義と収束判定法，ガウス積分の収束性，ガンマ関数とベータ関数
第１３回　２変数関数の重積分の定義，逐次積分法
第１４回　広義の重積分，重積分の変数変換
第１５回　線積分と面積分

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価　（　筆記試験，レポート，その他　）

再評価（有・無）

期末試験（８０%）と授業中の演習（２０%）により総合的に評価する。
ただし出席が所定の回数に満たないものには単位を認めない。

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

教科書：高木貞治『定本　解析概論』岩波書店，2010年。
演習書：寺田・坂田・斎藤『演習　微分積分』サイエンス社，1975年。
参考書：難波誠『数学シリーズ　微分積分学』裳華房，1996年。
E.ハイラー，G.ワナー『解析教程　上／下』シュプリンガーフェアラーク東京，1997年。
森毅『現代の古典解析』ちくま学芸文庫，2006年。
竹縄知之『コア・テキスト微分積分』サイエンス社，2009年。

科　目　名 （英　訳）	数学（微積分Ｄ） Mathematics (Calculus D)	開講学期 曜日・時限	前期 水曜日１時限
対象学年	１年生	単位数	線形代数と合わせて２単位
受講資格	歯学科	募集人数	
担当教員	中口悦史		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

高校でもすでに学んだ微積分を改めて，極限操作に基づく数学の体系の基礎として，多変数の微積分まで範囲を広げて，物理学，化学，経済学など諸分野における応用を含めて学ぶ。板書による講義と演習を交えながら授業を進め，毎回１題の演習問題の時間を設ける。

●授業の目的　(Primary goal)

極限操作の理論の基礎としての微分積分学を学び，科学の基礎としての数学の重要性を認識する。

●到達目標　(Objectives)

１変数および多変数の微積分における基本的な公式を理解し，的確に運用することができる。

●授業計画　(Schedule)

第１回　ガイダンス，実数の性質と集合
第２回　数列と級数，極限，級数の収束判定法
第３回　関数と連続性，連続関数の性質，主な初等関数
第４回　微分の定義と諸公式，関数の増減と極値
第５回　平均値の定理，Taylorの定理，Maclaurin展開
第６回　関数の凸性，逆関数の微分法，不定形の極限
第７回　２変数の空間の集合と位相，２変数関数と連続性
第８回　偏微分の定義，２変数関数の平均値の定理，全微分
第９回　合成関数の微分・偏微分，陰関数定理，極値問題
第１０回　定積分の定義，積分の平均値の定理，不定積分と原始関数，微積分学の基本定理
第１１回　置換積分法，部分積分法，Taylorの定理（積分形の剰余項），不定積分の計算法
第１２回　広義積分の定義と収束判定法，ガウス積分の収束性，ガンマ関数とベータ関数
第１３回　２変数関数の重積分の定義，逐次積分法
第１４回　広義の重積分，重積分の変数変換
第１５回　線積分と面積分

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験，レポート，　その他　）

再評価（有・無）

期末試験（８０％）と授業中の演習（２０％）により総合的に評価する。
ただし出席が所定の回数に満たないものには単位を認めない。

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

教科書：難波誠『数学シリーズ　微分積分学』裳華房，1996年。
演習書：寺田・坂田・斎藤『演習　微分積分』サイエンス社，1975年。
参考書：高木貞治『定本　解析概論』岩波書店，2010年。
E. ハイラー，G. ワナー『解析教程　上／下』シュプリンガーフェアラーク東京，1997年。
森毅『現代の古典解析』ちくま学芸文庫，2006年。
竹縄知之『コア・テキスト微分積分』サイエンス社，2009年。

科　目　名 （英　訳）	数学（線形代数） Mathematics (Linear Algebra)	開講学期 曜日・時限	後期 木曜日１・２時限
対象学年	１年生	単位数	微積分と合わせて２単位
受講資格	医学科、歯学科	募集人数	
担当教員	清田　正夫		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

諸科学の基本的な数学的方法である線形代数学の考え方と計算法、及びその応用を学ぶ。
具体的な計算を通して、連立１次方程式の解法、行列式、一次独立性、固有値等の基礎概念を理解していく。
最後に理論体系としての線形空間と線形写像を学ぶ。

板書による講義と演習を交えながら授業を進め、数回に１回の割合で演習のみを行う時間を設ける。

●授業の目的 (Primary goal)

線形演算に基づく数学的構造を理解し、基礎理論としての数学の重要性を認識する。

●到達目標 (Objectives)

基本的な線形演算を理解する。

●授業計画 (Schedule)

第１回～第２回：行列の定義と演算
第３回～第４回：連立１次方程式
第５回～第６回：逆行列の計算、同次連立１次方程式
第７回～第８回：行列式の定義と性質
第９回～第 10 回：行列式の計算、クラメルの公式
第 11 回～第 12 回：線形空間、ベクトルの１次独立性
第 13 回～第 14 回：線形写像と固有値
第 15 回：まとめ

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（有・無）

定期試験（８０%）と演習（１０%）と出席状況（１０%）により評価する。

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

村上他『教養の線形代数』（培風館、五訂版発行 2010 年）

科　目　名 （英　訳）	**数学基礎** Primary Mathematics	開講学期 曜日・時限	前期 木曜日３時限
対象学年	１年生	単位数	１単位
受講資格	検査技術学専攻	募集人数	
担当教員	中口　悦史		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

高校でもすでに学んだ微積分を改めて，極限操作に基づく数学の体系の基礎として，多変数の微積分まで範囲を広げて，物理学，化学，経済学など諸分野における応用を含めて学ぶ。板書による講義と演習を交えながら授業を進め，毎回１題の演習問題の時間を設ける。

●授業の目的 (Primary goal)

極限操作の理論の基礎としての微分積分学を学び，科学の基礎としての数学の重要性を認識する。

●到達目標 (Objectives)

１変数および多変数の微積分における基本的な公式を理解し，的確に運用することができる。

●授業計画 (Schedule)

第１回　ガイダンス，実数の性質と集合
第２回　数列と級数，極限，級数の収束判定法
第３回　関数と連続性，連続関数の性質，主な初等関数
第４回　微分の定義と諸公式，関数の増減と極値
第５回　平均値の定理，Taylorの定理，Maclaurin展開
第６回　関数の凸性，逆関数の微分法，不定形の極限
第７回　２変数の空間の集合と位相，２変数関数と連続性
第８回　偏微分の定義，２変数関数の平均値の定理，全微分
第９回　合成関数の微分・偏微分，陰関数定理，極値問題
第１０回　定積分の定義，積分の平均値の定理，不定積分と原始関数，微積分学の基本定理
第１１回　置換積分法，部分積分法，Taylorの定理（積分形の剰余項），不定積分の計算法
第１２回　広義積分の定義と収束判定法，ガウス積分の収束性，ガンマ関数とベータ関数
第１３回　２変数関数の重積分の定義，逐次積分法
第１４回　広義の重積分，重積分の変数変換
第１５回　線積分と面積分

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価　（　筆記試験，レポート，その他　）

再評価（有・無）

期末試験（８０％）と授業中の演習（２０％）により総合的に評価する。
ただし出席が所定の回数に満たないものには単位を認めない。

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

教科書：岡安・吉野・高橋・武元『微分積分学入門』裳華房，1988年。
演習書：寺田・坂田・斎藤『演習　微分積分』サイエンス社，1975年。
参考書：難波誠『数学シリーズ　微分積分学』裳華房，1996年。
森毅『現代の古典解析』ちくま学芸文庫，2006年。
竹縄知之『コア・テキスト微分積分』サイエンス社，2009年。

科　目　名 （英　訳）	**統計学** Statistics	開講学期 曜日・時限	前期 月曜日 ５時限（口腔） 木曜日 ３時限（看護）４時限（検査）
対象学年	１年生	単位数	１単位
受講資格	保健衛生学科、口腔保健学科	募集人数	
担当教員	清田 正夫		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)
自然現象や社会現象の解明に有用な統計的方法を理解するため、統計学の基本概念と応用上の手法を学ぶ。

●授業の目的 (Primary goal)
確率論の初歩と統計学の基礎に関する理解を深める。

●到達目標 (Objectives)
基本的な確率分布を理解して、確率計算を実行できる。平均値および比率の推定と検定を行なうことができる。

●授業計画 (Schedule)

第　１回　標本データの記述
第　２回　確率と標本空間
第　３回　ベイズの定理と確率分布
第　４回　２項分布と正規分布
第　５回　正規近似と中心極限定理
第　６回　母集団と標本抽出
第　７回　中間試験
第　８回　平均値の推定
第　９回　比率の推定
第１０回　推定とt-分布
第１１回　平均値の検定
第１２回　比率の検定
第１３回　検定とt-分布
第１４回　総合演習１
第１５回　総合演習２

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（有・無）

中間試験（３０％）、定期試験（６０％）、出席点（１０％）により評価する。

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)
臨床検査学講座　「数学／統計学」（医歯薬出版、初版発行2005年）

科 目 名 (英 訳)	物理学（力学ａ） Physics (Mechanics a)	開講学期 曜日・時限	前期 月曜日５時限
対象学年	１年生	単位数	２単位（電磁気学ａと合わせて）
受講資格	別記	募集人数	
担当教員	千葉　司		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

この授業では、物理学の中で基礎として大切な「力学」と「電磁気学」のうち「力学」を取り上げます。

1. 授業に集中し、復習で確認をしてください。
   授業で十分に理解してしまえば、復習のための時間はそれほどかかりません。
2. 疑問点はでき得る限り授業中、授業後に質問して解消しておくこと。
3. 板書で不足した事柄は web page（主として「物理の扉 2013」）の補足説明を参照すること。
4. 毎回演習の宿題を課します(予定)。先ず自分でやってみる。わからなかったら友達に聞いてみる。教え合うことで理解がさらに深まります。ただ答えを写すだけでは、何の勉強にもなりません。
5. 知識の確認と定着には数多くの演習問題を解いてみることが有効です。教科書の課題、章末問題や演習問題集をまず自力で解いてみること。つぎに解説を読んでもう一度考えてみる。疑問点があれば、質問に来ること。

高校で物理を選択しなかった人、入試(センター試験 or ２次試験)で物理を選択しなかった人には、「物理学入門(a)」（前期火曜：受講資格あり）の授業が平行して行われますので、あわせて活用して下さい。

●授業の目的 (Primary goal)

さまざまな観測データから仮説を立て、実験で検証し、法則を導き、そしてその法則を通して自然を理解するという物理的なものの見方や物理的な考え方を学ぶ。

●到達目標 (Objectives)

下記の授業計画で挙げている各項目について理解すること。

●授業計画 (Schedule)

主な内容は、以下の通りです。

1. 位置と速度：物理量　単位　有効数字　時間と空間　質点　位置と座標　速さ　速度　<微分>　<積分>
2. 加速度：慣性の法則　加速度　等加速度運動　放物運動
3. 運動方程式と力：力とは　力の分類　力の表し方　力の合成と分解　力のつり合い　運動方程式
   質量と重さ　重力　位置ベクトル　変位ベクトル　作用・反作用の法則　運動方程式の応用
   抵抗力を受けた物体の運動　<微分方程式>
4. 等速円運動：加速度と力　慣性力
5. エネルギーと運動量：運動量の変化　力積　仕事　運動エネルギー　保存力とポテンシャル
   力学的エネルギー保存則　運動量保存則　衝突　２体問題　重心　<偏微分>
6. 単振動：位相　振幅　周期　単振動　減衰振動　強制振動
7. 回転運動と剛体：てこの原理　トルク(力のモーメント)　回転運動の方程式　慣性モーメント　面積速度
   角運動量　<外積>

(7. については時間の関係で省略する場合もある)

6/10 と 7/30 の２回、試験を予定しています。

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（有・無）

原則として2回の試験の平均点で評価する。平常点を評価に加味することもある。
なお、最終成績は後期の「物理学（電磁気学ａ）」の成績との総合評価となる。

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

教科書： 和田純夫「グラフィック講義　力学の基礎」(サイエンス社 2011 年)

参考図書： 原康夫・右近修治「物理学演習問題集 力学編」(学術図書) 金原ほか「基礎物理１－運動・力・エネルギー」(実教出版)　ハリディほか「演習・物理学の基礎［1］力学」(培風館)など

科　目　名 （英　訳）	物理学（力学b） Physics(Mechanics b)	開講学期 曜日・時限	前期 月曜日５時限
対象学年	１年生	単位数	２単位（電磁気学bと合わせて）
受講資格	別記	募集人数	制限なし
担当教員	水谷　雅志		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

物理学ー中でも力学ーは自然科学の中でもっとも早く誕生し、強力な予言能力によって、その考え方や方法論は他の自然科学の雛形となりました。その意味でも、将来必ずしも物理学に直接関わらない皆さんにも物理学の知識と方法を「力学」を通して学ぶ意味があると考えます。その方法は、現象の本質を記述する「モデル」を作り、何からからも導かれない少数の基本法則(これは微分方程式という形で表される)を出発点として、これを解いたり、運動方程式を積分して得られるさまざまな法則（多くは保存則）を導いたりして，自然現象を解明していくというものです。そこには「分析」と「総合」という自然科学の典型的な考え方が含まれています。

授業は受講生層を考慮し、講義中心としますが、上記の方法を身につけるための演習問題を課題として出題します（Webclass利用）。また、講義は「高校課程の物理（力学）を理解できていることを基本としますので、高校物理未履修者や生物受験者に対しては「物理学入門b」が先行または平行して講義されます。

●授業の目的　(Primary goal)

力学を学び，力学現象を解析することから，自然科学の典型的な方法論と力学的感覚を身につけること。

●到達目標　(Objectives)

１．質点の運動方程式を正しく立てられ、微分方程式として解ける。
２．運動方程式から様々な保存則を導き、適用範囲を理解して，運動の解析ができる。
３．多体系や剛体の運動方程式が正しく与えられ、それらの運動の解析ができる。
４．上記のことを通して、自然科学の典型的な考え方を理解し、力学現象に対する感覚を身につける。

●授業計画　(Schedule)

１．初めに、次元と単位、有効数字、1次元運動
２．ベクトルの内積と微積分、2次元・3次元運動
３．運動の3法則、いろいろな力
４．微分方程式と重力下での運動
５．抵抗力を受ける運動
６．束縛運動、円運動
７．単振動
８．仕事、仕事率、運動方程式のエネルギー積分
９．ポテンシャルエネルギー、力学的エネルギー保存則
１０．角運動量と力のモーメント、角運動量保存則
１１．2体問題、天体の運動
１２．多体系の運動と剛体のつりあい
１３．慣性モーメントと固定軸まわりの剛体の運動
１４．剛体の平面運動

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験，レポート，　その他　）

再評価（有・無）

定期試験(100%)で評価します。授業参加度や課題などを考慮する場合もあります。

教科書および参考書　(Textbooks and materials)

教科書：「ライブラリ新・基礎物理学　新・基礎力学　永田一清著　サイエンス社」

参考書：「ライブラリ新・基礎物理学　新・基礎力学演習　永田一清他著　サイエンス社」「初歩から学ぶ力学」　巨海玄道他著　陪風館、「工学基礎　物体の運動」　森田博昭他著　学術図書出版社、「物理学の基礎[1]力学」　ハリディ，レスニック，ウォーカー共著　培風館、「大学生のための基礎シリーズ4　物理学入門　I. 力学（第２版）」　市村宗武，狩野覚共著　東京化学同人　、「考える力学」　兵頭俊夫著　学術図書出版社、「物理学序論としての力学」　藤原邦男著　東京大学出版会 など，

科　目　名 （英　訳）	物理学（力学c） Mechanics　c	開講学期 曜日・時限	前期 月曜日５時限
対象学年	１年生	単位数	２単位（電磁気学cとあわせて）
受講資格	別記	募集人数	制限なし
担当教員	越野　和樹		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

ボールの運動から太陽のまわりを回る惑星の運動にいたるまで、我々の身の回りで見られる殆どの運動は、１７世紀にニュートンによりまとめられた「ニュートン力学」によって定量的に説明できます。ニュートン力学によれば、運動方程式や万有引力の法則などの数個の基本法則に基づいて、あらゆる物理現象を統一的かつ定量的に説明することができます。また、基本法則を発展させることによって、エネルギー保存のような新しい概念を導出することができます。力学を学ぶことによって、物体の運動の基本法則を知ると同時に、基本法則に基づいて物理現象を理解しようとする考え方や、基本法則をどのように具体的事象に適用してゆくかを学びます。具体的には、（ｉ）物体の運動が微分方程式という言葉で表現されること、（ii）基本方程式から様々な保存則が導かれること、（iii）それらを適用して実際の物体の運動を予言すること、を学びます。

物理学では、これまでに積み重ねられてきた知識は、抽象的な「法則」としてまとめられており、教科書や講義ではそれらの法則を中心に学びます。一方、自分自身で実際に手を動かして、これらの抽象的法則を様々な具体的対象に適用してみることにより、物理学に対する理解は格段に深まります。本科目では、講義中に数多くの演習問題を用意しますから、講義の場でそれらを解き、講義時間のうちに内容を理解することを目指して下さい

●授業の目的　(Primary goal)

ニュートン力学の提供する世界観を理解し、その現実系への適用技法に熟達すること。

●到達目標　(Objectives)

- 物体の運動が微分方程式という言葉で表現されることを理解する。
- 基本方程式から様々な保存則を導出する。
- 運動方程式や保存則を適用して実際の物体の運動を予言できるようになる。

●授業計画　(Schedule)

１．運動の数学的表現
（1）質点、変位ベクトル、座標変換　（2）速度、加速度
２．運動方程式と保存則
（1）運動方程式（2）運動量保存則、エネルギー保存則
３．さまざまな運動
（1）単振動（2）束縛運動（3）衝突と２体問題（4）惑星の運動（5）非慣性系での運動
４．剛体の運動
（1）剛体の運動方程式（2）剛体の平面運動（3）自由空間の剛体系

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（有・無）

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

教科書：裳華房テキストシリーズ - 物理学　力学：川村清著（裳華房）

科 目 名 （英 訳）	**物理学（電磁気学a）** Physics (Electromagnetism a)	開講学期 曜日・時限	後期 月曜日５時限
対象学年	１年生	単位数	２単位（力学ａと合わせて）
受講資格	別記	募集人数	
担当教員	千葉 司		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

この授業では、物理学の中で基礎として大切な「力学」と「電磁気学」のうち「電磁気学」を取り上げます。

1. 授業に集中し、復習で確認をしてください。
   授業で十分に理解してしまえば、復習のための時間はそれほどかかりません。
2. 疑問点はでき得る限り授業中、授業後に質問して解消しておくこと。
3. 板書で不足した事柄は web page (主として「物理の扉 2013」) の補足説明を参照すること。
4. 毎回演習の宿題を課します(予定)。先ず自分でやってみる。わからなかったら友達に聞いてみる。教え合うことで理解がさらに深まります。ただ答えを写すだけでは、何の勉強にもなりません。
5. 知識の確認と定着には数多くの演習問題を解いてみることが有効です。教科書の課題、章末問題や演習問題集を先ず自力で解いてみること。つぎに解説を読んでもう一度考えてみる。疑問点があれば、質問に来ること。

●授業の目的 (Primary goal)

電磁気学の基本的事項を理解し、それを応用できるようにすること。交流回路の基礎的事項を理解し、それを応用できるようにすること。

●到達目標 (Objectives)

下記の授業計画で挙げている各項目について理解すること。

●授業計画 (Schedule)

1. 直流回路・交流回路： 電荷　電流　電気抵抗　オームの法則　ジュール熱　キルヒホッフの法則
   コンデンサー　過渡現象　コイル　交流　複素インピーダンス
2. 静電場と電位： クーロンの法則　電場　電気力線　ガウスの法則　電位　導体　静電誘導　静電遮蔽
   電気容量(静電容量)　静電エネルギー　誘電分極
3. 電流と静磁場： 磁束線　アンペールの法則　ビオ・サバールの法則　フレミングの法則　ローレンツ力
4. 電磁誘導： ファラデーの電磁誘導の法則　レンツの法則　誘導起電力　自己誘導　磁気エネルギー
5. マクスウェルの方程式と電磁波

(5. については時間の関係で省略する場合もある)

11/25 と 2/3 の２回、試験を予定しています。

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（有・無）

原則として2回の試験の平均点で評価する。平常点を評価に加味することもある。

なお、最終成績は前期の「物理学（力学ａ）」の成績との総合評価となる。

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

教科書： 和田純夫　「グラフィック講義　電磁気学の基礎」（サイエンス社 2011 年）

参考図書： 梶谷　剛ほか　「電磁気学」（実教出版）、ハリディほか　「物理学の基礎[３]電磁気学」（培風館）、高重正明　「スタンダード　電磁気学」（裳華房）、十河・和達・出口　「ゼロからの電磁気学Ⅰ、Ⅱ」（岩波書店）、阿部龍蔵　「はじめて学ぶ電磁気学」（サイエンス社）、竹内淳　「高校数学でわかるマクスウェル方程式」（BLUE BACKS、B1383）ほか

なお、授業についての連絡、授業/宿題のポイント等については、下記の web page を参照のこと。

「物理の扉2013」（http://members.jcom.home.ne.jp/chiba.tks/　教養部の web page［物理］の履修者のページからたどれます）

科　目　名 （英　訳）	物理学（電磁気学b） Physics(Electromagnetism b)	開講学期 曜日・時限	後期 月曜日５時限
対象学年	１年生	単位数	２単位（力学ｂと合わせて）
受講資格	別記	募集人数	制限なし
担当教員	水谷　雅志		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

「電磁気学」は「力学」や「熱力学」などと共に物理学の基礎を形成します。目に見えない電磁気現象も実は非常に身近なものです。例えば、日常経験で働いている力は突き詰めると電気力であり、物質や細胞を形作る原因も電気力です。人体は、脳から発せられ神経細胞を伝わって体の各部位に流れる電気信号によって動いています。実験や臨床の現場で使われる測定器のほとんどは電磁気学を基礎にして動いているはずです。また、私達の身の回りに溢れている電化製品の動作原理の基礎は電磁気学です。これらの原理を理解するための基礎となる考え方を解説していきます。

この講義では、幾つかの電磁気現象から電磁気学の基本法則であるマクスウェル方程式を導出して、その過程でいろいろな電磁気現象を解明していきます。扱う現象は高校物理と余り変わらないものもありますが、「場」をより本格的に扱うことで、高校物理を論理的に捉える直す事になり、認識を新たにしなければならない点も学びます。それによって、高校物理では解明できなかった現象も扱えるようになります。また、演習は不可欠なので、演習課題を課します。なお、質問、連絡、課題、補足説明などはwebclassを使います。

生物受験者は高校で電磁気分野の学習が不十分だと思われますので、前期「物理学入門」の教科書の予習などを課す場合があります。なお、「S・電磁気学演習」が苦手、未履修で演習を補いたい人のために開講されますので履修を勧めます。

●授業の目的　(Primary goal)

電磁気学のマックスウェルの方程式を学び、それを用いて電磁気現象を解析でき、感覚を身につけること。

●到達目標　(Objectives)

１．静電場や静電ポテンシャルの法則を理解し、電場、静電ポテンシャルを求められる。
２．導体の静電的性質を理解するとともに、コンデンサーの電気容量などが計算できる。
３．定常電流が作る静磁場の法則を理解し、磁場をビオサバールの法則やアンペールの法則から求められる。
４．時間変動する電磁場の法則を理解し、起電力などを計算できる。電磁場のマクスウェル方程式を理解する。
５．直流や交流の電気回路について理解、解析ができる。

●授業計画　(Schedule)

１．初めに、クーロンの法則	２．電場
３．ガウスの法則	４．ガウスの法則の応用例
５．静電ポテンシャル(電位)	６．導体 とコンデンサー
７．定常電流と直流回路	８．電流と磁場
９．ローレンツ力	10．アンペールの法則
11．電磁誘導	12．インダクタンス
13．電磁場のマクスウェル方程式	14．交流回路

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（有・無）

定期試験(100%)で評価します．授業参加度や課題提出などを考慮する場合もあります．

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

教科書：「ライブラリー新・基礎物理学2　新・基礎電磁気学」佐野元昭著　サイエンス社
参考書：「自然を見る目を育てる　電磁気学の初歩」小田垣孝著　培風館、「ベーシック電磁気学」河辺哲次著　裳華房、「裳華房　テキストシリーズ　電磁気学」兵頭俊夫著　裳華房、「Primary　大学テキスト　これだけは押さえたい！　物理」金原粲編著　実教出版、「物理学の基礎[3]電磁気学」ハリディ・レスニック・ウォーカー著　培風館、など。

科　目　名 （英　訳）	物理学（電磁気学c） Electromagnetism　c	開講学期 曜日・時限	後期 月曜日５時限
対象学年	１年生	単位数	２単位（力学cとあわせて）
受講資格	別記	募集人数	制限なし
担当教員	越野　和樹		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

電界の基本概念、時間的に変化しない（定常的な）電荷分布とそれが作る電界との定量的な関係、自由電荷を有する導体が作る電界および導体を組み合わせたコンデンサー、電荷分布によるエネルギー、についての基本を学ぶ。さらに、磁束密度の基本概念、電流に作用する力と磁束密度との定量的な関係、定常的な電流分布とそれが作る磁束密度との定量的な関係、についての基本を学ぶ。

物理学では、これまでに積み重ねられてきた知識は、抽象的な「法則」としてまとめられており、教科書や講義ではそれらの法則を中心に学びます。一方、自分自身で実際に手を動かして、これらの抽象的法則を様々な具体的対象に適用してみることにより、物理学に対する理解は格段に深まります。本科目では、講義中に数多くの演習問題を用意しますから、講義の場でそれらを解き、講義時間のうちに内容を理解することを目指して下さい

●授業の目的　(Primary goal)

マックスウェル方程式（積分形）による電磁気学の体系を理解し，その現実系への適用技法に熟達すること。

●到達目標　(Objectives)

－「単純な電荷分布が作る電界」「電位と電界との関係」「コンデンサー」「磁束密度が電流に及ぼす力」「電流分布が作る磁束密度」といった項目について，基本的な考え方を理解し、これらに関しての応用問題を解決できるようになること。

●授業計画　(Schedule)

・電場とクーロンの法則
・ガウスの法則
・静電場と電位
・導体と静電場
・定常電流と直流回路
・誘電体と静電場
・電流の周りの磁場
・時間的に変化する場
・過渡現象と交流回路
・物質の磁気的性質
・電場・磁場のエネルギー

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験，レポート，　その他　）

再評価（　有・無　）

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

教科書：裳華房テキストシリーズ - 物理学　電磁気学：兵頭俊夫著（裳華房）

科目名 (英訳)	化学（一般化学Ⅰ・Ⅱ）（医） General Chemistry	開講学期 曜日・時限	前期・後期 水曜日１時限
対象学年	１年生	単位数	２単位
受講資格	医学科	募集人数	
担当教員	奈良　雅之・渡邊　総一郎		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

分子生物学、生物物理学の発展により、生命現象を物理、化学的な視点、考え方で理解できるようになりました。医学の分野においても病気や治療法を分子レベルで捉えられるようになり、その知識は膨大になりつつあります。医学の道を選んだ皆さんは、物理、化学の基礎をしっかり身につけていないと、生命現象を分子レベルで理解できないばかりか、医学の先端的な研究からも取り残されてしまうことになるでしょう。本科目では、大学の一般教養課程で当然学んでおくべき「化学（物理化学&有機化学）」を学習します。

通年で30コマの授業を３つのパートに分けて、Part 1では化学実験の内容を理論的に理解できるように「酸塩基平衡」を取り上げ、続いて原子・分子の構造論を取り上げることにより、ミクロ系のものの見方を学びます。

Part 2では「化学熱力学（熱力学の原理と応用）」を取り上げることにより、マクロ系のものの見方を学びます。Part 3は「有機化学」を取り上げます。授業は講義形式を基本とします。

●授業の目的 (Primary goal)　大学の一般教養課程で当然学んでおくべき「化学」（物理化学、有機化学全般）を講義と自学自習を通して習得すること。

●到達目標 (Objectives) 授業で扱った範囲に関連した「マグロウヒル大学演習　一般化学」「ハート　基礎有機化学」等の各章を理解し、かつその演習問題に取り組むことができる。

●授業計画 (Schedule)

第１回　序論　単位:SIと非SI	第２回　序論　溶液の濃度、気体の性質
第３回　酸塩基平衡の取扱い方（１）	第４回　酸塩基平衡の取扱い方（２）
第５回　酸塩基平衡の取扱い方（３）	第６回　原子構造と周期律（１）
第７回　原子構造と周期律（２）	第８回　化学結合と分子構造（１）
第９回　化学結合と分子構造（２）	第10回　Part 1の筆記試験
第11回　熱力学の原理（１）	第12回　熱力学の原理（２）
第13回　熱力学の原理（３）	第14回　熱力学の原理（４）
第15回　熱力学の原理（５）	第16回　熱力学の原理（６）
第17回　相平衡	第18回　化学平衡
第19回　電気化学	第20回　Part 2の筆記試験
第21回　アルカンとシクロアルカン	第22回　アルケンとアルキン
第23回　芳香族化合物	第24回　立体異性
第25回　有機ハロゲン化合物	第26回　アルコール、フェノール、チオール
第27回　エーテルとエポキシド	第28回　アルデヒドとケトン
第29回　カルボン酸誘導体、アミン	第30回　Part 3の筆記試験

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（有・無）

各Partの筆記試験（100点）と平常の学習態度（α点）の合計（100 + α点：最大100点まで）の平均点で評価します。ただし、3回の筆記試験のどれか１つでも受験放棄した場合は、履修放棄とみなす。

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

教科書：「マグロウヒル大学演習　一般化学」J. L. Rosenberg & L. M. Epstein（オーム社出版）1995年発行
「基礎有機化学」三訂版　H. ハート著　秋葉他訳　（培風館）2002年発行

参考図書：「フレッシュマンのための化学結合論」　M.J. Winter著、西本訳（化学同人）1996年発行
「現代有機化学（第６版）　上・下」　ボルハルト・ショアー著　古賀・野依・村橋　監訳（化学同人）2011年発行　「ウォーレン有機化学（上）」　野依・奥山・柴崎・檜山　監訳（東京化学同人）2003年発行、HGS分子模型（丸善）

科目名 (英訳)	化学（一般化学Ⅰ・Ⅱ）（歯） General Chemistry	開講学期 曜日時限	前期・後期 月曜日３時限
対象学年	１年生	単位数	２単位
受講資格	歯学科	募集人数	
担当教員	奈良　雅之・澤野　頼子		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

分子生物学、生物物理学の発展により、生命現象を物理、化学的な視点、考え方で理解できるようになりました。歯学の分野においても病気や治療法を分子レベルで捉えられるようになり、その知識は膨大になりつつあります。歯学の道を選んだ皆さんは、物理、化学の基礎をしっかり身につけていないと、生命現象を分子レベルで理解できないばかりか、歯学の先端的な研究からも取り残されてしまうことになるでしょう。本科目では、大学の一般教養課程で当然学んでおくべき「化学（物理化学&有機化学）」を学習します。

通年で30コマの授業を３つのパートに分けて、まずPart 1では化学実験の内容を理論的に理解できるように「酸塩基平衡」を取り上げ、続いて原子・分子の構造論を取り上げることにより、ミクロ系のものの見方を学びます。Part 2では「化学熱力学（熱力学の原理と応用）」を取り上げることにより、マクロ系のものの見方を学びます。Part 3では複雑な生命現象（生体内反応）の原理を理解するために「有機化学」を取り上げ、有機化合物の基本的な構造・性質・反応性に関して学びます。授業は講義形式を基本とします。

●授業の目的 (Primary goal) : 大学の一般教養課程で当然学んでおくべき「化学」（物理化学、有機化学全般）を講義と自学自習を通して習得すること。

●到達目標 (Objectives) : 授業で扱った範囲に関連した「マグロウヒル大学演習　一般化学」「ハート基礎有機化学」等の各章を理解し、かつその演習問題に取り組むことができる。

●授業計画 (Schedule)

第１回　序論　単位:SIと非SI	第２回　序論　溶液の濃度、気体の性質
第３回　酸塩基平衡の取扱い方（１）	第４回　酸塩基平衡の取扱い方（２）
第５回　酸塩基平衡の取扱い方（３）	第６回　原子構造と周期律（１）
第７回　原子構造と周期律（２）	第８回　化学結合と分子構造（１）
第９回　化学結合と分子構造（２）	第10回　Part 1の筆記試験
第11回　熱力学第一法則（１）	第12回　熱力学第一法則（２）
第13回　熱力学第一法則（３）	第14回　熱力学第二法則（１）
第15回　熱力学第二法則（２）	第16回　熱力学第二法則（３）
第17回　ギブスエネルギー	第18回　熱力学的関係式
第19回　化学ポテンシャル	第20回　Part 2の筆記試験
第21回　有機化学と電子の軌道	第22回　アルカンとシクロアルカン
第23回　アルケン	第24回　共役ジエンとアルキン
第25回　立体化学	第26回　芳香族化合物
第27回　有機ハロゲン化合物	第28回　酸素を含む有機化合物
第29回　窒素を含む有機化合物	第30回　Part 3の筆記試験

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（有・無）

各Partの筆記試験（100点）と平常の学習態度（α点）の合計（100 + α点：最大100点まで）の平均点で評価します。ただし、3回の筆記試験のどれか１つでも受験放棄した場合は、履修放棄とみなす。

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

教科書：「マグロウヒル大学演習　一般化学」J.L. Rosenberg & L.M. Epstein（オーム社）1995年発行「化学サポートシリーズ　エントロピーから化学ポテンシャルまで」渡辺啓著　（裳華房）1997年発行「ハート基礎有機化学（三訂版）」H. Hart, L.E. Craine, D.J. Hart著, 秋葉 欣哉, 奥 彬 訳（培風館）2002年発行

参考図書：フレッシュマンのための化学結合論　M.J. Winter著、西本訳（化学同人）1996年発行など

モリソン&ボイド、マクマリー、ウォーレン等有機化学、ボルハルト・ショアー　現代有機化学(2011)など

科目名 (英訳)	化学（一般化学Ⅰ・Ⅱ）（検） General Chemistry	開講学期 曜日時限	前期　水曜日１時限 後期　月曜日４時限
対象学年	１年生	単位数	２単位
受講資格	検査技術学専攻	募集人数	
担当教員	澤野　頼子・渡邊　総一郎・奈良　雅之		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

分子生物学、生物化学の発展により、生命現象が化学的な考え方、方法で理解されるようになってきました。医療系の分野も分子レベルで捉えることにより、その知識が膨大になりつつあります。医療系の道を選んだ皆さんは、化学の基礎をしっかり身につけていないと、生命現象を分子レベルで理解できないばかりでなく、医歯学の先端的な研究から取り残されてしまうことになるでしょう。特に、検査技術学専攻の皆さんは、全学生の中で最も化学の専門技術と関わるはずです。そこで、本科目では大学の一般教養課程で当然学んでおくべき「化学（有機化学&物理化学）」を学習します。

一般化学Iの15回は、複雑な生命現象（生体内反応）の原理を理解するために必要な基礎化学、有機化学を取り上げ、有機化合物の基本的な構造・性質・反応性に関して学びます。一般化学Ⅱの15回は、生化学や生理学の基礎となる生体高分子論、化学熱力学、反応速度論の分野を取り上げます。授業は講義形式を基本とします。

●授業の目的 (Primary goal)

大学の一般教養課程で当然学んでおくべき「化学」（物理化学、有機化学全般）を講義と自学自習を通して習得すること。

●到達目標 (Objectives)

授業で扱った範囲に関連した「マグロウヒル大学演習　一般化学」「ハート基礎有機化学」「臨床検査学講座　化学」等の各章を理解し、かつその演習問題に取り組むことができる。

●授業計画 (Schedule)

第１回　序論、単位、原子構造と周期律	第２回　化学結合
第３回　酸塩基	第４回　有機化学と電子の軌道
第５回　アルカンとシクロアルカン	第６回　アルケンとアルキン
第７回　芳香族化合物	第８回　立体異性
第９回　有機ハロゲン化合物	第10回　アルコール、フェノール、チオール
第11回　エーテルとエポキシド	第12回　アルデヒドとケトン
第13回　カルボン酸とその誘導体	第14回　アミンとそれに関連した窒素化合物
第15回　筆記試験	第16回　生体高分子（１）
第17回　生体高分子（２）	第18回　生体高分子（３）
第19回　生体高分子（４）	第20回　気体の性質
第21回　溶液の性質	第22回　化学平衡
第23回　熱力学第一法則（１）	第24回　熱力学第一法則（２）
第25回　熱力学第二法則（１）	第26回　熱力学第二法則（２）
第27回　熱力学的エネルギー	第28回　化学反応速度論（１）
第29回　化学反応速度論（２）	第30回　筆記試験

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（有・無）

２回の期末試験の平均点(100点)と平常点(出席点)α点の合計(100 + α点：最大100点まで)で評価します。

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

教科書：「マグロウヒル大学演習　一般化学」　J. L. Rosenberg & L. M. Epstein（オーム社出版）1995年発行、「ハート基礎有機化学（三訂版）」H. Hart, L.E. Craine, D.J. Hart著, 秋葉 欣哉, 奥 彬 訳（培風館）2002年発行、「臨床検査学講座　化学」岡崎三代、奈良雅之著　（医歯薬出版株式会社）2005年発行

参考図書：モリソン&ボイド、マクマリー、ウォーレン等有機化学、ボルハルト・ショアー　現代有機化学「化学サポートシリーズ　エントロピーから化学ポテンシャルまで」渡辺啓著　（裳華房）1997年発行など

科　目　名 （英　訳）	**化学基礎 A** Introduction of Chemistry (A)	開講学期 曜日・時限	前期 火曜２時限 （初回のみ１・２時限）
対象学年	１年生	単位数	１単位
受講資格	看護学専攻・口腔保健学科	募集人数	
担当教員	澤野 頼子		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

主にセンター試験で化学Iを選択しなかった学生に対して、看護や口腔保健に必要な生命科学を学んでいく上で役立つ基礎知識や考え方を講義することを基本とする。クラス分けはプレースメントテストによって行う。なお、高校で化学を履修していない学生は、火曜１時限（第２週～第６週）に開講する「化学基礎（補習）」を受講すること。

●授業の目的 (Primary goal)

将来看護や口腔保健の専門の基礎となる化学を身につける。

●到達目標 (Objectives)

生体で起こっている事象をどのようにして化学的に捉えるかを理解する。

●授業計画 (Schedule)

1. 生命と化学の関わり
2. 原子の構造、イオン
3. 元素の周期律
4. 化学結合と分子の構造：金属結合、イオン結合、共有結合、配位結合、水素結合、ファンデルワールス力
5. 物質量と濃度
6. 酸と塩基、pH、中和反応
7. 酸化と還元
8. 有機化合物

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（有・無）

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

教科書：特になし

参考書：高校の化学の教科書

「高校化学再入門」小玉信武著　化学同人（2005年発行）

「化学の基礎　－元素記号からおさらいする化学の基本－」中川徹夫著　化学同人（2010年発行）

科　目　名 （英　訳）	**化学基礎 B** Introduction of Chemistry(B)	開講学期 曜日・時限	前期 火曜日２時限
対象学年	１年生	単位数	１単位
受講資格	看護学専攻・口腔保健学科	募集人数	
担当教員	勝又　敏行・宮園　健一・奈良　雅之		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

高校で化学Iを履修したことを前提にして、まず化学Ⅱを復習しながら、看護や口腔保健に必要な生命科学を学んでいく上で役立つ化学的な基礎知識や考え方を習得する。授業は講義形式を基本とする。

●授業の目的 (Primary goal)

高校までの化学を復習し、将来看護や口腔保健の専門の基礎となる化学を身につける。

●到達目標 (Objectives)

教科書、参考資料に出ている例題、演習問題を理解できる。
生体で起こっている事象をどのようにして化学的に捉えるかを理解する。

●授業計画 (Schedule)

1. 序論　単位について
2. 物質の構造　物質の構成要素：元素・単体・化合物、原子と分子
   化学結合、化学量論：原子量・分子量・式量、化学反応式
3. 物質の状態　物質の状態変化と粒子の運動：物質の三態・蒸発熱・融解熱と沸点・融点、
   気体：気体定数と状態方程式・理想気体と実在気体、
   溶液：溶液の濃度と溶解度・希薄溶液の性質、コロイド
4. 有機化合物　有機化合物の特徴と分類、脂肪族炭化水素、酸素を含む脂肪族化合物、芳香族化合物
5. 高分子化合物　高分子化合物の特徴と分類、天然物高分子化合物、合成高分子化合物
6. 物質の変化　化学反応と熱：熱化学方程式・結合エネルギー、
   酸と塩基の反応：水素イオン濃度とpH・中和反応と中和滴定、
   酸化還元反応、化学反応の速さと化学平衡
7. 単体と無機化合物　周期表と元素の分類、典型元素、遷移元素

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（　有・無　）

出席状況、試験（小テスト含む）の合計で総合評価する。

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

教科書：　大学生のための例題で学ぶ化学入門　大野公一、村田滋、錦織紳一　著　2005 年発行
参考図書：臨床検査学講座　化学　岡崎三代、奈良雅之　著　医歯薬出版株式会社　2005 年発行
大学生のための基礎シリーズ 3　「化学入門」下井守、村田滋　著　東京化学同人　2005 年発行
化学入門　大野公一ほか　著　共立出版　1997年発行

科 目 名 (英 訳)	生物学(細胞・遺伝子)M Biology (Cell and Gene) M	開講学期 曜日時限	前期（第６週～） 火曜日２・３時限
対象学年	１年生	単 位 数	２単位（生物学（構造・機能）Ｍと合わせて）
受講資格	医学科	募集人員	
担当教員	服部　淳彦		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

生物学（細胞・遺伝子）では，「生命のしくみ」に重点を置き，ますます情報量が増え難解になってきた分子生物学や分子遺伝学の基礎をわかりやすく解説するとともに，生命現象やそのしくみの不思議さ・面白さ，さらにはその展開としての医療面への応用やヒトの進化についても触れていく。

時間の制約もありこの科目では，生命の基本単位である「細胞の構造と機能」，「メンデルの遺伝の法則」に関しては，すでに生物学入門等で学習したものとして講義を進める。

●授業の目的 (Primary goal)

生物学（細胞・遺伝子）では，歯学・検査学の専門教育の基盤となる生物学の分野を総合的に学習し，専門教育へスムーズにつなげていくことを目的として開講したものである。

●到達目標 (Objectives)

分子生物学や分子遺伝学の基礎を理解し、「生命のしくみ」の基本について説明できる。

●授業計画 (Schedule) （講義内容を示したものであり、必ずしも講義順を示したものではない）

生命を支配する遺伝子

1. 細胞の構造 - 細胞小器官の構造と機能
2. 生物の世界：ゲノム，遺伝子，DNA
3. 真核生物の遺伝子の構造
4. 遺伝子の発現と制御
5. 染色体と細胞周期
6. 細胞分裂 - 体細胞分裂、減数分裂
7. 遺伝性疾患とそれに関わる遺伝子
8. 精神と遺伝子のかかわり
9. 遺伝子診断と DNA 鑑定
10. 遺伝子治療の現状と問題点

生物の多様性と分子進化

11. 生物の多様性と進化
12. 分子進化と分子系統樹
13. 中立説と自然淘汰説
14. 遺伝子の進化と種の分化
15. ヒトの起源と未来

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価　（　筆記試験，レポート，その他：出席　）

再評価（有・無）

● 教科書および参考書 (Textbooks and materials)

【教科書】 「イラスト生化学・分子生物学」　前野正夫、磯川桂太郎 著　羊土社

○必要に応じて関連資料を配布する。

【参考書】 「Essential 細胞生物学 第２版」　Bruce Alberts 他 著　中村桂子 他 訳　南江堂

「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 第２版」　和田勝 著　羊土社

科　目　名 （英　訳）	**生物学（構造・機能）M** Biology (Structure and Function) M	開講学期 曜日・時限	後期 月曜日３時限
対象学年	１年生	単位数	２単位（生物学（細胞・遺伝子）Mと合わせて）
受講資格	医学科	募集人数	
担当教員	服部　淳彦		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

１年の前期の講義では，生命の基本単位である細胞やその情報源である遺伝子やＤＮＡに関して学習した。後期は，個々の細胞が集まって構築されている個体が，どのようにして全体として調和のとれた活動ができるのかを学習する。そこでこの科目は，特に「生体の構造と機能」を **調節** を切り口にして，鳥瞰図的に捕らえた講義を行う。また，それぞれの項目に関しては，系統発生的・進化学的な視点からも解説する。

また，必要に応じて前期の補完的な講義も行う。

●授業の目的　(Primary goal)

生物学（構造・機能）では，医学の専門教育の基盤となる生物学を総合的に学習し，専門教育へスムーズにつなげていくことを目的として開講したものである。

●到達目標　(Objectives)

生体の各組織や器官について，その構造と機能の概要を理解し，それらを全体として制御しているシステム系について説明できる。また，ヒトを進化学的な側面から捉えられる視点を身につける。

●授業計画　(Schedule)　（講義内容を示したものであり、必ずしも講義順を示したものではない）

1. 細胞から個体へ
2. 生体における情報伝達系
3. 成長・代謝
4. 骨と骨格系
5. ホメオスタシス
6. カルシウム・血糖調節
7. 排泄と泌尿器系
8. 血圧と循環器系
9. 栄養と消化器系
10. 刺激と感覚・神経系
11. リンパ系と免疫系
12. 子孫の維持と生殖系
13. 発生と発達
14. 加齢と加齢性障害
15. 生態系と人類による干渉

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験，レポート，その他：出席　）

再評価（有・無）

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

【教科書】　「ヒューマンバイオロジー 第７版」　(2011 年)
S. S. Mader 著　坂井建夫、岡田隆夫 監訳　医学書院
○必要に応じて関連資料を配布する。

【参考書】　「からだの構造と機能」　A. Schaffler、S. Schmidt 著　三木明徳、井上貴央 監訳　西村書店

科 目 名 （英 訳）	生物学（細胞・遺伝子）D・T Biology (Cell and Gene) D・T	開講学期 曜日・時限	前期（第６週～） 火曜日２・３時限
対象学年	１年生	単位数	２単位（生物学（構造・機能）D・T と合わせて）
受講資格	歯学科・検査技術学専攻	募集人数	
担当教員	松本　幸久、伊藤　正則		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

生命の構造・機能上の単位である細胞について概説した後、遺伝と代謝の基本的知識について説明する。また生物の進化に関する仮説とその根拠を説明する。

●授業の目的 (Primary goal)

細胞の構造、遺伝、代謝に関する基本的知識を理解し、専門教育へスムーズにつなげることと、生物の進化に関する仮説とその根拠を理解することを目的とする。

●到達目標 (Objectives)

1. 細胞を構成する細胞小器官と細胞膜の構造と機能を説明することができる。
2. 遺伝、遺伝子及び遺伝の法則とは何か、説明することができる。
3. 遺伝子発現機構と転写調節機構を分子レベルで説明することができる。
4. 基本的な遺伝子操作技術を説明することができる。
5. 代謝とは何か、説明することができる。
6. 酸素呼吸の意義とその反応過程を説明することができる。
7. 生物の進化に関する仮説とその根拠を説明することができる。

●授業計画 (Schedule)

第 1 回　細胞の構造 – 細胞小器官の構造と機能
第 2 回　細胞の主要構成物質 – 核酸、タンパク質
第 3 回　細胞膜の構造と機能
第 4 回　遺伝の法則
第 5 回　核、染色体、遺伝子、DNA、ゲノム
第 6 回　DNA の複製、損傷、修復、組換え
第 7 回　遺伝子発現機構 – 転写、RNA スプライシング、翻訳
第 8 回　中間試験とその解説
第 9 回　転写調節機構
第 10 回　遺伝性疾患、遺伝子操作技術の医療への応用
第 11 回　細胞分裂 – 体細胞分裂、減数分裂
第 12 回　代謝 – 生体内での化学反応、酵素、エネルギー変換
第 13 回　酸素呼吸の概要と ATP 合成
第 14 回　酸素呼吸を構成する反応系 – 解糖系、クエン酸（TCA）回路、電子伝達系
第 15 回　生物の進化

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価（ 筆記試験, レポート, その他：出席 ）

再評価（ 有・無 ）

中間試験（20%）、期末試験（70%）、出席状況（10%）による。

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

【教科書】　「改訂第 2 版 はじめの一歩のイラスト生化学・分子生物学」前野正夫、磯川桂太郎 著
羊土社（2010 年）
必要に応じて関連資料を配布する。

【参考書】　「Essential 細胞生物学 原書第 3 版」 Bruce Alberts 他 著　中村桂子 他 訳　南江堂（2011 年）
「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 第 2 版」　和田勝 著　羊土社（2011 年）

科 目 名 (英 訳)	生物学(構造・機能) D・T Biology (Structure and Function) D・T	開講学期 曜日時限	後期 水曜日１時限
対象学年	１年生	単 位 数	２単位（生物学（細胞・遺伝子）DT と合わせて）
受講資格	歯学科・検査技術学専攻	募集人員	
担当教員	松本　幸久・伊藤 正則		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

生体の構造と機能に関する基本的知識を説明する。また、生態系と生物多様性について説明する。

●授業の目的 (Primary goal)

生体の構造と機能に関する基本的知識を理解する。また、生態系と生物多様性に関する知識を活用して、生物圏における人類の役割について考える。

●到達目標 (Objectives)

1. 生体の基本構造を説明することができる。
2. 生体の構造と関連させて、基本的な機能を説明することができる。
3. 生態系と生物多様性に関する知識を活用して、生物圏における人類の役割について考え、その考えを論理的に説明することができる。

●授業計画 (Schedule)

第 1 回　生体の構造の概要 - 個体、器官、組織、細胞
第 2 回　生体内での情報伝達 - 内分泌系、神経系
第 3 回　内分泌器官の構造と機能
第 4 回　神経系の構造と機能
第 5 回　血管- 動脈、静脈
第 6 回　血液の組成と機能
第 7 回　血液凝固、血液型
第 8 回　中間試験とその解説
第 9 回　免疫① - 非特異的生体防御機構
第 10 回　免疫② - 特異的生体防御機構
第 11 回　運動 - 筋、骨
第 12 回　生殖 - 生殖腺の組織構造、配偶子形成、減数分裂
第 13 回　発生 - 細胞増殖、細胞分化、細胞死、器官形成
第 14 回　生態系と人類による干渉
第 15 回　生物多様性の保護

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価（ 筆記試験, レポート, その他 ：出席）

再評価（ 有・無 ）

中間試験（20%）、期末試験（70%）、出席状況（10%）による。

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

【教科書】「ヒューマンバイオロジー 第 7 版」S. S. Mader 著　坂井建夫、岡田隆夫 監訳医学書院(2005 年)
「改訂第 2 版　はじめの一歩のイラスト生化学・分子生物学」　前野正夫、磯川桂太郎 著
羊土社 (2008 年)
必要に応じて関連資料を配布する。

【参考書】「からだの構造と機能」　A. Schaffler、S. Schmidt 著　三木明徳、井上貴央 監訳　西村書店 (1998 年)
「Essential 細胞生物学 原書第 3 版」　B. Alberts 他 著　中村桂子 他 訳　南江堂 (2011 年)
「細胞の分子生物学 第 5 版」　B. Alberts 他 著　中村桂子・松原謙一 訳　ニュートンプレス (2010 年)

科　目　名 （英　訳）	**生物学基礎 A/B** Basic Biology A/B	開講学期 曜日・時限	**後期** **月曜日４時限**
対象学年	**１年生**	単位数	**１単位**
受講資格	**看護学専攻・口腔保健学科**	募集人数	
担当教員	**服部 淳彦**		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

多数の細胞が集まって構築されている個体が、どのようにして全体として調和のとれた活動ができるかという点について学習する。そこで特に「生体の構造と機能」を **調節系** に焦点を当て、鳥瞰図的に捕らえた講義を行う。それぞれの項目に関しては、系統発生的・進化学的な視点からも解説する。また必要に応じて、前期に開講された科目である「生物学入門」の補完的な講義も行う。

●授業の目的　(Primary goal)

看護学や口腔保健学の専門教育の基盤となる生物学を総合的に学習し、専門教育へスムーズにつなげていくことを目的とする。

●到達目標　(Objectives)

生体の各組織や器官について、その構造と機能の概要を理解し、それらを全体として制御しているシステムについて説明することができる。

●授業計画　(Schedule)

（講義内容を示したものであり、必ずしも講義順を示したものではない）

1. 細胞から個体へ
2. 生体における情報伝達系
3. ホルモンの種類
4. 成長・骨格系
5. ホメオスタシス
6. 血圧と循環器系
7. 排泄と泌尿器系
8. 栄養と消化器系
9. 子孫の維持と生殖系
10. 病気と免疫系
11. 刺激と感覚と神経系
12. 発生・発達と加齢
13. 生命現象にみられるリズム性
14. 体内時計とその伝達機構
15. 時間治療学

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価（ 筆記試験, レポート, その他：出席 ）

再評価（ 有・無 ）

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

【教科書】　「医療・看護系のための生物学」　田村隆明 著　裳華房 (2010 年)

必要に応じて関連資料を配布する。

【参考書】　「からだの構造と機能」　A. Schaffler、S. Schmidt 著　三木明徳、井上貴央 監訳　西村書店 (1998 年)

「ヒューマンバイオロジー 第７版」　S. S. Mader 著　坂井建夫、岡田隆夫 監訳　医学書院 (2011 年)

科　目　名 （英　訳）	**物理学実験** Physics Experiments	開講学期 曜日・時限	前後期（各５週で計１０週） 金曜日３～５時限
対象学年	１年生	単位数	１単位
受講資格	医学科・歯学科	募集人数	
担当教員	千葉　司・越野　和樹・水谷　雅志・梅崎　馨章		

物理学実験、化学実験、生物学実験を5週間ずつ交代で、前後期各1回、計10週行う。
クラス分けと時間割に注意すること。

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

4項目の実験を各々2週間ずつ、原則1人1台の実験機器を用いて行う。

●授業の目的 (Primary goal)

物理学実験がどのような手順で行われるかを学ぶ。
実験するにあたり、ある目的を達成するための方法を考え実験計画を立て、実験中にはよくみ（観・視）よく考えて行動し、その結果を確かめながらやり方を改良しつつ着実に目的に向かって進み、最終的に得られた結果をどのように解釈したらよいかという物事を処理するときの基本的な方法を学ぶ。

●到達目標 (Objectives)

1. 交流回路における回路素子の働きを理解し、複素インピーダンスと位相差を求めることができる。
2. 分光光度計の原理を理解し、可視部・紫外部の吸収測定を利用した実験計画を立案することができる。
3. レンズの働きを理解し、凸レンズおよび組み合わせレンズの焦点距離、主点の位置を求めることができる。
4. 自然科学に欠かせない予測手段の一つである数値シミュレーションを用い運動方程式を解くことができる。

●授業計画 (Schedule)

物理実験学の講義を実験初日(第1週)に行うので休まないこと。
物理学の講義と平行して行うので、未学習の分野については自学自習で補うこと。
十分な予習と実験計画を立てて実験に望むことが必要である。

下記の4項目の実験を、項目ごとに2回の実験日で行う。グループ分けは実験初日に発表する。

1. エレクトロニクス（担当：水谷）
2. メチルオレンジ水溶液の光の吸収（担当：千葉）
3. レンズの焦点距離と主点の位置（担当：梅崎）
4. 計算機による運動方程式の解法（担当：越野）

実験予定日

1組	7/5(講義)	7/12, 19	7/26, 31(9/20)	12/13, 20	1/10, 17	(予備日1/24)
2組	4/19(講義)	4/26, 5/10	5/17, 24	10/4, 11	10/18, 25	(予備日 11/1)
3組	5/31(講義)	6/7, 14	6/21, 28	11/8, 15	11/22, 29	(予備日 12/6)

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（有・無）

レポート、平常点、実験ノートで総合評価する。
特に平常点では、遅刻や実験中の態度不良による減点が大きいので注意すること。
なお、**「物理学実験」では、全ての授業に出席することおよび全てのレポートを提出することが義務付けられている。**

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

テキスト：　東京医科歯科大学教養部自然科学系物理学分野編　「物理学実験」（実験初日に配布する。）
参考書　：　平田森三編　「基礎物理学実験」（裳華房 1966年）（品切れ。図書館分館に3冊あり。）

科　目　名 （英　訳）	**化学実験** Chemical Experiments	開講学期 曜日・時限	前期５回、後期５回 金曜日３～５時限
対象学年	１年生	単位数	１単位
受講資格	医学科・歯学科	募集人数	
担当教員	勝又　敏行・澤野　頼子・奈良　雅之		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

無機定性分析および容量分析を主な実験テーマとして基本操作を学び、実験に対する基本的な態度を身につける。１人1セットずつ実験器具が配布されることにより、各自が責任をもって実験に取り組む。危険な物質（硫化水素など）の扱い方、一次記録の取り方、報告の書き方などを習得する。さらに、各自が興味を持ったテーマを見つけだし、そのテーマに関する実験に取り組む（考察実験）。

●授業の目的 (Primary goal)

化学実験に対する基本的な態度を身につけ、注意深い観察力、正確な判断力を身につけることにより医学･歯学分野で指導的役割を担える人材を養成する。

●到達目標 (Objectives)

一次記録をきちんと取り、それを実験報告としてまとめることができる。
自分で実験テーマを見つけて、計画・実施することができる。

●授業計画 (Schedule)

前期
1. 化学実験総論／席決め／実験準備と講義（一次記録の取り方、レポートの書き方、安全対策等）
2. 無機金属イオンの分析（硫化水素法）　その１（１族－３族の分析）
3. 無機金属イオンの分析（硫化水素法）　その２（３－５族の分析）
4. 無機金属イオンの分析（硫化水素法）　テスト（１－５族混合未知試料の分析）
5. ペーパークロマトグラフィー／分光光度計をもちいた比色分析(考察実験)

後期
6. 容量分析（その１）　中和滴定の練習(食酢中の酸の定量)／誤差の取り扱い方
7. 容量分析（その２）　容量分析テスト（酒石酸または炭酸カリウムの未知試料の濃度決定)
8. 容量分析（その３）　キレート滴定　牛乳、天然水中のCa^{2+}の定量
9. 容量分析（応用編）　酸化還元滴定（ヨウ素滴定）によるビタミンCの定量／沈殿滴定による塩素イオンの定量／過マンガン酸滴定による過酸化水素水の濃度および硫酸第一鉄の純度　など（考察実験）
10. 考察実験　各自が組みたてた実験計画を実施する

注意：前期と後期の内容を 入れ換えることがある。

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（有・無）

出席点、面接点、実験ノート（一次記録およびレポート）、無機金属イオンの分析と容量分析で行われる２回のテスト、考察実験等について総合的に評価する。

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

教科書：　「化学実験」東京医科歯科大学教養部化学教室編（生協)2013年発行
参考図書：「生命科学のための化学実験」高橋知義　ほか　著　（東京教学社）　2007年発行
「基礎化学実験　安全オリエンテーション」山口和也、山本仁著　（東京化学同人）2007年発行
「基礎化学実験第３版」東京大学教養学部化学部会編　（東京化学同人）2012年発行

科 目 名 （英 訳）	生物学実験 Biology Laboratory Practices	開講学期 曜日時限	前期・後期 金曜日３～５時限
対象学年	１年生	単 位 数	１単位
受講資格	医学科・歯学科	募集人員	
担当教員	松本　幸久・中野　真樹・服部　淳彦		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

肉眼あるいは光学顕微鏡下で、生物の体のつくりや生命現象を観察し、その結果から問題点を抽出し、実験を行うことによって問題点を明らかにするという科学の基本的な手順を学ぶ。加えて、DNA を抽出・分離し、可視化する方法を学ぶ。それぞれの実験項目は医学あるいは歯学を専攻する学生が対象であることを考慮したものであるが、生物学の理解を深め、生物の多様性と一般性を学ぶことも考慮している。そのため、魚類から哺乳類まで、脊椎動物の各綱の動物を材料として用いる。

●授業の目的 (Primary goal)

講義で学習する内容は観察や実験によって得られたものである。これらの生物学の基本的知識がどのような過程で得られたかを実際に体験することによって生物学の考え方を学ぶ。また、観察の仕方、生物と機器の取り扱い方法、観察・測定した結果の数量化などの基本を学ぶ。

●到達目標 (Objectives)

1. 生物を適切に取り扱うことができる。
2. 実験機器を正しく使用することができる。
3. 肉眼あるいは光学顕微鏡により生体の構造を観察し、その特徴を説明することができる。
4. 現象から仮説を立て、仮説を検証するために適切な実験を計画・実施することができる。
5. データを整理・分析し、レポートにまとめることができる。

●授業計画 (Schedule)

クラス分けと日程は後日掲示する。

［前期］

第 1回　ウシガエルの解剖Ⅰ（体腔内の内臓諸器官、血管系）
第 2回　ウシガエルの解剖Ⅱ（神経系、後肢の筋肉、骨格）
第 3回　ウズラを用いた実験の立案とその予備実験
第 4回　ウズラを用いた実験の立案とその本実験
第 5回　ウズラを用いた実験の発表

［後期］

第 6回　光学顕微鏡の使い方、血液塗抹標本の作成・観察
第 7回　黒色素胞による体色変化
第 8回　ラットの組織観察またはラットの解剖
第 9回　DNA の抽出と PCR 法Ⅰ
第 10 回　DNA の抽出と PCR 法Ⅱ

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価（ 筆記試験, レポート, その他：出席 / 実習態度 ）

再評価（ 有・無 ）

＊欠席は原則認めない。

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

「新 生物学実験テキスト」　東京医科歯科大学教養部生物学教室 編　(2013年版)
参考図書は随時紹介する。

科 目 名 （英 訳）	**科学基礎実験Ａ** Experiments of Chemistry and Biology（A）	開講学期 曜日時限	後期　後半７回 火曜日２～４時限
対象学年	１年生	単 位 数	１単位
受講資格	検査技術学専攻	募集人数	
担当教員	(化学)勝又 敏行・澤野 頼子・奈良 雅之　（生物学）服部 淳彦・松本 幸久・中野 真樹		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

無機定性分析、容量分析、光学顕微鏡を用いた観察を主な実験テーマとして基本操作を学び、実験に対する基本的な態度を身につける。１人1セットずつ実験器具が配布されることにより、各自が責任をもって実験に取り組む。危険な物質（硫化水素など）の扱い方、光学顕微鏡の使い方、一次記録の取り方、報告の書き方などを習得する。さらに、各自が興味を持ったテーマを見つけだし、そのテーマに関する実験に取り組む（考察実験）。

●授業の目的 (Primary goal)

化学実験、生物学実験に対する基本的な態度を身につけ、注意深い観察力、正確な判断力を身につけることにより検査技術学分野で指導的役割を担える人材を養成する。

● 到達目標 (Objectives)

一次記録をきちんと取り、それを実験報告としてまとめることができる。
自分で実験テーマを見つけて、計画・実施することができる。

●授業計画 (Schedule)

化学

1. 科学基礎実験総論／席決め／実験準備と講義（一次記録の取り方、レポートの書き方、安全対策等）
   無機金属イオンの分析（硫化水素法）　その１（1 族−3 族の分析）
2. 無機金属イオンの分析（硫化水素法）（１－５族混合未知試料の分析）
3. 容量分析（その１）　中和滴定の練習(食酢中の酸の定量)／誤差の取り扱い方
4. 容量分析（その２）　容量分析テスト　(酒石酸または炭酸カリウムの未知試料の濃度決定)
5. 考察実験　各自が組みたてた実験計画を実施する

生物学

6. 光学顕微鏡を用いた観察（１）　顕微鏡の使い方、血液塗抹標本の作製
7. 光学顕微鏡を用いた観察（２）　黒色素胞のはたらき

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価　（　筆記試験, (レポート), (その他)　）

再評価（(有)・無）

出席点、面接点、実験ノート（一次記録およびレポート）、無機金属イオンの分析と容量分析で行われる２回のテスト、考察実験等について総合的に評価する。

● 教科書及び参考書 (Textbooks and materials)

教科書：　「化学実験」東京医科歯科大学教養部化学教室編（生協)2013年発行
教科書(生物学編)：実験時に「生物学実験テキスト」（東京医科歯科大学教養部生物学教室編）のダイジェスト版を配付する。
参考図書：「生命科学のための化学実験」　高橋知義　ほか　著：（東京教学社）　2007年発行
「基礎化学実験　安全オリエンテーション」山口和也、山本仁著：（東京化学同人）2007年発行
「基礎化学実験第３版」東京大学教養学部化学部会編　（東京化学同人）2012年発行
「ヒューマンバイオロジー第7版」S.S. Mader 著(坂井建夫、岡田隆夫 監訳)(医学書院) 2011年発行

科 目 名 （英 訳）	**科学基礎実験Ｂ** Experiments of Chemistry and Biology（B）	開講学期 曜日時限	後期 前半７回 木曜日/３～５時限
対象学年	１年生	単 位 数	１単位
受講資格	看護学専攻、口腔保健学科	募集人数	４８名
担当教員	勝又 敏行・澤野 頼子・奈良雅之		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

無機定性分析、容量分析を主な実験テーマとして基本操作を学び、実験に対する基本的な態度を身につける。１人1セットずつ実験器具が配布されることにより、各自が責任をもって実験に取り組む。危険な物質（硫化水素など）の扱い方、一次記録の取り方、報告の書き方などを習得する。さらに、各自が興味を持ったテーマを見つけだし、そのテーマに関する実験に取り組む（考察実験）。

●授業の目的 (Primary goal)

化学実験に対する基本的な態度を身につけ、注意深い観察力、正確な判断力を身につけることにより看護および口腔保健学分野で指導的役割を担える人材を養成する。

● 到達目標 (Objectives)

一次記録をきちんと取り、それを実験報告としてまとめることができる。
自分で実験テーマを見つけて、計画・実施することができる。

●授業計画 (Schedule)

1. 科学基礎実験総論／席決め／実験準備と講義（一次記録の取り方、レポートの書き方、安全対策等）
2. 無機定性分析（1）金属イオンの反応（硫化水素法による 1～3 族イオンの分析）
3. 無機定性分析（2）金属イオンの反応（硫化水素法による 3～5 族イオンの分析）
4. ペーパークロマトグラフィー
5. 容量分析（1）中和滴定：食酢中の酸の定量
6. 容量分析（2）キレート滴定による水中のカルシウムの定量
7. 考察実験　各自が組みたてた実験計画を実施する

●成績評価の方法 (Grading scheme) 評価 （ 筆記試験, レポート, その他 ）

再評価 （ 有・無 ）

出席点、面接点、実験ノート（一次記録およびレポート）、考察実験等について総合的に評価する。

● 教科書及び参考書 (Textbooks and materials)

教科書： 「化学実験」東京医科歯科大学教養部化学教室編（生協）2013年発行

参考図書：「生命科学のための化学実験」 高橋知義 ほか 著（東京教学社） 2007年発行
「基礎化学実験 安全オリエンテーション」山口和也、山本仁著 （東京化学同人）2007年発行
「基礎化学実験第３版」東京大学教養学部化学部会編 （東京化学同人）2012年発行

科　目　名 （英　訳）	**科学基礎演習** Fundamental Practice of Chemistry and Physics	開講学期 曜日・時限	後期 木曜日３時限
対象学年	１年生	単位数	１単位
受講資格	看護学専攻・口腔保健学科	募集人数	５０名
担当教員	（物理）越野　和樹・（化学）澤野　頼子		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

看護や口腔保健に必要な生命科学を学んでいく上で役立つ化学や物理の基礎を演習することを基本とする。前半は物理（力学、電磁気学の基礎）について、後半は化学（物理化学の基礎）について演習を行う。なお、本科目は「科学基礎実験B」との選択必修科目である。

●授業の目的 (Primary goal)

看護や口腔保健の専門科目で役立つ化学と物理の基礎を演習を通して学ぶ。

●到達目標 (Objectives)

下記の授業計画で挙げている各項目に関して，基礎的な演習問題に取り組むことで理解を深めること。

●授業計画 (Schedule)

物理
- 運動の法則
- いろいろな運動
- 仕事とエネルギー
- 運動量と角運動量
- 電気と電場
- 電流
- 磁気と磁場
- 過渡現象と交流回路

化学
- 酸化・還元
- 電池と電気分解
- 反応速度
- 化学平衡
- 電離平衡とpH

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価　（　筆記試験，レポート，その他　）

再評価（有・無）

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

教科書：特になし

参考書：

化学：　基礎固め　化学（小島一光著，化学同人，2002年発行）

医療・看護系のための化学入門（塩田三千夫・山崎　昶 共著，裳華房，2003年発行）

物理：　初歩の物理（小野文久著，裳華房，ISBN 978-4-7853-2231-1、2008年発行）

科　目　名 （英　訳）	**情報科学** Information Science	開講学期 曜日・時限	前期（看護）月曜日５時限 （検査）月曜日４時限 （口腔）木曜日３時限
対象学年	１年生	単位数	１単位
受講資格	保健衛生学科口腔保健学科	募集人数	
担当教員	徳永 伸一　齋藤洋樹		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

（1） 情報処理：電子情報を活用するための基本的な技術を学ぶ。

（2） プログラミング：十進 BASIC によるプログラミングを通じ、論理的な思考法やコンピュータを用いた計算法の基礎を学ぶ。

●授業の目的 (Primary goal)

情報科学技術に関する知識と，情報処理能力，論理的思考力を養成する。

●到達目標 (Objectives)

（1） 情報処理：E メール、テキストエディタ、ワープロ、タイピング等の基本的な技術を習得する。

（2） プログラミング：十進 BASIC を用いて数列の和の計算、約数の和の計算、ルーレット、多角形の描画など基本的なプログラムを作成できる。またそれらのプログラムを解読して実行結果を予想できる。

●授業計画 (Schedule)

第１回（情報処理１） E メール（Web メール）・LMS 利用法、キーボード操作とタイピング演習
第２回（情報処理２） パソコン・インターネットの基礎、日本語入力・テキストエディタ演習
第３回（情報処理３） 無線 LAN 接続
第４回（情報処理４） HTML 演習
第５回（プログラミング１） 十進 BASIC の概要、プログラムの入力と実行
第６回（プログラミング２） 変数と数値式、INPUT 文、PRINT 文
第７回（プログラミング３） FOR～NEXT 構文
第８回（プログラミング４） DEF 文、組み込み関数
第９回（プログラミング５） グラフィックス
第 10 回（プログラミング６） IF～ENDIF 構文
第 11 回（プログラミング７） DO～LOOP 構文
第 12 回（プログラミング８） 配列
第 13 回（プログラミング９） 応用課題
第 14 回（タイピング試験）
第 15 回（予備）

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価　（ (筆記試験), レポート, (その他) ）　再評価（ (有) ・ 無 ）

分野ごとに以下の通り評価し、得点を合計する。ただし原則として毎回授業に出席し、すべての課題を提出することを必須とする。また筆記試験で６割以上得点すること、およびタイピング試験で指定された合格基準をクリアすることを必須とする。

（1）プログラミング： 出席、課題提出および学期末の試験による（約 70 点満点）

（2）情報処理： 出席・タイピング試験、課題提出および試験による（約 30 点満点）

なお本科目の再評価は、後期に指定された科目の受講＋再試験 により行う。

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

Web上の教材を利用する。

科　目　名 （英　訳）	**情報科学（再履修）** Information Science (repeating course)	開講学期 曜日・時限	後期　水曜日３時限
対象学年	１年生	単位数	１単位
受講資格	保健衛生学科、口腔保健学科	募集人数	
担当教員	徳永伸一		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

「情報科学」の不合格者に対してプログラミングの復習および演習を行う。演習内容は「S・BASIC 言語」に準じたものとする。

●授業の目的　(Primary goal)

「情報科学」で学習したプログラミング言語の理解と活用をさらに確実なものとし、論理的思考力を養成する。

●到達目標　(Objectives)

「情報科学」到達目標（２）に同じ。

●授業計画　(Schedule)

前半は主として前期の復習を行い、後半は応用演習（カレンダー、グラフィックス etc.）を行う。

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（有・無）

学期末に行う筆記試験に加え、出席と毎回の課題提出（必須）、および自作プログラム（必須）により評価する。またタイピング試験に合格していない場合はタイピング再試験を受験し合格することも必須となる。

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

プリントを配布する。また Web 上の教材も引き続き利用する。

（注意）再履修対象者の一部は「S・BASIC 言語」等の自由選択科目を本再履修の代替科目として受講してもらう可能性があります（その場合自由選択科目の単位は認定されない）。詳しくは開講時の指示に従うこと。

科　目　名 （英　訳）	**情報処理** Information Literacy	開講学期 曜日・時限	前期 木曜日　１時限または２時限 （クラス分けは別途指示する）
対象学年	１年生	単位数	１単位
受講資格	医学科　歯学科	募集人数	
担当教員	徳永 伸一　中口悦史　齋藤洋樹		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

医療情報教育や情報科学教育の基礎となるコンピュータ・リテラシーを学ぶ。

●授業の目的 (Primary goal)

単に使用法を覚えるだけでなく、パソコンやインターネットのおおまかな仕組みを理解し、応用力を身につけること。

●到達目標 (Objectives)

- Eメール、テキストエディタ、タイピング、表計算ソフト（Excel）、HTML等の基本的な技術を習得する。
- セキュリティや著作権に配慮したパソコン、インターネットの使用法を習得する。

●授業計画 (Schedule)

第1回　情報セキュリティ、著作権
第2回　［計］Eメール（Webメール）・LMS利用法
第3回　パソコン・インターネットの基礎
第4回　［計］タイピング演習
第5回　無線LAN接続
第6回　［計］テキストエディタ演習
第7回　HTML基礎
第8回　［計］HTML演習
第9回　Excel基礎
第10回　［計］Excel演習（1）
第11回　データ処理の基礎
第12回　［計］Excel演習（2）
第13回　総合演習
第14回　［計］Excel演習（3）
第15回　［計］タイピング試験

（［計］は計算機実習室で行う授業。医歯学科全体で計４クラスに分け、うち2クラスは第2回の内容から開始し、14週目に第1回の内容を行う。詳細は掲示等で確認すること）

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（有・無）

出席および提出課題，タイピング試験による。実習の比重が高いので出席は特に重視する。

習熟度や達成度に応じて一部出席を免除することもあるが、原則として、毎回出席してすべての課題を提出し、かつタイピング試験にて合格基準をクリアすることを、単位取得のための必須条件とする。やむを得ぬ事情で欠席した場合はただちに担当教員に連絡し、指示を仰ぐこと。

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

Web上の教材を利用する。

外国語科目　目次

英語 ……
英語 a、英語 c ……
英語 b、英語 d ……
日本語 a ……
日本語 b ……
日本語 c ……
日本語 d ……
ドイツ語 a／c ……
ドイツ語 b／d ……
フランス語 a／b／c／d ……
フランス語 a／c ……
フランス語 b／d ……
中国語 a／c＋b／d ……
スペイン語 a／b／c／d ……

3)外国語

外国語を学ぶ目的には、大きく分けて二つあるように思われます。一つはその言語を話す人々とのコミュニケーションの手段として習得すること、もう一つは言語を通して、その言語を担う人々の文化や歴史を感じ取り、学ぶことです。教養部には外国語として、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語が開設されていますが、第一外国語として学ぶ英語と第二外国語として学ぶ他の外国語ではこの二つの重心が少し異なるかもしれません。

英語は必修科目として、全員が履修します。第二外国語は選択必修科目ですので、入学時の希望外国語調査にしたがって振り分けられた指定のクラスで、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語の中から、1科目4単位を履修します。第二外国語を途中で変更することはできません。外国語の成績は各科目とも、a/b/c/dの総合で4単位分が評価されます。

● 英語の指針

英語を使ってどんなことをしてみたいと思っていますか? 外国に旅行に行きたい。外国人の友人が欲しい。映画を字幕なしで見てみたい。あるいは将来、英語を使う職業に就きたいという人もいるかもしれません。英語を学ぶ理由はそれぞれに違って、多様なはずです。皆さん一人一人、英語とこれからどう関 っていくかを考えてみてください。

東京医科歯科大学は、医療という専門性が極めて明確な教育機関です。英語は職業教育と直接結びつくことをしばしば期待される分野ですが、医学に関連した英語を皆さんが一斉に学べば良い、というほど話は単純ではありません。医療従事者といっても、職域は幅広く、職種も多岐にわたります。専門医、一般開業医、看護師、基礎研究者、指導者、行政職……あるいは医療ジャーナリストを目指している人もいるかもしれません。英語についても、海外の機関で研究者となる場合と、日本の地域社会に密着した活動に従事する場合とでは、実際の必要度はまるで違ってきます。

自分が将来どういう職業に就き、どういう生活を送るのか、それぞれの人生をデザインする過程で、英語との関り方が次第にはっきりと見えてくると思います。皆さんには受験という目先の課題から開放された時点で、英語を生涯教育の一環としてとらえなおし、それぞれ自分の目標設定をしてもらいたいのです。大学の英語の授業に、皆さんのそういう生涯学習のためのヒントや刺激が見つかることを願っています。

外国語を使うのは楽しいことです。異国の街角での見知らぬ人とちょっとしたおしゃべり、様々な国から来た人と力を合わせて人々の健康のために働くこと、科学の進歩の最先端での世界の研究者たちとの競い合い……いずれもそこに喜びがあることを想像してみてください。言葉の違いを乗り越えて、そういうおもしろさを実感することが「国際性」の意味ではないでし

ょうか。言葉についての知識を身につけるだけではなく、外の世界と接する好奇心や勇気を皆さん一人一人が育んでいってくれることを期待しています。英語が苦手でも、困っている人や、具合の悪い人が目の前にいるときには、“Are you OK?”と問いかける勇気を持ってください。そのときあなたは「国際性豊かな医療人」として英語を使っているのです。

● ドイツ語の指針

東西ドイツ統一から二十数年、ヨーロッパではその間に共通通貨が導入され、EUが東方に拡大され、いまや憲法を持つところまで政治的基本原則を共有するにいたっています。まさに戦争の歴史だったといってよいヨーロッパ近代史、とくに未曾有の大量殺戮をともなう二度の世界大戦とそれに続く冷戦の恐怖から、ヨーロッパ諸国は人類史の中でもまさに画期的といえる平和の枠組みを作り上げてきました。また北欧諸国では高い国民負担率と産業競争力の強化という矛盾する要求をともに満足させうる道を模索しており、女性の自立を犠牲にすることなく出生率の回復にも成功しつつあります。われわれがヨーロッパ から学ぶべきことはまだけっして少なくないのです。

ところが皮肉なことに、こうしたEUの地道な挑戦が成功を収めていくにつれ、日本ではヨーロッパに対するかつての関心や憧憬がうすれ、アメリカ、中国、アジア諸国に比べると、ヨーロッパは影の薄い存在になりつつあります。それにつれて英語以外の西洋言語への興味関心も一般に低下しつつあるようです。 それは、これまで日本ではあまりにも古きよきヨーロッパ、文学や美術や建築のヨーロッパが一面的に輸入されてきたことと関係があるでしょう。イラク戦争をめぐる議論のさなかにも、アメリカの指導者が「古くさいヨーロッパ」を揶揄する場面がありました。しかし今日のEUの挑戦とアメリカの世界戦略と、どちらが本当に古くさいかについては、やがて歴史が判断を下すことでしょう。

文化が成熟に向かうと標準化と多様化という一見矛盾する二つのプロセスが同時に進行していきます。現代のサイエンスやビジネスは、あらゆる文化圏や専門領域に属する人々の膨大な情報交換によって成り立っており、そのためには言語の標準化が必要不可欠です。今日その標準言語としての地位に事実上勝ち得ているのはいうまでもなく英語です。実際ドイツ国内でも重要な科学論文は英語で発表されるこの時代、 研究上の実用を考えれば、英語が使いこなせることは必要不可欠なことです。

しかしもうひとつ、忘れてならないのは、文化の成熟を示す第二の側面、すなわち多様化への感覚と技量を磨くことです。英語とアメリカ一辺倒で、世界の趨勢を判断するのではなく、ヨーロッパ言語を学びながら、私たちが固定観念のように作り上げてきたヨーロッパ像をたえず修正し、世界史的な挑戦を続けている素顔のヨーロッパを知ることは、今後の世界の趨勢を

知る上でも欠かせないことです。ドイツ語に触れることによって、少しでも皆さんの視野や経験の地平を拡げていってほしいと思います。

ドイツ語科目は、選択必修科目として開講される第二外国語のドイツ語と、自由選択科目、あるいは原書講読として開講されるドイツ語系科目(シンチンガー担当)からなっています。第二外国語としてのドイツ語は、週2コマの授業が1年間を通じて行われます。

一つのクラスで文法を学び、もう一つのクラスでは会話と読解の練習をし、あとは自由な時間を利用して、予習・復習をする、というのが全体のコンセプトです。自由選択科目は皆さんの興味にしたがって選択すればよく、半期単位の選択科目として独立していますから、前期だけあるいは、後期だけ参加することも可能です。

● フランス語の指針

フランス語はほとんどの皆さんが大学に入って初めて学ぶ言語です。中学・高校で学んできた英語とはまた違ったヨーロッパ世界の言語を窓口として、より広い世界に触れていただきたいと思っています。 今日、日本の中でもフランスに関する情報は増えてきました。ファッションやグルメ、映画や文学のみならず、最近ではサッカー、あるいはユーロ危機等でフランスを知る機会があった人もいるのではないでしょうか。

こうしたサッカーの選手たちを見ても分かるように、フランス語の世界はフランス本国にとどまるものではありません。旧植民地であった北アフリカ(マグレブ)からの移民を多く抱えるフランスは、アフリカとも非常に近い世界です。イスラム教の問題、アフリカの貧困の問題といった問題はフランス社会と密接な関連をもち、フランスのニュースを読めば、アフリカが随分と近いことに驚かされると思います。多くのアフリカの人たちがフランス語を話しながらフランスという国に住み、そうした人たちを含んだ社会が現在のフランスの社会を形作っています。また、フランスの作家や思想家、映画人、芸術家といわれる人の中で「フランス」人ではない人たちが数多くいます。フランスの血がフランスを作るのではなくではなく、フランスという国に住んで、フランス語で表現する人たちがフランスを作ってきました。その中には今述べたアフリカだけではなく、東欧や、ベトナムやハイチ出身の人たちもいます。

もちろん、フランスの中にも、こうした「他者」を排斥しようとする動きがあります。ヨーロッパ各国で、今、経済危機を背景とする社会不安が広がるにつれ、ナショナリズムと外国人排斥を唱える右翼が大幅に台頭してきています。フランスもまた、失業率の上昇や犯罪の増加等、多くの国内問題を抱え、その中で、移民を憎しみの対象とする動きが常にくすぶっています。

フランスは決して理想の国ではありません。しかし多くの困難を抱えながらも、歴史的経験を参照し、今、EUの中でフランスは自らの進むべき道を模索しています。皆さんも、フランス

語を学ぶことをきっかけに、こうした現代世界のさまざまな問題を知り、自らの関心領域を広げていっていただきたいと思っています。

フランス語は週2コマが必修として開講されています。フランス語a/cで文法を学ぶことと並行して、フランス語b/dでは興味に応じて、作文か、聞き取り・会話(音声中心授業)のいずれかを選ぶことができます。そのほか、自由選択科目として、講読系を中心とした科目が開講されますので、必修クラスで学習したフランス語の力をさらに伸ばしたい人、あるいはフランス文学や文化への興味がある人は、ぜひこちらの科目も選択してください。

● 中国語の指針

日本が中国と古くから深いかかわりをもっている事はみなさんも御存じだと思います。稲作の伝来からはじまり、文字、建築など、日本の歴史は中国の存在なくしては語れません。また、中国の歴史そのものに興味を持っている方も多いのではないでしょうか。「三国志」をはじめ、中国を舞台とした歴史小説は今でも多くの読者を魅了し続けています。近年の日中間の人の往来を見ても、日本人の中国旅行者数は年間300万人以上、中国人の訪日旅行者も100万人を超えています。みなさんが街中で中国語を耳にする機会はおそらく着実に増えており、中国は日本にとって「近い」国であるといえるでしょう。

そんな「近い」はずの中国ですが、日本の内閣府が行っている「外交に関する世論調査」によると、ここ数年来、中国に対して「親しみを感じる」という人はわずか20%であるのに対し、約80%の人が「親しみを感じない」と回答しています。尖閣諸島問題や中国の反日デモなどが連日報道され、みなさんの中にも「中国は一体何を考えているのかわからない」と不安や不快感を覚えている人が多いのではないでしょうか。

では中国は日本にとって「遠い」国になってしまったのかと言えば、それもまた違います。みなさんの先輩たちのアンケートを見ると「こんな時代だからこそ学んでおかなくては」と考えて中国語を履修する人がはっきりと増えています。今は「不安」や「不快感」という形をとっているかもしれませんが、日本における中国への関心は明らかに高まっているのです。これは「無関心」に比べよほど望ましい状況であり、日中関係は「ピンチをチャンスに変えられるかどうか」という新たな局面に来ていると言えるでしょう。

中国に限った事ではありませんが、他国を理解するためには、その国の言語を理解する事がもっとも近道です。中国語の授業を選択するみなさんには、メディアの一方的な報道や、中国に関心のない人たちの言葉に煽られること無く、自分自身の目と耳で中国を判断することができる「知中家」になってもらいたいと期待しています。

さて、本学でみなさんが学ぶ中国語は、「普通話」と呼ばれる中華人民共和国の公用語です。表記はすべて漢字ですが、日本の常用漢字とは異なる「簡体字」が使われます。日本のものと全く同じ形・意味の字もあれば、形が全く違うもの、意味が全く違うものも数多くあります。

中国語の授業は週2コマ4単位で構成されています。序盤は発音を、中盤以降は文法習得に重点を置き、終盤に向けて会話や作文練習の比重を高めていきます。中国語は音程によって意味が変わる「声調言語」のため、みなさんにとって発音の習得は最初の高いハードルとなります。しかしそこをクリアすれば、語彙や文法は日本語と共通の部分も多く、学びやすい言語です。この授業を通じて是非「知中家」医療人への第一歩を踏み出して下さい。

● スペイン語の指針

スペイン語といえば、スペインのことを思い浮かべる方が多いと思いますが、実は中南米・カリブの多くの国でも話されていて、むしろそちらの方に話者が多い言語です。アメリカ合衆国でも、いわゆるヒスパニックと呼ばれる人々の間でスペイン語が話されています。アメリカ大陸のスペイン語圏を「イスパノアメリカ」と呼び、イスパノアメリカとブラジルすなわちポルトガル語圏からなる「イベロアメリカ」、そこにハイチ、マルティニークなどフランス語圏を加えた「ラテンアメリカ」と区別します。

イスパノアメリカの国々は、もともとこの大陸に住んでいた先住民の文化と、植民地時代の宗主国スペインをはじめとするヨーロッパ文化の混合から生まれた、複雑な文化をもった国々だと言えます。また、ヨーロッパ以外からも、奴隷として連れて来られたアフリカ系住民や、日本も含めたアジア・中東からの移民など、様々な起源をもち、なおかつ独立国としてのナショナル・アイデンティティを探る過程で、多様性に満ちた社会を形作ってきました。日本で中南米諸国がニュースになるのは、麻薬や暴力、犯罪や貧困など、悪いことばかりですが、その一方で経済的には工業化も進み、いわゆる新興国や、途上国ながらポテンシャルの高い国々として注目を集めています。

スペインについて、皆さんはヨーロッパの南西部の国とお考えでしょうし、実際その認識は正しいのですが、実はジブラルタル海峡を挟んで北アフリカと向かい合っていることからもわかるように、中東から北アフリカへと連なる、アラビア文化の影響を非常に強く受けた地域です。スペインには今でも様々なアラビア様式の建築や文化が残されていますし、スペイン語にはアラビア語起源の言葉がしばしば登場します。

一般的に、サッカーや音楽や踊りを通じてスペイン語に興味を持つ人が多いようです。他にも文化面では、西洋近代小説の先駆けともいわれる『ドン・キホーテ』を著したセルバンテスや、2010 年にノーベル文学賞を受賞したバルガス・ジョサ、そして 20 世紀後半を代表する世界的ベストセラーといっても過言ではない『百年の孤独』のガルシア・マルケスなど、優れた文

学作品も数多く生み出されています。映画界でも多くの名作、そして名監督・名俳優を輩出しています。ハリウッドでも活躍しているペネロペ・クルスやハビエル・バルデムといったスペインの俳優は、名前を聞いてぴんと来なくても、皆さん顔を見ればああこの人か、と見覚えがあるかもかもしれません。ちなみに 2009 年のアカデミー賞外国語映画賞を受賞したのは、アルゼンチン映画『瞳の奥の秘密』でした。

大学でスペイン語を勉強しておくことは、もし皆さんが将来スペイン語圏、あるいはスペイン語話者の人々と交流を持つことになった場合、重要な基礎知識となってくれることでしょう。東京医科歯科大学は南米チリに「東京医科歯科大学ラテンアメリカ共同研究拠点」を設立するなど、ラテンアメリカとの関係を強めていますし、日本国内の医療現場でも、日系人をはじめとするスペイン語話者の人々と、関係性を築いていくための一助となるかもしれません。

授業方針は、文法的には動詞の活用（直接法の人称変化）を一通り学び、日本語や英語とは異なるスペイン語の構文的特徴を理解してもらうことを一番の目標とします。それと同時に、ごく短く簡単な文章や会話、テレビ番組や映画のセリフ、あるいはうたの歌詞の聞き取りなどを行っていきたいと思っています。スペイン語は 1 年次に週 2 コマが必修となっています。スペイン語 a/c で文法を学ぶのと並行して、スペイン語 b/d では興味に応じて、応用あるいは文法を補完するような授業を行っていきます。

● 日本語の指針

日本語は、留学生だけに履修が認められている科目です。1年次対象の日本語で履修した計4単位は、第２外国語(フランス語、ドイツ語、中国語、スペイン語)の4単位として認められます。ただし、日本語はa、b、c、dの授業をすべて履修しなければなりません。履修にあたっては担当教員とよく相談してください。教養部での日本語学習の目的は、教養教育および専門の医歯学教育をうけるための基礎となり、同時に、日本社会でよく自分の能力を発揮して自国と日本の平和と交流に貢献するために必要な日本語能力の獲得です。

各授業科目を総合した到達目標は、日本での生活、教養部および専門での学習に必要な基礎的な読む・書く・聞く・話すの日本語4技能およびコミュニケーション能力の習得です。非漢字系の学生は常用漢字をマスターすることも目標となっています。

科　目　名 （英　訳）	**英語** English	開講学期 曜日・時限	前期・後期 水曜日１～３時限 木曜日/１・２時限
対象学年	１年生	単位数	a, b, c, dを合わせて４単位
受講資格		募集人数	
担当教員			

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

The aim of "English" is to develop basic competence in English. "English" is comprised of four courses and e-learning.

All courses seek to improve overall reading, writing, listening, and speaking skills. However, particular courses will emphasize particular skills:

English a and c (approximately 15 weeks each): Oral Communication/Discussion
English b and d (approximately 15 weeks each): Reading and Writing

●授業の目的 (Primary goal)

See subsequent pages for details.

●到達目標 (Objectives)

See subsequent pages for details.

●授業計画 (Schedule)

次ページ以降、授業ごとに説明します。

●成績評価の方法 (Grading scheme)

Classes (attendance, participation, quizzes, assignments): 90%
Oral test (at the end of the second term) : 10%
Additional points can be earned through work on ALC Academy (e-learning)

See subsequent pages for details concerning individual courses.

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

次ページ以降、授業ごとに説明します。

科　目　名 （英　訳）	英語 a、英語 c English a, English c	開講学期 曜日・時限	前期(a)・後期(c) 水曜日１・２時限 木曜日１・２時限
対象学年	１年生	単位数	
受講資格		募集人数	
担当教員	Patrick Foss・Ted O'Neill・James Knight・Miya Marutsuka・Miu Sugahara		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

Students will engage in a range of conversation activities (e.g., in pairs or small groups) and in speech/presentation activities to develop better English listening and speaking skills. New vocabulary will also be introduced. Particular grammatical structures will occasionally be targeted. Readings may be used in particular classes as bases for discussion.

●授業の目的 (Primary goal)

The primary goals of these courses are to improve English speaking and listening skills.

●到達目標 (Objectives)

To develop the ability to engage in extended discussions in English, without long pauses, on a range of topics without using dictionaries.

To improve the ability to speak in front of others using English.

●授業計画 (Schedule)

The schedule will vary by class and instructor. See the syllabus for your specific class for more details.

●成績評価の方法 (Grading scheme) 評価 （ 筆記試験, レポート, その他 ）

再評価（ 有・無 ）

Grading schemes will vary by class and instructor. See the syllabus for your specific class for more details.

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

Materials will vary by class and instructor. Some material may be drawn from:

Taboos and Issues by Richard MacAndrew & Ron Martinez, ISBN: 1-899396-41-1

Instant Discussions by Richard MacAndrew, ISBN: 0-7593-9630-2

The instructor will provide copies of necessary materials.

科　目　名 （英　訳）	英語ｂ、英語ｄ English b, English d	開講学期 曜日・時限	前期(b)・後期(d) 水曜日２・３時限 木曜日１・２時限
対象学年	１年生	単位数	
受講資格		募集人数	
担当教員	Patrick Foss・Ted O'Neill・畔柳 和代・猪熊 恵子・菅原 未宇		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

Depending on the particular class, students will read English on a wide variety of topics, including literary works, articles from newspapers and journals, non-fiction and fiction. Students will also write in English on a variety of themes. Students in some classes may give formal presentations based on their written work and other class activities.

●授業の目的 (Primary goal)

The primary goals of these courses are to improve English reading and writing skills.

●到達目標 (Objectives)

To improve the ability to read different types of written works effectively.
To enlarge vocabulary not only for reading but also for writing.
To improve writing abilities at the sentence-level and beyond, depending on proficiency.
To develop the ability to present the results of research-based writing (high proficiency classes only).

●授業計画 (Schedule)

To be announced by the instructor.

●成績評価の方法 (Grading scheme) 評価 （ 筆記試験, レポート, その他 ）

再評価（ 有・無 ）

Grading schemes will vary by class and instructor. See the syllabus for your specific class for more details.

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

To be announced by the instructor, who will provide copies of all necessary materials.

科 目 名 （英 訳）	**日本語 a** Japanese a	開講学期 曜日時限	前期 月曜日４時限
対象学年	１年生	単 位 数	日本語 a, b, c, d 合わせて４単位
受講資格	外国人留学生	募集人員	
担当教員	増田 光司		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

一般向けの人体の部位・機能の説明書（『体の地図帳』、講談社）を教科書として読解を主として行う。必要に応じて、実験レポートの実物、ハンドアウト、図表、参考図書などを随時使用し、作文・読解を行う。

●授業の目的 (Primary goal)

専門の医歯学教育をうけるための基礎となる語彙能力、読解能力の養成をめざす。一方で、教養部の学習に必要な論述文、説明文（特にレポート）の読解・作文に関わる知識・構文力を養う。

●到達目標 (Objectives)

教科書の読解、及び教科書に使われている語彙、表現の習得。
教科書中の語彙表現に対応する一般人が使用する語彙、表現の習得。
論旨明快な説明文を書くためのを基礎的な作文力の習得。

●授業計画 (Schedule)

教科書の読解を 1 コマの授業の 1/2～2/3 行い、学習者の必要に応じて、残りの授業の 1/2～1/3 程度を他教材を使用して作文・読解を行う。各回の授業での学習事項について、次の授業で漢字語彙を中心とした小テストを行うことを原則とする。また、教科書の各単元の終了ごとにテストを行うことを原則とする。なお、夏休みに好きな分野の本１冊の読書とそれについての作文を課す予定である。

●成績評価の方法 (Grading scheme)

評価 （ 筆記試験, レポート, その他 ）

再評価（ 有・無 ）

各単元のテスト、小テスト、平常活動の評価による。出席･授業への参加態度なども評価に加える。
(評価全体の20%)。

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

教科書：高橋長雄 監修･解説、『体の地図帳』、講談社
参考書：浜田麻里他、『大学生と留学生のための論文ワークブック』、くろしお出版
参考書：増田光司他 編著、『留学生のための二漢字語に基づく基礎医学術語学習辞典』、凡人社
担当教員作成のハンドアウト

科　目　名 （英　訳）	**日本語b** Japanese b	開講学期 曜日・時限	前期 水曜日３時限
対象学年	１年生	単位数	a, b, c, d 合わせて４単位
受講資格	外国人留学生	募集人数	
担当教員	大北　葉子		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)
教科書の読解および教科書に基づく講義ビデオを見て、基礎的な医歯学系専門用語を学習する。

●授業の目的　(Primary goal)
医科歯科系の講義の理解に必要な読解力、聴解力、及び口頭発表力を養成する。特に医歯学系の教科書が読めるように人体の構造、生理機能についての語彙、慣用句を学習する。人体の生理機能を全人的に把握する。文章理解を深めるため、文章をチャート化したり、概念をモデル化したり、言い換えなどして読解技術を身につける。

●到達目標　(Objectives)
細胞、組織、体液、酸塩基平衡、栄養素の代謝、生体防御(免疫)、神経系に関わる器官の名称を学習し、その基礎的構造と生理学的機能について説明できるようになる。

●授業計画　(Schedule)

週	月日	内容	教科書
1	4 月 17 日	人体の基本構造と機能	1 課
2	4 月 24 日	人体の基本構造と機能	1 課
3	5 月 1 日	人体の基本構造と機能	1 課
4	5 月 8 日	恒常性の維持	2 課
5	5 月 15 日	恒常性の維持	2 課
6	5 月 22 日	栄養と代謝	3 課
7	5 月 29 日	栄養と代謝	3 課
8	6 月 5 日	生体防御	4 課
9	6 月 12 日	生体防御	4 課
10	6 月 19 日	生体防御	4 課
11	6 月 26 日	生体防御	4 課
12	7 月 3 日	神経系	5 課
13	7 月 10 日	神経系	5 課
14	7 月 17 日	神経系	5 課
15	7 月 24 日	まとめ	

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験，レポート，　その他　）

再評価（　有・無　）

出席及び授業態度　４０％　宿題：２０％　期末試験４０％（出席、宿題など平常点を重視する）

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)
「人体の構造と機能」(2012年版)放送大学　および　自作資料

科 目 名 （英 訳）	**日本語 c** Japanese c	開講学期 曜日時限	後期 月曜日４時限
対象学年	１年生	単 位 数	日本語 a，b，c，d 合わせて４単位
受講資格	外国人留学生	募集人員	
担当教員	増田 光司		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

「日本語 a」の連続として、一般向けの人体の部位・機能の説明書（『体の地図帳』、講談社）を教科書とし、読解を主として行う。また、そこにあらわれる専門の漢字（常用漢字から逸脱することが多い）および語彙の学習のために、留学生用にデザインされた医学術語辞典を使った漢字・語彙の学習も適宜行う。さらに、専門での討論･発表に必要なフォーマルな日本語能力の育成のため、発表の練習を行う。

●授業の目的 (Primary goal)

専門の医歯学教育をうけるための基礎となる語彙能力、読解能力および発表能力の養成をめざす。

●到達目標 (Objectives)

教科書の読解、及び教科書に使われている語彙、表現の習得。
教科書中の語彙表現に対応する一般人が使用する語彙、表現の習得。
専門での討論･発表に必要なフォーマルな日本語の発話能力の習得。

●授業計画 (Schedule)

「日本語 a」の連続としての授業を行い、夏休みの課題についての検討も行う。

教科書の読解を 1 コマの授業の 1/2～2/3 行い、学習者の必要に応じて、残りの 1/2～1/3 程度を、留学生用の医学術語辞典を使った漢字・語彙の学習、発表の練習とディベートにあてる。各回の授業での学習事項について、次の授業で漢字語彙を中心とした小テストを行うことを原則とする。また、教科書の各単元の終了ごとにテストを行うことを原則とする。なお、冬休みに医療関係の文献１冊の読書とそれについての作文を課す予定である。

●成績評価の方法 (Grading scheme) 評価 （ 筆記試験, レポート, その他 ）

再評価（ 有・無 ）

各単元のテスト、小テスト、他活動の評価による。出席･授業への参加態度なども評価に加える
(評価全体の20%)。

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

教科書：高橋長雄 監修･解説、『体の地図帳』、講談社
参考書：増田光司他 編著、『留学生のための二漢字語に基づく基礎医学術語学習辞典』、凡人社
担当教員作成のハンドアウト

科　目　名 （英　訳）	**日本語d** Japanese d	開講学期 曜日・時限	後期 水曜日　３時限
対象学年	１年生	単位数	a, b, c, d 合わせて４単位
受講資格	外国人留学生	募集人数	
担当教員	大北　葉子		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)
教科書の読解および教科書に基づく講義ビデオを見て、基礎的な医歯学系専門用語を学習する。

●授業の目的　(Primary goal)
医科歯科系の講義の理解に必要な読解力、聴解力、及び口頭発表力を養成する。特に医歯学系の教科書が読めるように人体の構造、生理機能についての語彙、慣用句を学習する。人体の生理機能を全人的に把握する。文章理解を深めるため、文章をチャート化したり、概念をモデル化したり、言い換えなどして読解技術を身につける。

●到達目標　(Objectives)
血液、循環器系、血管、呼吸器、消化器、泌尿器、運動、体性感覚に関わる器官の名称を学習し、その基礎的構造と生理学的機能について説明できるようになる。

●授業計画　(Schedule)

週	月日	内容	教科書
1	10 月 2 日	血液の組織と機能	7 課
2	10 月 9 日	循環器系：心臓	8 課
3	10 月 16 日	循環器系：心臓	8 課
4	10 月 23 日	循環器系：血管とリンパ	9 課
5	10 月 30 日	呼吸器系	10 課
6	11 月 6 日	呼吸器系	10 課
7	11 月 13 日	消化器系	11 課
8	11 月 20 日	消化器系	11 課
9	11 月 27 日	泌尿器系	12 課
10	12 月 4 日	運動（骨格と筋肉）	13 課
11	12 月 11 日	運動（骨格と筋肉）	13 課
12	12 月 18 日	感覚系	14 課
13	1 月 8 日	感覚系	14 課
14	1 月 15 日	感覚系	14 課
15	1 月 22 日	まとめ	

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（有, 無）

出席及び授業態度　４０％　宿題　２０％　期末試験４０％（出席、宿題など平常点を重視する）

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)
「人体の構造と機能」（2012年版）放送大学　および　自作資料

科　目　名 （英　訳）	ドイツ語 a/c German a/c	開講学期 曜日・時限	a （前期）、c　（後期） 月曜日３・４時限、 水曜日２・３時限
対象学年	１年生	単位数	ドイツ語 b/d とあわせて４単位
受講資格		募集人数	
担当教員	シンチンガー・エミ・青木　葉子		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

新しい外国語を習得するためには、基礎文法の学習と並行して、実際に使われている言葉を、聞いたり話したり読んだりする反復練習が不可欠です。

ドイツ語 a （前期）／ドイツ語c（後期）では、発音、会話、テキストの朗読、聞き取りなどを反復練習し、生きたドイツ語を身につけることを目的としています。

●授業の目的 (Primary goal)

生きたドイツ語に触れ、ドイツの日常生活や文化について知るようになること。

●到達目標 (Objectives)

ドイツ語 b/d と組み合わせることによって、ドイツ語の文章を辞書を使って訳し、理解できるようになること
会話では、前期に簡単な自己紹介ができるところまで、後期には、過去のこと、未来のこと、意図していることなどを説明できるようになること。

●授業計画 (Schedule)

クラスは、学科別（医学科・歯学科クラス／保健衛生・口腔保健クラス）に編成されます。
授業内容、到達目標、小テストや試験の内容もクラスごとに異なりますので、
以下の授業計画は大まかなものと理解してください。
授業を進める上で教科書と辞書は絶対に必要ですので、忘れないで毎回持ってきてください。

【前期】

1回目、2回目: 基礎発音練習、挨拶の練習。
3回目～13回目: 教科書第1課から第4課、DVD、CDおよびプリント教材を用いた会話と読解の練習。
14回目: 前期会話面接試験
前期定期試験
夏季休暇

【後期】

16回目～26回目: 教科書第5課から第8課、DVD、CDおよびプリント教材を用いた会話と読解の練習。
冬季休暇
27回目～28回目: 教科書第10課、ビデオCDおよびプリント教材を用いた会話と読解の練習。
29回目:後期会話面接試験
後期定期試験

●成績評価の方法 (Grading scheme) 評価 （ 筆記試験, レポート, その他 ）

再評価（ 有・無 ）

授業への積極的な参加、授業中に行われる小テスト、面接試験などによる平常点が５０パーセント。
学期末に行われる筆記試験の成績が５０パーセント。
平常点を重視しますので、出席が２／３に満たない学生については、定期試験を受けることができない場合があります。

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

岩崎克巳／吉田光演『ドイツ語との出会い』 Freut mich ! 郁文堂、2002年初版発行
（生協書籍部で各自購入のこと）
独和辞典(文法の1回目の授業で紹介。)

科　目　名 （英　訳）	ドイツ語 b/d German b/d	開講学期 曜日・時限	b （前期）、d （後期） 月曜日３・４時限、 水曜日２・３時限
対象学年	１年生	単位数	ドイツ語a/c とあわせて４単位
受講資格		募集人数	
担当教員	立川　睦美・清水　修		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)
ドイツ語b（前期）/d（後期）では、ドイツ語の基礎文法を学びます。
会話をするためにも、読んで文章を理解するためにも、基礎文法の理解とそれを応用できる力はとても重要です。そこでこの授業では、教科書に沿って基礎文法の理解を深めながら、同時に演習形式で様々な応用練習を行っていきます。独自の練習問題なども使用します。授業中に練習、小テストなどを行いますので、積極的に授業に参加することが重要です。

●授業の目的 (Primary goal)
ドイツ語の基礎文法を学び、ドイツ語を読めるようになること。ドイツの文化に触れること。

●到達目標 (Objectives)
ドイツ語 a/c と組み合わせることによって、ドイツ語の文章を、辞書を使って訳し、理解できるようにする。

●授業計画 (Schedule)
クラスは学科によって分けられています。（医学科・歯学科クラス／保健衛生・口腔保健クラス）
授業内容、到達目標、小テストや試験の内容もクラスごとに異なりますので、以下の授業計画は大まかなものと理解してください。
授業を進める上で教科書と辞書は絶対に必要ですので忘れないで毎回持ってきてください。

【前期】
1回目： オリエンテーション。辞書についての説明、教科書の使い方、授業の進め方などについての説明。
2回目～14回目： 教科書第1課から第8課の文法事項、教科書およびプリント教材を用いた文法の応用練習。
前期定期試験
夏季休暇

【後期】
16回目～26回目： 教科書第9課から第15課の文法事項、教科書およびプリント教材を用いた文法の応用練習。
冬季休暇
27回目～29回目： 教科書16課の文法事項、教科書およびプリント教材を用いた文法の応用練習。
後期定期試験

●成績評価の方法 (Grading scheme) 評価 （ 筆記試験, レポート, その他 ）

再評価（ 有・無 ）

授業への積極的な参加、授業中に行われる小テスト、宿題などによる平常点が３０パーセント。
学期末に行われる筆記試験の成績が７０パーセント。
平常点を重視しますので、出席が２／３に満たない学生については、定期試験を受けることができない場合があります。

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)
清水薫『改訂版・ドイツ文法１００語の世界』
Deutsche Grammatik für Anfänger　同学社、2008年初版発行
（生協書籍部で各自購入のこと。）
独和辞典必携！（文法の１回目の授業で紹介。）

科 目 名 (英 訳)	フランス語a/ｂ/c/ｄ French a/b/c/d	開講学期 曜日時限	月曜日３時限b/d・水曜日２限a/c ：保健衛生学科･口腔保健学科 月曜日４時限b/d・水曜日３時限a/c ：医学科･歯学科 ただし６月１０日までは月曜もa
対象学年	１年生	単 位 数	４単位
受講資格		募集人数	
担当教員	中島　ひかる・満島　直子		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

フランス語を初めて学ぶ人を対象とし、1年間で全体的な文法構造を理解し、基本的な文章の読み書きや聞き取り、発音ができるようになることを目指します。

１）週２回開講されますが、そのうち、年間を通して水曜日 a/c の授業と前期６月１０日までの月曜 a の授業は中島が担当し、文法規則の説明と演習を中心に進めます。

２）６月１７日以降の月曜日ｂ/ｄでは、２種類の授業が開講されているので、中島（作文）、満島（聞き取り・会話）のいずれか希望のクラスを選んで履修してください。選択したクラスによって成績評価に差が出ないように調整します。変更できるのは初回終了後のみです。

３）前期の成績が振るわなかった学生は、後期水曜の隔週（第１週と第３週）に４、５限連続で開講される「Ｓ・初級フランス語」を補習クラスとして履修して下さい。このクラスを履修しても S の単位にはなりませんが、履修状況は最終成績判定の時に考慮します。対象者は前期終了後に指示します。

●授業の目的　(Primary goal)

個別のシラバスを参照して下さい。

●到達目標　(Objectives)

個別のシラバスを参照して下さい。

●授業計画(Schedule)

個別のシラバスを参照して下さい。

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価 (有・無)

１）フランス語はa/ｂ/c/ｄの総合点で４単位まとめて評価します。
２）ａ　３５%、ｂ１５%、ｃ２５%、ｄ２５%の割合です。
３）再評価は、acについてのみ２月に再試験を行い、総合的に評価します。
４）a/b/c/dの成績評価の詳細については個別のシラバスを参照して下さい。
５）出席が３分の２に満たない学生には、定期試験・再試験の受験を認めないことがあります。

●教科書及び参考書(Textbooks and materials)

教科書・参考書：　個別のシラバスを参照して下さい。

辞書：代表的な仏和辞書を挙げておきます。辞書については第一回目の授業で概要を紹介しますが、仏和辞典は必ず購入してください。電子辞書を買うならクラウンではなくプチ･ロワイヤルの入ったものを推薦します。早く引くには電子辞書が便利ですが、引いたとき全項目が一覧できる紙の辞書が使いやすい場合も多いと思います。

ディコ仏和辞典	白水社、
プチ・ロワイヤル仏和辞典	旺文社
ロワイヤル仏和辞典	旺文社、（中型の辞書で長く使えます）

和仏辞典は特に必要ありません。

科 目 名 (英 訳)	フランス語a/c French a/c	開講学期 曜日時限	a前期　c後期 保健衛生学科･口腔保健学科 月曜日３時限（６月１０日まで） 水曜日２時限 医学科･歯学科 月曜日４時限（６月１０日まで） 水曜３時限
対象学年	１年生	単 位 数	フランス語b/dとあわせて４単位
受講資格		募集人数	
担当教員	中島　ひかる		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

フランス語を初めて学ぶ人を対象とし、１年間で基礎的な文法を身につけることを目指します。フランス語は週２回開講されていますが、そのうち前期６月１０日までの月曜と、年間を通して水曜日 a/c の授業は文法規則の説明と演習が中心になります。６月１７日以降、月曜日 b/d で行われる会話や作文の基礎になるのは文法の知識ですので、フランス語全体の構造がわかるように体系的に説明していきます。ただし、説明を聞いているだけでは語学は身につきません。説明の後、それに関連した演習問題を解いてもらうことで知識の定着をはかりますので、指示された問題については、辞書を引き、問題を解く過程で自らフランス語を書いてみることが大切です。

●授業の目的　(Primary goal)

フランス語文法構造を理解し、基本的な文章の意味がわかるようになる。

●到達目標　(Objectives)

１）基本単語の意味と綴りを身につける。
２）フランス語の文法構造を理解して、基本的な文章の意味がわかるようになる。

●授業計画(Schedule)

前期の６月１０日までは週２回、中島が担当して文法の授業を行います。作文や会話に入る前にもっとも基本的な文法として、発音の仕組み、名詞の性・数、冠詞や形容詞、基本動詞の否定・疑問等を押さえておく方は能率的だと考えるからです。６月１７日以降の a と後期の c では、比較や命令形、関係代名詞や人称代名詞の他、主として、動詞のさまざまな時制や法が中心に学びます。文法項目ごとに練習問題がありますので、説明の後、宿題としてやってきてもらい、それを授業中に添削しながら理解の不十分な箇所を次回にもう一度重点的に解説します。

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（有・無）

aとcは平常点１０％（出席・宿題）、定期試験（筆記試験）９０％で評価します。フランス語はa/b/c/dの総合点で４単位まとめて評価します。出席が３分の２に満たない学生には、定期試験・再試験の受験を認めないことがあります。

●教科書及び参考書(Textbooks and materials)

使用予定教科書

Au pas, Camarade !　足並みそろえて､フランス語　藤本武司　著　　駿河台出版社

科 目 名 （英 訳）	フランス語b/d French b/d	開講学期 曜日時限	b前期（６月１７日以降）　d後期 月曜日３時限：保健衛生学科･口腔保健学科 月曜日４時限：医学科･歯学科
対象学年	１年生	単 位 数	フランス語a/cとあわせて４単位
受講資格		募集人数	
担当教員	中島　ひかる		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

フランス語b/dで中島が担当する授業は仏作文の授業になります。

フランス語圏（francophonie）について書かれたテキストに使われたフランス語を出発点に、フランス語 a/cで学んだ文法項目を練習問題等で復習しながら、テキストの中に使われているフランス語の構文を使って、実際に自分でフランス語の文章を書く練習をします。したがって、この授業では作文といっても、日本語から直接、フランス語の文を考えるのではなく、モデルのフランス語にそって単語を変えながら、基本構文を使ったフランス語の文章を書く練習をします。また同時に、テキストの文章を通して、フランス語圏についても理解を深めていただきたいと思っています。

●授業の目的　(Primary goal)

学習した文法事項を活用し、基本的な文章をフランス語で書けるようになる。

●到達目標　(Objectives)

１）フランス語の基本構文を理解し、文法に則った正しい文章が書けるようになる。
２）基本的単語の意味と綴り、基本動詞の活用に慣れる。
３）フランス語圏の文化について理解する。

●授業計画　(Schedule)

先行して学習している文法項目を復習しながら、基本的な表現を使ったフランス語の文章が書けるように練習していきます。項目ごとに　1.簡単な会話テキストの文章構造の理解、2.文法事項の復習、3.モデル作文　4.読み物の文章に関するフランス語での質疑応答（口頭練習ではなく作文）、の順序で進めます。文法構造を理解しているフランス語も、自分で実際に書いてみることで、綴りや構文を定着させることができます。

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（ 有・(無) ）

宿題、あるいは授業中の課題として各自でフランス語を書いていただきますので平常点を重視します。

平常点６０％（課題への取組と達成度の評価）、定期試験（筆記試験）４０％。

最終的には、フランス語 a/cとの総合で４単位まとめて評価します。なお、b/dについては、再試験は原則行わずa/cの再試験で総合的に再評価を行います。

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

Destination Francophone　　小松祐子・Gilles Delmaire　　駿河台出版社

仏和時点はフランス語aの授業で指示します。和仏辞典は特に必要ありません。

科　目　名 （英　訳）	フランス語 b/d French b/d	開講学期 曜日・時限	b 前期（6/17以降）d後期 保健衛生学科・口腔保健学科 月曜日３時限 医学科・歯学科 月曜日４時限
対象学年	１年生	単位数	フランス語a/cとあわせて４単位
受講資格		募集人数	
担当教員	満島　直子		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

フランス語初学者を対象とする会話入門。　パリに留学した日本人のアキコを中心に展開される様々な場面での会話例をとおして、旅行や日常生活で使われる表現を学びます。テキストに沿って発音、構文を確認しながら進み、学んだ事項をもとに口頭での応答やヒアリングの練習を行います。

●授業の目的 (Primary goal)

文法の授業で習う事項を実際の文脈の中で確認し、復習するとともに、基本例をもとにして身の回りのことについての簡単な文を扱えるようになることを目指します。知っているはずの文法事項でも、実際に話そうとすると急には使えないことが判ると思います。実践してみることが大切なため、単語については予習を心がけ、授業での練習には積極的に参加してください

●到達目標 (Objectives)

1) 音読や文型の口頭練習、ヒアリングを通して、フランス語を聞き取り、発音することに慣れること。
2) 基本的な表現を覚えて発話の手がかりをつかむこと。

●授業計画 (Schedule)

進度については各クラスの様子を見ながら調整し、場合によっては一部を省略することもあります。
早く終わった場合には追加教材を配布する等の方法で、さらに先へ進みます。
文法の教科書と学習項目の順序が異なる場合には、必要に応じて文法事項を解説します。

1) パリ到着：タクシーでホテルへ。職業、国籍を言う。
2) ホテルで：　受付でチェックインする。
3) 公園で：　友人の連れに挨拶する。
4) カフェで　：人物の特徴を語る。
5) 電話で：電話をかける。誘う。待ち合わせをする。
6) 通りで：美術館までの道順を尋ねる。
7) 市場で：食料品を買う。
8) 休日の計画：時間・天候を語る。スポーツ観戦に行く。
9) デパートで：洋服を試着する。
10) 友人宅で：家族との食事。紹介する。
11) ノルマンディー旅行：過去を語る。
12) レストランで：お別れを言う。未来を語る。

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験，レポート，　その他　）

再評価（ 有 ・ 無 ）

前期：平常点 40、小テスト 30、口頭テスト 30
後期：平常点 30、小テスト 30、口頭テスト 10、期末筆記テスト 30
最終的には、フランス語 a/c との総合で 4 単位まとめて評価します。なお、b/d については、再試験は原則行わず a/c の再試験で総合的に評価を行います。

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

Fujita Yuji, *Elle est gourmande ! 1 a, nouvelle édition*,（『新・彼女は食いしん坊！1』）, 朝日出版社, 2013
この外に、授業中にプリントを配布したり、参考書や教材の紹介を行います。
辞書については、フランス語 a/b/c/d のシラバスを参照してください。

科　目　名 （英　訳）	中国語a/c + b/d Chinese a/c + b/d	開講学期 曜日・時限	医・歯：月曜日４時限（b/d） 水曜日３時限（a/c） 保・口：月曜日３時限（a/c） 水曜日２時限（b/d）
対象学年	１年生	単位数	中国語a/cとb/dで計４単位
受講資格		募集人数	
担当教員	家永　真幸		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

中国語を初めて学ぶ人のための授業です。時間割の名義上は水曜日をa/c（前期文法／後期文法）、月曜日をb/d（前期会話／後期会話）としていますが、１人の教員が１冊の教科書を使い週２コマ通年で行う授業となります。

●授業の目的　(Primary goal)

中国語を読み、書き、話し、聞き取れるようになるための「基礎的な文法」および「正しい発音」の習得を目指します。予習は不要ですが、復習と暗唱は必須。授業中は積極的に大きな声を出すことが求められます。進度に余裕があれば映像鑑賞や中国文化に関する講義もはさみ、中国各地の風景や中国的なモノの考え方について想像を巡らせてもらいたいと考えています。

●到達目標　(Objectives)

中国語の表記に使われる漢字は「簡体字」と呼ばれ、日本の漢字とは形が異なる場合も多いので、改めて覚える必要があります。その漢字の読み仮名である「ピンイン」は、ローマ字で表記しますが英語の読み方とはほとんど一致しません。さらに、中国語は音の高低によって意味が変わる「声調言語」であり、歌を歌うように正しい節をつけて発音しないと通じません。文法構造は英語に似ているようで似ておらず、むしろ日本語に似た部分も多い一方、日本語話者にとって何とも耳慣れない語順になることもしばしばです。このように、みなさんにとって未知なる「中国語の特徴」を、１年間を通じて体得していただきたいと思います。

●授業計画　(Schedule)

１年間でちょうど教科書１冊分の内容消化を目指します。前期の第１～４週は「発音の基礎固め」。第５週以降は、教科書を授業２回で１課分のペースで進める予定です。前期で第１０課まで終わらせ、後期は第１１課から始めるつもりですが、みなさんの反応を見て適宜調整します。

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（有・無）

成績は中国語 a/b, c/d をまとめて４単位として評価します。
内訳：平常点　２０%、小テスト４０%、期末テスト４０%
後期の期末試験終了後、及第点に達していない方には再試験のチャンスを設けます。

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

教科書：楊凱栄・吉川雅之・張麗群『基礎漢語』白帝社。
参考書：相原茂『Why? にこたえる　はじめての中国語の文法書』同学社。
　　守屋宏則『やさしくくわしい中国語文法の基礎』東方書店。
辞書：ひとまず図書館にあるものを使い、ある程度学習が進んでから自分で選ぶことを勧めますが、定番としては以下。電子辞書版もあります。
・小学館『日中辞典』『中日辞典』
・講談社『日中辞典』『中日辞典』

科　目　名 （英　訳）	スペイン語 a/b/c/d Spanish a/b/c/d	開講学期 曜日・時限	月曜日４時限・水曜日３時限 ：医学科・歯学科
対象学年	１年生	単位数	４単位（a, b, c, dと合わせて）
受講資格		募集人数	
担当教員	笛田　千容・大貫　良史		

●授業の概要(Outline of content and teaching method)

スペイン語を初めて学ぶ人を対象とし、1 年間で基礎的な文法を身につけ、簡単な会話や作文ができるようになることを目指します。週2回の授業のうち、月曜日のa/cの授業は文法規則の説明と用法を中心に説明します。a/cの残りの時間とb/dでは、そうした文法項目に関連する練習問題を解きながら、知識の定着をはかります。さらに水曜日のb/dの授業では適宜、ロール・プレイングや映像資料などを用いて、目と耳を使った授業を組みたてていきます。

●授業の目的(Primary goal)

世界中で3億5千万人が母語としているスペイン語の基本的な知識を身につけて、スペインおよびイスパノアメリカの文化に対する理解をふかめましょう。

●到達目標(Objectives)

1）スペイン語の基礎的な単語や表現の意味・綴り・発音を身につける。
2）スペイン語文法の基本構造を理解し、簡単な文章が読めるようになる。
3）スペインおよびイスパノアメリカの国々についての知識を身につける。

●授業計画(Schedule)

前期は主として、以下のような文法項目を扱います：
アルファベットと発音、名詞の性と数、冠詞、形容詞、数詞、おもな前置詞
ser動詞とestar動詞（英語のbe動詞にあたる）、直接法現在形の規則活用、疑問詞など

後期は直接法現在形の不規則活用に加えて、現在完了形と二つの過去形を中心に扱います。
また、日本語や英語とは異なる構文的特徴を持つgustar型動詞や再帰動詞のなかから、日常生活において使用頻度の高い表現の習得を目指します。
直接法のその他の時制（未来、過去未来、過去完了など）については、皆さんの進度を見ながら可能な範囲で学習する予定です。

●成績評価の方法(Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（有・無）

年２回の定期試験のほか、授業期間中にも適宜小テストを行います。これらの平均点に授業への出席率を加味して総合的に成績を評価します。小テスト３０％・定期試験７０％です。

●教科書および参考書(Textbooks and materials)

教科書：エウヘニオ・デル・プラドほか『スペイン語でスケッチ』（第三書房、2012年）
辞書：小型のもので構いませんので、必ず入手して、授業に持参してください。
小型のものとしては、小学館『プログレッシブスペイン語辞典』、『ポケットプログレッシブ辞典』、白水社の『パスポート初級スペイン語辞典』などをお勧めします。

4）保健体育

保健体育分野では、授業科目として必修科目のスポーツ・健康科学とフィットネスマネージメントの２科目と自由選択科目のＳ．メンタルトレーニング、Ｓ．フィットネスキャンプとＳ．野外運動実習の３科目、計５科目の授業を開講しています。

● 保健体育の指針

授業開講の主たる目的は、これらの授業の受講をとおして受験対策のために委縮した心身の賦活とスポーツを含む身体活動実践の体験的価値並びに理論的意義を学ぶことにあります。よって、その結果として生涯をとおしてのより良いライフスタイル（トータルフィットネス）形成の基礎を身に付け、より質の高い医療従事者の資質として健康科学の基礎理論を学びとることが求められます。

また、昔から各種スポーツを含む身体運動文化の教育は、洋の東西を問わずエリート教育の重要な位置を占めてきました。これはこうした身体運動文化の実践が個人の責任、集団での役割、チームワーク、さらに言語的及び身体的（非言語的）なコミュニケーションなどを学びとることに有効であるとともに、リーダーとして必要な資質を開発するためにも有用であるためと考えられます。よって、保健体育分野の授業でも、各種のスポーツや身体活動の実践をとおして身体運動文化の神髄に触れ、自らの心身の状態（特性や限界）を知り、これをより良く自己管理するとともに医療者の資質として重要なプロフェショナルリズムの基礎（礼儀、誠実さ、時間厳守、信頼性、思いやり、他者とのより良い関係性の構築、協働など）を身につけることが重要です。

科　目　名 （英　訳）	スポーツ・健康科学 Health and Sports Sciences	開講学期 曜日・時限	前期 木、金曜日５時限
対象学年	１年生	単位数	１単位
受講資格		募集人数	
担当教員	湊久美子・清水　諭・二宮雅也・服部淳彦・田中智彦・谷木龍男・林久仁則・水野哲也		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

保健体育分野では、必修の授業科目としてスポーツ・健康科学とフィットネスマネージメントを開講しています。その中で、この授業はスポーツ並びに健康科学に関する基礎理論を中心とした講義形式の授業で、実習系科目であるフィットネスマネージメントとの有機的な連携を図ることでより効果が上がるように設計されています。具体的な講義は、保健医学、フィットネス科学（健康栄養学を含む）、スポーツ・身体論等に関する内容で、それぞれの専門家が分担、講義します。

●授業の目的 (Primary goal)

保健体育分野の開講科目の主たる目的は、これらの授業の受講をとおしてスポーツ・身体活動実践の体験的価値並びに理論的意義を学ぶともに、生涯における健康的で有意義な人生設計に欠かせないより良いライフスタイル形成についての理論を学び、そのより効果的な実践能力の基盤を養うことにあります。従って、この授業は原則して全学科の１年生を対象とし、特に専門教育以前に学生自身の健康管理並びにスポーツに関する一般的な教養を身に付けることをその目的としています。

●到達目標 (Objectives)

この授業での到達目標は、次項に示したようなスポーツ並びに健康科学に関する理論を学び、それを十分に理解することであり、実習系授業の中で実践される測定、評価並びに体験との有機的な連携を図り、学生自身の自己管理能力の基盤と身体に関する基礎的な教養を身につけることです。

●授業計画 (Schedule)

１．スポーツ・身体論

スポーツを含む身体活動並びに身体表現に着目し、人文社会学的視座からその文化的価値並びにその現代的意味を考えていくとともに、広くヒトの身体とその教育の重要性及び意義について考えます。

２．保健医学

授業では、感染症・薬物・生活習慣・エイジングなど健康を巡るさまざまな問題を取り上げ、実例を紹介しながら、検討してゆきます。また、医学や医療従事者として今後どのような心構えが必要なのかについても共に考えていきます。

３．フィットネス科学（健康栄養学を含む）

健康の維持増進の観点から人の身体運動を生理学的な視点から捉え、その予防医学的手段としての価値や適正量などその現代的意義を中心に考えるとともに食事のあり方について、栄養素、食品、調理、献立やその適切な組み合わせ方法などを概説します。また、睡眠を中心とした休養の重要性とそのメカニズムについても解説し、ストレスマネージメントを含むトータルなフィットネスマネージメント（健全なライフスタイルの形成）の意義について考えます。

●成績評価の方法 (Grading scheme)

評価は、定期試験期間にテストを実施し、その理解度を　評価　（　筆記試験，レポート，　その他　）

評価します。　再評価（　有・無　）

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

井上 俊、亀山佳明編；「スポーツ文化を学ぶ人のために」、世界思想社、1999
内田 樹、釈 徹宗、現代霊性論、講談社、2010、
山崎喜比古、朝倉隆司編；第四訂 「生き方としての健康科学」、株式会社　有信堂高文社、2005
徳永幹雄編；教養としてのスポーツ心理学、株式会社　大修館書店、2005
森下玲児；改定「これからの健康科学」、株式会社　金芳堂、2007
Charles B. Corbin・Ruth Lindsey；Updated Fifth Edition、FITNESS FOR LIFE、Human Kinetics、2007

科　目　名 （英　訳）	フィットネスマネージメント Fitness　Management	開講学期 曜日・時限	前期、後期 木・金曜日　３・４時限
対象学年	１年生	単位数	１単位
受講資格		募集人数	
担当教員	今野和志・林久仁則・浅川陽介・高岡英氣・水野哲也、		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

この授業では、定期的な各種の運動やグループ活動を中心とした実習を行う中で、心身のトータルなフィットネスに関する測定、調査を行い、その自己評価を行うとともに改善を図ります。具体的な運動実践では、基礎体力の向上はもちろんのこと、様々な身体活動の機会を通して適切な他者との関係性の構築を図ります。

● 授業の目的　(Primary goal)

この授業は、特に受験対策等で萎縮した心身を学齢期の最終段階であるこの時期に賦活させるとともに、今後のフィットネス管理のベースとなる予防医学の手段としての効果的な運動・トレーニング、栄養・食事、休養並びにメンタルマネージメントについて、それぞれの方法を用いて客観的評価し、それに基づく効果的な改善策を実施し、より良いコンディションづくりの基盤を身につけることを第一の目的としています。また、様々な身体活動の機会（身体運動文化の実践）を通して適切な基本的生活態度と習慣、他者との協働に必要な礼儀、節度、対人関係並びに効果的なコミュニケーション能力等の向上を図ります。

そして、こうした授業目的の達成のためには、学生自身の主体的で責任ある授業態度はもちろんのこと、授業達成目標の共有をはじめとした積極的な姿勢、取り組みが必要十分条件です。

●到達目標　(Objectives)

この授業の最終到達目標には、自分自身で自らのフィットネスを適切に管理する能力（フィットネスの自己管理能力）の基礎を確実に身につけることにあります。そして、この自立した基礎能力の獲得には、大きく分けて４つのステップがあり、そのひとつめは継続した各種フィットネスプログラム（適切な運動と食生活並びに他者とのコミュニケーション）の実践であり、ふたつめはその継続的な実践による基礎的なフィットネスの獲得です。また、こうして獲得された基礎的なフィットネスが生涯にわたって適切に維持・増進されていくためには第３段階として、それらを正しく自己評価する能力が求められます。授業の中では各種フィットネスレベルを評価するための各種の測定や調査を実習し、システムTFASを用いてその自己評価のサポートを行います。授業における最終段階では、学生自身がそうした実践と各種評価法から得た情報を通して、その後の自己管理（フィトネスマネージメント）にむけたプランニングが求められます。

●授業計画　(Schedule)

１．　クラス分け

受講学生には各学期とも指定された時間に数種類のプログラムが準備されています。学生は、各学期毎の第１回目の授業時に担当教官の指示に従って種目選択を行い、第２回目以降の授業では原則として各種目毎のクラスによって授業が進められます。

２．　授業内容

最低１日/週の頻度で定期的な運動実践並びに各種フィットネス項目の測定評価の実習が行われます。授業の中で実施される運動内容には、バドミントンやフットサルなどのスポーツ種目の他に、軽運動をはじめとしたコンディショニング・エクササイズ、さらには身体感覚の育成や身体操作法の養成を目的としたプログラムなどが用意されています。なお、本年度は実施される授業の評価・分析のための調査等が計画されており、全員の学生にその協力をお願いします。

●成績評価の方法　(Grading scheme)

評価は、大きく３つの側面から行われます。

評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

１．参加度、貢献度、授業目的達成度

再評価（有・無）

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

ハラルド・メラロヴィッチ；健康と運動、予防医学の手段としてのトレーニング、ﾍﾞｰｽﾎﾞｰﾙ･ﾏｶﾞｼﾞﾝ社、1993

J.F.サリス・N.オーヲン；アクティブ・ライフスタイルをめざして「身体活動と行動医学」北大路書房、2000

５）教養総合講座

本講座は、平成 23 年度より新たに開講された科目です。内容は、１）基礎ゼミ、２）文章表現リテラシー、３）情報活用リテラシーの 3 つから構成され、1 年生全員を全学科混成の 15 名よりなる 18 班に分けて、並行して進められます。

「基礎ゼミ」における目的は、グループ学習やグループディスカッションを初年次より体験することに、①すべての学生が共に学ぶ教養部の特性を活かし、学科の枠を超えた相互理解を育むことを通じて、将来のチーム医療に必要な基礎作りを行うことと②人文社会科学から自然科学までの学問領域を横断して共通のテーマを深く考察する機会を与えることによって、自発的な学びの態度と幅広い視野を身につけさせることにあります。

一方、「文章表現リテラシー」と「情報活用リテラシー」においては、学問を身につける上で必要な基本的な技能である、文章表現、情報活用やプレゼンテーションの能力の向上を図ることにあります。

詳しくはガイダンスなどで説明しますが、事前に課題図書等を読む必要がありますので、注意深く教養部掲示板や WebClass を見ることを忘れないようにしてください。

科　目　名 （英　訳）	**教養総合講座** Topics in Integrated Studies	開講学期 曜日・時限	前期 火曜日４・５時限
対象学年	１年生	単位数	１単位
受講資格		募集人数	
担当教員	教養部全教員他		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

本授業は（1）基礎ゼミ、（2）文章表現リテラシー、（3）情報活用リテラシーの３つの内容から構成される。これらは、対象学生全員を１５名程度の班に分けて、並行して進められる。

（1）　基礎ゼミでは、指定された課題図書と、初回の基調講演を参考にして、班ごとに、大きなテーマに沿って課題を見つけ、問題を抽出し、情報収集と討論を行い、最終回（発表会）で班の考えを述べる。各班には教養部教員が１名ずつ、チュータとして参加する。

（2）　文章表現リテラシーでは、講義と添削により、論理的文章の書き方を実践的に学ぶ。

（3）　情報活用リテラシーでは、情報の収集・分析・提示について、演習を交えながら学ぶ。

●授業の目的　(Primary goal)

（1）人文社会科学から自然科学までの学問領域を横断して、共通のテーマを深く考察する機会を与えることによって、自発的な学びの態度と幅広い視野を身につけさせる。

（2）すべての学生が共に学ぶ教養部の特性を活かし、学科の枠を超えた相互理解を育むことを通じて、将来のチーム医療の基盤となるグループ学習、グループディスカッションを初年次より体験する。

（3）学問を身につける上で基礎的な技能となる、コミュニケーション、文章表現、情報活用、プレゼンテーションの能力の向上を図る。

●到達目標　(Objectives)

大学での学習に必要な討論、文章表現および情報活用に関する基本的なスキルを身に付ける。

●授業計画　(Schedule)

教養部ガイダンス時に、班分けと説明を行うが、詳細は別途指示する。

■平成25年度のテーマ：「現代の科学技術がもたらす光と影」

第1回（湯島）　オリエンテーション、基調講演
第2～11回（国府台）　班ごとに以下の内容に沿って進行する。

（1）基礎ゼミ　第2～6回　　テーマに沿った課題①に関する討論（前半）
　　第7～11回　　テーマに沿った課題②に関する討論（後半）

（2）文章表現リテラシー
　Ⅰ　論理的文章とは何か ／ 課題①
　Ⅱ　分かりやすい文章の書き方（一文の長さ・接続詞の選択・段落の構成）／ 課題②
　Ⅲ　結論を示すことの大切さ（問題提起から結論導出の提示と表現）／ 課題③

（3）情報活用リテラシー
　Ⅰ　情報の収集と検索 ／ 課題①
　Ⅱ　情報の引用と選択 ／ 課題②
　Ⅲ　情報の編集と提示 ／ 課題③

第12，13回（9月：国府台）　基礎ゼミのまとめと発表会

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他：出席　）

再評価（　有・無　）

基礎ゼミ(50%)、文章表現リテラシー(25%)、情報活用リテラシー(25%)について、出席状況や課題への取り組み方、授業への参加態度などをもとに総合的に評価する。

なお、指定した期日までにレポートの提出が無い場合は、不可とする。

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

基礎ゼミの課題図書：　教養部ガイダンス等により適宜指示する。

【指定図書】

池内　了　『科学の限界』(ちくま新書)

【参考図書】

畑村洋太郎　『未曾有と想定外　東日本大震災に学ぶ』（講談社現代新書）
内山節　『文明の災禍』(新潮新書)
金森修　『ゴーレムの生命論』(平凡社新書)
伊藤章治　『サツマイモと日本人』（PHP新書）
芳賀繁　『事故がなくならない理由』（PHP新書）
松本三和夫　『構造災―科学技術社会に潜む危険』(岩波新書)
武田徹　『私たちはこうして「原発大国」を選んだ』―増補版「核」論』（中公新書ラクレ）
紀平英作　『世界史リブレット50　歴史としての核時代』（山川出版社）
種田明　『世界史リブレット81　近代技術と社会』（山川出版社）
鈴木淳　『日本史リブレット100　科学技術政策』（山川出版社）
池内了　『科学と人間の不協和音』（角川書店）
松野誠也　『日本軍の毒ガス兵器』（凱風社）
吉岡斉　『朝日選書883　新版　原子力の社会史　その日本的展開』（朝日新聞出版）

文章表現リテラシーの参考書：　木下是雄『理科系の作文技術』（中公新書）

情報活用リテラシーの参考書：　海野・田村『IT Text　情報リテラシー』（オーム社）

S・物理で視た人体と医療機器・・・・・
S・メンタルトレーニング・・・・・・・
S・医歯学生のための法学概論・・・・・
S・Introductory　Life Science　In　English
・・・・・・・
R・整数論・・・・・・・・・・・・・・
S・翻訳演習・・・・・・・・・・・・・
S・離散構造講義・・・・・・・・・・・
R・講義と実習によるバイオサイエンスA
・・・・・・・
S・Digital Language and Literacy Project
・・・・・・・
S・一般化学演習A・・・・・・・・・・
S・一般化学演習B・・・・・・・・・・
S・応用数学・・・・・・・・・・・・・
S・量子論入門・・・・・・・・・・・・
S・漢文講読A・・・・・・・・・・・・
S・中国近現代史・・・・・・・・・・・
S・異文化交流・・・・・・・・・・・・
S・数理生物学・・・・・・・・・・・・
S・情報・・・・・・・・・・・・・・・
S・Word Power　・・・・・・・・・・
S・『古事記』講読　・・・・・・・・・・
S・フランス語でニュースを読む・・・・
S・電気と磁気・・・・・・・・・・・・
S・BASIC 言語　・・・・・・・・・・・
R・離散構造１・・・・・・・・・・・・
R・離散構造２・・・・・・・・・・・・
S・数学解析・・・・・・・・・・・・・
S・実用統計学・・・・・・・・・・・・
S・糖の科学・・・・・・・・・・・・・
S・初級フランス語・・・・・・・・・・
R・講義と実習によるバイオサイエンスB
・・・・・・・
S・タンパク質の科学・・・・・・・・・
S・医療と社会システム・・・・・・・・
S・Life Science　in　English・・・・・
R・点子ちゃんとアントンを読む・・・・
R・符号理論・・・・・・・・・・・・・
S・現代パフォーミングアーツ・・・・・
S・微分方程式入門・・・・・・・・・・
S・彫刻・・・・・・・・・・・・・・・
S・計算機による数学A／B・・・・・・・
S・生体分子分光学演習・・・・・・・・
S・電磁気学演習・・・・・・・・・・・
S・水の科学・・・・・・・・・・・・・
S・漢文講読B・・・・・・・・・・・・
S・イギリス文学講読・・・・・・・・・
S・現代物理学入門・・・・・・・・・・
S・現代中国論・・・・・・・・・・・・

●夏季集中型自由選択科目
S・機械・科学・人間・・・・・・・・・
S・分子分光学演習・基礎編・・・・・・
S・フィットネスキャンプ・・・・・・・
S・ウニの発生と海産生物の観察実習
・・・・・・・

●冬季・春季集中型自由選択科目
S・野外運動実習・・・・・・・・・・・

２．自由選択科目

自由選択科目は次のように区別しています。

Ｓ科目　：講義、セミナー、実験と授業形態は様々です。
Ｒ科目　：原書講読を基本とした自由選択科目です。古今東西の原書や論文をじっくりと読む科目です。

各自の興味、関心に合わせて科目を選び、下記の通り定められた単位数以上を履修してください。

医学部医学科・歯学部歯学科　　：１学年で２単位
医学部保健衛生学科・歯学部口腔保健学科　：１学年で１単位

科　目　名 （英　訳）	**S・物理で視た人体と医療機器** Physics for Medical Sciences	開講学期 曜日・時限	前期 水曜日４・５時限 （第１・第３週を除く）
対象学年	１年生	単位数	１単位
受講資格	保健衛生学科・口腔保健学科	募集人数	１０名以上２０名以下
担当教員	千葉　司		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

この科目は高校物理の履修を前提としていませんが、多少物理の知識は必要です。

医学や歯学に物理は関係ないと思っている学生が多いかも知れない。しかし、人体の働きは物理と密接に関わっているし、多くの医療機器もその動作原理は、物理で説明できる。各人が教科書の一節を担当し、レジメあるいはパワーポイントを用いて内容を説明し、議論するゼミ形式とする。

なお、

1) 履修者が10名に満たない場合は、開講しないこともある。
2) 医学科・歯学科の学生に向けて、同様の科目を「主題別選択」で開講する。

●授業の目的　(Primary goal)

医学や歯学に関係する現象が物理学の原理にしたがっていることを理解すること。

●到達目標　(Objectives)

下記の授業計画で挙げている各項目について理解すること。

●授業計画　(Schedule)

1. 測定と医療機器
2. 力学と人体：静止している物体　運動している物体　人体の力学　医療機器と力学
3. 流体と人体：静止流体　運動流体　血液の流れ　流体と医療
4. 熱と体温：熱と温度　体温調節　体温測定
5. 音と光と人体：波の性質　音波　光
6. 電気と磁気の世界：電気と磁気に関する基礎知識　生物体の電気現象　医療における主な応用機器
7. 原子と放射線：原子と原子核に関する基礎知識　医学における放射線　医療への応用機器

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他（出席・発表））

再評価（ 有・無 ）

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

教科書：　佐藤幸一・藤城敏幸「医療系のための物理」（東京教学社　2007 年）

参考図書：　教科書 p. 129–130 に参考図書がまとめられている。

科　目　名 （英　訳）	S・メンタルトレーニング Psychological Skill Training for Medical Student	開講学期 曜日・時限	前期 水曜日４時限
対象学年	１年生	単位数	１単位
受講資格		募集人数	２０名
担当教員	谷木　龍男		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

スポーツ・身体活動に限らず優れたパフォーマンスを実現するためには，心・技・体の調和のとれた発達が不可欠です。メンタルトレーニングとは，スポーツ選手の心を鍛える方法として開発された心理的スキル技法のパッケージです。今日では，スポーツ領域に留まらず，ビジネス，医療・看護領域など，様々な領域に応用されています。本授業では，講義形式でメンタルトレーニングの理論と実践方法を学び，セミナー形式で心理的スキル技法を練習・習得し，練習・習得状況について発表を課します。

●授業の目的　(Primary goal)

基本的な心理的スキル技法を習得し，日常生活の様々な場面で応用できるようになることを目指します。

●到達目標　(Objectives)

各心理的スキル技法の基礎的な知識を講義した後，実際にその技法を練習します。特に，リラクセーション技法である自律訓練法は，標準練習の習得を目標とします。

●授業計画　(Schedule)

１．ガイダンス
２．メンタルトレーニングの歴史
３．質問紙法（DIPCA., DIHAL.2, FFMQなど）
４．投影法（風景構成法，バウムテスト）
５．エゴグラム（交流分析，東大式エゴグラム）
６．リラクセーション（筋弛緩法，セロトニン呼吸法，自律訓練法）
７．ピークパフォーマンス分析（クラスタリング，書記療法）
８．目標設定技法
９．注意集中技法（グリッドエクササイズ，残像メンタルトレーニング）
１０．ポジティブシンキングとセルフトーク
１１．コミュニケーション（アサーション）
１２．イメージトレーニング
１３．カウセリング（精神分析，認知行動療法，来談者中心療法）
１４．カウンセリングの実際
１５．総括

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験，レポート，その他　）

再評価（　有・無　）

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

教科書：スポーツメンタルトレーニング教本改訂増補版，日本スポーツ心理学会編，2005，大修館書店.
参考書：自律訓練法改訂版，松岡洋一・松岡素子，2009，日本評論社.
ポジティブマインドースポーツと健康，積極的な生き方の心理学，中込四郎・外山美樹・石崎一記，2010，新曜社.
マインドフルネスそしてACTへ　二十一世紀の自分探しプロジェクト，熊野宏昭，2011，星和書店.
スポーツカウンセリング入門，内田直，2011，講談社.

科　目　名 （英　訳）	S. 医歯学生のための法学概論 （Introduction to Legal Science for Medical and Dental Students）	開講学期 曜日・時限	前期 水曜日4時限・5時限 （ただし第1週と第3週のみ）
対象学年	1 年生	単位数	1単位
受講資格		募集人数	20名
担当教員	飛田 綾子		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

安楽死や臓器移植など医療にかかわる自己決定に関して、憲法的な見地から検討を加える。教員が作成したレジュメをもとに講義形式で行う。適宜、授業中に各自の意見を発言するように求めることもある。

●授業の目的 (Primary goal)

日本国憲法は、医療従事者と関係の深い自己決定権や学問の自由といった権利を保障している。その根底にあるのは「個人の尊重」という原理である。しかしこの原理の尊重は時に医療行為と深刻な対立を引き起こし、治療拒否事件など実際に裁判も起きている。授業ではこの原理と医療行為がなぜ対立するのか、という問いを念頭に置きながら、脳死判定などを題材に「患者の自己決定権」というテーマについて、憲法学はどのような応答をしているのかを検討する。

●到達目標 (Objectives)

(1) 医療が果たすべき役割を憲法学はどのように考えているのか、を理解する。
(2) 授業でとりあげた具体的テーマの法的論点について理解できる。
(3) 授業をひろく医療が果たすべき役割を考えるきっかけとして、社会の中で医療が果たす役割に関心を持つ。

●授業計画 (Schedule)

第１回　ガイダンス、個人の尊重原理について
第２回　医療行為と患者の自己決定権
第３回　胎児と中絶
第４回　脳死、臓器移植
第５回　安楽死、尊厳死
第６回　先端医療研究
第 7回　まとめ

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価　（筆記試験, レポート, その他）　再評価（有・無 ）

100点満点で採点する。配分は以下の通り。
小レポート20点(100頁程度の文献を読んだうえで600字程度)、
学期末試験80点(授業で説明した題材に関する基本的知識の確認と自身の意見を評価対象とする)。
授業中の発言は積極的に評価する。

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

教科書：特に指定しない。教員が毎回、レジュメを作成する。

参考書：宇津木伸・町野朔・平林勝政・甲斐克則編『医事法判例百選』（有斐閣、2006年）2,730円。
手嶋豊『医事法入門（第3版）』（有斐閣、2011年）2,205円。
樋口範雄編『ケース・スタディ 生命倫理と法（第2版）』（有斐閣、2012年）3,360円。
樋口範雄『続・医療と法を考える―終末期医療ガイドライン』（有斐閣、2008年）2,415円。
イゴール・バレール/エチエンヌ・ラルウ（森岡恭彦訳）『ドキュメント 安楽死』（講談社、1989年）
竹中勲『憲法上の自己決定権』（成文堂、2010年）6,300円。
青柳幸一『憲法における人間の尊厳』（尚学社、2009年）8,400円。

科　目　名 （英　訳）	S· Introductory Life Science in English	開講学期 曜日・時限	前期 第１・３水曜日 ４・５時限
対象学年	１年生	単位数	１単位
受講資格		募集人数	２０名
担当教員	産賀　崇由		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

This course will introduce basic knowledge and concepts of Cell Biology in English.
Students will be taught this course by class lectures and written tests in English.

●授業の目的　(Primary goal)

The primary goal of this course is to provide students with a basic understanding of concepts of Cell Biology in English. Students are expected to grasp the key concepts in English, and express their thoughts and opinions in English.

●到達目標　(Objectives)

The main objective is for students to learn the main concepts of Cell Biology, such as Chemical Components of Cells, Energy, Catalysis, Biosynthesis, Protein Structure and Function, DNA Structure and Function, Control of Gene Expression, Membrane Structure and Transport, Cell Communication, Cell Division, Sex and Genetics in English.

●授業計画　(Schedule)

A total of fifteen classes will be offered in a semester. A final exam will be held at the closing class of a semester. Attendance is very important because in every class there will be "Questions and Answers" to clarify different concepts of each lesson.

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（有・無）

Attendance: 25%
Class Participation/Activities: 25%
Final Exam: 50%

Regular attendance is essential because without regular attendance students' progress would not be evaluated properly.

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

Albert B, Bray D, Hopkin K, Johnson A, Lewis J, Raff M, Roberts K and Walter P. 2009. *Essential Cell Biology*, 3rd Ed. Published by Garland Science, Taylor & Francis Group, LLC 270 Madison Avenue, NY 10016, USA.

Students will be provided necessary study materials and handouts in the class.

科　目　名 （英　訳）	**R・整数論** Introduction to number theory	開講学期 曜日・時限	前期 第２，４，５水曜日４，５時限
対象学年	１年生	単位数	１単位
受講資格		募集人数	１５名
担当教員	清田 正夫		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

ゼミ形式で初等整数論を学ぶ。

学生一人ひとりに下記テキストの一章節（3、4ページ）を割り当て、十分時間をかけてレジュメを作成してもらい、その内容を他の学生にわかるように黒板を用いて解説してもらう。

本文のみならず、章末問題の解答、解説も学生自身にやってもらう。

●授業の目的 (Primary goal)

整数論の初歩を理解する。

●到達目標 (Objectives)

整数論における基本的定理の内容と証明を理解する。

●授業計画 (Schedule)

第１回―第２回　整数の公理と数学的帰納法
第３回―第４回　整除性と素因数分解の一意性
第５回―第７回　整数の合同と合同類群
第８回―第１１回　フェルマーの定理とオイラーの定理
第１２回―第１５回　二次剰余の相互法則

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（有・無）

出席と発表の回数および、発表のやり方、内容の理解度等により評価する。
レポートを課すこともある。

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

A. Weil　Number Theory for Beginners　(Springer-Verlag, Second printing 1985)

科　目　名 （英　訳）	S・翻訳演習 Translation	開講学期 曜日・時限	前期 第１・３週を除く水４・５時限
対象学年	１年生	単位数	１単位
受講資格		募集人数	１０名
担当教員	畔柳　和代		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

英文の文学作品やエッセイ日本語に訳す課題（授業中に提出するものを含めて10回ほど、順次配布する）を通して翻訳について考えます。授業で紹介する文学作品やエッセイの一部について受講者が各自訳文をつくり、提出し、互いの訳文を検討します。数回の講義も含みます。

●授業の目的　(Primary goal)

互いの訳文について前向きに意見を交換しながら、読む力と、読みとったことを伝える力をつけること。

●到達目標　(Objectives)

1）精読。
2）文脈の理解につとめる。
3）わからなかったら、辞書を引く。調べる。考える。
※　空白だらけの訳文を出すのは不可。

●授業計画　(Schedule)

第１回　4月24日　　イントロダクション
第２回　5月8日　　講義＋当日提出する課題
第３回　5月22日～第６回　6月26日　　訳文について意見交換
第７回　7月10日　　全員が「原書を読むこと」について短い発表を行なう
第８回　7月24日　まとめ

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（ 有・無 ）

課題　（期限内の提出、内容）50%
出席および参加度　45%
発表　5%

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

参考図書：
別宮貞徳編『日本の名随筆　別巻45　翻訳』（作品社、1994）
岩波書店編集部編『翻訳家の仕事』（岩波新書、2006）
山浦玄嗣『イエスのことば　ケセン語訳』（文春新書、2011）
David Brooks 編　*The Best American Essays* 2012

科　目　名 （英　訳）	**S・離散構造講義** Discrete Structure (lecture)	開講学期 曜日・時限	前期 水曜日４・５時限 （第１・第３週を除く）
対象学年	１学年	単位数	１単位
受講資格		募集人数	３０名
担当教員	徳永 伸一		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

「離散」とは「連続」と対立する概念です。主として有限で離散的な世界の現象を解析する数学を 「離散数学」といい、離散数学が扱う対象を総称して「離散構造」と呼びます。離散構造のうち最も基本的かつ重要な構造の１つが「グラフ」（中学・高校で習う「関数のグラフ」とは異なる概念）であり、これを研究対象とする分野が「グラフ理論」です。たとえば「すべての地図は４色で色分けできる」という有名な「４色定理」は、グラフ理論の言葉では「すべての平面的グラフは4-彩色可能」と言い換えることができます。４色定理の証明は長大ですが、その基本的なアイディアや興味深い一般化は、複雑な数式等は用いずに誰でも理解することができます。本科目では４色定理を始めとする、グラフ理論およびその周辺のトピックを、いくつか取り上げて解説します。「これまで学校で習ってきた数学はあまり好きではない・得意ではない」という人にこそ、お勧めしたい科目です。

●授業の目的 (Primary goal)

数式を伴わない数学的論理を正確に理解し考察する能力を身に付けること。

●到達目標 (Objectives)

４色定理やグラフ理論のいくつかの基本的な定理について、その背景や証明のアイディアを理解し、関連する問題、一般化された問題について考察する。

●授業計画 (Schedule)

以下のトピック（予定）について順次解説し、簡単な演習問題を考えます。

- グラフの基礎概念
- 一筆描き問題、ハミルトン問題
- ドミノ敷き詰め問題、結婚定理
- 美術館問題
- ４色定理とその一般化、周辺の問題

●成績評価の方法 (Grading scheme) 評価 （ 筆記試験, レポート, その他 ）

再評価（ 有・(無)）

授業への出席、授業中に行う演習、小テスト等により行います。また欠席等に応じ、評価の不足を補うためのレポートを課すことがあります。

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

参考書：

恵羅博, 土屋守正著「増補改訂版　グラフ理論」(シリーズ/情報科学の数学), 産業図書

根上生也著「離散構造」(情報数学講座3), 共立出版

R. ディーステル著, 根上 生也, 太田 克弘訳「グラフ理論」シュプリンガー・フェアラーク東京

前原濶, 根上 生也著「幾何学的グラフ理論（入門 有限・離散の数学)」朝倉書店

科 目 名 （英 訳）	**R・講義と実習による バイオサイエンス A** Bioscience and Biotechnology A	開講学期 曜日・時限	前期 水曜日４・５時限 （第１・３週を除く）
対象学年	１年生	単位数	１単位
受講資格	後期のバイオサイエンスＢを受講すること	募集人数	原則１０名まで
担当教員	服部　淳彦		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

この科目は，バイオサイエンスＡ（前期）とＢ（後期）を合わせて完結する実習セミナー系の科目である。
この科目では，
1）現代のバイオサイエンスの研究で用いられている新しい手法の原理を学ぶ。
2）また，英語で書かれたオリジナルの研究論文を読み，その内容をレジュメにまとめて，
それぞれ発表してもらう。
3）次に，それらの技術の一部を用いた実験を，実際に行う。
4）さらに、その発展バージョンとして，自由にテーマを設定し、実験のプランニングをしてもらい，
そのプランに従った実験を実際に行い，結果を発表，ミニ卒論（論文形式）の形にまとめてもらう。

したがって，実験を行う日は，５時限以降にずれ込むこともあるので，そのつもりでいてほしい。

●授業の目的 (Primary goal)

大学入学後に，もっと深く研究(実験)を知りたい，サイエンスリテラシーを身につけたいと願う学生向けに開講した生物学のアドバンストコース(リサーチコース)である。

●到達目標 (Objectives)
将来研究者になるために必要な基本的なものの考え方や技術を修得する。

●授業計画 (Schedule)

1. 本年度のテーマに沿った内容の講義（前期）
2. 英語で書かれたオリジナルの研究論文を読み，その内容をレジュメにまとめて発表（前期）
3. 研究に必要な実験の基本テクニックを習得（前期）
4. テーマを設定し，独自の実験計画を立て，実際に実験を行う（後期）
5. 結果をパワーポイントにまとめて発表し，ミニ卒論としてまとめる（後期）

＊　少人数セミナー形式の授業なので，希望者が多い場合は，申し訳ないが人数を絞らせていただく。

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価　（　筆記試験，レポート，その他：出席　）

再評価（ 有・無 ）

内容を発表してもらう英語論文に関するプレゼンテーションやディスカッションの様子，
さらに，実際に行った研究（実験）の発表内容やミニ卒論などから総合的に判断する。

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

参考文献などは，随時紹介する。

科　目　名 （英　訳）	S・Digital Language and Literacy Project	開講学期 曜日・時限	前期 水曜日４・５時限 （第１・３水曜日除く）
対象学年	１年生	単位数	１単位
受講資格		募集人数	１２名まで
担当教員	Ted O' Neill		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

Students study, live, and work in an increasingly connected digital environment. It is important that they are able to function in these environments in English. This course will take a project-based approach in which students research and create online media about topics they select. English will the medium of instruction for learning the tools necessary to create and share content online.

●授業の目的 (Primary goal)

Students will learn to work collaboratively to create, present, and critique work in English about a topic of interest to university students. This project will educate others about others and demonstrate using English to communicate effectively online. Students will also develop understanding of aspects of Digital Citizenship such as appropriate use and privacy.

●到達目標 (Objectives)

Students will learn to use tools for online communication in English. They will be able to use and discuss several tools in English. Tools for collaboration may include: Google Apps, Slideshare, Voicethread, Flickr, social media, and wikis.

●授業計画 (Schedule)

1) Introduction: goals, tools, blogs, planning
2) Appropriate use and the Creative Commons
3) Collaborative presentation tools
4) Project development
5) Project development
6) Project presentations
7) Project reviews and reflection

●成績評価の方法 (Grading scheme) 評価 （ 筆記試験, レポート, (その他) ）

再評価（ 有 (無) ）

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

The instructor will supply all texts and materials for the class.
Students should bring any Internet connected device to class (iPad, tablet, smartphone, and/or notebook computer).

科　目　名 （英　訳）	**S・一般化学演習 A** Exercise in General Chemistry （A）	開講学期 曜日・時限	前期 木曜日３時限
対象学年	１年生 （化学の学力レベル：医学科中間層対象）	単位数	１単位
受講資格	一般化学Ⅰ（医）・一般化学Ⅰ（歯）受講者	募集人数	４０名
担当教員	奈良　雅之		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

化学の講義だけではなかなか理解ができない方、演習を通して一般化学の理解を深めたい方を対象に「マグロウヒル大学演習　一般化学」の補充問題を主な題材として演習を行います。授業計画をご覧になるとお分かりのように、一般化学Ⅰで扱う章も取り上げますので、一般化学の理解に役に立ちます。受講者は単に問題を解くだけでなく、その解説をみんなの前で行いますので、プレゼンテーションの練習になるでしょう。受講する側は、その説明を通して理解できたかどうかを評価したり、議論したりしますので、履修者全員が参加しなければいけません。予習にかなりの時間が費やさなければならないことを覚悟の上で授業に臨んで下さい。

●授業の目的 (Primary goal)

大学の一般教養課程で当然学んでおくべき「化学」（物理化学分野）について、問題演習、プレゼンテーションを通して習得すること。

●到達目標 (Objectives)

「マグロウヒル大学演習　一般化学」の各章を理解し、かつその演習問題に取り組むことができる。

演習形式の授業に参加することを通して、能動的に学習態度を身につける。

●授業計画 (Schedule)

第１回　ガイダンス
第２回　単位
第３回　化学式と組成の計算
第４回　化学方程式から計算する
第５回　気体の測定
第６回　気体の分子量
第７回　溶液の濃度、標準溶液を用いた反応
第８回　酸と塩基（１）
第９回　酸と塩基（２）
第10回　錯体と沈殿
第11回　原子と周期律（１）
第12回　原子と周期律（２）
第13回　化学結合と分子構造（１）
第14回　化学結合と分子構造（２）
第15回　総合演習

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（ 有・無 ）

出席ならびに発表、授業への貢献度を重視します。
出席・発表 50%, レポート 20%, 試験形式の演習　30%で評価します。

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

マグロウヒル大学演習　一般化学　　J. L. Rosenberg & L. M. Epstein　（オーム社出版）1995年発行

参考図書

Schaum's Outline of College Chemistry (Ninth Edition), J. Rosenberg, L.M. Epstein, and P.J. Krieger, McGrawHill (2007).

臨床検査学講座　化学　岡崎三代・奈良雅之　著　（医歯薬出版株式会社）2005年発行

科　目　名 （英　訳）	**S・一般化学演習 B** Exercise in General Chemistry (B)	開講学期 曜日・時限	前期 木曜日４時限
対象学年	１年生　（化学の学力レベル：歯学科中間層対象）	単位数	１単位
受講資格	一般化学Ⅰ（医）・一般化学Ⅰ（歯）受講者	募集人数	４０名
担当教員	奈良　雅之		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

化学の講義だけではなかなか理解ができない方、演習を通して一般化学の理解を深めたい方を対象に「マグロウヒル大学演習　一般化学」の補充問題を主な題材として演習を行います。授業計画をご覧になるとお分かりのように、一般化学Ⅰで扱う章も取り上げますので、一般化学の理解に役に立ちます。受講者は単に問題を解くだけでなく、その解説をみんなの前で行いますので、プレゼンテーションの練習になるでしょう。受講する側は、その説明を通して理解できたかどうかを評価したり、議論したりしますので、履修者全員が参加しなければいけません。予習にかなりの時間が費やさなければならないことを覚悟の上で授業に臨んで下さい。

●授業の目的　(Primary goal)

大学の一般教養課程で当然学んでおくべき「化学」（物理化学分野）について、問題演習、プレゼンテーションを通して習得すること。

●到達目標　(Objectives)

「マグロウヒル大学演習　一般化学」の各章を理解し、かつその演習問題に取り組むことができる。

演習形式の授業に参加することを通して、能動的に学習態度を身につける。

●授業計画　(Schedule)

第１回　ガイダンス
第２回　単位
第３回　化学式と組成の計算
第４回　化学方程式から計算する
第５回　気体の測定
第６回　気体の分子量
第７回　溶液の濃度、標準溶液を用いた反応
第８回　酸と塩基（１）
第９回　酸と塩基（２）
第10回　錯体と沈殿
第11回　原子と周期律（１）
第12回　原子と周期律（２）
第13回　化学結合と分子構造（１）
第14回　化学結合と分子構造（２）
第15回　総合演習

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（ 有・無 ）

出席ならびに発表、授業への貢献度を重視します。出席・発表 50%, レポート 20%, 試験形式の演習　30%で評価します。

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

マグロウヒル大学演習　一般化学　　J. L. Rosenberg & L. M. Epstein　（オーム社出版）1995年発行

参考図書

Schaum's Outline of College Chemistry (Ninth Edition), J. Rosenberg, L.M. Epstein, and P.J. Krieger, McGrawHill (2007).

臨床検査学講座　化学　岡崎三代・奈良雅之　著　（医歯薬出版株式会社）2005年発行

科　目　名 （英　訳）	**S・応用数学** Applied Mathematics	開講学期 曜日・時限	前期 金曜日１時限
対象学年	１年生	単位数	１単位
受講資格		募集人数	
担当教員	水谷　雅志		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

この科目は教養部で学ぶ「物理」や「化学」で使われる数学を修得する科目です。１年の医学科・歯学科の必修科目「数学」を補完する役目もあります。大学に入ると自然科学科目（特に物理と化学）では、高校とは比較にならないくらい数学が多用されるため、別物のように感じてしまう学生諸君が少なくありません。大学では、数学で学んでいない事でも必要とあれば、自然科学の講義で遠慮なく使われます。一方、自然科学(特に物理と化学)にとっての数学は「言葉」であり、強力な「道具」です。そのため、理工系学部では「純粋数学」とは別に「言葉と道具」としての「数学」を学ぶ科目が設置されています。専門によって「物理数学」「化学数学」「電気数学」などと名称は違いますが、実体は殆ど同じ物です。この授業では、「論理的厳密性」は数学科の先生方の講義にお任せし、「直感的理解」と「使える数学」を身につけます。課題など何らかの形で演習を取り入れる予定です。

なお、以下の授業計画を見て既に既習済みのものばかりの人は履修するには及びません。

●授業の目的　(Primary goal)

「数学的厳密性」に拘らず、「直感的理解」と物理や化学で「使える数学」を身につける。

●到達目標　(Objectives)

１．ベクトルの代数演算（内積と外積）を習得し、行列と行列式（主に3行3列）の計算を学ぶ。
２．典型的な1階常微分方程式、2階線形常微分方程式が解ける。
３．１変数のベクトル関数の計算ができ、応用ができる。
４．多変数関数の微積分ができるようになる。ベクトル場の積分定理やベクトル場の微分演算にも触れる。

●授業計画　(Schedule)

→の先は教養部で学ぶ「物理」「化学」のどれに対応するかを指しています。科目名は全て2012年度版のもの)

１．～３．ベクトルと行列：内積と外積、→（「物理」科目のほとんど全て）
４．～７．ベクトルの微積分：ベクトルの微分、速度・加速度、空間曲線→（「物理」科目の全て（特に「力学」））
８．～11．常微分方程式：1階常微分方程式、1階線形常微分方程式、定数係数2階線形常微分方程式→（「物理」科目の全て、「一般化学Ⅰ・II」の物理化学、熱力学分野など）
12．～13．多変数関数の微分積分：偏微分、全微分、重積分→（「物理」科目の全て、「一般化学Ⅰ・II」の物理化学、熱力学分野）
14～15．（余裕があれば)ベクトル解析入門(主に積分定理)→（「物理」科目のほとんど全て）

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験，(レポート)，(その他)　）

再評価（有・(無)）

出席，課題提出、レポートで総合的に評価します．出席率が3分の2未満の場合単位認定しません。

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

教科書：「初めての物理数学」石川洋著　東北大学出版会
参考書：「基礎物理学シリーズ10　物理のための数学入門　二宮正夫、並木雅俊、杉山忠男著　講談社」、「化学のための数学入門　川瀬雅也、内藤浩忠著　化学同人」「新・数理科学ライブラリ 物理学 7 物理数学の基礎 香取眞理 中野徹 共著　サイエンス社」「物理入門コース 10 物理のための数学 和達三樹著 岩波書店」「岩波基礎物理シリーズ10 物理のための数学　薩摩順吉著 岩波書店」「なっとくする化学数学　佐藤博保著 講談社」「改定新版　これなら・わかる　工学部で学ぶ数学　千葉逸人著　プレアデス出版」など

科　目　名 （英　訳）	**S・量子論入門** Introduction to Quantum Theory	開講学期 曜日・時限	前期 金曜日２時限
対象学年	１年生	単位数	１単位
受講資格		募集人数	２０名以内
担当教員	梅崎　馨章		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

生命科学を含めた科学技術の基礎は、量子力学だと言っても過言ではありません。例えば生物の微視的過程を究明する分野（例えば光合成におけるエネルギー移動や電子移動、または視覚の初期過程）では、量子力学は欠かせない理論的道具です。またテクノロジー分野では、新たな機能性電子材料を設計するために、量子力学に基づいたコンピューターシミュレーションが行われています。さらに、医療でも利用されているレーザーや核磁気共鳴といった先端機器の基礎は、量子力学の成果に負っています。

このように、量子力学は現代社会を支える基礎科学ですが、理論はニュートン力学と比べるとかなり数学的で物理的解釈も難解です。このため量子力学を勉強する時期は、通常、基礎科目の学習を履修し終えた学年以上であるのが普通です。しかしこれでは量子力学に触れる機会がありません。そこでこの授業では数学的難しさと論理の厳密さを犠牲にし、１年生でも理解できる範囲で、しかしながら物理的本質を失わずに量子力学の初歩を学習します。授業はセミナー形式とします。

●授業の目的 (Primary goal)

ミクロな世界は、マクロな世界とは異なる物理法則に支配されていることを学ぶ。

●到達目標 (Objectives)

レーザーや核磁気共鳴といった先端医療機器の基礎は量子力学にある。この授業の目標は、量子力学のアウトラインを理解することです。

●授業計画 (Schedule)

第一部　量子力学のアウトラインを知る
１．量子力学の誕生
２．波を表す式
３．シュレディンガー方程式
４．波動関数とは
５．波としての電子
６．量子数とは何か

第二部　エクセルでシュレディンガー方程式を解く
１．井戸型ポテンシャルと数値解の出し方
２．計算機実習

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（ 有・無 ）

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

教科書：高校数学でわかるシュレディンガー方程式　竹内淳著　講談社ブルーバックス
　　なお内容を補うために、適宜プリントを配布します
参考書：演習で学ぶ量子力学　小野寺嘉孝　著（裳華房）
　　ファインマン物理学Ⅴ　砂川重信訳（岩波書店）

科 目 名 （英 訳）	S・漢文講読Ａ（中国の思想） Reading Classical Chinese (Chinese Thought)	開講学期 曜日・時限	前期 金曜日２時限
対象学年		単 位 数	１単位
受講資格		募集人数	１０名程度
担当教員	土佐　朋子		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

今年度は『荘子』を、版本で読み、漢文訓読の力の向上と中国思想の理解を目指します。

道家思想は主に老子と荘子の思想（老荘思想）をさします。孔子の教えである儒家思想が現実社会の秩序を維持するための礼節をその根本に置くのに対して、道家思想は「無為自然」「万物斉同」という言葉に象徴されるように、この世界の根源＝真の「道」の探求をその根本に置きます。道家思想では、人間も含めたこの世のすべての存在の仕方に焦点があてられます。

このような道家思想は、俗世を脱し永遠の命を求める神仙思想を生み出し、また道教の論理的根拠として取り込まれていきました。道教は、中国文化を積極的に摂取した古代日本において、知識人たちの間でもてはやされ流行していました。

この万物の存在や命の根源を探求しようとする思想は、東洋医学の考え方を支えるものでもあります。

西洋医学と東洋医学をその特徴を生かして使い分けようという動きがある現代において、『荘子』を読むことは、東洋医学の根底に流れる思想に対する理解を深める一助になるものと考えています。

●授業の目的 (Primary goal)

日本文化の形成に大きな影響を与え続けてきた中国の古代思想を読み、基本的な知識を身につけて理解を深めることを目的とします。

●到達目標 (Objectives)

①漢文訓読の技術を身につけ、中国古典を読む力を養うこと。
②道家思想に対する知識を身につけ、理解を深めること。
③人間も含めたすべての存在の根源について、あるいは命とは何かということについて、主体的に考えるきっかけを作ること。

●授業計画 (Schedule)

講義はセミナー形式です。最初の時間に担当者を決め、次のような要領で資料作成と発表を行います。
①漢文に「訓読文」「語釈」「口語訳」「考察」をつけて資料を作成する。
②資料にもとづいて発表を行い、質問や意見を出し合う。

※漢文訓読については高校で習った知識があれば十分です。苦手な人やあまり習っていない人にはレクチャーするので、心配はいりません。

●成績評価の方法 (Grading scheme) 評価（筆記試験，　レポート，　その他　） 再評価（ 有・（無））

発表内容＋発表を聞く態度と質疑応答への参加状況＋小レポート＋出席状況→５０％
学期末レポート→５０％

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

教科書：プリントを使用。漢和辞典があるとよい。

参考書：金谷治『荘子１～４』（岩波文庫1971）、福永光司『荘子　古代中国の実存主義』（中公新書1964）、蜂屋邦夫『老荘を読む』（講談社現代新書1987）、岸陽子『荘子』（徳間文庫2008）、諸橋轍次『荘子物語』（講談社学術文庫1988）、湯浅邦弘『諸子百家』（中公新書2009）、福永光司『荘子　内篇』（講談社学術文庫2011）小島祐馬・宇野哲人『中国の古代哲学』（講談社学術文庫2003）など。

科　目　名 （英　訳）	S・中国近現代史 History of Modern China	開講学期 曜日・時限	前期 金曜日２時限
対象学年	１年生	単位数	１単位
受講資格		募集人数	
担当教員	家永　真幸		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

パンダは今や世界中の多くの人から「中国を代表する動物」だと思われていますが、つい７０年ほど前まで中国政府がこの動物をありがたがっていた形跡はありません。ある国家が何を自分たちのシンボルとするかという問題は、その国家が自分たちをどのような存在だと考えているのか、あるいは他国からどう見られたいかという問題と表裏一体です。そこでこの授業では、中国の各種シンボルの歴史を振り返ることで、現代の中国がどのように形成されてきた国なのか理解を深めてもらいたいと考えています。講義形式で進めますが、参加者に発言を求めることもあります。事前準備は特に必要ありません。

●授業の目的 (Primary goal)

中国に興味はあるものの、高校世界史の記憶もおぼろげな受講者を想定し、これから国際社会で活躍するにあたり知っておいた方がよい東アジアの近現代史を一から概説します。その上で、教科書などではあまり描かれない中国の「シンボルの歴史」をお話しますので、中国を理解するための一つのテクニックとして参考にしてください。

●到達目標 (Objectives)

「パンダ」や「故宮博物院」をはじめとする中国のシンボルの歴史を学ぶことを通じ、現在の中国が直面し、メディアでもしばしば報道される領土、外交、民族、台湾などに関する諸問題について、それらがどのような歴史的背景を持っているのかを説明できるようになることを目指します。

●授業計画 (Schedule)

受講者の顔ぶれ・反応を見て適宜調整しますが、概ね以下のトピックをこの順番で講義する予定です。

「中国人」とは誰か？／中華世界と国際関係／中国と近代化／国旗と国歌／ふたつの故宮博物院／パンダの国宝化／台湾と中華民国

映像作品などを見て感想を書いてもらうこともあります。

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（ 有 ・ 無 ）

出席回数や授業中の発言・質問など平常点も加味します。

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

教科書：なし（プリントを配布する）

参考書：川島真・服部龍二編『東アジア国際政治史』名古屋大学出版会、２００７年。
久保亨ほか『現代中国の歴史：両岸三地１００年のあゆみ』東京大学出版会、２００８年。
家永真幸『パンダ外交』メディアファクトリー新書、２０１１年。
若林正丈『台湾：変容し躊躇するアイデンティティ』ちくま新書、２００１年。

科 目 名 (英 訳)	**S・異文化間交流** Intercultural Communication	開講学期 曜日時限	後期 月曜日１時限
対象学年		単 位 数	１単位
受講資格		募集人数	１５名
担当教員	増田 光司		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

講義という一斉授業の形式は、この授業には向いていません。ここでは、授業に参加する一人一人が考えたいこと、やりたいことを、他の人と一緒に、行ったり、話しあったりすることを原則としています。担当教員はその手伝いをするつもりです。

●授業の目的 (Primary goal)

皆さんは、イスラム教を信じる人々が一日に何回も祈りをすること、ふつうの日本の飲食店では豚肉以外の肉も食べないことを知っていますか。また、日本で働く日系ブラジル人の子供はどんな教育を受けているのか、日本にはどのような外国人がどのくらいいるのか、日本における結婚の何パーセントが国際結婚か、これから日本に移民労働者がどのくらい増えるのか、そんなことを考えたことがありますか。

日本人が外国へ行った時そこの人々から誤解されやすい行動パターンがないか、そして、誤解に基づく問題が生じたときはどのように解決していけばいいのか、そんなことを考えたことがありますか。

以上のようなことについて、異文化間の交流という視点から、本学の留学生も日本人学生も私も一緒に考えていこうというのがこの授業の目的です。

●到達目標 (Objectives)

学内外の外国人と接することおよび授業を通して、文化、外国人、日本人についての認識を深め、他者および自己についての理解の枠組みを広げることを目的とします。

●授業計画 (Schedule)

具体的には、次のような活動(これまでの活動例でもある)を予定しています。

1. 参加者各人の自発的発表あるいは課題図書に基づく発表とそれに基づくディスカッション：偏見・差別、国際結婚、移民労働者、在日外国人の参政権、靖国神社問題、イスラム教の祭り、中国の文化などについて。
2. 参加者のグループ活動(パフォーマンスと呼ぶ)：授業期間の 1/3～1/2 の期間において、授業外にグループで活動し、最後の授業に自由な形式の発表表現でしめくくる活動を行う。テーマは自由だが、図書館の文献調査だけに終わらず、大学外部の外国人と接する活動(調査活動など)を行うことが条件。自由な形式の発表表現とは、演劇、演奏なども歓迎ということ。
3. 異文化コミュニケーション、異文化トレーニングについてディスカッション
4. 移民労働者、多文化共生についてディスカッション
5. 外国人との集いあるいはゲストスピーカーとのディスカッション：通常、毎年度１～２名のゲストスピーカーを招いている。本学大学院の外国人留学生と語り合う会も設けたこともある。また、ゲストとしては、長期間在留の外国人、永住の在日コリアン女性、日本人配偶者を持つアメリカ合衆国の男性などなどである。ディスカッション参加者からの意見･感想には、自分たちがあまりに歴史について無知であること、その原因をなす日本の高校の近代･現代についての歴史教育への批判などもあった。
6. ツアー：授業外の活動。週末の１日に希望者が参加。一昨年度は新大久保のコリアンタウン、高麗博物館を訪ねた。

●成績評価の方法 (Grading scheme) 評価 （ 筆記試験, レポート, その他 ）

再評価（ 有・無 ）

出席、授業への参加度(発言や活動の積極性、提出物)、上述「授業計画 2」のグループ活動などに基づき評価します。

●教科書及び参考図書

特に準備は必要ありません。

科 目 名 （英 訳）	**S・数理生物学** Mathematical Biology	開講学期 曜日・時限	後期 月曜日１時限
対象学年	１年生	単位数	１単位
受講資格		募集人数	
担当教員	中口　悦史		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

数理生物学とは数学的手法を用いて生物学・生命科学の問題を解決する学問分野であり，生物学・生命科学と数学の融合領域として今や重要な位置を占めている。この授業では，基本的な道具としての数学の導入を行いつつ，数理生物学の中でもイメージのつかみやすい個体群動態と生物拡散を中心に述べる。なお，主に数学的手法を扱い，生物学の内容にはあまり触れないので，履修の際には注意すること。

●授業の目的 (Primary goal)

生物学・生命科学における数学の役割と数学的手法について理解する。

●到達目標 (Objectives)

個体群動態と生物拡散に関する数理モデルとその解析方法について理解する。

●授業計画 (Schedule)

第１回　ガイダンス，数理生物学とは
第２回　単一種の系の動態，人口増殖のモデル
第３回　微分方程式の基礎
第４回　エサと捕食者の系の動態
第５回　ロトカ・ヴォルテラ方程式の理論
第６回　競合する２種の系の動態，共存の可能性
第７回　感染症の拡大，再生産指数
第８回　ランダムウォーク
第９回　拡散方程式の基礎
第１０回　生物拡散，新種の侵入
第１１回　競合種の侵入と排除，空間的棲み分け
第１２回　感染症の空間的伝播
第１３回　走化性による運動
第１４回　バイオフィルム
第１５回　総合演習

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価　（　筆記試験，レポート，その他　）

再評価（ 有・無 ）

期末レポート課題（５０%）と授業中の取り組み方（５０%）により総合的に評価する。
ただし出席が所定の回数に満たないものには単位を認めない。

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

教科書　特に指定しない。
参考書　N.F.Britton “Essential Mathematical Biology” Springer, 2003.
J.D.Murray “Mathematical Biology I&II, 3rd ed.” Springer, 2002-2003.
寺本英『数理生態学』朝倉書店，1997（絶版の可能性）。
関村利朗 他『理論生物学入門』現代図書，2007。
稲葉寿 編著『感染症の数理モデル』培風館，2008。

科　目　名 （英　訳）	**S・情報** Introduction to Informatics	開講学期 曜日・時限	後期 月曜日２時限
対象学年	１年生	単位数	１単位
受講資格		募集人数	２０名
担当教員	中口　悦史		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

情報化社会と呼ばれる現代は，多種多様の情報にあふれ，人々はその情報の扱いに戸惑いながら，しかしそれらをなんとか利用しながら，日々暮らしている。では，情報とは何か。情報化社会におけるヒトの心理や人格はどのように捉えられ，どのように変化しているのか。人工知能などヒトを真似て作られた機械は心を持つといえるか。人工知能の開発は人間社会にどのような影響を与えうるか。ヒトのコミュニケーションと機械のコミュニケーションの決定的な違いは何か。この授業では，人文学，社会科学，自然科学，工学など幅広い観点から，情報についてセミナー形式で考える。

●授業の目的　(Primary goal)

「情報」というひとつの単語で表されるものに対して，様々な視点から考察し，情報に対する理解を深める。

●到達目標　(Objectives)

情報に対する自分なりの視点や立場を持ち，それを他人に説明し，互いに議論することができる。

●授業計画　(Schedule)

基本文献を読み，あるいは受講者からの問いについて考察を加えながら，参加者全員で議論を進める。
終盤の３週程度で，受講者各自の考えをまとめたレポートを執筆し，提出する。

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験，(レポート)，その他　）

再評価（ 有・(無)）

レポート提出と授業への取り組みかたにより総合的に評価する。
ただし出席が所定の回数に満たないものには単位を認めない。

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

基本文献　西垣通『こころの情報学』ちくま新書，1999年。
参考文献　基本文献内で引用されているものの他，関連のありそうな文献を一部列挙する。
絶版のものでも大学図書館分館に所蔵されているので適宜調べること。

- 川合慧 監修，駒谷昇一 編著『IT Text　情報と社会』オーム社，2004年。
- 甘利俊一『情報理論』ちくま学芸文庫，2011年。
- C.E.シャノン，W.ウィーバー『通信の数学的理論』ちくま学芸文庫，2009年。
- J.フォン・ノイマン『計算機と脳』ちくま学芸文庫，2011年。
- N.ウィーナー『サイバネティックス』岩波文庫，2011年。
- 林晋，八杉満利子 解説・翻訳『ゲーデル　不完全性定理』岩波文庫，2006年。
- 佐々木正人『アフォーダンス入門―知性はどこに生まれるか』講談社学術文庫，2008年。
- H.ハーケン『情報と自己組織化』シュプリンガー・フェアラーク東京，2002年。
- 吉田民人『情報と自己組織性の理論』東京大学出版会，1990年（絶版の可能性）。
- 吉田民人『自己組織性の情報科学』新曜社，1990年（絶版の可能性）。
- H.R.マトゥラーナ，F.J.ヴァレラ『オートポイエーシス』国文社，1991年（絶版の可能性）。
- 中村桂子『自己創出する生命―普遍と個の物語』ちくま学芸文庫，2006年（絶版の可能性）。

科　目　名 （英　訳）	S・Word Power Word Power	開講学期 曜日・時限	後期 月曜日２時限
対象学年	１年生	単位数	１単位
受講資格	TOEFL　５００点以上	募集人数	２０名
担当教員	Patrick Foss		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

Can you express yourself well in English? When you write or speak, do you use a variety of different words or the same ones over and over? After learners of a foreign language reach a certain level, their productive vocabulary (the words they use in speech or writing) tends to stop growing. It takes focused effort to break through this stage and reach a more advanced level. In this class, students will do a variety of activities to help increase their 'word power'.

●授業の目的　(Primary goal)

The goals of this course are to improve student use of vocabulary--particularly in writing--and to help students develop a deeper understanding of the meanings of particular words and idioms.

●到達目標　(Objectives)

By the end of this course, students will be able to:

1. Use a variety of words with related meanings in particular contexts.
2. Better understand how to choose the right words when writing or speaking.

●授業計画　(Schedule)

The following topics will likely be covered in class. However, the instructor reserves the right to add, delete, or change topics depending on the needs of the class.

1. Expressing importance
2. Describing people: appearance
3. Describing people: character
4. Expressing positive feelings
5. Expressing negative feelings
6. Expressing feelings related to illness
7. Talking about money
8. Talking about time
9. Using frequent idioms
10. Using more complex but still common idioms
11. Using linking words

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（有・無）

Tentative grading scheme:

40% Quizzes

30% Attendance/Participation/Homework

30% Comprehensive test or assignment

Thoughtful, active, and regular participation is essential in this class.

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

There is no course textbook.

科　目　名 （英　訳）	**S・『古事記』講読** Reading “Kojiki”	開講学期 曜日・時限	後期 月曜日２時限
対象学年	１年生	単位数	１単位
受講資格		募集人数	
担当教員	土佐　朋子		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

講義形式である。
『古事記』の中巻と下巻を講読する。
中巻・下巻には、神武天皇以降の物語が展開する。破天荒な神々の世界が描かれた上巻と比較して、人間の織りなすドラマが極めてリアルに描かれる。皇位継承にともなう政治的闘争、男女の禁じられた恋愛とその結末など、現代にも通じる物語がドラマチックに展開される。
前期「文学ＡＩ」の受講者は、すでに『古事記』上巻を通読してきているので、後期の本授業で中・下巻を読むことにより、『古事記』の新たな側面に気づくことができるであろう。
もちろん、前期に『古事記』を読んでいなくても、必要に応じて上巻の内容は説明するので全く心配する必要はない。『古事記』中・下巻の講読は、日本文学がどのように始まったのか、その一端を知る手がかりになるであろう。

●授業の目的　(Primary goal)
『古事記』講読を通して、日本文学の始まりにあたる「語り」の姿を自分の目で確かめ、人間の「語り」への欲求と原動力について一定の考えを持つこと。

●到達目標　(Objectives)
（1）『古事記』の内容を理解すること。
（2）古典の素養を身に付けること。
（3）日本文学の最初期の「語り」の様相について理解を深めること。
（4）人間にとって「語り」とは何かという問いに対して自分なりの考えをまとめること。

●授業計画　(Schedule)
第１回：オリエンテーション『古事記』とは？
第２回：神武東征
第３回：三輪山伝説
第４～５回：サホビメ・サホビコの物語―反乱伝承と恋愛譚―
第６～７回：ヤマトタケルの物語―悲劇の皇子―
第８回：大山守命と宇遅能和紀郎子
第９～１０回：仁徳天皇聖帝譚
第１１回：軽太子と軽大郎女の物語―王権と悲恋―
第１２回：目弱王の変
第１３～１４回：雄略天皇の物語―英雄と色好み？―
第１５回：まとめ

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験，レポート，その他　）　再評価（有・無）

平常点（出欠および小レポートなど）50点、学期末レポート50点で採点する。

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)
教科書：特になし。プリントを配布する。
参考書：本居宣長『古事記伝』（岩波文庫）、西郷信綱『古事記の世界』（岩波新書）、『新編日本文学全集　古事記』（小学館）、『古典文学大系　古事記』（岩波書店）、『日本古典集成　古事記』（新潮社）、『新編日本古典文学全集　日本書紀』（小学館）、『新編日本古典文学全集　風土記』（小学館）など。

科目名 (英訳)	S・フランス語でニュースを読む Today's News in French	開講学期 曜日時限	後期 月曜日２時限
対象学年	１年生	単位数	１単位
受講資格	フランス語履修者	募集人数	約５名
担当教員	中島　ひかる		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

4月以来学習してきたフランス語の文法知識を使って、フランス語の時事的な文章に触れ、現代を特徴的に表す単語や表現を中心に、文章の一部を読んでみましょう。まだ教えていない文法項目については解説しますし、ニュース記事は英語と共通する単語も多いので、内容に興味があれば概略は理解できます。

前期終了のフランス語の学力があり、少し先取りして文法を学習し、今のフランスを知りたいという意欲のある人の参加を歓迎します。

●授業の目的　(Primary goal)

フランス語文法の知識をもとに、フランス語で書かれたフランス、ヨーロッパ、世界のニュースや文化記事を読み、現代的な語彙や表現に触れるとともに、フランス現代社会の一端を知る。

●到達目標　(Objectives)

１）現代的な時事表現に触れ、ニュース記事の読解の中で基本的な文法事項を確認する。

２）ニュースを通してフランス社会やフランスから見た世界の一端に触れる。

●授業計画　(Schedule)

初めに、ニュースサイトを幾つか提示します。受講者は、その中から毎週、自分が興味ある記事を選んで、私にURLを送って下さい。その中から幾つか選んで、教室で、皆で読んでいきます。細かい点にはこだわらず、概略が理解できるよう指導しますが、適宜、文法が実際の記事でどう使われているかに注意を促します。

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, (その他)　）

再評価（ 有・(無) ）

授業への準備、教室での発言等の平常点で評価します。

学力に差があると思いますが、多少わからない文法事項があっても構いません。自分なりに、ニュースに興味を持ち、概要だけでも理解しようと努め、積極的に授業に参加することを重視します。

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

・パリジアン（お勧めです）
　http://www.leparisien.fr/
・パリマッチ
　http://www.parismatch.com/
・フィガロ
　http://www.lefigaro.fr/
・リベラシオン
　http://www.liberation.fr/
・ネット新聞
　http://www.20minutes.fr/
・テレビ放送（1週間分のニュース報道のアーカイブ）
　閲覧にはsilverlight(無料でダウンロードできます)が必要です。
　http://jt.france2.fr/20h/

科 目 名 （英 訳）	S・電気と磁気 Electricity and Magnetism	開講学期 曜日・時限	後期 月曜日５時限
対象学年	１年生	単位数	１単位
受講資格	看護学専攻・口腔保健学科	募集人数	
担当教員	千葉　司		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

この科目は高校物理の履修を前提としていません、物理に少しでも興味のある人は是非選択して下さい。ただし、高校物理の補習ではありませんので、微積分の基礎知識は必要です。

この授業では、物理学の中で基礎として大切な「力学」と「電磁気学」のうち「電磁気学」を取り上げます。

1. 授業に集中し、復習で確認をしてください。
   授業で十分に理解してしまえば、復習のための時間はそれほどかかりません。
2. 疑問点はでき得る限り授業中、授業後に質問して解消しておくこと。
3. 板書で不足した事柄は web page（主として「物理の扉 2013」）の補足説明を参照すること。
4. 毎回演習の宿題を課します(予定)。先ず自分でやってみる。わからなかったら友達に聞いてみる。教え合うことで理解がさらに深まります。ただ答えを写すだけでは、何の勉強にもなりません。
5. 知識の確認と定着には数多くの演習問題を解いてみることが有効です。教科書の課題、章末問題や演習問題集をまず自力で解いてみること。解説を読んでもう一度考えてみる。疑問点があれば、質問に来ること。

●授業の目的 (Primary goal)

電磁気学の基本的事項を理解し、それを応用できるようにすること。交流回路の基礎的事項を理解し、それを応用できるようにすること。

●到達目標 (Objectives)

下記の授業計画で挙げている各項目について理解すること。

●授業計画 (Schedule)

1. 直流回路・交流回路： 電荷　電流　電気抵抗　オームの法則　ジュール熱　キルヒホッフの法則
   コンデンサー　過渡現象　コイル　交流　複素インピーダンス
2. 静電場と電位： クーロンの法則　電場　電気力線　ガウスの法則　電位　導体　静電誘導　静電遮蔽
   電気容量(静電容量)　静電エネルギー　誘電分極
3. 電流と静磁場： 磁束線　アンペールの法則　ビオ・サバールの法則　フレミングの法則　ローレンツ力
4. 電磁誘導： ファラデーの電磁誘導の法則　レンツの法則　誘導起電力　自己誘導　磁気エネルギー
5. マクスウェルの方程式と電磁波

(5. については時間の関係で省略する場合もある)

11/25 と 2/3 の２回、試験を予定しています。

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（有・無）

原則として2回の試験の平均点で評価する。平常点を評価に加味することもある。

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

教科書： 和田純夫　「グラフィック講義　電磁気学の基礎」（サイエンス社 2011 年）

参考図書： 梶谷　剛ほか　「電磁気学」（実教出版）、ハリディほか　「物理学の基礎[３]電磁気学」（培風館）、高重正明　「スタンダード　電磁気学」（裳華房）、十河・和達・出口　「ゼロからの電磁気学Ⅰ、Ⅱ」（岩波書店）、阿部龍蔵　「はじめて学ぶ電磁気学」（サイエンス社）、竹内淳　「高校数学でわかるマクスウェル方程式」（BLUE BACKS、B1383）ほか

なお、授業についての連絡、授業・宿題のポイント等については、下記の web page を参照のこと。

「物理の扉2013」（http://members.jcom.home.ne.jp/chiba.tks/　教養部の web page［物理］の履修者のページからたどれます）

科 目 名 （英 訳）	S・BASIC言語 Programming Language, BASIC	開講学期 曜日・時限	後期 月曜日５時限
対象学年	１年生	単位数	１単位
受講資格	保健衛生学科、口腔保健学科	募集人数	２０名
担当教員	清田 正夫		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

情報科学で学んだBASIC 言語の基礎知識を前提として、やや複雑なプログラムに挑戦する。
学期末には自由なテーマでプログラムを自作してもらい、それを評価の対象とする。

人数に余裕があれば、医学科、歯学科の学生も受講可能である。
（但しBASIC 言語の基礎知識は前提とする。）

●授業の目的 (Primary goal)

プログラミング言語の理解と活用を目的とする。

●到達目標 (Objectives)

プログラミング言語の仕組みを理解し、目的に応じたプログラムを自作することができる。

●授業計画 (Schedule)

第１回―第２回　BASIC で統計処理
第３回―第４回　円周率を求めよう
第５回―第６回　あなたの生まれた日は何曜日？
第７回―第８回　カレンダーを作ろう
第９回―第１０回　コンピュータとジャンケン勝負
第１１回―第１２回　グラフィックスで遊ぼう
第１３回―第１４回　関数のグラフを描こう
第１５回　自作プログラムに挑戦

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価 （ 筆記試験, レポート, その他 ）

再評価（ 有・無 ）

出席と毎回の課題提出、および自作プログラムにより評価する。

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

プリントを配布する。

（注）本科目を「情報科学」の再履修科目に指定された学生については本科目の単位は認定しない。
また、本科目の成績が一定の水準に達しなければ、「情報科学」の再評価の対象とならない。

科　目　名 （英　訳）	**R・離散構造１・２** Discrete Structure (seminar)	開講学期 曜日・時限	後期 １：金曜日/２時限 ２：火曜日/５時限（湯島）
対象学年	１学年	単位数	１単位
受講資格		募集人数	各１０名程度以内
担当教員	徳永 伸一		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

（「１」を教養部、「２」を湯島で開講します。「２」の開講時間帯は微調整しますので開講時の指示に注意）

この授業で扱うのは、たとえば以下のような問題です。

「m×ｎの長方形が単位正方形を４つ張り合わせたＬ字型のタイルで隙間無く敷き詰められるための、mとｎの　必要十分条件を求めよ」「3×4の長方形の中に6つの点があるとき、それら6点のうち距離√5以下の2点が存在することを示せ」「6人が参加したパーティにおいて、互いに知り合いである3人か、または互いに2知り合いでない3人のいずれかが存在することを示せ」

「離散」とは「連続」と対立する概念です。主として有限で離散的な世界の現象を解析する数学を「離散数学」といい、離散数学が扱う対象を総称して「離散構造」と呼びます。本科目では離散構造に関する書籍を１つ取り上げ、輪読形式のセミナーを行います。扱われる命題の大部分は直観的に理解可能で高度な知識や数式を必要としませんが、その分、論理を正確に理解し言葉で的確に説明する能力が重視されます。

本年度は

V. Boltyanski & A. Soifer 著 「Geometric Etude in Combinatorial Mathematics」

（「組合せ数学における幾何的なエチュード」）

の適当なChapterを選んで読むことにします。

（ただし他に適当な教材があれば受講者の希望も勘案して変更する可能性あり。また「１」と「２」は同じ本の別のパートから選ぶ予定ですが、履修者が重複しない場合は同じ内容になる可能性もあります）

なお本書の英文は極めて平易であり、扱われる問題も直感的に理解しやすいものであるため、高度な読解力や数学および数学専門用語の知識は必要としません（その都度調べれば充分対応可能）。結果的に、英文を「論理的に読む」ための教材として非常に適していると思われます。冒頭の問題は本書の例題・演習問題から選びました。

●授業の目的 (Primary goal)

論理を正確に理解し言葉で的確に説明する能力を養うことが本科目の大きな目標の１つである。

●到達目標 (Objectives)

英語で書かれた数学の平易なテキストを論理的に解読し、理解したことを整理して解説できる。

●授業計画 (Schedule)

毎回1～２名の発表者が各自の担当範囲（１セクションの半分程度）を解説する。
ただし状況に応じて担当教員が関連分野の講義を行うこともある。
また発表者には担当範囲の全訳およびそれを補足するレジュメの提出を義務付ける。

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, (その他)　）

再評価（ 有・(無)）

発表・レジュメの内容や授業参加への積極性を総合的に評価する。

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

参考書：ピーター・フランクル, 前原濶著「やさしい幾何学問題ゼミナール」
前原濶著「直観トポロジー」／ロバース, 秋山仁, フランクル「入門 組合せ論」（すべて共立出版）

科　目　名 （英　訳）	**S・数学解析** Mathematical Analysis	開講学期 曜日・時限	後期 水曜日１時限
対象学年	１年生	単位数	１単位
受講資格	口腔保健工学専攻	募集人数	
担当教員	中口　悦史		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

口腔保健工学専攻専門科目履修のために知っておくべき，数学・応用数学・計算科学の基礎分野を概観する。そのために最低限必要な高校数学の知識を復習しながら，関連する項目を学習する。板書による講義と演習を交えながら授業を進め，毎回１題の演習問題の時間を設ける。

●授業の目的 (Primary goal)

口腔保健工学分野における数学の役割を理解する。

●到達目標 (Objectives)

微積分，線形代数，微分方程式、数値計算の基本的な考え方を理解する。

●授業計画 (Schedule)

第１回　数の種類，実数と複素数，多項式，代数学の基本定理
第２回　ベクトルと行列，連立一次方程式，ガウスの消去法
第３回　三角比と三角関数，周期関数と三角関数展開
第４回　数列と漸化式，収束と極限，基本的な数列の例
第５回　級数，級数の収束，級数／有限項の和の計算
第６回　１変数関数の連続性，中間値の定理，二分法による根の計算
第７回　１変数関数の微分とその幾何的意味，関数の増減と極値
第８回　１変数関数の平均値の定理，関数の近似，ニュートン法による関数の根の計算
第９回　多変数関数の連続性，陰関数，曲線／曲面の媒介変数表示
第１０回　多変数関数の偏微分・全微分とその幾何的意味，多変数関数の極値問題
第１１回　１変数関数の定積分と台形公式，不定積分と原始関数，微積分学の基本定理
第１２回　多変数関数の重積分，逐次近似法
第１３回　微分方程式の例，常微分方程式の解と近似解法
第１４回　基本的な偏微分方程式の解法
第１５回　総合演習

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価　（　筆記試験，レポート，その他　）

再評価（有・無）

期末試験またはそれに代わる総合演習（４０％）と授業中の演習（６０％）により総合的に評価する。
ただし出席が所定の回数に満たないものには単位を認めない。

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

教科書：特に指定しない。適宜プリント等を配布する。
参考書：佐藤恒雄 他『初歩から学べる微積分学』培風館，1999年。
森毅『現代の古典解析』ちくま学芸文庫，2006年。
竹縄知之『コア・テキスト微分積分』サイエンス社，2009年。

科　目　名 （英　訳）	S・実用統計学 Practical Statistics	開講学期 曜日・時限	後期　月曜日５時限
対象学年	１年生	単位数	１単位
受講資格	保健衛生学科、口腔保健学科	募集人数	２０名程度
担当教員	徳永 伸一		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

保健衛生学科・口腔保健学科の皆さんが前期に学んだ統計学の知識を前提として、講義と演習を交えながら、さらに一歩進んだ、より「役に立つ」統計学を学習します（ただし前期の統計学が「役に立たない」わけではなく、基礎として重要かつ必須なので誤解のないように！）。保健衛生学科や口腔保健学科の卒業研究では統計処理が多用されますが、これに対処するためには、前期に学んだ統計学だけでは充分とはいえません。担当者は皆さんの先輩から相談を受けた経験が度々ありますので、その内容も反映させていく予定です。

●授業の目的 (Primary goal)

前期の「統計学」の学習内容をより確かなものとすると共に、将来卒業研究等で必要になると思われるレベルの統計学や、Excelを用いた簡単な統計処理の技術を習得する。

●到達目標 (Objectives)

- 前期に学んだ統計学の理解をより確実なものとし、実際の統計処理に応用できるようにする。
- クロス表の検定や初歩的なノンパラメトリック検定など、実用上重要となる統計手法の原理を理解し、実際の問題に応用できるようにする。
- 本格的な統計処理ソフトを使う前段階として、Excel を用いた簡単な統計処理を実行できるようにする。

●授業計画 (Schedule)

第１～3回　：序論および前期の復習
第4回　　：Excel 入門
第５～８回　：演習１（Excel 演習）
第９～１２回　：実用統計学講義（カイ二乗検定、ノンパラメトリック検定　他）
第１３・１４回　：演習２
第１５回　（予備）

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, (その他)　）

再評価（ 有 (無) ）

原則として出席および授業中に行う演習課題により評価しますが、それらの評価が一定基準に達しない履修者を対象に、評価の不足を補うための試験を実施する可能性があります。

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

参考書：佐藤敏雄・村松宰 著「やさしい医療系の統計学　第2版」（医歯薬出版）
能登洋 著「臨床統計はじめの一歩Q&A」（羊土社）
松原望 著「入門統計解析[医学・自然科学編]（東京図書）
市原清志 著「バイオサイエンスの統計学」（南江堂）
（前期の統計学の教科書も引き続き活用してください）

科　目　名 （英　訳）	**S・糖の科学** Science of Sugar	開講学期 曜日・時限	後期 水曜日４時限
対象学年	１年生	単位数	１単位
受講資格		募集人数	５名
担当教員	勝又 敏行		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

糖と聞くとまず思い浮かぶのが砂糖である。砂糖は料理などで気軽に使われ、身近にたくさんあるが、ほかにも様々なところで糖は私たちに関わっている。糖の仲間であるデンプンは米やパンの主成分であり、人間のエネルギー源として毎日の生活に欠かせないものである。食品以外でも木や紙の主成分はセルロースという多糖であり、軟膏や手術糸などはアルギン酸という多糖が使われている。このように糖はもっとも身近にある有機化合物である。分子レベルで見た時も、生物の構成成分としてもエネルギー源として使われるのをはじめとしてタンパク質、核酸、脂質などと結合して、生体内で起こる反応に重要な機能を担っていることが明らかになってきている。中でもタンパク質の多くは糖鎖の修飾をもち、生理活性や構造の維持に糖鎖が重要や役割を果たしていると考えられている。

この実習では糖の働きに関する英文のレビューを読み、糖の機能や構造に関する理解を深め、論文購読や糖鎖分析に関する実験を体験することを通して生体における糖の役割や重要性について最新の知識を勉強していく予定である。

●授業の目的 (Primary goal)

実験を通して研究活動を体感し、その中で生体物質としての糖について理解を深めることを目標とする。

●到達目標 (Objectives)

糖に関する基礎知識を習得し、自分で実験計画を立て実験を行い、成果をまとめることができることを目標とする。

●授業計画 (Schedule)

１．糖のペーパークロマトグラフィー
２．化学的な糖タンパク質の検出
３．抗体、レクチンを使った特異的な構造の検出
４．糖の組成分析
５．HPLCを用いた糖鎖構造解析
６．論文講読
７．研究発表

●成績評価の方法 (Grading scheme) 評価 （ 筆記試験, レポート, その他 ）

再評価（ 有・無 ）

出席点、実験ノート（一次記録およびレポート）等について総合的に評価する。

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

参考図書：コールドスプリングハーバー　糖鎖生物学 鈴木 康夫 ほか　丸善　第2版（2010/12）
ポストゲノム時代の糖鎖生物学がわかる　谷口 直之　羊土社（2002/11）
糖鎖科学への招待　辻 崇一，梶本 哲也　三共出版（2008/04）

科　目　名 （英　訳）	S・初級フランス語 French S	開講学期 曜日・時限	後期 水曜日　第１・第３週 ４・５時限
対象学年	１年生	単位数	１単位
受講資格	フランス語未修者	募集人数	
担当教員	満島　直子		

フランス語選択者のうち、前期文法（フランス語 a）の終了後,、必要があると判断された学習者は、後期文法（フランス語c）とあわせて受講してください。基礎知識の確認と定着を図ります。単位としては認定されませんが、フランス語の最終成績判定時にこの授業の履修状況が考慮されます。

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

初学者を対象とするフランス語入門。ポールとミキによる会話体の文章をもとに、発音や文法の基本事項を解説していきます。文法事項の説明の後、例文の音読、日本語訳、書き換えや聞き取り等の練習問題を解きながら、文の構造を理解していってもらいます。

●授業の目的 (Primary goal)

フランス語の基本的な文法を理解し、簡単な会話や文章を読んで理解できるようになることを目指します。教室でのエクササイズを通して学んでいくため、授業には積極的に参加してください。教科書の各ページには新出単語の日本語訳が載っていますので、単語を調べる手間は少なくて済みます。DVD の映像等により、フランス文化に親しむきっかけにもなればと思います。

●到達目標 (Objectives)

１）フランス語の発音と綴りの関係に慣れること。
２）フランス語の基本的な文法構造を理解して、簡単な会話・文章の意味がわかるようになること。

●授業計画 (Schedule)

教科書に沿って文法事項を説明し、問題を解いて確認しながら解説を加えていきます。また、小テストを実施して知識の定着を図ります。進度については様子を見ながら調整し、場合によっては一部を省略する可能性もあります。

0) 簡単な挨拶、役に立つ一言
1) 国籍、職業、名前をいう
2) 住んでいるところ、言語、学科をいう
3) 家族、年齢、好みをいう
4) 食べる、飲む。尋ねる（何？いくつ？）
5) 人・物を描写する。尋ねる（誰？どんな？）
6) 行く、来る
7) 時刻をいう。尋ねる（何時？何時に？いつ？何をする？）
8) 近い未来、近い過去、したいこと、できることをいう。尋ねる（なぜ？）
9) 日常の行動、午前、午後、週、天気をいう
10) 場所、道順をいう。命令・義務の表現
11) 過去を語る（１）。否定表現（１）
12) 過去を語る（２）。否定表現（２）

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（有・無）

平常点　70%、小テスト　30%
出席状況や授業への参加度70%と、毎回の授業時に行う小テスト30%で評価します。

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

Tanabe Yasuko, 他、*Salut, tout facile !*（『やさしいサリュ』）, 駿河台出版社, 2008
必要に応じて授業中にプリントを配布したり、参考書や教材の紹介を行います。
辞書については、フランス語 a/b/c/d のシラバスを参照してください。(辞書なしでの参加も可。)

科　目　名 （英　訳）	**R・講義と実習による バイオサイエンス B** Bioscience and Biotechnology B	開講学期 曜日・時限	後期 水曜日４・５時限 （第１・３週を除く）
対象学年	１年生	単位数	１単位
受講資格	バイオサイエンスＡの受講者のみ	募集人数	原則１０名まで
担当教員	服部　淳彦		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

この科目は，バイオサイエンスＡ（前期）とＢ（後期）を合わせて完結する実習セミナー系の科目である。
（バイオサイエンスＡを取った学生のみ受講できる）

この科目では,
1）現代のバイオサイエンスの研究で用いられている新しい手法の原理を学ぶ。
2）また，英語で書かれたオリジナルの研究論文を読み，その内容をレジュメにまとめて，
　それぞれ発表してもらう。
3）次に，それらの技術の一部を用いた実験を，実際に行う。
4）さらに、その発展バージョンとして，自由にテーマを設定し、実験のプランニングをしてもらい，
　そのプランに従った実験を実際に行い，結果を発表，ミニ卒論（論文形式）の形にまとめてもらう。
したがって，実験を行う日は，５時限以降にずれ込むこともあるので，そのつもりでいてほしい。

●授業の目的 (Primary goal)

大学入学後に，もっと深く研究(実験)を知りたい，サイエンスリテラシーを身につけたいと願う学生向けに開講した生物学のアドバンストコース(リサーチコース)である。

●到達目標 (Objectives)
将来研究者になるために必要な基本的なものの考え方や技術を修得する。

●授業計画 (Schedule)

1. 本年度のテーマに沿った内容の講義（前期）
2. 英語で書かれたオリジナルの研究論文を読み，その内容をレジュメにまとめて発表（前期）
3. 研究に必要な実験の基本テクニックを習得（前期）
4. テーマを設定し，独自の実験計画を立て，実際に実験を行う（後期）
5. 結果をパワーポイントにまとめて発表し，ミニ卒論としてまとめる（後期）

＊　少人数セミナー形式の授業なので，希望者が多い場合は，申し訳ないが人数を絞らせていただく。

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価　（　筆記試験，レポート，その他：出席　）

再評価（ 有・無 ）

内容を発表してもらう英語論文に関するプレゼンテーションやディスカッションの様子，
さらに，実際に行った研究（実験）の発表内容やミニ卒論などから総合的に判断する。

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

参考文献などは，随時紹介する。

科 目 名 （英 訳）	S・タンパク質の科学 Protein Science	開講学期 曜日・時限	後期 水曜日４・５時限 （第１・３週のぞく）
対象学年	１年生	単位数	１単位
受講資格	医学科・歯学科・検査技術学専攻	募集人数	１５名
担当教員	澤野 頼子		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

タンパク質は食品に含まれる物質としてなじみがありますが、生命現象の中心的な役割をもつ物質として非常に重要です。この授業では化学、生命科学のおけるタンパク質の基礎について講義・演習・実験を通して学習し、受講者が積極的に参加できるようになっています。

●授業の目的 (Primary goal)

将来の専門の基礎となるタンパク質の基礎知識を身につける。

●到達目標 (Objectives)

タンパク質の作用を化学的に捉えることができるようになる。

●授業計画 (Schedule)

1. タンパク質の構造と機能
2. タンパク質の構造構築の基本原理
3. 酵素反応
4. タンパク質の立体構造
5. タンパク質工学

●成績評価の方法 (Grading scheme) 評価 （ 筆記試験, レポート, その他 ）

再評価（ 有・無 ）

授業中に課す課題への取り組み等を評価する。

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

教科書: 特に指定しません。

参考書:

ヴォート基礎生化学 D. Voet, J.G. Voet, C.W. Pratt 著、田宮信雄ら訳 東京化学同人 (2010年発行)

タンパク質の生命科学 池内俊彦著 中公新書 (2001年発行)

カラー図説 タンパク質の構造と機能 G.A. Petsuko and D. Ringe, 横山茂之監訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル (2005年発行)

タンパク質の立体構造入門 藤博幸編 講談社サイエンティフィク (2010年発行)

タンパク質科学ー構造・物性・機能 後藤 祐児、谷澤 克行 編 化学同人 (2005年発行)

科　目　名 （英　訳）	S. 医療と社会システム (Medical treatment and Social system)	開講学期 曜日・時限	後期 水曜日4時限・5時限 （ただし第1週と第3週のみ）
対象学年	1 年生	単位数	1単位
受講資格		募集人数	20名
担当教員	飛田綾子		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

医療従事者の権利・義務、および責任に関する論点を、法律上の規定の説明だけでなく、様々な事象を題材に検討する。教員が作成したレジュメをもとに講義形式で行うが、適宜、授業中に各自の意見を発言するように求めることもある。

●授業の目的　(Primary goal)

医療・保健・福祉にまつわる法律はなぜ存在するのか。この問いを念頭に置きながら、医療従事者の資格や業務に関する法律上の知識を、著名な裁判に触れながら学ぶ。くわえてドクター・ハラスメントや医師不足問題、医療関連情報の取り扱いに関する議論などを紹介する。最後に、水俣病などの公害問題を題材に、医療従事者が社会から求められている役割を考察する。

●到達目標　(Objectives)

(1) 授業で取り上げた、医療従事者の権利・義務に関する基本的知識を得る。
(2) 医療従事者の責任とは何か、について医療を提供する側の視点だけでなく、医療を受ける側の視点もとりいれつつ、客観的に考察することができる。

●授業計画　(Schedule)

第１回　ガイダンス、医事法総論
第２回　医療関係者の資格と業務
第３回　医療提供体制、労働環境
第４回　医療訴訟①
第５回　医療訴訟②
第６回　公害事件と医療（医療従事者の責任を中心に）
第７回　まとめ

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（筆記試験, レポート, その他）　再評価（有・無）

100点満点で採点する。配分は以下の通り。
小レポート20点(100頁程度の文献を読んだうえで600字程度)、
学期末試験80点(授業で説明した題材に関する基本的知識の確認と自身の意見を評価対象とする)。
授業中の発言は積極的に評価する。

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

教科書：特に指定しない。教員が毎回、レジュメを作成する。

参考書：宇津木伸・町野朔・平林勝政・甲斐克則編『医事法判例百選』（有斐閣、2006年）2,730円。
手嶋豊『医事法入門（第3版）』（有斐閣、2011年）2,205円。
樋口範雄編『ケース・スタディ 生命倫理と法（第2版）』（有斐閣、2012年）3,360円。
樋口範雄『医療と法を考える―救急車と正義』（有斐閣、2008年）2,415円。
甲斐克則『ブリッジブック医事法』（信山社、2008年）
津田敏英『医学者は公害事件で何をしてきたのか』（岩波書店、2004年）

科　目　名 （英　訳）	S-Life Science in English	開講学期 曜日・時限	後期 第１・３水曜日 ４・５時限
対象学年	１年生	単位数	１単位
受講資格		募集人数	２０名
担当教員	産賀　崇由		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

This course will introduce basic concepts involving the discipline of Human Biology. Such topics will include Molecules and Cells, Supply and Demand, Growth and Aging, Human activity and the Environment, Genetics and Evolution, Health and Disease, Homeostasis, Control systems, and Reproduction.

Course material will be presented in the class and students will discuss the topics in groups.

●授業の目的　(Primary goal)

The primary goal of this course is to provide students with a basic understanding of key concepts in the field of Human Biology. Students are expected to grasp the key concepts in English, and express their thoughts and opinions in English.

●到達目標　(Objectives)

Students can improve their knowledge of Human Biology. Students can also develop their reading, hearing and discussion skills using English.

●授業計画　(Schedule)

In each class there will be discussions in English on various topics of Human Biology, such as Molecules and Cells, Supply and Demand, Growth and Aging, Human activity and the Environment, Genetics and Evolution, Health and Disease, Homeostasis, Control systems, and Reproduction.

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（有・無）

Attendance and Participation: 40%
Explanation of problems: 60%

Regular attendance is essential because without regular attendance students' progress would not be evaluated properly.

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

Mike Boyle & Kathryn Senior. 2008. *Human Biology (Collins Advanced Science),* 3rd Ed, Published by Collins Educational, 77-85 Fulham Place Road, London, W6 8JB, UK

Students will be provided necessary study materials and handouts in the class.

科　目　名 （英　訳）	R・「点子ちゃんとアントン」を読む Reading "Pünktchen und Anton"	開講学期 曜日・時限	後期 水曜４・５時限 （第１・第３週を除く）
対象学年	１年生	単位数	１単位
受講資格	ドイツ語選択者・ドイツ語既修者	募集人数	２０名
担当教員	シンチンガー・エミ		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

せっかくドイツ語を習ったのだから、有名な文学作品を読んでみたいという方のために、習っているドイツ語を使って、生きたドイツ語で書かれた作品を読みます。エーリッヒ・ケストナーの少年少女のための長編小説から、抜粋を読みます。毎回受講者に予習をしてきてもらい、原文を読んで訳してもらいます。わからない個所については授業中に説明していきます。また、ドイツの歴史や文化、生活習慣などで、ただ読んでもわからないことについては、授業中に詳しく説明していきます。

「点子ちゃんとアントン」は、ベルリンに暮らす裕福な女の子と貧しい男の子の生活と友情が生き生きと描かれ、何度も映画化され、最近では演劇化された、ドイツでとても愛されている作品です。ケストナーのドイツ語は、美しく、機知に富み、親しみやすいので、最初に読んでみるのにふさわしいでしょう。

●授業の目的　(Primary goal)

教科書で学ぶドイツ語を離れて、生きたドイツ語を読んでみることが第一の目標です。同時に、エーリッヒ・ケストナーという作家がどのような生涯を送ったか知ることによって、ドイツの近代史を知ることにもなります。

また、この作品ではベルリンの街での生活が生き生きと描かれているので、ベルリンという町についても知ることになります。実際には、後期の初めにはまだ習っていない文法事項がたくさん出てきますので、読み始める前にそれらの文法事項について勉強してから読むことになりますので、ドイツ語の文法の練習にもなります。

●到達目標　(Objectives)

まず最初に後期に習う文法事項のまとめを勉強します。次にケストナーについて調べてきてもらい、彼の生涯と作品について考えます。それから原文を読み始めますが、少年少女向けの作品とはいえ、そのドイツ語は全く子供用ではなく、大人が読むのに適したものですから、簡単すぎるということはありません。毎回次はどこまで予習してきてほしいかを決めて、読み進めていきます。長編小説ですから、全部読むことはできませんが、なるべく多く読みたいと思います。

●授業計画　(Schedule)

初回には受講者にエーリッヒ・ケストナーについて調べてきてもらい、短い発表をしてもらいます。

その後、後期に習う重要な文法事項について講義をします。そこで原文のコピーをお渡ししますので、辞書を使って読み始めます。

毎回次にどこまで予習してきてもらうかを決めて、読んでいきます。

ある程度読み進んだら、一度は映画化された作品を見る予定です。

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（有・無）

学期末に試験を行います。その内容は、それまで授業で読んだ箇所の中から抜粋して訳してもらうというもので、ちゃんと授業に参加していれば心配はいりません。

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

- 初回にプリントをお渡しします。
- 独和辞典は絶対に必要ですので毎回持ってきてください。電子辞書があると素晴らしいですが、なければ紙の辞書でかまいません。

科　目　名 （英　訳）	**R・符号理論** Introduction to coding theory	開講学期 曜日・時限	後期 第２・第４・第５週 水曜日４・５時限
対象学年	１年生	単位数	１単位
受講資格		募集人数	１５名
担当教員	清田 正夫		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

講義またはゼミ形式で符号理論を初歩から学ぶ。
符号理論は、数字に変換された情報の信頼できる伝達という実用上の問題から発生した。
ここでは代数的符号理論の基礎を代数系（群、環、体）の応用として学ぶ。

受講に際し、数学的予備知識は不要である。

●授業の目的 (Primary goal)

符号理論の初歩を理解する。

●到達目標 (Objectives)

誤り訂正符号の原理、および各種の有名な符号の構成法を理解することができる。

●授業計画 (Schedule)

第１－２回　　符号化概論と代数学からの準備
第３－４回　　誤り訂正符号と線形符号
第５－６回　　双対符号と MacWilliams の定理
第７－８回　　完全符号と Hamming 符号
第９－１０回　巡回符号と有限体
第１１－１２回　ＱＲ符号とＢＣＨ符号
第１３－１５回　Golay 符号と有限群

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（ 有・無 ）

出席とゼミ発表の回数により評価する。
レポートまたは期末試験を課すこともある。

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

R. Hill, A course in coding theory (Oxford University Press, 1986)

科　目　名 （英　訳）	Ｓ・現代パフォーミングアーツ入門 Introduction to Contemporary Performing Arts	開講学期 曜日・時限	後期 水曜日　４・５時限 （第１・第３週を除く）
対象学年	１年生	単位数	１単位
受講資格		募集人数	
担当教員	徳永 伸一		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

「パフォーミング・アーツ（Performing Arts）」とは音楽、演劇、ダンス等「演じられる」芸術の総称です。

「現代」と謳っていますが、いわゆる「現代的」なものを扱うという意味ではなく、現在活動中のアーチスト（＋彼らに直接的に影響を与えた人たち）にスポットを当てます。生のパフォーマンス体験に勝る「学習」はありませんが、教室内では難しいので主に代用品として CD・DVD 等の記録媒体を用いることにします。現在までのところ、入手可能なソフトの都合で音楽（ジャズ、クラシックからロック、J-POP まで何でも）の比重が高いですが、他のジャンル（音楽＋ビジュアルによるパフォーマンス、コンテンポラリーダンス等）も徐々に増やす予定。

●授業の目的 (Primary goal)

評論家的な受身の知識を頭に詰め込むことは本講座の趣旨ではありません。

より重要なのは聴衆・観客としてパフォーマンスに「参加」することで、結果として生涯にわたって芸術と主体的に関わる術を学ぶことが究極の目標です

（よって必ずしも単位取得は重要ではなく、単位と関係なく野次馬的・娯楽的に参加する学生も歓迎します）。

詳しくは授業のウェブサイト等を参照してください。

●到達目標 (Objectives)

・様々なパフォーミングアートに対し、自分の言葉で批評し、感想を整理してわかりやすく述べることができる。

・未知のアートに対する興味に基づいて自ら探究し、文化的背景を学習すると共に、体験（鑑賞）行動に発展させることができる。

●授業計画 (Schedule)

各授業ごとに大まかなテーマ（ジャンルやアーチスト個人等）を決め、関連するソフトを鑑賞します。

またゲスト講師によるレクチャーコンサートや学外でのコンサート鑑賞を毎年実施してきました。本年度の実施については検討中です。（当該授業を実施する場合、通常の授業時間外となる可能性があります）

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（ 有・無 ）

評価項目は以下の２点：

（1） 各回の授業の関するレポート

（2） 授業時間外に各自が体験したコンサートやパフォーマンス公演に関する詳細なレポート

（1）と（2）は同等に評価するので、欠席した場合はその回数に応じて（2）のレポートを余分に提出することによって穴埋めしてもらいます。

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

特にありませんが、主にインターネットで得られる情報を積極的に活用します。

科　目　名 （英　訳）	**S・微分方程式論入門** Introduction to Theory of Differential Equation	開講学期 曜日・時限	後期 水曜日４・５時限 （第１・３水曜日を除く）
対象学年	１年生	単位数	１単位
受講資格	医学科，歯学科，検査技術学専攻	募集人数	
担当教員	中口　悦史		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

微分方程式とは，関数とその導関数との関係式のことであり，その関数の変化の規則を表す式であるともいうことができる。その関数が未知である場合には，次にどの方向へ変化しようとしているかを微分方程式から読み解くことにより，その関数の概形を知ることができる。

一方で，ニュートンの運動方程式が微分方程式で与えられることから分かるように，微分方程式と物理学との結びつきは非常に強く，物理的解釈が微分方程式の理解を助けることも多い。また，そのような物理的解釈を元にして，生態学，生理学，経済学，社会学など幅広い分野の現象の説明にも，微分方程式が応用されている。

この授業では，微分方程式がどのような現象を記述しようとしているかを理解することを目指して，代表的な微分方程式を紹介し，解法は必要最小限を扱うに留めて，それらの解の定性的性質（存在と一意性，漸近挙動）に焦点を当てて授業を行う。主に板書による講義と演習を交えながら授業を進める。　前期の微積分科目（数学（微積分M／D），数学基礎）の知識を前提として講義するので，不明な点があれば必ず復習すること。

●授業の目的 (Primary goal)

微分方程式の基礎を習得し，自然現象や社会現象への応用について理解する。

●到達目標 (Objectives)

基本的な微分方程式の解の定性的性質を理解する。

●授業計画 (Schedule)

第１回　ガイダンス，用語の定義，方程式の例
第２回　常微分方程式の初期値問題の解の存在と一意性，１階常微分方程式の解法（変数分離形，全微分形）
第３回　線形方程式の解の性質，定数係数線形方程式の解法
第４回　非線形常微分方程式の解の性質の把握，２元連立系の相平面解析
第５回　２階常微分方程式の境界値問題，楕円型偏微分方程式（Poisson/Laplace方程式）
第６回　放物型偏微分方程式（熱／拡散方程式），双曲型偏微分方程式（波動方程式，Maxwell方程式）
第７回　総合演習

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価　（　筆記試験，レポート，その他　）

再評価（有・無）

期末試験またはそれに代わる総合演習（４０％）と授業中の演習（６０％）により総合的に評価する。
ただし出席が所定の回数に満たないものには単位を認めない。

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

教科書　特に指定しない。
参考書　Hirsch, Smale, Devaney『力学系入門 原著第２版』岩波書店，2007年。
齋藤誠慈『常微分方程式とラプラス変換』裳華房，2006年。
長瀬道弘『微分方程式』裳華房，1993年。

科　目　名 （英　訳）	S・彫刻（塑造） S・sculpture（modeling）	開講学期 曜日・時限	後期 水曜日４・５時限 第１週～第７週
対象学年	教養部対象	単位数	１単位
受講資格	開講日７日間の授業に休まず参加出来る者	募集人数	２０名
担当教員	本郷　寛		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)
水粘土を使用し、塑造による頭像制作を行う実技演習授業。

●授業の目的 (Primary goal)
人体を観察し、彫刻的にとらえることを最終目標とする。

●到達目標 (Objectives)
素材とする水粘土に触れる。造形を追求する。
観察によって得られる人体の力強さや美しさ等を表現することを目標とする。
人間の魅力を感じ取り、芸術に深く触れることを目標とする。

●授業計画 (Schedule)

第1回（10/ 2）　彫刻についての講義
第2回（10/ 9）　道具使用についての講義　心棒についての講義と塑造制作
第3回（10/16）デッサンについての講義とデッサン実技（モデル）
第4回（10/23）粘土についての講義と塑造制作（モデル）
第5回（10/30）塑造制作（モデル）
第6回（11/ 6）塑造制作（モデル）
第7回（11/13）作品の講評会

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（ 有・無 ）

レポート、出席点、実習作品等で総合的に評価する。

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)
教科書は特に指定しない。
参考書等は授業中に適宜指定する。また、実習に必要な道具等については講義の初回に指示する。

科　目　名 （英　訳）	**S・計算機による数学 A/B** Mathematics with Computer A/B	開講学期 曜日・時限	後期・木曜日（前半８週のみ） Ａ：３・４時限 Ｂ：５・６時限
対象学年	１年生	単位数	１単位
受講資格	Ａ：検査技術学専攻，Ｂ：医学科・歯学科	募集人数	ＡＢ各４０名
担当教員	中口　悦史		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

数学は，自然科学や社会科学など諸分野に現れる様々な問題を解決するために非常に有益な道具を与えてくれるが，現実の問題は非常に大規模で複雑であることが多く，特に代数的手順や解析的解法などの手計算だけで解ける問題は非常に限られているため，計算機の助けを借りて問題解決に望む必要がある。

この授業では，計算機を用いた演習を交えながら，数式で記述された問題に対する計算機を用いた解法について学ぶ。演習に必要なBASIC言語の知識は授業の中で並行して学習を進める。

●授業の目的 (Primary goal)

計算機を用いた数学問題の解決方法について理解する。

●到達目標 (Objectives)

基本的な数学の問題を計算機プログラムによって解くことができるようになる。

●授業計画 (Schedule)

第１回　ガイダンス，BASICのデータ型と演算，有効数字と演算誤差
第２回　BASICの制御構造：条件分岐と繰返し，漸化式と近似
第３回　BASICのグラフィックス機能，平面図形描画演習
第４回　科学計算入門演習
第５回　動的シミュレーション演習
第６回　擬似乱数の基礎，モンテカルロ法，確率計算演習
第７回　総合演習
第８回　（予備日）

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価　（　筆記試験，レポート，その他　）

再評価（有・無）

最終回の総合演習課題（２５％）と毎回の練習課題（７５％）によって評価する。筆記試験は行わない。
ただし出席が所定の回数に満たないものや，期限までに提出されない課題があったものは，単位を認めない。

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

教科書は特に指定しない。必要な教材はプリントまたはウェブ，LMSで配布する。
参考書　木村良夫『パソコンを遊ぶ簡単プログラミング』講談社ブルーバックス，2003年（絶版の可能性）。
片桐・白石『コンピュータによるグラフィックス』東京電機大学出版局，1996年（絶版の可能性）。
森口・伊理・武市 編『Full BASICによる算法通論』東京大学出版会，1991年（絶版の可能性）。

（注）本科目を「情報科学」の再履修科目に指定された学生については本科目の単位は認定しない。
また、本科目の成績が一定の水準に達しなければ、「情報科学」の再評価の対象とならない。

科 目 名 （英 訳）	**S・生体分子分光学演習** Spectroscopic Study of Biological Molecules	開講学期 曜日・時限	後期 木曜日５・６時限　８回 （開講日指定）
対象学年	１年生	単 位 数	１単位
受講資格	生体分子あるいは分光学に興味のある方	募集人数	５名（ミニ卒論希望者を優先）
担当教員	奈良雅之		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

担当教員の専門分野（生体分子分光学）に関連した研究テーマに実際に参加することにより、研究の取り組み方を学ぶことを目的としています。研究計画から実験報告まで、将来研究者として欠かすことのできない重要事項を一通り体系的に学べるでしょう。時間割以外の時間帯にも文献検索、実験、ディスカッション等を行う必要がありますので、単位取得だけを目的とする人、他の科目の履修で余裕のない人には向いていません。この授業に興味のある人、履修を希望する人は８月の「分子分光学演習：基礎編」も合わせて履修することをお勧めします。

●授業の目的 (Primary goal)

研究テーマを取り組むことにより、研究マインドを養うこと。

●到達目標 (Objectives)

少し高度な学生実験レベルから研究レベルまで、学生が希望したレベルの演習を体験できる。

●授業計画 (Schedule)

タンパク質や脂質などの生体高分子や生体材料そのものを研究対象として、分光学的手法（主として赤外分光法もしくはラマン分光法）によるアプローチにより、対象となる分子の構造と機能の相関を解析する。

1. 分光学に関する基本操作を習得する。
2. 実験テーマ、研究テーマを決める。
3. 各自の目標設定を定めた上で、達成するための計画を立てる。
4. 研究を行う。（実験ならびに結果解析）
5. 研究結果についてのディスカッションを行う。ー個別指導
6. 実験経過、研究成果を発表する。
7. 実験レポート（報告書）として報告する。

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（ 有・無 ）

演習への取り組み方、報告書（レポート）で評価します。

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

参考書

「赤外・ラマン分光法」日本分光学会編　講談社サイエンティフィク 2009年発行

「分光測定の基礎」日本分光学会編　講談社サイエンティフィク 2009年発行

「赤外分光測定法　基礎と最新手法」　田隅三生編著　（エスティジャパン）2012年発行

科　目　名 （英　訳）	**S・電磁気学演習** Exercise of Electromagnetism	開講学期 曜日・時限	後期 金曜日１時限
対象学年	１年生	単位数	１単位
受講資格	電磁気学 a, b 受講者	募集人数	３０名
担当教員	梅崎　馨章		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

この授業では、高校で電磁気を学ばなかった学生を対象に、講義に対応した問題演習を行います。電磁気学におけるキーワードは電場（電界）と磁場（磁界）そして電荷と電流です。これらの物理量は、毎回の講義で必ず出てくる重要な量です。演習では、電磁気学における数学的取り扱いを学び、これにより講義内容の理解を深め定着させるようにします。また電気回路の基本にも触れる予定です。演習は自らの学習意欲と興味を維持させるために、セミナー形式で行います。単に与えられた問題を解いて答え合わせをするだけでは効果は期待できません。受講者が自ら解いた解答を発表し、受講者仲間や教員とディスカッションしながら授業を進めます。

●授業の目的 (Primary goal)

電磁気学の講義内容（電磁気学 a, b を想定しています）に沿った基礎的な問題を解くことにより、（1）電磁気学の理解を深める；（2）電気回路の考え方や数学的取扱いに慣れる。

●到達目標 (Objectives)

（1）場（電場・磁場）の概念を理解する；（2）電磁気現象の法則を理解する；
（3）電磁気学で用いられる数学の物理的意味をくみ取れるようになる。

●授業計画 (Schedule)

（1） 電場の計算
　　点電荷による電場、線・面電荷による電場
　　ガウスの法則を用いた電場の計算
　　電気力線とガウスの法則、面・球対象分布の電場
（2） 電位
　　電気的ポテンシャルエネルギー、電位と電場の関係
（3）電流と回路
　　キルヒホッフの法則、コンデンサ、ＲＣ回路
（4）電流に働く磁気力
（5）磁場の計算
　　ビオ-サバールの法則による磁場
　　アンペールの法則を用いた磁場
（6）電磁誘導

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（ 有・無 ）

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

教科書：プリントを配布します
参考書：講義で使用しているテキスト（グラフィック電磁気学　和田純夫著　講談社；
　　新・基礎電磁気学　佐野元昭著　サイエンス社）

科　目　名 （英　訳）	**S・水の科学** Science　of water and aqueous solutions	開講学期 曜日・時限	後期 金曜日１時限
対象学年	１年生	単位数	１単位
受講資格	水に興味のある方	募集人数	１０名
担当教員	奈良　雅之		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

水に対する世間の関心が高いことはご存じのことでしょう。例えば、水道水に対する不安、不満、嗜好飲料に対するブランド志向などからミネラルウォーターが一般家庭の中で定着しています。また、十分な科学的な根拠なしに、水に新しい機能を求める風潮がありますし、本屋の棚には「水で病気が治った？」といった怪しげな本も見受けられます。日常生活の中で当たり前としてとらえがちな「水」ですが、実は非常に複雑で奥が深く、なかなか一筋縄で理解できるものではありません。そこで、「水」に関するテーマを科学的な視点はもちろん、社会的な視点からも眺めることにより、その広さと深さを勉強します。この授業では、教員による講義の部分はできるだけ少なくてし、受講者が積極的に参加するように、輪読、グループ学習、発表会など能動学習を設けます。特に、机上の議論だけでなく、「どの水がうまいか?」「どの水を使うと、おいしいコーヒーが飲めるか?」など実際に比較実験を行う（自分の舌で確かめる）ことにより、朝の眠気を吹き飛ばすようにしたいと思います。

●授業の目的 (Primary goal)

初年次において学生が積極的に調べて、発表する「学生参加型セミナー」を目指しています。

●到達目標 (Objectives)

1. 水、水溶液を科学的な視点で理解できる。
2. 「水」に関連する興味のあるテーマについて、自分で調べてプレゼンテーションを行うことができる。

●授業計画 (Schedule)

具体的な日程は、履修人数、履修者の希望を把握してから、発表します。

1. ガイダンス
2. 水に関する講義
3. 水, 水溶液に関連する文献の輪読
4. ミネラルウォーターの試飲会　and/or コーヒーの試飲会
5. 水に関する簡単な実験（←実験希望者を対象）
6. 報告会 など

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（ 有・無 ）

出席・授業への貢献度（30点）、プレゼンテーション（20点）、レポート（50点）を総合して評価します。

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

教科書「水を科学する」川瀬義矩著　東京電機大学出版局、2011年発行

参考書「水の話・十講（その科学と環境問題）」鈴木啓三著　（化学同人）1997年発行

「水とは何か」　上平恒著　講談社（ブルーバックス）1977年発行

「水の科学」北野康　（NHKブックス）1995年発行

「水の神秘ー科学を超えた不思議な世界」ウェスト・マリン著　（河出書房新書）2006年発行

「水の和　自然と人と社会をめぐる14の視点」沖大幹　監修　（化学同人）2010年発行

「ミネラルウォーター・ガイドブック」早川　光著　（新潮社）2008年発行

科 目 名 （英 訳）	S・漢文講読B（中国の名医） Reading Classical Chinese (Chinese Doctor)	開講学期 曜日・時限	後期 金曜日２時限
対象学年	全学年	単 位 数	１単位
受講資格		募集人数	１２名程度
担当教員	土佐　朋子		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

本講義は、特に、漢文で書かれた中国医学古典を読むための基礎的な力を身につけることを目指します。

今年度は、『史記』扁鵲倉公列伝を中心に扱う予定です。江戸時代に日本で刊行された和刻本で読みます。

また、これら中国の医学は、８世紀の日本にも流入し、日本の古代知識人たちにも少なからぬ影響を与えています。まずは、その代表格である山上憶良の著述を読み、そこから中国古代の名医たちの列伝へ入っていく予定です。

現代では東洋医学が再び見直されつつあります。西洋医学と東洋医学のそれぞれの特徴を生かし、両者を融合した医療がすでに模索されています。また東洋医学の考え方を知ることは、相対的に西洋医学に対する理解を深め、ひいては医学のあり方に対する考え方を広げることにもつながるものと考えられます。

●授業の目的 (Primary goal)

主に中国の史書を読むことを通して、日本文化の形成に大きな影響を与えた中国文学に関する基本的な知識を身につけ、中国古典書籍を読み通す力を養うことを目的とします。

●到達目標 (Objectives)

①漢文訓読の技術を向上させる。

②古代中国の名医たちについて、基本的な知識を身につけ理解を深めること。

③医学と人類とのかかわりについて主体的に考えるひとつの機会となること。

●授業計画 (Schedule)

講義はセミナー形式です。最初の時間に担当者を決め、次のような要領で資料作成と発表を行います。

①漢文に「訓読文」「語釈」「口語訳」「考察」をつけて資料を作成する。

②資料にもとづいて発表を行い、質問や意見を出し合う。

１．オリエンテーション

２．古代日本における中国医学の流入―山上憶良―

３～１４．列伝を演習形式で読む　　１５．まとめ、レポート

※漢文訓読については高校で習った知識があれば十分です。

苦手な人やあまり習っていない人にはレクチャーするので、心配はいりません。

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（ 有・無 ）

担当箇所の発表の内容＋発表を聞く態度と質疑応答への参加状況＋出席状況→５０%

学期末レポート→５０%

●　教科書及び参考書

教科書：特になし。プリントを使用。漢和辞典が必要。授業時に、図書館の『大漢和辞典』を紹介します。

参考書：魯迅「魏晋の気風および文章と薬および酒の関係」（竹内好編訳『魯迅評論集』岩波文庫1981収録）、吉田荘人『中国名医列伝　呪術・漢方・西洋医学の十九人』（中公新書1992）、山田慶兒『中国医学はいかにつくられたか』（岩波新書1999）、大塚恭男『東洋医学』（岩波新書1996）、山田慶兒『夜鳴く鳥　医学・呪術・伝説』（岩波書店1990）、飯島渉『感染症の中国史　公衆衛生と東アジア』（中公新書2009）、酒井シヅ『病が語る日本史』（講談社学術文庫2008）、中村禎里『生命観の日本史　古代・中世篇』（日本エディタースクール出版部2011）など。

科　目　名 （英　訳）	**S・イギリス文学講読** Reading English Novels	開講学期 曜日・時限	後期 金曜日２時限
対象学年	１年生	単位数	１単位
受講資格		募集人数	１２名
担当教員	猪熊　恵子		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

19世紀から20世紀にかけて書かれた短編作品をいくつか取り上げる（Charles Dickens, Conan Doyle, Roald Dahl, Sakiなど）。作品をひとつひとつ注意深く読みながら、文学作品特有のレトリックや、個々の作家に特徴的なスタイルに注目して内容把握に努める。その際、作品が書かれた時代・社会の背景や、作家個々人の人生にも焦点を当て、文学が社会から孤立した言葉の集合体ではなく、社会の網の目のなかで紡ぎだされた「テクスト」であることを理解するよう努める。授業は学生の発表と意見交換を主軸に構成される。
毎回の発表担当者は、作品を十分に読み込んだうえで自分なりの訳と考察を他の受講者に向けて発信すること、聞き手側の学生はその発表内容に対するレスポンスを通して自らの作品理解を深めることが求められる。

●授業の目的　(Primary goal)

英語文学作品にじっくり向き合い、ひとつひとつの言葉を丁寧に調べながら作品を読む。その際、単に英文を和文に変換するという作業を超えて、言葉の裏にある執筆当時の背景や歴史に触れ、作品の奥行きを肌で感じられるように努める。

●到達目標　(Objectives)

原作の持つ英語の響きやそのリズムを大切にしながら、自分の印象に一番近い適切な訳語を探せるように努力する。その過程で、作品が書かれた時代背景を調査し、またそれを読む自分自身の時代意識などを客観的な目線から捉えなおし、文学と社会とのつながりについて考える。

●授業計画　(Schedule)

第一回　イントロダクション、授業の進め方の説明と発表割り当て
第二回目以降は、事前に全員が決められた箇所のテクストを読んできた上で、
発表担当者の発表を聞き、クラス内ディスカッションをしながら作品理解を深める。
※初回の授業で発表担当と授業全体の流れを決めるので必ず出席のこと。

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（　有　・　無　）

毎回の授業への積極的な参加とクラス内ディスカッションへの貢献度が平常点として60%
学期中に一人当たり平均3回程度当たる発表の評価が40%

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

教科書：プリントを使用。
（参考資料については、授業を進める過程で教員から適宜指示する）

科　目　名 （英　訳）	**S・現代物理学入門** Introduction to Modern Physics	開講学期 曜日・時限	後期 金曜日２時限
対象学年	１年生	単位数	１単位
受講資格	現代物理学に興味があること．詳細は下記概要参照	募集人数	２０名
担当教員	水谷　雅志		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

1905 年特許庁に勤める 26 歳の無名の物理学者ーアインシュタインが 3 つの理論「特殊相対性理論」「光電効果の理論」「ブラウン運動の理論」を発表しました。これは「相対性理論」「量子論」「統計物理学」へ繋がる「現代物理学ー20 世紀の物理学」のすべての分野の基礎を与える革命的な理論でした。その後の現代物理学の発展は目覚ましいものがあり、その影響は他の科学・技術にも及びました。「量子力学」による「共有結合」の説明によって「化学」は大きく発展しました。「分子生物学」の誕生にも「量子力学」の創始者ボーア，シュレディンガーの影響があります。ミクロな世界を記述する理論を獲得した物理学者は物質の究極を目指して「原子核」「素粒子」の世界まで進み、さらに，人類の自然観と世界観や生活を根底から覆しました。

この授業ではその「アインシュタイン革命」前後の物理からミクロな原子核・素粒子の世界にいたる迄を主にゼミ形式で適宜講義を混ぜながら行います．さらに 2～3 通の計算主体の簡単なレポート，最後に参考図書などから講義と関係があり，興味を持った分野の図書を読んでレポートを提出してもらいます。受講資格は「現代物理学」に強い興味を持っていること。高校物理未履修者の履修も歓迎しますが、強い興味とそれ相応の努力は必要です。

●授業の目的　(Primary goal)

古典物理学の限界を知り、20世紀に人類の自然観，世界観を覆した現代物理学の基礎を学ぶ。適宜，現在進行形の話題にも触れる。

●到達目標　(Objectives)

１．アインシュタインの相対性原理を理解し，ローレンツ変換を使って相対論的現象が説明できる。
２．量子力学誕生の経緯を理解し、粒子性・波動性の2重性を克服した量子力学の原理が説明できる。
３．原子核・素粒子の物理の基礎を理解し、放射線物理学の入門も行う。

●授業計画　(Schedule)

１．古典物理学の破綻	２．ガリレイの相対性原理とアインシュタインの特殊相対性原理
３．ローレンツ変換	４．特殊相対論的現象（その１）
５．特殊相対論的現象（その２）	５．特殊相対論的力学（その１）
６．特殊相対論的力学（その２）	７．一般相対性理論とその関連分野について
８．粒子性・波動性の二重性（その１）	９．粒子性・波動性の二重性（その２）
10．ラザフォード散乱とボーアの原子模型	11．ヤング型干渉実験と確率解釈
12．量子力学の原理	13．量子力学の適用例
14．原子核と素粒子	15．放射線物理学入門

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験，レポート，その他　）

再評価（有・無）

出席，発表、レポートで総合的に評価します．出席率が3分の2未満の場合単位認定しません。

教科書および参考書　(Textbooks and materials)

教科書：「な～るほどの現代物理学」　伊藤敏雄著　学術図書出版社　不足分はプリントを配布します．

参考書：網羅的なもの「新物理学ライブラリ8 現代物理学入門」　阿部隆蔵著　サイエンス社、「アインシュタインレクチャーズ@駒場」　太田浩一/松井哲生/米谷民明［編］　東京大学出版会、「現代物理学を学びたい人へ」　青木健一郎著　慶應義塾大学出版会、分野別なもの「特殊相対性理論、　アインシュタイン著　岩波文庫、「ポピュラーサイエンス276 量子力学はこうなっている！」久保謙一著　裳華房、クォーク　第2版」　南部陽一郎著　ブルーバックス、反物質の起源　小林誠著　ブルーバックス、「素粒子の物理」相原博昭著　東京大学出版会、「わかりやすい放射線物理学　第2版」多田順一郎著　オーム社、「物理学One Point-27 ブラウン運動」　米沢富美子著　共立出版　など。

科　目　名 （英　訳）	S・現代中国論 China now	開講学期 曜日・時限	後期 金曜２時限
対象学年	１年生	単位数	１単位
受講資格		募集人数	２０名
担当教員	家永　真幸		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

今日の中国では一体何が起こっているのか、日本語で書かれたルポタージュや論文を読みながら考える授業です。参加者でテーマを分担し、担当者に短めの文章の内容を紹介していただいた上で、こちらから解説を加える形式で進める予定です。

●授業の目的 (Primary goal)

近年の中国は、目覚しい経済発展を遂げる一方、国内には多くの問題を抱え、軍事や外交面での強硬姿勢がメディアで取りざたされることもしばしばです。こうした中、皆さんの中には中国に興味を覚えつつも、これまでの勉強では現代中国について知る機会が少なかった、という人が多いのではないでしょうか。

そこで、この授業では皆さんが現代中国を理解するための糸口をつかむお手伝いをしたいと考えています。ネット世論やテレビ番組に影響されて感情論を振り回したりせず、自分の言葉で冷静に中国を語れるようになりたいと思っているような方の参加を歓迎します。予備知識は問いません。

●到達目標 (Objectives)

皆さんが日本の各種メディアから受け取る中国情報というと、「好き／嫌い」や「楽観／悲観」などの感情論を煽るものが多いのではないかと思われます。しかし、そのような「評価」は本来一人ひとりが下すべきものであり、皆さんが本当に知りたいのは中国で何が起こっているのかという「事実」に関する情報のはずです。この授業では、今日の中国をめぐる領土問題、経済問題、環境問題、民族問題、日中関係、米中関係などを題材に、中国情報を読み解く練習をしてもらいたいと考えています。

●授業計画 (Schedule)

初回は参加者と授業の進め方について相談します。特に希望がなければ、国分良成編『中国は、いま』（岩波新書、２０１１年）を課題テクストに指定します。

２週目より、授業の前半では担当者に課題テクストの内容を紹介してもらい、後半で参加者による議論、私からの解説を行います。

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（ 有・無 ）

発表、議論への参加、レポートを総合して評価します。

参加者が少ない場合、１人あたりの発表の負担が大きくなるので、評価方法を再検討します。

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

教科書：開講時に参加者と相談の上決定する。

参考書：国分良成編『中国は、いま』岩波新書、２０１１年。

読売新聞中国取材団『メガチャイナ：翻弄される世界、内なる矛盾』中公新書、２０１１年。

梁過『現代中国「解体」新書』講談社現代新書、２０１１年。

このほか、授業内で適宜紹介します。

科　目　名 （英　訳）	【集中講座】S科目　機械・科学・人間 Machine・Science・Human being	開講学期 曜日・時限	８月２６～３０日の５日間 ２～４時限
対象学年	全学年	単位数	１単位
受講資格		募集人数	２０～２５名
担当教員	土佐　朋子		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

映画を用いて、そこに描かれた作品世界の分析を通じ、人間と科学技術、人間と機械との関係性について考察する授業である。

人間は自らが産み出した科学技術とどのように向き合うべきなのか、あるいは人間が創出したロボットと人間の違いはどこにあるのか、ロボットは人間に成り代われるのかなど、高度に科学技術が進歩する現代社会に生きる我々が抱えていかねばならない諸問題について、講義や話し合いによって考えを深める。

用いる映画は、チャールズ・チャップリン『モダンタイムス』（１９３６年）、『ゴジラ』（１９５１年）、『アンドリューNDR１１４』（１９９９年）、『サロゲード』（２００９年）などを予定している。

●授業の目的　(Primary goal)

人間が人間であるというのはどういうことなのかについて、主体的に考える力を身に付ける。

●到達目標　(Objectives)

①ある作品世界の分析を通して、そこに通底する思想を読み取る力を身につける。
②人間の「生」とはいかなるものなのかについて、思索をめぐらし、思考を深める。
③自らの思考過程や結論などを論理的に説明する力を身につける。

●授業計画　(Schedule)　※順番や作品などが変更されることもあります。

８月２７日　オリエンテーション
２８日　『モダンタイムス』
２９日　『ゴジラ』
３０日　『アンドリューNDR１１４』
３１日　『サロゲード』および、まとめ

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験，レポート，その他　）

再評価（有・無）

平常点（出欠状況・小レポート・授業に取り組む姿勢）　５０%
最終レポート　５０%

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

教科書：特になし。プリントを使用。

参考書：チャペック『ロボット（R. U. R）』（岩波文庫 1989）、ウィーナー『サイバネティックス』（岩波文庫 2011）、横山紘一『歴史のなかのからだ』（ちくま学芸文庫 1993）、石黒浩・池谷瑠絵『ロボットは涙を流すか』（PHPサイエンスワールド新書 2010）、石黒浩『ロボットとは何か　人の心を映す鏡』（講談社現代新書 2009）、馬場伸彦編『ロボットの文化誌　機械をめぐる想像力』（森話社 2004）、廣瀬通孝編『ヒトと機械のあいだ　ヒト化する機械と機械化するヒト』（岩波書店 2007）、鈴木淳『科学技術政策』（山川出版社日本史リブレット 2010）、種田明『近代技術と社会』（山川出版社世界史リブレット 2003）、『近代医学の光と影』（山川出版社世界史リブレット 2004）、高橋敏夫『ゴジラが来る夜に』（廣済堂出版 1993）、大石又七『ビキニ事件の真実　いのちの岐路で』（みずす書房 2003）、広島大学総合科学部編『戦争と科学の諸相』（丸善 2006）、川崎昭一郎『第五福竜丸』（岩波ブックレット 2004）、廣重徹『科学の社会史　上・下』（岩波現代文庫 2003）など。

科 目 名 （英 訳）	**S・分子分光学演習：基礎編** Exercise in Molecular Spectroscopy: A basic course	開講学期 曜日・時限	集中型　8月, 9月 開講予定日　8/19～21 9/5, 9/6 2～4時限
対象学年		単 位 数	1単位
受講資格	分光学に興味のある方、研究に興味のある方	募集人数	5名
担当教員	奈良　雅之		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

近年の技術的な進歩に伴って、医歯学や生命科学の分野における分子分光学の果たす役割は大きくなっています。この科目では担当教員の専門の“生体分子分光学”を通じて「ミクロのものの見方」を学びます。まずは分光測定の基本操作に慣れることから始まり、測定で得られたスペクトルをコンピュータで解析します。授業は演習形式です。

●授業の目的　(Primary goal)

(1) 分光測定を通してミクロのものの見方を習得すること。
(2) 実験テーマを取り組むことにより、研究マインドを養うこと。

●到達目標　(Objectives)

(1) 基本操作を習得することにより、一人で分光測定ができる。
(2) 基本物質の振動スペクトルから構造を読み取ることができる。

●授業計画　(Schedule)

タンパク質や脂質などの生体高分子や生体材料そのものを研究対象として、分光学的手法（主として赤外分光法もしくはラマン分光法）によるアプローチにより、対象となる分子の構造と機能の相関を解析する。

1. (初回)　ガイダンス、 分子分光学に関する概説、装置の説明など
2. 分光学に関する基本操作を習得する。
3. 実験テーマを決めて、取り組む。（実験ならびに結果解析）
4. 実験経過、研究成果を発表する。
5. 実験レポート（報告書）として報告する。

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（ 有・無 ）

演習への取り組み、報告書（レポート）で評価します。

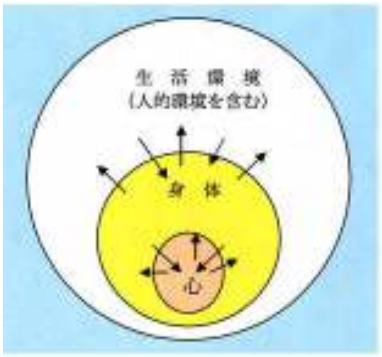
●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

赤外分光測定法　基礎と最新手法　田隅三生編著　（エスティジャパン）2012年発行

科　目　名 （英　訳）	S. フィットネスキャンプ Fitness　Camp	開講学期 曜日時限	前期 （夏季休業中を含む）
対象学年	１年生	単 位 数	１単位
受講資格		募集人員	１５名
担当教員	谷木　龍男・田井　健太郎・林久仁則・水野　哲也		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

この授業は、医療者である前に一人の青年として自分自身の健康を意識するとともに、その基盤となる自分自身の健康をどのように管理してゆくことが必要か、また社会性の視点から自己と他者との関係をより良好に保つとともに両者の関係性をより成熟したものにするためにどのようなコミュニケーションスキルが必要かを考え、学ぶことを目指して開講されるプログラムです。なお、今年の開講プログラムでは国府台キャンパスでの講義授業と夏季休業中(9月初旬の予定)に転地で実施される短期合宿研修（フィットネス・キャンプ）形式で構成されています。



具体的には、人の存在を Bio-psycho-social Model としてとらえ、そのマネージメントにおける内容は大きくセルフケアとコミュニケーションの領域のものを含み、その実践的な手法と基礎理論について学習します。Biologicalな視点から運動生理の基礎と体力管理を、Psycho-socialな視点からストレスマネージメントとコミュニケーションに関する基礎理論と実習を行い、キャンプでは千葉県館山市にある本学の研修施設・大賀寮に宿泊し（予定）、グループ体験学習中心とした合宿プログラムをとおしてトータルなフィットネスマネージメントの基礎実践力を養います。

●授業の目的　(Primary goal)

人が充実した一生を全うするためには、その心身の健康を維持することは望ましいことであり、その基本には自然の摂理を理解した日常生活とより良い人間関係を作り上げる力が必要です。そして、そうした能力の基礎には「人間の理解」、つまり自分自身の心身さらには人格的相互関係への理解が不可欠です。そこで、授業では人間が持つさまざまな機能やシステムの基礎理論を学習するとともに、それらを体験的に気づき、問題を発見・整理し、調整・解決するための基本を身につけることを目的とします。

●到達目標　(Objectives)

前述のようにフィットネスとは多様な内容を含む概念です。そこで、授業ではその多様性並びに生活環境の構成要素と適応について理解し、自分自身の生活や人間関係能力を振り返り，新たに自分らしい探究が行えることを到達目標とします。とはいえ、授業は短期間のため、必ずしも目先の能力獲得のみを求めるのではなく、その目標ではあくまで対象と方法論の理解に重点をおきます。

●授業計画　(Schedule)

前半に国府台キャンパスでの授業として、セルフケアに関する基礎としてフィットネス理論、運動の基礎生理、フィットネスの評価、コミュニケーション論として自己理解、他者理解、そして相互理解を学び、後半は学外での短期合宿研修（３泊４日）で、気候療法の基礎、コミュニケーションスキルとしての「コーチング」並びにストレスマネージメントのための「自律訓練法」の学習を中心に行います。

●成績評価の方法　(Grading scheme)

評価は、授業終了後に作成する総合レポートの内容により　どこまで授業目標が達成されたかが評価されます。

評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（ 有・無 ）

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

大塚邦明；病気にならないための時間医学、ミシマ社、2007
アンゲラ・シュウ著、西川 力訳、阿岸祐幸（医学監修）；気候療法入門、株式会社パレード、2009
佐々木雄二；自律訓練法の実際ー心身の健康のためにー、株式会社創元社、1979
Barbara L. Fredrickson；Positivity, Top-Notch Research Reveals the 3-to-1 Ratio That Will Change Your Life、Three Rivers Press、2009

科 目 名 （英　訳）	Ｓ・ウニの発生と海産生物の観察実習	開講学期 曜日・時限	夏季集中 （実施日時は下記参照）
対象学年	１年生	単位数	１単位
受講資格		募集人数	１０名
担当教員	服部 淳彦・伊藤 正則・他		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

この実習の大部分は新潟大学理学部附属臨海実験所（新潟県佐渡市）において実施される。その実習内容は、①棘皮動物であるウニの発生の観察、②沿岸域でのプランクトンの採集とその形態及び行動の観察、③磯浜を中心にして、潮間帯に生息する生物の採集とその形態、生態及び行動の観察である。

●授業の目的 (Primary goal)

ウニの発生を光学顕微鏡で観察し、その過程で起こる現象を理解する。また、海に生息する様々な生物の形態、生態及び行動を観察し、その多様性を理解する。

●到達目標 (Objectives)

1. ウニの発生過程の特徴を説明することができる。
2. 海に生息する生物の多様性を具体的に説明することができる。

●授業計画 (Schedule)

第1回（7月に行う。その日時は後日掲示する。）
「本学教養部生物学学生実験室」において行う。
内容：光学顕微鏡の使用方法
臨海実験所で行う実習のガイダンス

第2～4回（9月の初め、2泊3日で行う：追って日にちは伝える）
「新潟大学理学部附属臨海実験所」において行う。
内容：ウニの発生の観察
プランクトンの採集と観察
潮間帯に生息する各種生物の観察

備考：新潟大学附属臨海実験所の施設に2泊する。2泊（食事付き）に要する費用は5千円程度である。他に往復の交通費が必要であるが、これらの費用はすべて自己負担である。

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価　（　筆記試験，レポート，　その他　）

再評価（ 有・無 ）

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

［参考書］「発生生物学（図解生物科学講座3)」 浅島 誠 編　朝倉書店（1996年）
「日本産海洋ランクトン検索図説」千原 光雄、村野 直昭 著　東海大学出版会（1997年）
「原色検索日本海岸動物図鑑2」西村三郎 編　保育社（1995年）

科　目　名 （英　訳）	**S・野外運動実習** Outdoor Sports	開講学期 曜日時限	後期 （冬季休業中を含む）
対象学年	１年生	単 位 数	１単位
受講資格		募集人員	１５名
担当教員	麓　正樹・田井　健太郎・水野　哲也		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

人が充実した一生を全うするためには、その心身の健康を維持することは大切なことであり、その基本には大自然の摂理を理解した生活とより良い人間関係を作り上げる力が必要だと考えられます。そして、そうした能力の基礎には「人間の理解」、つまり自分自身の心身さらには人格的相互関係への理解が不可欠です。そこで、この授業では、自身の健康管理（セルフケア）、人的環境の管理（コミュニケーション）、自然体験、リスクマネージメントについて、意識し体験的に理解することを目指して開講します。国府台キャンパス学内での講義では、セルフケア、コミュニケーション、野外運動の特性、リスクマネージメントについて学び、春季休業中（2月下旬）に、転地での短期合宿研修（冬季フィットネスキャンプ：一ツ橋大学研修施設・池の平寮）を通して学ぶ科目です。

●授業の目的 (Primary goal)

セルフケアについては、転地での温泉療養、自然体験を通じて身心にどういった変化をもたらすものであるかを、自身で評価できることを目的とします。また、コミュニケーションについては、コミュニケーションの基礎理論とグループでの自然体験プログラム、スキーを用いた野外運動を通じて問題を発見・整理し、調整・解決するための基本を身につけることを目的とします。また、短期合宿研修では、規律ある集団生活を通して社会性を養います。さらに、本学の学生としては、安全教育、リスクマネージメントについて個々人の視点のみならずシステムの問題としても考える必要があります。そこで、野外運動時に生じる内科、外科的傷害について、自然環境における危険性の理解、自然環境を用いた商業施設の安全管理について理解し、自身の安全管理の方法と施設、システムとしての安全について学びます。

●到達目標 (Objectives)

短期合宿研修では、自身のフィジカルとメンタルについて自己評価を行います。野外運動プログラムとしてはアルペンスキーを用います。アルペンスキーは大自然の中で行う爽快感とともに、年齢や性別、体力の違いにかかわらずに誰でも実践できるといった運動特性があります。また、技術的要素の非常に強いスポーツです。したがって、生涯スポーツとして学習、経験するのにも適した種目であると言えます。

授業では、温泉療養、自然との触れあいを含む短期合宿実習を体験することで、フィットネスの多様性並びに日常の生活環境の構成要素と適応について理解し、自分自身の生活や人間関係能力を振り返り，新たに自分らしい探究が行えることを到達目標とします。とはいえ、授業は短期間のため、必ずしも目先の能力獲得のみを求めるのではなく、その目標ではあくまで対象と方法論の理解に重点をおきます。

●授業計画 (Schedule)

前半に国府台キャンパスでの授業として、セルフケアに関する基礎としてフィットネス理論、気候療法の基礎、フィットネスの評価、コミュニケーションスキルとしての「コーチング」を学び、後半は学外での短期合宿研修（３泊４日）を行い、スキー実技、温泉の使い方並びにストレスマネージメントのための「セロトニン呼吸法」の学習を中心に行います。

●成績評価の方法 (Grading scheme)

評価は、授業終了後に作成する総合レポートの内容により　評価　（　筆記試験，レポート，　その他　）

どこまで授業目標が達成されたかが評価されます。　再評価（有・無）

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

大塚邦明；病気にならないための時間医学、ミシマ社、2007
阿岸祐幸；温泉と健康、株式会社岩波書店、2009
（財）全日本スキー連盟；自然で楽なスキーのすすめ 日本スキー教程編、スキージャーナル社、2009
有田秀穂；呼吸を変えれば「うつ」はよくなる！、PHP研究所、2007

１．連携教育科目

連携教育科目（医学部保健衛生学科のみ）

連携教育科目は、医学部保健衛生学科看護学専攻（1 年次後期火曜日）、同検査技術学専攻の学生を対象に、全学共通科目から専門教育科目への円滑な橋渡しを図るために置かれています。

開講科目は以下のとおりです。

【医学部保健衛生学科】（平成 25 年度）

医療人間学概論（倫理学）	看護学専攻のみ
医療人間学概論（法学）	看護学専攻、検査技術学専攻
医療人間学セミナー	看護学専攻のみ

科　目　名 （英　訳）	医療人間学概論（倫理学） Introduction to the Humanistic Aspect of Medical Care（Ethics）	開講学期 曜日・時限	後期 火曜日１時限
対象学年	１年生	単位数	１単位
受講資格	看護学専攻	募集人数	
担当教員	藤井達夫		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

この授業では、近代以降の倫理観と人間の生命の関係について考えます。余り知られていないことですが、「人間」やその「生命」についてのイメージは、時代の推移とともに大きく変容しています。現在の私たちが自明としている「生命」観やそれに基づいた「人間」のイメージは不変のものではないのです。事実、多くの研究者たちは、現代の医療における「生命」のイメージの変化に伴う、「人間」に対する理解や健康と病に対する理解の変化を指摘しています。さらに、この変化は、倫理についての考え方に大きな影響を及ぼそうとしています。

そこで、近代以降、「生命」および「人間」のイメージが変化する中で、倫理はどのような問題を提起してきたのか、またそれに対してどのような解答を持つにいたったのかについて議論したいと思います。今年度は、特に、優生学と貧困の問題に焦点を当てる予定です。

●授業の目的　(Primary goal)

この授業では、「倫理」の基本的な内容や意味、そしてそれが提起する問題について吟味し、理解することを目指します。

これに加えて、この授業にはもう一つの狙いがあります。それは、受講生のみなさんが、これまでの生活の中で身に付けてきた、倫理に対するイメージや善悪の基準をあらためて考え直す機会を提供することです。倫理についての様々な考えを学び、それらを生み出した土壌を理解することは、医療にかかわる仕事について考える上で、さらには自分自身の生活を見つめる上で、これまでとは異なる新しい視点を与えてくれるはずです

●到達目標　(Objectives)

この授業の到達目標は次の二点です。第一に、西洋の倫理学説の基礎的な理解の習得。第二に、日常的な倫理観を相対化する視点の獲得。

●授業計画　(Schedule)

第一回　はじめに……「生命」についてのイメージの系譜と医療
第二～三回　ネガティヴな優生学とポジティヴな優生学
第四～五回　ケアリングと倫理
第六～七回　貧困と医療
第八回　まとめ

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（有・無）

授業内でのアンケート(数回)とレポート(一回)

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

教科書は使用せず、スライドを用います。参考図書については、授業内で随時紹介します。

科　目　名 （英　訳）	医療人間学概論（法学） Introduction to the Humanistic Aspect of Medical Care（law）	開講学期 曜日・時限	後期 火曜日２時限
対象学年	１年生	単位数	１単位
受講資格	保健衛生学科	募集人数	
担当教員	森本　直子		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

この講義では、憲法の基本的人権に関する諸原理の中から、特に医療領域での法的諸問題と関わりの深いものを選び、事例を織り交ぜながら学ぶことを通じて、基礎的な法的思考方法と人権感覚を習得することを目的とする。例えば、「インフォームド・コンセントは患者の人権尊重のために必要である」とか「医療者の守秘義務は患者の人権尊重のために欠かせない」とはよく言われるけれども、ここでいう人権とはどのような考え方で、それは誰に帰属するのだろうか。それはどんな場合になぜ尊重され、どんな場合になぜ制限されるのか。ありきたりのフレーズも分解してみれば奥が深い。法的思考方法とはこうした理屈を知ることであり、論理的な思考方法と言い換えることもできる。この講義で学ぶ内容は、諸君が今後遭遇するであろう先端的諸問題を法的な視点で考える際の土台となるものと考えている。

授業はパワーポイント・スライドを用いながら講義形式で行うが、適宜双方向的なやり取りを交えながら進行するため、積極的な参加が期待される。尚、各自で情報を整理してノートを作成する能力をつけるため、パワーポイント・スライドは印刷・配布しない。スライドの全てを書き写す必要はなく、情報を取捨選択し、各自で工夫してノートをとること。

●授業の目的　(Primary goal)

現代医療と医学研究において生じるさまざまな問題を法的な視点から考えるために必要な基礎知識と思考方法を習得すること。

●到達目標　(Objectives)

日本国憲法の基本的人権のうち、特に医療と関わりの深い諸原理を理解すること。また、その考え方を応用して実際に社会で起きている問題を分析し、一定の答えを示せること。

●授業計画　(Schedule)

第一回　法的思考とは何か　科学的思考との対比から
第二回　人権の享有主体と人権規定の私人間効力
第三回　道徳と法
第四回　法の下の平等
第五回　自己決定権
第六回　信教の自由
第七回　プライバシーの権利と医療者の守秘義務
第八回　生存権

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験，レポート，　その他　）

再評価（　有・無　）

原則として学期末試験期間内に実施する期末試験により100%評価する。この他に授業内での小レポートにより加点(5-10点) し、期末試験で60点に到達しなかった者の救済措置とする場合がある。

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

教科書は指定しないが、ノートだけでは十分に理解できないことがあるため、下記の参考書から各自で使いやすいものを選び、復習に役立てること。

吉田仁美　他著『スタート憲法』(2010年　成文堂)
棟居快行　他著『基本的人権の事件簿』(第4版　2011年、 有斐閣選書)
初宿正典　他著『いちばんやさしい憲法入門』(第4版　2010年、有斐閣アルマ)

科　目　名 （英　訳）	医療人間学セミナーⅠ（倫理学） Seminar I on the Humanistic Aspect of Medical Care (Ethics)	開講学期 曜日・時限	火曜日 １・２時限
対象学年	１年生	単位数	Ⅱのいずれかと合わせて１単位
受講資格	看護学専攻	募集人数	
担当教員	藤井　達夫		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

このセミナーでは、現代医療と死の問題に焦点を当てます。そしてこの問題を深く理解するために、共通のテキストを輪読し、活発な議論を行います。受講生の皆さんは、今後、看護について専門的に学ぶことになります。このセミナーでは、専門的な学習の前提となるような、あるいはもしかしたら、専門的な学習では取り扱われないような、現代社会における死の問題を倫理学的な視点から検討したいと思います。

●授業の目的 (Primary goal)

このセミナーでは、死の問題を現代社会の文脈に据えて、それを幅広い観点から検討します。このために、山崎章郎『病院で死ぬということ』を受講生の皆さん全員と輪読をします。この輪読をとおして、看護の専門家としてのみならず、現代社会を生きる人間として、死の問題やケアリングについて考えることを目指します。

●到達目標 (Objectives)

倫理学的な視点から現代社会における死の問題について考え、自分の意見を表明できること。
一冊のテキストをしっかり読みこなすことができ、またその内容についてプレゼンテーションができること。
他の学生の意見や問いかけに対して、しっかり応答ができるようになること。

●授業計画 (Schedule)

第一回～第二回‥‥死生学についての講義
第三回～第八回‥‥テキストについてのプレゼンテーションと、それに基づくディスカッション

●成績評価の方法 (Grading scheme) 評価 （ 筆記試験, レポート, その他 ）

再評価（ 有 ・ 無 ）

成績はプレゼンテーションおよびレポート、さらに授業への積極的な参加によって評価します。

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

山崎章郎『病院で死ぬということ』（文春文庫、1996年）

科　目　名 （英　訳）	**医療人間学セミナーⅡ（倫理学）** Seminar I on the Humanistic Aspect of Medical Care (Ethics)	開講学期 曜日・時限	火曜日 １・２時限
対象学年	１年生	単位数	Ⅰのいずれかと合わせて１単位
受講資格	看護学専攻	募集人数	
担当教員	藤井　達夫		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

このセミナーでは、現代医療と死の問題に焦点を当てます。そしてこの問題を深く理解するために、共通のテキストを輪読し、活発な議論を行います。受講生の皆さんは、今後、看護について専門的に学ぶことになります。このセミナーでは、専門的な学習の前提となるような、あるいはもしかしたら、専門的な学習では取り扱われないような、現代社会における死の問題を倫理学的な視点から検討したいと思います。

●授業の目的 (Primary goal)

このセミナーでは、死の問題を現代社会の文脈に据えて、それを幅広い観点から検討します。このために、エリザベス・キューブラー・ロス『死ぬ瞬間―死とその過程について』を受講生の皆さん全員と輪読をします。この輪読をとおして、看護の専門家としてのみならず、現代社会を生きる人間として、死の問題やケアリングについて考えることを目指します。

●到達目標 (Objectives)

倫理学的な視点から現代社会における死の問題について考え、自分の意見を表明できること。
一冊のテキストをしっかり読みこなすことができ、またその内容についてプレゼンテーションができること。
他の学生の意見や問いかけに対して、しっかり応答ができるようになること。

●授業計画 (Schedule)

第一回～第二回‥‥死生学についての講義
第三回～第八回‥‥テキストについてのプレゼンテーションと、それに基づくディスカッション

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（有・無）

成績はプレゼンテーションおよびレポート、さらに授業への積極的な参加によって評価します。

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

エリザベス・キューブラー・ロス『死ぬ瞬間―死とその過程について』（中公文庫、2001年）

科 目 名 （英 訳）	医療人間学セミナーⅠ（法学） Seminar I on the Humanistic Aspect of Medical Care（Law）	開講学期 曜日時限	後期 火曜日１・２時限
対象学年	１年生	単 位 数	Ⅱのいずれかと合わせて１単位
受講資格	看護学専攻	募集人数	２０名程度
担当教員	丸 祐一		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

この授業では、医療に対して法がどのように関わっているかについて紹介することを目的としています。法律は医療における新しい技術の発展とともに現れる新たな問題に対処しようとしています。そして、様々な技術は今も発展し続けています。したがって、当然のことながら、法や倫理や政治は、その新しい技術をいかに扱うかを考えなければなりません。

授業は、参加者が教科書を報告する形式ですすめます。セミナーですから、基本的には、私が講義するのではなく、教科書の担当部分をまとめ、その担当部分に関する自分なりの意見を報告してもらいます。ただし、受講者が多い場合には、セミナー形式が成立しませんので、講義とする場合があります。

●授業の目的 (Primary goal)

法律が医療にどのように関わっているかを知る。

●到達目標 (Objectives)

担当部分をまとめ、自分の意見を織り交ぜながら、法と医療の関係について考えることができる。

●授業計画 (Schedule)

第一週　講義　担当の割り振り　「医事法の意義と基本原理」「医療制度と行政規則」
第二週　「医療行為と刑事規則」「インフォームド・コンセント」「医療情報」
第三週　「治療行為」「人体実験・臨床試験」「医療事故と医療過誤(民事)」
第四週　「医療事故と医療過誤(刑事)」「医療事故と届出義務・被害者救済」「薬害」(場合によっては試験)

●成績評価の方法 (Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（有・無）

出席と報告
(出席者多数の場合には、レポートの内容で評価する)

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

甲斐克則編『ブリッジブック医事法』(2008, 新山社)

科 目 名 （英 訳）	医療人間学セミナーⅡ（法学） Seminar I on the Humanistic Aspect of Medical Care（Law）	開講学期 曜日時限	後期 火曜日１・２時限
対象学年	１年生	単 位 数	Ⅰのいずれかと合わせて１単位
受講資格	看護学専攻	募集人数	２０名程度
担当教員	丸 祐一		

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

この授業では、医療に対して法がどのように関わっているかについて紹介することを目的としています。法律は医療における新しい技術の発展とともに現れる新たな問題に対処しようとしています。そして、様々な技術は今も発展し続けています。したがって、当然のことながら、法や倫理や政治は、その新しい技術をいかに扱うかを考えなければなりません。

授業は、参加者が教科書を報告する形式ですすめます。セミナーですから、基本的には、私が講義するのではなく、教科書の担当部分をまとめ、その担当部分に関する自分なりの意見を報告してもらいます。ただし、受講者が多い場合には、セミナー形式が成立しませんので、講義とする場合があります。

セミナーIで扱えなかった、どちらかというと生命倫理にかかわるテーマを扱います。

●授業の目的 (Primary goal)

法律が医療にどのように関わっているかを知る。

●到達目標 (Objectives)

担当部分をまとめ、自分の意見を織り交ぜながら、法と医療の関係について考えることができる。

●授業計画 (Schedule)

第一週　講義　担当の割り振り　「安楽死」「尊厳死」
第二週　「臓器移植」「人工妊娠中絶」「生殖補助医療」
第三週　「クローン技術」「遺伝をめぐる医療」「ヒト由来物質の利用」
第四週　「小児医療」「精神科医療の基本原理と関連法制度」「精神科医療と損害賠償」（場合によっては試験）

●成績評価の方法 (Grading scheme) 評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（有・無）

出席と報告
（出席者多数の場合には、レポートの内容で評価する）

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

甲斐克則編『ブリッジブック医事法』(2008, 新山社)

２．専門教育科目

医学部医学科

科　目　名 （英　訳）	**医学導入** Medical Introductory Course (MIC)	開講学期 曜日・時限	後期 火曜日終日
対象学年	１年生	単位数	６．５単位
受講資格		募集人数	
担当教員	田中　雄二郎（授業責任者）ytanaka.merd@tmd.ac.jp		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

●授業の目的　(Primary goal)

●到達目標　(Objectives)

枠	医学科第1学年後期毎週火曜日終日（合計 18 日分、補講日含）MD タワー2 階共用講義室 2		
単位	6.5 単位（全体として評価し付与する）		
授業の目的	専門教育の礎をつくる（教育理念、課程への理解、個々の学習目標と学習方法の探索、および自律性の涵養）		
到達目標と学習方略・評価方法	具体的到達目標	学習方略	評価方法
	A)**社会における医師の役割／多彩なキャリア** 社会における医師の役割（現在および今後の様々な形）、様々な社会貢献の形を説明でき、将来のキャリアビジョンを描き始める	・ 中核病院医療、へき地医療、研究、医療行政、国際医療など、様々な社会貢献の形を、講演や shadowing を通して知る ➢ 講演 ✓ 地域中核病院勤務医 ✓ アカデミックドクター（基礎、臨床） ✓ 医療行政従事者 ✓ 国際医療従事者 ➢ シャドウイング ✓ 臨床系教員	レポート
	B) **医学の歴史と展望** 医学の発展の歴史を学び、医学の様々な分野でフロンティアを切り開く創造能力を養う	・ 医学の発展の歴史を認識する ・ 医学の様々な分野でフロンティアを切り開く創造能力を養う	レポート
	C) **国際医療** 国際人としての意識、そして広い視野を持つ	・ 国際人としての視野を高める／認識しておくべきトピックにつき、英語記事を基に小グループで英語議論を行い、その後当該領域を専門とする教員による日本語講義を行う。学習内容につき翌週復習・応用を行う（チーム基盤型学習形式にて） ・ 卒前留学経験者による講演により、同留学の意義を知る	チーム基盤型学習 単語テスト ピア評価
	D) **自ら問題を提起し、解決に向けて、チームメンバーと協力し、効果的に取り組むことができる**	・ A), C), E), F)において、小グループにて自己問題提起/議論を行う ・ 与えられた課題に対し自己学習し、小グループにて情報共有する「症候学導入」を 6 回に渡り行う ・ 問題基盤型学習（Problem-based learning: PBL）を、2 回に渡り行う	提出課題 グループ提出物
	E) **６年間の医学学習を効果的なものとするための基盤を築き、内的学習動機づけを行う**	・ 卒業時の到達目標を認識させ、6年間の学習に対する内的動機づけを促す。 ➢ 第 5 学年学生の臨床実習のシャドウイング ➢ シミュレーション／救急蘇生実習 ➢ 患者シャドウイング ➢ 看護師シャドウイング ・ これから学習する基礎医学・臨床医学において、原因・病態という視点だけでなく、臨床症候からの視点も備え、効果的な学習を可能とすることを目的として、「症候学導入」を 6 回に渡り行う ・ 6 年間の医学学習に際しての自身のメンタルヘルスおよびセルフケアについて学ぶ。	提出課題
	F) **Professionalism** 医師というプロフェッションに必要な態度を習得するための基盤を形成する	・ 英語事例提示後、小グループで英語議論を行い、問題提起および考察を行う	グループ提出物 単語テスト
単位／進級	・ すべて通して一つの単位認定とする ・ 単位未取得者は第2学年への進級不可、未取得者はコース全体が再履修となるので注意すること		
学士編入生対応	・ 補修+レポート提出		

●授業計画　(Schedule)

2013年度　講義室：MDタワー2階共用講義室2

日　付		9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40
10/1	火	履修説明 田中雄二郎	国際医療/Professionalismシリーズ オリエンテーション 高田和生	多彩なキャリア①② **地域で命を支える** **鎌田實先生**	
10/8	火	医学の歴史と展望① **近代医学前史** **佐藤達夫先生**	症候学導入 オリエンテーション 田中雄二郎	国際医療①： グループ英語討論	国際医療①：講義 地域間の健康格差とその是正 **中村桂子先生**
10/15	火	国際医療① TBL	医学の歴史と展望② **肝臓病学の最前線** **榎本信幸先生**	国際医療②： グループ英語討論	国際医療②：講義 健康水準と医療システムの国際比較 **中村桂子先生**
10/22	火	国際医療② TBL	医学の歴史と展望③ **人の英知をこえた真実を求めて** **浅原弘嗣先生**	国際医療③： グループ英語討論	国際医療③：講義 ワクチン **本郷偉元先生**
10/29	火	国際医療③ TBL	多彩なキャリア③ **Physician Scientistとは？** **宮坂信之先生**	症候学導入①	
11/5	火	医学の歴史と展望④ **未定** **中山啓子先生**	多彩なキャリア④ **未定** **中山敬一先生**	症候学導入②	
11/12	火	症候学導入③		Professionalism①： グループ英語討論	多彩なキャリア⑤ **未定** **川越正平先生**
11/19	火	症候学導入④		Professionalism②： グループ英語討論	多彩なキャリア⑥ **保健医療行政への道** **河原和夫先生**
11/26	火	症候学導入⑤		Professionalism③： グループ英語討論	メンタルヘルスケア 平井伸英先生
12/3	火	症候学導入⑥		Professionalism④： グループ英語討論	PBL オリエンテーション 秋田恵一
12/10	火	PBL①		卒前留学の意義	
12/17	火	PBL②		実習①オリエンテーション 高田和生	実習②オリエンテーション 角／小牟田看護部長

1/7	火	実習 ①CC学生shadowing ②臨床系教員Shadowing ③看護師Shadowing/BLS ④患者Shadowing
1/14	火	
1/21	火	
1/28	火	
2/4	火	総括（卒業時の獲得資質について） 田中雄二郎

研究者養成コースの説明 中田先生	予備

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

【教科書】

- 内科学第9 版（朝倉書店 2007 年）
- Harrison’s Principles of Internal Medicine 18th Edition（McGraw-Hill iPad版）
- Gray’s Anatomy for Students （原著2 版 Churchill Livingstone 2009 年）
- 標準生理学第7 版（医学書院2009 年）

【参考書】

- 川越正平、川畑雅照、松岡角英、和田忠志　著「君はどんな医師になりたいのか」（医学書院
- 2002年）
- 渡辺昇一　著「知的生活の方法」（講談社現代新書　1976年）
- 酒井邦嘉　著「科学者という仕事」（中公新書　2006年）
- 日野原重明　著「生きかた上手」（ユーリーグ　2001年）
- エリザベス・キューブラー・ロス　著「死ぬ瞬間」ー死とその課程について（中公文庫　2001年）

松谷明彦、藤正　巌　著「人口減少社会の設計　幸福な未来への経済学」（中公新書　2002年）

医学部看護学専攻

解　剖　学（I）

Anatomy（I）

星　治

1　科目の概要

解剖学は正常なからだの形態と構造を細胞から器官レベルまで研究する学問で，医学の最も基礎的な領域である。

2　教育方針・教育目標

からだを構成している細胞から器官にいたる各単位について，基本的な構造を理解することを目標とする。さらに，看護学を学ぶためにあたって必要な内容を講義するだけでなく，実物観察により理解を深めることも重視する。

3　教育内容

人体を各系統に分け，それらを構成する各器官の形態と構造について講義し，基礎的な人体解剖学の概念を修得できるように努める。

回数	項　目	内　容	担当者
1 2	総論	解剖学とはなにか、人体の構成単位、器官と系統、細胞と組織、人体の方向用語	星
3 4	骨格系	骨組織、骨の発生、骨の連結、頭蓋、脊柱、胸郭、上肢の骨格、下肢の骨格	〃
5 6	筋系	筋のかたちと構造、頭の筋、胸腹部の筋、上肢の筋、下肢の筋	〃
7 8 9	脈管系	血管の構造、心臓の構造、刺激伝導系、肺循環と体循環、動脈系、静脈系、リンパ系	〃
10 11	呼吸器系	鼻腔、副鼻腔、咽頭、喉頭、気管、気管支、肺	〃
12 13	消化器系	消化管の基本構造、口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸、肝臓、胆嚢、膵臓	〃
14	内分泌系	下垂体、甲状腺、上皮小体、副腎、膵臓	〃
15	生殖器系（男性）	精巣と精巣上体、精管、精嚢と前立腺、陰茎、精子	〃
16	生殖器系（女性）	卵巣、卵管、子宮、胎盤、腟と外陰部	〃

〔単位〕必修２単位
〔場所〕保健衛生学講義室１（３号館１８階）

4　教科書・参考書

教科書　藤田恒夫：入門人体解剖学　南江堂
参考書　牛木辰男：入門組織学　南江堂
井上貴央（監訳）：人体解剖学（構造と機能：ミクロからマクロまで）西村書店

5　他科目との関連

人体の様々な病態を理解するためには，からだの構造の基本的な知識が必要である。このため，解剖学は他の多くの科目と関連している。特に，生理学，病理学，病態学とは密接な関連がある。

6　受講上の注意

時間数が限られているので，予習，復習することが必要である。

7　成績評価方法

筆記試験を行う。

基礎看護学Ⅰ
Fundamental Nursing Ⅰ

齋 藤 や よ い

1　科目の概要

基礎看護学では看護学専門科目に共通する知識と技術を学ぶ。基礎看護学Ⅰは，看護学概論として，看護の本質となる「看護」「健康」「人間」「環境」の概念を理解し，看護の機能と役割，対象の全人的理解のための基礎的知識を養う。

2　教育方針・教育目標

看護の共通基盤となる看護の理論，概念・目的や，看護実践能力の基礎となる人間観，生活観，社会観，健康観，自然観とそれらの関連性について総合的に理解する。また，看護独自の機能と，保健医療チームの中での看護の役割と連携について理解する。

3　教育内容

回数	日　時	項　　目	内　　容	担当者
1	4/16(火) 4	オリエンテーション	看護と看護学	齋藤やよい
2	4/16(火) 5	看護の概念	看護の概念と対象の理解	齋藤やよい
3	4/23(火) 3	看護ニーズ	看護の諸理論	齋藤やよい
4	4/23(火) 4	看護技術	看護技術の定義 看護技術の定義と構成する要素と内容	齋藤やよい
5	4/30(火) 3	看護の歴史	看護の歴史と今後の展望	齋藤やよい
6	4/30(火) 4	看護の歴史	看護の歴史と今後の展望	齋藤やよい
7	5/7(火) 3	保健医療の概念	保健医療の概念と看護活動－看護の実践の場	齋藤やよい
8	5/7(火) 4	看護倫理	倫理と専門職としての看護	齋藤やよい

＊日時及び内容は変更する場合がある。
〔単位〕必修１単位
〔場所〕保健衛生学講義室４（３号館７階）

4　教科書・参考書

V. ヘンダーソン（湯槇ます，他訳）：看護の基本となるもの，日本看護協会出版会
高橋照子：看護学原論，南江堂，2009
その他テーマに関連した参考図書を随時紹介

5　他科目との関連

看護学の独自性や看護の専門機能を理解するために，学習の基礎となる教養の自然科学系，社会学系の科目，特に人間科学，社会学，心理学，哲学などの学習が望ましい。

6　受講上の注意

看護学の基礎となる理論や概念を学ぶために，柔軟な思考力が必要となる。これまでの学習経験や生活体験，社会体験を踏まえ，幅広い分野の書物に触れ，社会情勢にも関心を持つことが望ましい。

7　成績評価方法

単元ごとのミニレポート、課題レポート，および出席状況により評価する。

基礎看護学実習Ⅰ（看護早期体験実習）
Early Exposure Practice

齋 藤 や よ い

1　実習の概要・目的

専門科目の学習の初期において，医療の現場を知り，健康障害をもった人々と直接関わることを通して，看護の機能と役割を理解する。また，本実習を通して，今後の学習への動機づけとする。

2　教育目標

1）大学病院の概要と機能について知る。
2）医学部，および歯学部附属病院の理念と病院組織の概要を知る。
3）看護部の理念と基本方針を知る。
4）病院の機能からみた構造上の特徴と，病院内での各部門の配置を知る。
5）療養環境としての病棟・病室環境の特徴を知る。
6）看護活動の場と看護の実際を知る。
7）入院患者の特徴を知る。
8）専門職の役割・連携を知る。
9）学生間で体験を共有する。

3　実習内容・方法等

〔実習期間〕　：８月５日(月）～ ８月８日(木)
〔場　　所〕　：保健衛生学講義室１（３号館18階）、看護実習室１および２（３号館17階）
　　医学部附属病院および歯学部附属病院、症例検討室
〔単　　位〕　：必修１単位

（詳細については、後日配布する実習要項に提示）

看護心理学
Nursing Psychology

田 上 美 千 佳

1　科目の概要

心の健康と精神的援助の全容を概観し、看護実践における心理学的な基礎を築く。

2　教育方針・教育目標

心のしくみと働きについて理解を深めると共に、健康上の問題を抱える人々に精神的な援助を提供する上で欠くことのできない基本的な知識、技術、態度を養うことを学習の目標とする。そこでまず、人格診断、心理測定、自己分析の方法を自分自身に適用してみる。さらに、日常的に体験しているストレスや生活習慣について吟味し、自分自身の心と身体を素材にして健康と不健康、適応と不適応を区別できる判断力を磨く。また、リラクセーション技法、呼吸法等、心の健康の回復・維持・増進に有効と考えられる方法の一端を体験し、精神的な健康をめぐる援助について視野を広げる。こうした学習を通じて、セルフケア支援としての看護について基本的な考え方を身につける。

3　教育内容

回数	日　時	項　　目	内　　容	担当者
1	10/1(火) 5	心のしくみと心の健康	心のしくみと働き、心の健康とは、人格の構造、人格と精神状態の評価方法(心理測定法)、人間と環境との相互作用（応答的な環境）、対人関係とコミュニケーション	田上美千佳
2	10/8(火) 5	心の健康・身体の健康 環境への適応と不適応 (1)	心の健康と身体の健康、心理的ストレスの発生、ストレス対処の過程と類型	美濃由紀子
3	10/15(火) 5	環境への適応と不適応 (2)	心的外傷（トラウマ）の発生、生活習慣と嗜癖行動(アディクション)、暴力的な対人関係（虐待、いじめ、ＤＶ）、精神疾患と脆弱性	上岡陽江
4	10/22(火) 5	心と人格の発達	エリクソンの発達図式、母子相互作用と乳幼児期の発達、青年期の挫折とアイデンティティ形成、中高年の危機と生涯発達	渡邊敦子
5	10/29(火) 5	ストレス・マネジメント	代替療法と統合医療(ホリスティックメディスン)、リラクセーション技法（呼吸法、漸進的筋弛緩法)	渡邊敦子
6	11/5(火) 5	体験としての病	病気という体験(がん患者とその家族を中心に)、当事者同士の支え合い、病気の受容、病と共に生きるということ	沖原幸江
7	11/12(火) 5	感性を磨く技法(1)	看護場面の再構成法（臨地実習の体験）、援助関係の形成、セルフケア支援としての看護、異和感の対自化、感情活用能力	美濃由紀子
8	11/19(火) 5	感性を磨く技法(2)	援助関係の発展、カウンセリングと自己一致、問題の明確化、意思決定支援	田上美千佳

〔単位〕選択１単位

〔場所〕保健衛生学講義室２（３号館８階）ほか

4　教科書・参考書

教科書(いずれも３学年まで使用)

日本精神科看護技術協会監修「改定 精神看護学」中央法規出版、2006

宮本真巳「感性を磨く技法１看護場面の再構成」日本看護協会出版会、1995

参考書　（＊講義中にも提示する）

宮本真巳「感性を磨く技法２ 異和感と援助者アイデンティティ」日本看護協会出版会、1996

宮本真巳「感性を磨く技法３ セルフケアを援助する」日本看護協会出版会、1996

服部祥子「生涯人間発達論」医学書院、2000

リチャード・ラザルス（本明寛他訳）「ストレスの心理学」実務教育出版、1991

E.H.エリクソン（西平直他訳）「アイデンティティとライフサイクル」誠信書房 、2011

ダニエル・ゴールマン（土屋京子訳）「ＥＱ－こころの知能指数」講談社、1995

D･W.ウィニコット（猪股丈二訳）「赤ちゃんはなぜなくの ウィニコット博士の育児講義 子どもと家族とまわりの世界（上）」星和書店、1985
D･W.ウィニコット（猪股丈二訳）「子どもはなぜあそぶの 続・ウィニコット博士の育児講義 子どもと家族とまわりの世界（下）」星和書店、1986

5　他科目との関連

基礎看護学、精神看護学、精神看護学演習等の科目と関連する。

6　受講上の注意

自分自身の心と身体を学習素材とした体験学習を通じて、自己の内面に生じてくる反応に気づき、“やさしく”受け入れてみることを糸口にして、看護職、医療職に求められる姿勢を築いて欲しい。

7　成績評価方法

人間理解、自己理解、援助関係、セルフケア等のテーマに関するレポートによって評価する。

看護の統合と実践Ⅰ
Integration of acquaintances for nursing practice Ⅰ

深 堀 浩 樹

1　科目の概要

看護学の各分野で学ぶ内容の基礎として、様々な領域の看護学およびさまざまな場面における看護実践を知り、広い視野に基づき看護を学んでいくための基本的な態度を身につける。

2　教育方針・教育目標

1） 様々な場面における看護について知る。
2） 生涯に渡り看護に携わっていくための態度を養う。

3　教育内容

回	日　時	内　　容	担当者
1	11/26(火) 3限	オリエンテーション / 様々な領域の看護学　①	深堀浩樹
2	11/26(火) 4限	様々な領域の看護学　②, ③	保健衛生学研究科教員
3	12/3(火) 3限	様々な領域の看護学　④, ⑤	保健衛生学研究科教員
4	12/3(火) 4限	看護学における資料・文献の探し方　①	石井保志 (図書館メディア推進課)
5	12/10(火) 3限 ＊講義室4	様々な領域の看護学　⑥, ⑦	保健衛生学研究科教員
6	12/10(火) 4限	看護学における資料・文献の探し方　②	石井保志 (図書館メディア推進課)
7	12/17(火) 3限	様々な領域の看護学　⑧, ⑨	保健衛生学研究科教員
8	12/17(火) 4限	部門見学・インタビュー内容の検討(グループワーク)	深堀浩樹
9	1/7(火) 3限	国際看護	小黒道子 (聖路加看護大学)
10	1/7(火) 4限	災害看護	石田千絵 (昭和大学)
11	1/14(火) 3限	起業した看護職	川添高志 (ケアプロ株式会社)
12	1/14(火) 4限	看護職への部門見学・インタビュー(グループ別)	深堀浩樹
13	1/21(火) 3限	発表資料作成(グループワーク)	深堀浩樹
14	1/21(火) 4限		
15	1/28(火) 3限	プレゼンテーション	深堀浩樹
16	1/28(火) 4限		

注）保健衛生学科教員とは各講座（地域保健看護学、在宅ケア看護学、リプロダクティブヘルス看護学、精神保健看護学、小児・家族発達看護学、先端侵襲緩和ケア看護学、高齢者看護・ケアシステム開発学、健康教育学、国際看護開発学）の教員のことを示す。

〔単位〕必修2単位
〔場所〕3号館8階　保健衛生学講義室2　　12月10日3限は3号館7階　保健衛生学講義室4
(12月3日4限・12月10日4限はM&Dタワー 3階 情報検索室を予定)
〔時間〕3限 12:50-14:20　4限 14:30-16:00

4　教科書・参考書

授業において必要な書籍等があれば連絡する。

5　他科目との関連

「看護の統合と実践」は、他の看護の専門分野と密接なかかわりを持つ。今回学んだ内容は、今後学習予定の看護学の各科目と、将来的に関連付けられていくことが望ましい。

6　受講上の注意

内容・日時・場所については変更が生じうるので連絡・掲示で確認すること。

7　成績評価方法

レポート、出席により評価する予定である。

医学部検査技術学専攻

先端医療技術論

Advanced Laboratory Sciences

沢辺元司

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

検査技術学を専攻した学生が、一年次のうちに、自ら目指そうとしている専門性を理解するため、専攻の特徴について習得する。また、病院検査部・輸血部・病理部見学、実習体験、研究室見学等を通じて専門分野の専門家を目指す意識を高め、以下に示す二年次以降のカリキュラムの概要を理解した上で、検査技術学を専攻する学生として積極的に基礎知識を習得する。

検査技術学では二年次には専門基礎分野を中心に人体構造・機能を正確に把握してもらう。三年次には専門応用分野を学び、医療において実施される臨床検査の技術と知識を深める。四年次にはそれらの学業の集大成として、現場を体験する臨地実習と臨床検査分野の第一人者からの総合講義のほか、学問的好奇心の育成と習得した技術と知識の創造的な発展を目指して卒業研究を行う。

●授業の目的　(Primary goal)

二年次からスムーズに専門分野の学習に取り組めること、また、幅広い教養を身に付けた検査技術学分野の専門家を目指して教養教育に取り組めることを目的とする。

●到達目標　(Objectives)

検査技術学の概要と二年次以降に学ぶ基礎分野、専門分野、臨地実習、卒業研究等の内容を理解し、大学における学習・研究活動に積極的に取り組む姿勢を身につける。

●授業計画　(Schedule)

生体検査科学専攻の複数教職員が、医療における臨床検査の利用や最新の臨床検査について平易に解説する。更に病院検査部・輸血部・病理部見学、実習体験、研究室見学を通して実際の医療における臨床検査の現状や大学における今後の学習・研究活動を体感する。

１．最先端の臨床検査とその利用①	（赤澤・伊藤）	4/16	２時限
２．臨床現場見学（10:00～ガイダンス予定）	（戸塚・全助教）	5/14	２時限
３．最先端の臨床検査とその利用②	（松浦・沢辺）	10/1	１時限
４．臨床検査の現状①	（戸塚）	10/8	１時限
５．臨床検査の現状②	（齊藤・笹野）	10/15	１時限
６．実習体験①	（本間・加藤）	10/22	１時限
７．実習体験②	（吉田・馬淵）	10/29	１時限
８．研究室見学	（全教員）	11/5	１時限
９．まとめ	（戸塚）	11/12	１時限

（以上、計９回の講義・実習とする。）

●必修１単位

●場所　保健衛生学講義室５（３号館７階）他

●成績評価の方法　(Grading scheme)

レポート・出席状況により総合評価を行なう。

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

特に必要ない（講義によっては参考資料を配布）

人体構造学講義（I）
Anatomy, Lecture (I)

星　　治

1　科目の概要

解剖学は正常なからだの形態と構造を細胞から器官レベルまで研究する学問で，医学の最も基礎的な領域である。

2　教育方針・教育目標

からだを構成している細胞から器官にいたる各単位について，基本的な構造を理解することを目標とする。さらに，検査技術学を学ぶためにあたって必要な内容を講義するだけでなく，実物観察により理解を深めることも重視する。

3　教育内容

人体を各系統に分け，それらを構成する各器官の形態と構造について講義し，基礎的な人体解剖学の概念を修得できるように努める。

回数	項　目	内　容	担当者
1 2	総論	解剖学とはなにか、人体の構成単位、器官と系統、細胞と組織、人体の方向用語	星　治
3 4	骨格系	骨組織、骨の発生、骨の連結、頭蓋、脊柱、胸郭、上肢の骨格、下肢の骨格	〃
5 6	筋系	筋のかたちと構造、頭の筋、胸腹部の筋、上肢の筋、下肢の筋	〃
7 8 9	脈管系	血管の構造、心臓の構造、刺激伝導系、肺循環と体循環、動脈系、静脈系、リンパ系	〃
10 11	呼吸器系	鼻腔、副鼻腔、咽頭、喉頭、気管、気管支、肺	〃
12 13	消化器系	消化管の基本構造、口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸、肝臓、胆嚢、膵臓	〃
14	内分泌系	下垂体、甲状腺、上皮小体、副腎、膵臓	〃
15	生殖器系（男性）	精巣と精巣上体、精管、精嚢と前立腺、陰茎、精子	〃
16	生殖器系（女性）	卵巣、卵管、子宮、胎盤、腟と外陰部	〃

〔単位〕必修２単位
〔場所〕保健衛生学講義室１（３号館１８階）

4　教科書・参考書

教科書　藤田恒夫：入門人体解剖学　南江堂
参考書　牛木辰男：入門組織学　南江堂
　　井上貴央（監訳）：人体解剖学（構造と機能：ミクロからマクロまで）西村書店

5　他科目との関連

人体の様々な病態を理解するためには，からだの構造の基本的な知識が必要である。このため，解剖学は他の多くの科目と関連している。特に，生理学，病理学，病態学とは密接な関連がある。

6　受講上の注意

時間数が限られているので，予習，復習することが必要である。

7　成績評価方法

筆記試験を行う。

歯学部歯学科

モジュール情報

モジュール名	歯学入門
モジュールコーディネータ	荒木孝二
モジュール番号	01
開設時期	1年　後期
モジュールコマ数	45 （5）

学習目標（GIO）

早期に歯学に関する様々な関連事項を知ることで、歯科医学を学ぶ学生としての興味と意識を高めるとともに、今後歯科医師になるための基礎的な情報の収集方法を理解する。

構成ユニット

ユニット番号	ユニット名	授業形態
01	歯学概説	講義・実習
02	歯学史	講義
03	最新の歯学	講義
04	早期臨床体験実習	講義・実習
05	医の倫理	講義
06	基礎情報医歯学	講義・実習

モジュールの単位判定

モジュールの単位を取得するためには、当該モジュール内の全てのユニットに合格していなければならない。なお、ユニットの合格判定およびモジュールの単位判定に際しては、出席日数、提出レポート内容、及び平常学習態度等が評価に加味される。また、複数学年にまたがるモジュールについては、歯学カリキュラム単位取得及び進級判定基準総則に示す基準を併せて満たしていなければならない。

科 目 名 （英 訳）	ユニット番号０１：歯学概説 Introduction to Dentistry	開講学期 曜日時限	後期 火曜日３時限 （一部他の時限あり）
対象学年	第１学年	単 位 数	歯学入門全体で４単位
受講資格	歯学科	募集人員	
担当教員	大学院医歯学総合研究科歯学系教員、学外非常勤講師		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

東京医科歯科大学歯学部とは一体どんなところだろうか、歯学部ではどんな先生からどんなことを学ぶのだろうか、歯科医師として社会からどんなことを期待されているのだろうか、歯科医学界の将来はどうなるのだろうか。この科目の教育項目は、次のように構成されている。

第一は、本学歯学部の教育課程に関する項目である。これに関連してまず、本学歯学部の建学の精神について学び、その後の発展の跡を辿り、諸君が本学歯学部の歴史の中でどのような位置を占めているかを理解する。さらに、本学歯学部における教育の理念、方針及び教科課程の構成を把握した上で、専門科目の履修および卒後の学習、研修、研究の場となる歯学部の研究室及び附属病院を見学して、歯学部の実際の教育・研究・診療の諸活動の一端を体験学習する。

第二は、職業人として社会から期待されている事柄を、歯科医療を取り巻く環境や職業倫理と関連させて把握することを目的とする項目である。ここでは、第一線の医療現場から講師を迎え、歯科医と患者の両方の立場から、歯科医療の諸問題を論じ、歯科医のあるべき姿について考える。また、歯科医療への美的感覚の必要性といった意外な側面にも触れて、歯科医に要求されることの多様性を理解する。

第三に、歯科医学の研究の最近の動向を紹介する。ここでは、多数の先輩が留学を経験しているアメリカの歯学研究の実態と、最新の研究技術を駆使して行われている本学歯学部の研究その他を紹介する。歯科医学における研究が、世界的な視野で様々な魅力的な主題について行われていることを理解する。

最後に我が国の歯科医学と歯科医療の現状に関する展望を知り、職業人としての諸君を取り巻く環境を把握する。

●授業の目的　(Primary goal)

歯学部に進学する学生の多くが抱いているこのような疑問に答え、全学共通科目履修の間、しっかり将来を見据えて、はっきりとした方向性と自覚を持って学習を組織し、教養部での生活を充実した有意義なものにすることを目的とする。

●授業計画　(Schedule)

１）講　義　次ページの別紙日程表のとおり。

●成績評価の方法　(Grading scheme)

講義ごとにレポートを課し、担当教員が評価する。

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

その都度、必要に応じて提示する。

科 目 名 （英 訳）	ユニット番号０１：歯学概説 Introduction to Dentistry	開講学期 曜日時限	後期 火曜日３時限 （一部他の時限あり）
対象学年	第１学年	単 位 数	歯学入門全体で４単位
受講資格	歯学科	募集人員	
担当教員	大学院医歯学総合研究科歯学系教員		

平成２５年度「歯学概説」日程表

４月１６日

時　　間：　８：５０～１０：２０（講義）
　　１０：３０～１２：００、１４：３０～１６：００（学部・病院見学）
場　　所：　演習室（　歯科棟南　４階　）

月	日	曜日	講　　義　　名	講　　師	担 当 分 野
4	16	火	歯学部及び歯学部附属病院見学	田上順次歯学部長	歯学系教務掛

１０月１日～1月１４日

時　　間：１０／１　　は　８：５０～１２：００（講義）
　　１１／１９～１２／１７　は１２：５０～１４：２０（講義）
　　１／７，１４　　は　８：５０～１０：２０（講義）
場　　所：歯学科第４講義室（７号館(歯学部校舎棟）４階）

月	日	曜日	講　　義　　名	講　　師	担 当 分 野
10	1	火	歯学概説のオリエンテーション	俣木　志朗　教授	歯科医療行動科学
10	1	火	病院歯科の役割	佐野　晴男　先生	麻酔・生体管理学
11	19	火	歯科医療の現場から　「開業医として、先輩として」	国光　隆史　先生	口腔放射線医学
11	26	火	インフォームドコンセントについて	植村　研一　先生	高齢者歯科学
12	3	火	海外の歯学の研究	小野　卓史　教授	咬合機能矯正学
12	10	火	歯科医療とアート　「顔面美について」	宮永美知代　先生	歯学系教務掛
12	17	火	補綴学の立場からみた歯科医学	水口　俊介　教授	高齢者歯科学
1	7	火	患者と心	佐藤　貢悦　先生	硬組織薬理学
1	14	火	本学歯学部附属病院の役割について（仮題）	嶋田　昌彦病院長	歯学系教務掛

科　目　名 （英　訳）	ユニット番号０２：歯学史 History of Dentistry	開講学期 曜日・時限	後期 火曜日４時限 （一部他の時限あり）
対象学年	第１学年	単位数	歯学入門全体で４単位
受講資格	歯学科	募集人数	
担当教員	長谷川 成男、鈴木聖一		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

今日に至る歯科医学および歯科医療発展の経緯について歴史的事象をふまえて解説する。
授業は講義形式で行う。

●授業の目的　(Primary goal)

歯科医学、歯科医療の歴史的発達について学ぶ。先人達の今日の歯科医学を築き上げるに至った努力、研鑽の跡を知ることは、未曾有の歯科医師過剰時代に、過ちのない対応で乗り切り、歯科医学を探求し新しい知識を拓いてゆくのである。

●到達目標　(Objectives)

１）歯学史を学ぶ意義を理解する。
２）世界および日本における歯科医学発展の概要を説明できる。
３）義歯の誕生と改良、および咬合に関する研究の軌跡を説明できる。
３）木床義歯など日本固有の技術、歯科医療における先人の工夫の跡を知る。
４）近代における歯学教育の発展と東京医科歯科大学の歴史を知る。

●授業計画　(Schedule)

１）	11月19日	歯学史を学ぶ	歯科医学の起源、基礎医学、臨床医学の発展
２）	11月19日	仏像から木床義歯	木床義歯の誕生、江戸時代の歯科医術
３）	11月26日	楊子と歯磨	楊子と歯磨の歴史、歯科医療の発展（江戸から明治）
４）	12月3日	歯学教育	近代日本の歯学教育、東京医科歯科大学の歴史
５）	12月10日	世界の歯科医学の歴史（１）	古代から近世へ
６）	12月17日	世界の歯科医学の歴史（２）	近代から現代へ

●成績評価の方法　(Grading scheme)

授業態度、必要に応じてレポートにより総合的に評価する。

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

スタンダード歯科医学史　　石井拓男、渋谷　鉱、西巻明彦　　学建書院

０１　歯学入門

科　目　名 （英　訳）	ユニット番号０３：最新の歯学 The introduction to dentistry － Up to date dentistry－	開講学期 曜日・時限	後期 (H25年10月～H26年1月、全10回) 火曜日1時限目(一部他の時限あり) （10月1日、11月26日は1日2回）
対象学年	第１学年	単 位 数	歯学入門全体で４単位
受講資格	歯学科	募集人数	
担当教員	荒木孝二、大学院医歯学総合研究科（歯学系）教授		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

大学院医歯学総合研究科（歯学系）の分野長（基礎系および臨床系教授）が専門分野の最新トピックスについて説明する。基礎系は科学研究のおもしろさや重要性、臨床系は歯科臨床がどこまで国民あるいは社会に貢献しているかを分かりやすく説明し、将来学生諸君がこのような歯科研究者あるいは歯科臨床家になりたいという夢と希望を与える。講師は毎週異なり、各講師が一つのテーマについてそれぞれの立場から分かりやすく講義を行う。

●授業の目的　(Primary goal)

歯科研究・歯科臨床の最新トピックスを理解する。科学研究のおもしろさや重要性を理解する。
歯科研究・歯科臨床が国民・社会にどこまで貢献しているかを理解する。

●到達目標　(Objectives)

最新の歯科研究・歯科臨床の内容を説明出来る。
学部専門科目内容の緒を掴む。

●　授業計画　(Schedule)

	日　時	講　義　内　容	担当教員	(所属分野)
１.	１０月　１日	バーチャルリアリティで体験する匠の技	木下　淳博	(教育メディア開発学)
２.	１０月　１日	接着歯学：世界との戦い	田上　順次	(う蝕制御学)
３.	１１月１９日	歯科と脳科学研究	泰羅　雅登	(認知神経生物学)
４.	１１月２６日	最新の歯科矯正	森山　啓司	(顎顔面矯正学)
５.	１１月２６日	顔のでき方	井関　祥子	(分子発生学)
６.	１２月　３日	においの科学：口臭臨床最前線	川口　陽子	(健康推進歯学)
７.	１２月１０日	口腔外科最前線	原田　清	(顎顔面外科学)
８.	１２月１７日	心の病と歯科疾患	豊福　明	(歯科心身医学)
９.	１月２１日	咬合(噛み合わせ)の回復と義歯治療	水口　俊介	(全部床義歯補綴学)
10.	１月２８日	歯を失った場合の治療法－ｲﾝﾌﾟﾗﾝﾄか再生歯か	春日井昇平	(ｲﾝﾌﾟﾗﾝﾄ・再生医学)

●成績評価の方法　(Grading scheme)

出席とレポートによる評価を行う。全１０回中２／３以上の出席が履修の条件である。

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

教科書は使用せず、レジュメ・資料等をその都度配布する。
参考図書・文献は講義の中で随時紹介する。

科 目 名 （英 訳）	ユニット番号０４：早期臨床体験実習 Introduction to Clinical Dentistry	開講学期 曜日時限	後期 火曜日
対象学年	第１学年	単 位 数	歯学入門全体で４単位
受講資格	歯学科	募集人員	
担当教員	大学院医歯学総合研究科歯学系教員、歯学部附属病院教員等		

● 授業の目的・内容

一般学習目標

今後６年間にわたって歯科医学を学んでいくにあたり、今後の学習への強い動機を獲得するために、歯科医学ならびに歯科医療の現状を認識するとともに、医の原則を理解し、医療人としての基本的態度を修得する。

個別行動目標

１：歯科医療従事者に求められる基本的態度（挨拶、時間厳守、言葉づかい）を身につける。

２：歯科医療が人々の健康の維持・増進に果たす社会的役割を認識する。

３：１口腔単位として歯科疾患を理解する。

４：基礎医学、一般教養科目の重要性を説明できる。

５：自分自身の将来像を具体的に述べることができる。

６：自分の将来像を具現化するための具体的な目標設定ができる。

７：自分自身で問題を提起し、自ら解決する能力を養う習慣を身につける。

● 授業計画

１グループ２～３人で各臨床の診療科あるいは専攻分野に配属され、研究テーマを自ら選定し、研究結果を成果発表会で発表する。

10 月　8 日（火）全体の概要説明、外来見学、研究室見学、テーマ抽出、テーマ発表の準備
10 月 15 日（火）テーマ発表会（１組５分）、テーマ再検討、演習
10 月 22 日（火）演習、中間発表の準備
10 月 29 日（火）中間発表会、
11 月　5 日（火）演習、成果発表会の準備
11 月 12 日（火）成果発表会

● 成績評価の方法

出席、遅刻の有無、受講態度、実習態度、中間発表会および成果発表会での発表内容、発表の態度等を総合的に評価する。

● 教科書及び参考図書

必要に応じて、各研究分野の教員から適宜、提示される。

科　目　名 （英　訳）	ユニット番号０５：医の倫理 Medical Ethics and Bioethics	開講学期 曜日・時限	後期 火曜２時限
対象学年	１年生	単位数	歯学入門全体で４単位
受講資格	歯学科	募集人員	
担当教員	田中智彦、森本直子		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

この講義では、歯学部歯学科の学生諸君が歯科医療・歯学研究の「専門家」として従うべき規範について理解を深めるとともに、「医歯学総合」という幅広い視座から現代医学の諸問題を把握し、分析するための基本的な能力を身につけることが目指されます。

ところで一口に「医の倫理」と言っても、その舞台となるのが現代の医歯学である以上、はるか昔の「ヒポクラテスの誓い」を引き合いに出すだけではもはや十分ではありません。実際、20 世紀の後半に「バイオエシックス（生命倫理）」が成立し、「患者の権利」が確立されてゆくきっかけとなったのは、第二次世界大戦後の医学・医療における人体実験の問題でした。そしてそれゆえに、現代の「医の倫理」にあっては、「倫理的な思考」と「法的な思考」とが分かつことのできない関係になっています。現代の医歯学はそれを「職業」とする人々に、従来の「医の心」や「医師の良心」にはとどまらない倫理規範と思考とを求めているのです。

そこでこの講義も、現代の医療や医歯学のあれこれの「約束事」についてただ解説するという形はとりません。むしろ、現代の「医の倫理」の由来を歴史のうちに探りながら、他方ではその意義と課題とを具体的な諸問題から検討する、という形で進めてゆきます。それゆえこの講義では、いわゆる「座学」による基本的な知識の提供だけでなく、さまざまな問題提起にもとづいた学生諸君によるプレゼンテーションとディスカッションの機会も設けられています。したがって学生諸君には、何よりもまず、自らの頭脳で思考することが求められます。

講義への、そして、そこで提示される諸問題への積極的なコミットメントを期待します。

●授業の目的　(Primary goal)

医療者にとって必須である「医の倫理」の入門編。

●到達目標　(Objectives)

上記のテーマに関して、

① 基本的な理解を得ること。
② 基本的な文献を自分で読めるようになること。
③ さらなる問いを自分で立て、自分で考えられるようになること。

●授業計画　(Schedule)

講義の計画は以下のとおりです。（内容・順序等が一部変更になることもあります。）

第１回　なぜ「医の倫理」を学ばねばならないのか――倫理学および法学の視点から
第２-３回　生命倫理の基礎（１）――「治療するとはどういうことか」を考える
第３-４回　生命倫理の基礎（２）――「自己決定権」について考える
第５-６回　生命倫理の基礎（３）――「いのちの平等」と「いのちの質」について考える
第７回　これからの生命倫理に求められること――批判的考察

●成績評価の方法　(Grading scheme)

期末試験、プレゼンテーションとディスカッションへの参加、講義への出席等をもとに総合的に評価します。

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

教科書は使用せず、レジュメ・資料等をそのつど配布します。
参考文献は講義のなかで随時紹介してゆきます。
ただし、以下にあげる文献については、夏休みが終わるまでに各自で読んでおくこと。

市野川容孝編『生命倫理とは何か』（平凡社、2002 年）
香川知晶『命は誰のものか』(ディスカヴァー・トゥエンティワン、2009 年)

科　目　名 （英　訳）	ユニット番号０６：基礎情報医歯学 Medical and Dental Informatics	開講学期 曜日・時限	後期 火曜日３・４時限
対象学年	第１学年	単位数	歯学入門全体で４単位
受講資格	歯学科	募集人数	
担当教員	大谷 啓一、木下 淳博、田畑 純		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

医歯学に関連する基礎的情報技術の知識・操作について講義および実習を行う。実習は図書館のパソコンを使用する。毎回、課題の提出を行う。また、全講義終了後にCBT試験を行う。

●授業の目的　(Primary goal)

医学・歯学の研究・調査に必要な情報技術を理解し、その利用方法を習得する。ワープロ、メール、インターネットといった基本的な情報技術に加えて、研究・調査に実際に使用する情報技術について実習を行いながら学ぶ。ファイル操作などOSの基本的操作, e-learningの操作は習得済みであることを前提として講義・実習を行うので、事前に自身の知識を確認すること。

●到達目標　(Objectives)

1. コンピューターを使用したプレゼンテーションの作成ができる。
2. 生物医学画像の取り扱いと解析ができる。
3. 動画像の編集ができる。
4. オリジナル・ホームページを作ることができる。

●授業計画　(Schedule)

1. インターネットセキュリティー、著作権　/医歯学プレゼンテーション入門（画像の扱い方）：講義・実習
2. メディアコンテンツ作成1（静止画像処理）：講義・実習
3. メディアコンテンツ作成2（動画像処理）　：講義・実習
4. オリジナル・ホームページの作成：講義・実習

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, (その他)）

再評価（(有)・無）

実習における課題の達成度、CBT試験の成績を評価する。

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

プリントを配布する。

備考：実習では一人一台のコンピューターを使用する。
USBメモリーを持参すること.
動画像処理実習の際は、各自のステレオイヤホンを持参することが望ましい.
遅刻しないこと。

歯学科口腔保健学科口腔保健衛生学専攻

第１学年　ユニット番号:101

科目名	口腔保健と専門職
ユニット名	口腔保健と専門職
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	１学年前期・必修１単位
科目責任者	遠藤圭子
ユニット責任者	遠藤圭子
主な授業場所	口腔保健学科　第１講義室、演習室

学習目標

自学自習とディスカッションに基づく問題基盤型学習（PBL）を通して、口腔保健の基礎知識、保健・医療・福祉の専門職に共通する職業倫理や実務上の態度・姿勢、多職種連携の重要性を学ぶ。

到達目標

・口腔保健の概要を説明できる。
・保健・医療・福祉の専門職に共通する職業倫理を説明できる。
・保健・医療・福祉の専門職に共通する実務上の態度・姿勢を説明できる。
・保健・医療・福祉の専門職による多職種連携の重要性を説明できる。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	オリエンテーション	口腔保健と専門職を学ぶ意義、学習方法（PBL テュートリアル）	大木・遠藤
2	シナリオ１	シナリオ提示、学習項目の検討	口腔保健学科教員
3	学習項目の発表	ディスカッション	口腔保健学科教員
4	シナリオ２	シナリオ提示、学習項目の検討	口腔保健学科教員
5	学習項目の発表	ディスカッション	口腔保健学科教員
6	全体発表準備	全体発表項目、発表法の検討	口腔保健学科教員
7	全体発表	グループ評価	口腔保健学科教員
8	学習の振り返り	まとめ	大木・遠藤

評価方法

・レポート、グループディスカッションの参加状況で総合的に評価する。
・本学歯学部試験規則第11条（期末試験及び中間試験の受験資格）に規定された出席要件を満たさない場合、本科目の単位は認定しない。

教科書および参考書

・授業中に配布する資料。
・参考書は授業時に紹介する。

留意事項

・事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

衛生：遠藤圭子　　随時　usagi.pvoh@tmd.ac.jp
工学：大木明子　　火曜　　moki.mfoe@tmd.ac.jp

科目名	臨床体験実習
ユニット名	臨床体験実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修 1 単位・15 時間
責任者	白田千代子
授業担当者	白田千代子
主な授業場所	口腔保健学科　第 1 講義室・附属病院・企業等

学習目標

多様な場における歯科衛生士の活動の見学体験を通して、歯科衛生士の専門性と社会的役割、専門職としての倫理観、態度、ならびに対人援助の基本を学ぶ。

到達目標

・体験した歯科衛生士の活動の実際について説明する。

・歯科衛生士の専門的業務と社会的役割について説明する。

・歯科衛生士としての倫理観、態度および対人援助の基本を説明する。

・歯科衛生士に必要となる専門知識・専門技術の基本事項を概説する。

回	授業題目	授業内容	担当者
1・2	オリエンテーション	臨床体験実習の目的、方法、スケジュール	白田千代子
3・4	事前学習	附属病院、企業内診療所、歯科関連企業、福祉施設等における歯科衛生士、社会福祉士など専門職の活動	白田千代子 遠藤圭子 近藤圭子
5・6	見学	見学実習	白田千代子
7	発表準備	報告書作成、発表内容の確認	遠藤圭子
8	総括	発表、振り返りとまとめ	白田千代子 近藤圭子

評価方法

報告書の提出、発表の結果をもって、総括的評価を行う。

受講態度、出席状況等を総括的評価に加味する。

参考図書等

・授業の際に紹介する。

担当教員の office hour

白田千代子　教授　随時　hakuta.ohcw @tmd.ac.jp

科目名	人体の構造と機能及び疾病
ユニット名	人体の構造と機能Ⅰ
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	１学年後期・必修２単位・90 分×15 回
科目責任者・ユニット責任者	坂本裕次郎
主な授業場所	口腔保健学科　第１講義室

学習目標

人体の正常な構造と機能を学んで、生命現象が営まれるメカニズムを分子レベルから個体レベルへと統合的に理解するとともに、組織および器官の発生のしくみと成長と加齢に伴う変化ならびに生体の恒常性維持機構について理解する。

到達目標

・人体の構成ならびに構造と機能の関係を概説する。
・細胞の構造と働きならびに遺伝子の分子機構を説明する。
・人体の発生と発達の概要を説明する。
・上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織の特徴と役割を説明する。
・運動器（骨格系と筋系）の構造と機能および発生と成長に伴う変化を説明する。
・循環器の構造と機能および発生と成長に伴う変化を説明する。
・循環調節のしくみおよび血液の役割を説明する。
・内分泌器の構造および発生と成長に伴う変化を説明する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	人体の構成	人体の構造と機能を学ぶ意義、人体の構成と身体の方向用語、細胞と組織と器官系	坂本裕次郎
2	人体を構成する細胞の構造と機能	核とその役割、細胞質と細胞膜・細胞内小器官の役割	坂本裕次郎
3,4	組織と器官系の分類	上皮組織・支持組織・筋組織・神経組織の構成要素の特徴と役割および器官系の構成	坂本裕次郎
5	人体の発生と生後発達	人体の発生過程と生後の変化	井関祥子
6	骨格系の形成と機能	骨組織の発生様式と骨格形成、骨組織と骨格の役割	坂本裕次郎
7,8	骨格系と筋系	肉眼解剖学的にみた骨と筋、全身の骨格と筋の構成	坂本裕次郎
9,10	筋の収縮機構と機能、骨格筋の収縮のタイプと疲労	骨格筋・心筋・平滑筋の収縮のしくみと役割	杉本久美子
11	心臓と脈管系の構造	心臓と血管・リンパ管の組織学的構造	坂本裕次郎
12	循環器系	肉眼解剖学的にみた全身の循環器の構成、	坂本裕次郎

13	循環器系の機能と循環調節	心臓と脈管系の機能とその調節機構	杉本久美子
14	血液の機能	血液の構成成分の働きと血液型	杉本久美子
15	内分泌系の構造と発生	内分泌器官の種類と構造、発生過程	井関祥子

評価方法

・筆記試験と受講状況による総合評価を行う。

参考図書等

・最新歯科衛生士教本「人体の構造と機能1　解剖学・組織発生学・生理学」全国歯科衛生士教育協議会監修　医歯薬出版　2010 年
・「人体解剖学」改訂第 42 版　藤田恒太郎著　南江堂　2003 年
・「入門人体解剖学」改訂第 5 版　藤田恒夫著　南江堂　2012 年
・「グレイ解剖学」原著第 2 版　塩田浩平、瀬口春道、大谷　浩、杉本哲夫訳　エルゼビア・ジャパン　2011 年
・「標準組織学　総論」第 4 版　藤田尚男、藤田恒夫著　医学書院　2002 年
・「標準組織学　各論」第 4 版　藤田尚男、藤田恒夫著　医学書院　2010 年
・「標準生理学」第 7 版　小澤瀞司、福田康一郎総編集　医学書院　2010 年
・新歯科衛生士教本「解剖学・組織発生学・口腔解剖学」第 2 版　全国歯科衛生士教育協議会編　医歯薬出版　1996 年
・新歯科衛生士教本「生理学」　全国歯科衛生士教育協議会編　医歯薬出版　1995 年

留意事項

・事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

坂本裕次郎　口腔保健衛生基礎学分野　随時　y.sakamoto.ombi@tmd.ac.jp
井関祥子　　分子発生学分野　随時　s.iseki.emb@tmd.ac.jp
杉本久美子　口腔基礎科学分野　火　16:00-18:00　ksugimoto.fohc@tmd.ac.jp

口腔保健学科　口腔保健衛生学専攻　第 1 学年

科目名	人体の構造と機能及び疾病
ユニット名	栄養と代謝
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	1 学年後期・必修 2 単位・90 分×15 回
科目責任者	坂本裕次郎
ユニット責任者	小野寺光江
主な授業場所	口腔保健学科　第 2 講義室

学習目標

食物に含まれる各栄養素の種類と機能、それらの消化・吸収・代謝の過程を学ぶとともに、さまざまな食品に含まれる栄養素を理解し、健康の維持・増進のための食生活についての知識を習得する。

到達目標

・健康と栄養摂取の関係について説明する。
・栄養素の種類と機能を説明する。
・栄養素の体内での消化・吸収について説明する。
・栄養素の代謝・応答につて説明する。
・食品に含まれる栄養素を理解し、食品群の種類とその特徴について説明する。
・ホルモンによる恒常性の維持について説明する。
・ホルモンの分泌と作用メカニズムについて説明する。
・歯と歯周組織における硬組織の形態と構成成分ならびに機能について説明する。
・歯の石灰化の機序とカルシウム・リン代謝について説明する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	栄養の基礎知識	栄養の基礎知識	小野寺 光江
2	糖質の栄養学	糖質の構造と機能および栄養学的意義	小野寺 光江
3	脂質の栄養学	脂質の構造と機能および栄養学的意義	小野寺 光江
4	タンパク質の栄養学	タンパク質の構造と機能および栄養学的意義	小野寺 光江
5	ビタミンの栄養学	ビタミンの種類と栄養学的意義	小野寺 光江
6	ミネラルの栄養学	ミネラルの種類と栄養学的意義	小野寺 光江
7	消化と吸収	栄養素の消化と吸収	小野寺 光江
8	食品と栄養	食品群の種類と特徴	小野寺 光江
9	生体の構成要素	細胞の役割、生体における水	森田 育男
10	糖質の生化学	糖質の代謝・応答	森田 育男
11	脂質の生化学	脂質の代謝・応答	森田 育男
12	タンパク質の生化学	タンパク質の代謝・応答	森田 育男
13	ホルモン	ホルモンによる恒常性の維持 、 ホルモンの分泌と作用メカニズム	森田 育男
14	歯と歯周組織の生化学1	歯と歯周組織の生化学	馬場 麻人
15	歯と歯周組織の生化学2	歯の石灰化とカルシウム・リン代謝	馬場 麻人

評価方法

・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。

・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

・最新歯科衛生士教本「人体の構造と機能2 栄養と代謝」医師薬出版株式会社ISBN978-4-263-42819-1

・新しい「日本食品標準成分表2010」による食品成分表 改訂最新版 女子栄養大学出版 ISBN978-4-7895-1011-1

留意事項

・事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

小野寺 光江 健康支援口腔保健衛生学分野 m.onodera.cohc@tmd.ac.jp 随時

森田 育男 分子細胞機能学分野 morita.cell@tmd.ac.jp 随時

馬場 麻人 硬組織構造生物学分野 助教 o.baba.bss@tmd.ac.jp 随時

口腔保健学科 口腔保健衛生学専攻 第 1 学年 ユニット番号 1007

科目名	公衆衛生学
ユニット名	公衆衛生学
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	1 学年後期・必修 1 単位・90 分×8 回
科目・ユニット責任者	品田佳世子
主な授業場所	口腔保健学科 第 1 講義室

学習目標

健康、疫学、人口、環境、保健衛生などの基本事項を理解し、ヘルスプロモーションや予防医学を実践するための基礎的知識の習得と新たな発想を展開する方法を学ぶ。

到達目標

・健康の概念を説明する。
・疫学について説明する。
・人口統計について説明する。
・環境による健康への影響を説明する。
・地域保健について基本的事項を理解する。
・ヘルスプロモーション、予防医学の基本概念と実践方法について理解する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	総論	総論、健康の概念、ヘルスプロモーション、予防医学、グループ課題	品田佳世子
2	疫学	疫学の定義および概要、疫学の方法	品田佳世子
3	人口	人口の動向、人口動態統計、生命表	品田佳世子
4	健康と環境 1	健康と環境の課題発表の準備	品田佳世子
5,6	健康と環境 2	各グループの課題発表、健康と環境の総括	品田佳世子
7,8	地域保健・公衆衛生	地域保健の概要と事例検討・発表	品田佳世子

評価方法

・課題発表・作成された資料、筆記試験と受講状況による総合評価を行う。

参考図書等

・教科者:最新歯科衛生士教本『保健生態学』(歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1)医歯薬出版
・参考書:厚生の指標　臨時増刊「国民衛生の動向」、 厚生統計協会
「シンプル衛生公衆衛生学」 南江堂

留意事項

・事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

品田佳世子　火　16:00－18:00　　shinada.pvoh@tmd.ac.jp

口腔保健学科　口腔保健衛生学専攻　第 1 学年　　ユニット番号 1008

科目名	社会保障 I
ユニット名	社会保障 I
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	1 学年後期・必修 2 単位・90 分×15 回
科目・ユニット責任者	遠藤　慶子
主な授業場所	口腔保健学科　第 1 講義室

学習目標

・社会保障制度の基礎的知識および社会保障と口腔保健の関連性を理解する。
・少子高齢社会における社会保障制度と保健・福祉・医療の実際を理解する。

到達目標

・社会保障制度の目的と機能を説明する。
・社会保障と口腔保健の関連性を説明する。
・少子高齢社会における社会保障制度の課題を説明する。
・社会保障制度と保健・福祉・医療の実際を関係づける。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	社会保障の概要①	人々の暮らしと社会保障制度	遠藤慶子
2	社会保障の概要②	日本の社会保障制度Ⅰ	中村秀一
3	社会保障の実際①	日本の社会保障制度Ⅱ	中村秀一
4	社会保障の概要③	高齢者の人たちを支援する社会保障制度Ⅰ	橋本泰子
5	社会保障の実際②	高齢者の人たちを支援する社会保障制度Ⅱ	橋本泰子
6	社会保障の概要④	障害のある人たちを支援する社会保障制度Ⅰ	石渡和美
7	社会保障の実際③	障害のある人たちを支援する社会保障制度Ⅱ	石渡和美
8	社会保障の概要⑤	地域社会と社会保障制度Ⅰ	小畑万理
9	社会保障の実際④	地域社会と社会保障制度Ⅱ	小畑万理
10	社会保障の概要⑥	地域社会と社会保障制度Ⅲ	大貫正男
11	社会保障の実際⑤	地域社会と社会保障制度Ⅳ	大貫正男
12	社会保障の概要⑦	国際社会の社会保障制度Ⅰ	猪熊律子
13	社会保障の実際⑧	国際社会の社会保障制度Ⅱ	猪熊律子
14	社会保障のまとめ	日本の社会保障制度の課題Ⅰ	中村秀一
15	社会保障のまとめ	日本の社会保障制度の課題Ⅱ	中村秀一

評価方法

・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
・定期試験を実施し、総合的に評価する。

参考図書等

・授業中に配布する資料。
・参考書は授業時に紹介する。

留意事項

・事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

遠藤慶子　随時　k-endo.ohcw@tmd.ac.jp

科目名	歯科衛生学概論
ユニット名	歯科衛生学概論 I
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	1 学年後期・必修 1 単位
科目責任者	遠藤圭子
ユニット責任者	遠藤圭子
主な授業場所	口腔保健学科　第 1 講義室

学習目標

歯科衛生の変遷と、歯科衛生業務に必要な専門知識・技術の概要および基本事項を理解するとともに、歯科衛生士の主要業務や歯科衛生過程の各場面で必要となる専門知識・義靴の特徴を知る。

到達目標

・歯科衛生の変遷を説明する。
・歯科衛生を担う職種として、歯科衛生士の活動の場と業務内容を説明する。
・歯科衛生業務で必要となる専門知識・専門技術の特徴を説明する。
・歯科臨床の業務で必要となる専門知識・専門技術を説明する。
・口腔疾患予防業務で必要となる専門知識・専門技術の特徴を説明する。
・歯科衛生過程の各場面で必要となる専門知識・専門義t十の特徴を説明する。
・医療における安全確保の意義と対策を概説する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	歯科衛生の変遷と概要	オリエンテーション 歯科衛生の歴史、歯科衛生とは、本学の歯科衛生士養成の歴史	遠藤圭子
2	歯科衛生業務	歯科衛生士の専門知識と専門技術	遠藤圭子
3	歯科衛生業務	歯科衛生士の活動の場と業務内容	白田千代子
4	口腔疾患予防業務	口腔疾患予防に必要な専門知識と専門技術	近藤圭子
5	健康教育	健康教育の実践と必要な専門知識・技術	遠藤圭子
6	歯科診療の補助業務	歯科臨床の概要、歯科衛生業務内容	遠藤圭子
7	論理的思考ツールの活用	歯科衛生過程	遠藤圭子
8	医療安全対策	インシデント、アクシデント	遠藤圭子

評価方法

・課題レポート、期末の試験で総括的評価を行う。
・受講態度、出席状況等を総括的評価に加味する。

教科書

・全国歯科衛生士教育協議会監修:最新歯科衛生士教本「歯科衛生学総論」, 医歯薬出版, 2012.

参考図書

・Esther M.Wilkins　著／石川達也　校閲／布施祐二・眞木吉信・松井恭平・松崎晃　監訳／全国歯科衛生士教育協議会監修:歯科衛生士の臨床, 医歯薬出版, 2008.
・全国歯科衛生士教育協議会監修:最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」, 医歯薬出版, 2007.
・全国歯科衛生士教育協議会監修:最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」, 医歯薬出版, 2011.
・授業の際、印刷物を配布する。

留意事項

・事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこ
・出席が全体の 2／3 に満たない場合は、単位認定はできない。出席用件を満たすように十分留意すること。

担当教員の office hour

遠藤圭子　随時　usagi.pvoh@tmd.ac.jp
白田千代子　随時　hakuta.cohc@tmd.ac.jp
近藤圭子　随時　solan.ltoh@tmd.ac.jp

第 1 学年　ユニット番号:103

科目名	歯科衛生学概論
ユニット名	歯科衛生学概論Ⅱ
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	1 学年後期・必修 1 単位
科目責任者	遠藤圭子
ユニット責任者	遠藤圭子
主な授業場所	口腔保健学科　第 1 講義室

学習目標

歯科衛生士としての職業倫理・行動規範を理解するとともに、また専門職として必要な対人援助の基本的事項および様々な場面において必要となる対人関係の特徴を理解する。

到達目標

・歯科衛生士としての職業倫理・行動規範を説明する。
・歯科衛生業務に必要な対人援助技術の基本事項を説明する。
・歯科臨床における対人援助技術の特徴を説明する。
・健康教育の場で必要となる対人援助技術の特徴を説明する。
・対象の人びとを理解する手立てを説明する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	オリエンテーション	オリエンテーション（授業の概要と方法）	遠藤圭子
2	職業倫理・行動規範	歯科衛生業務における倫理および行動規範 法や規則の遵守	遠藤圭子
3	対人援助	対人援助に必要な技術	遠藤圭子
4	対人援助技術	歯科臨床における対人援助技術	遠藤圭子
5	健康教育におけるコミュニケーション	コミュニケーションのあり方	遠藤圭子 白田千代子
6	歯科衛生過程と対人援助	歯科衛生過程の 6 つの構成要素とその内容	遠藤圭子
7	対象の理解	アセスメントとニーズ判断	遠藤圭子
8	学習の振り返り	まとめ	遠藤圭子

評価方法

・課題レポート、期末の試験で総括的評価を行う。
・受講態度、出席状況等を総括的評価に加味する。

教科書

・全国歯科衛生士教育協議会監修：最新歯科衛生士教本「歯科衛生学総論」，医歯薬出版，2012.

参考図書

・Esther M.Wilkins　著／石川達也　校閲／布施祐二・眞木吉信・松井恭平・松崎晃　監訳／全国歯科衛生士教育協議会監修：歯科衛生士の臨床，医歯薬出版，2008.

・全国歯科衛生士教育協議会監修：最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」，医歯薬出版，2007.

・全国歯科衛生士教育協議会監修：最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」，医歯薬出版，2011.

・授業の際、印刷物を配布する。

留意事項

・事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

・出席が全体の 2／3 に満たない場合は、単位認定はできない。出席用件を満たすように十分留意すること。

担当教員の office hour

遠藤圭子　随時　usagi.pvoh@tmd.ac.jp
白田千代子　随時　hakuta.cohc@tmd.ac.jp
近藤圭子　随時　solan.ltoh@tmd.ac.jp

歯学科口腔保健学科口腔保健工学専攻

第 1 学年　科目・ユニット番号：1-1

科目名	口腔保健工学概論
ユニット名	口腔保健工学概論A
授業形態	講義
開講時期・時間数・単位	1 学年前期・15 時間・必修 1 単位
科目責任者・ユニット責任者	鈴木哲也・大木明子
授業担当者	遠藤圭子（口腔保健衛生学専攻）、大木明子、口腔保健学科教員
主な授業場所	口腔保健衛生学専攻第 3 講義室、歯学部演習室

学習目標（GIO）

自学自習とディスカッションに基づく問題基盤型学習（PBL）や演習をとおして、口腔保健の基礎知識、保健・医療・福祉の専門職に共通する職業倫理や実務上の態度・姿勢、多職種連携の重要性を学ぶ。

到達目標（SBOs）

1. 口腔保健の概要を説明する。
2. 保健・医療・福祉の専門職に共通する職業倫理を説明する。
3. 保健・医療・福祉の専門職に共通する実務上の態度・姿勢を説明する。
4. 保健・医療・福祉の専門職による多職種連携の重要性を説明する。

授業計画　1 学年前期・8 回・必修 1 単位　（1回の授業時間：90分）

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1	4	16	オリエンテーション	口腔保健と専門職を学ぶ意義、学習方法（PBL テュートリアル）	1	遠藤、大木
2	4	16	シナリオ1	シナリオ提示、学習項目の検討	1-4	口腔保健学科教員
3	4	23	学習項目の発表	グループディスカッション	1-4	〃
4	4	23	シナリオ 2	シナリオ提示、学習項目の検討	1-4	〃
5	4	30	学習項目の発表	グループディスカッション	1-4	〃
6	4	30	全体発表準備	全体発表項目、発表内容の検討	1-4	〃
7,8	5	7	全体発表、まとめ	グループ課題発表・討論、まとめ	1-4	〃

評価方法

・口腔保健工学概論 A は授業内レポート、グループディスカッションの状況、全体発表の内容で総合的に評価する。

・ユニット「口腔保健工学概論 B」（2 年次開講）の成績と合わせて科目「口腔保健工学概論」の評価を行う。

参考図書等

授業中に配布する資料。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

担当教員のオフィスアワー

鈴木哲也　教 授　随時　suzuki.peoe@tmd.ac.jp

遠藤圭子　准教授　随時　usagi.aohc@tmd.ac.jp

大木明子　准教授　火曜　moki.mfoe@tmd.ac.jp

第 1 学年　科目番号:2

科目名	早期臨床体験実習
授業形態	実習
開講時期・時間数・単位	1 学年前期・ 30 時間・必修 1 学年後期・ 15 時間・必修　} 1 単位
科目責任者	池田正臣
授業担当者	鈴木哲也、高橋英和、杉本久美子、大木明子、安江透、池田正臣、 冨川紘一、岩崎直彦
主な授業場所	口腔保健工学専攻第 2 講義室、第 1 実習室

学習目標(GIO)

今後の学習への強い動機を獲得するため、臨床の現場を体験することで歯科医学ならびに歯科医療の現状を認識するとともに、医療人としての基本的態度を修得する。また、歯科技工士に求められる資質は技工物をつくるだけではなく、人の健康の維持・増進に関わる職業であることを認識する。

到達目標(SBOs)

1. 歯科医療従事者に求められる基本的態度を身につける。
2. 歯科医療が人々の健康の維持増進に果たす社会的役割を認識する。
3. 歯科医療のなかでの歯科技工士の役割を認識する。
4. 歯科材料、器械の扱いを学ぶ。

授業計画

1 学年前期・15 回・必修(1回の授業時間:90分)

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1-5	9	25	オリエンテーション	実習についての講義、課題	1-3	鈴木、安江、池田
6-10	9	26	実習、資料室見学	ミニチュアの入れ歯製作、 過去の技工物などの見学	4	安江、冨川、岩崎
11-15	9	27	病院見学、歯科技工部見学	歯学部附属病院における、 治療および技工物製作現場の見学	1-3	鈴木、大木、池田

1 学年後期・8 回・必修(1回の授業時間:90分)

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
16-18	10	1	歯科技工所見学	外部の歯科技工所における、臨床現場の見学	3	池田

19-21	10	8	企業見学	歯科材料メーカーにおける体験実習	3,4	杉本、高橋、池田、冨川
22,23	10	15	学習結果発表	見学、実習を通しての課題に対する学習結果発表	1-3	杉本、高橋、安江、池田、冨川、岩崎

評価方法

出席、実習態度、提出物、学習結果発表、レポート等から総合的に評価する。

参考図書等

必要に応じ、口腔保健学科口腔保健工学専攻教員より適宜、資料の配布を行う。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

担当教員のオフィスアワー

池田　正臣　講師　メールにて面談の日程を調整すること　ikeda.sdt@tmd.ac.jp

第 1 学年　科目番号:3

科目名	技術倫理
授業形態	講義
開講時期・時間数・単位	1 学年後期・15 時間・必修 1 単位
科目責任者	安江　透
授業担当者	皆吉淳平（非常勤講師）
主な授業場所	口腔保健工学専攻第 2 講義室

学習目標(GIO)

人間の身体・生命にかかわる技術者として求められる「技術倫理」について理解し、洞察を深める。

到達目標(SBOs)

1. 技術倫理の特性についての概要を理解する。
2. 事故の社会的要因と技術との関係性について初歩的な理解を得る。
3. 専門職論における「専門職」の要件について理解する。
4. 専門職にとっての倫理綱領が有する社会的意味について理解する。
5. 医療におけるインフォームド・コンセントの歴史的展開を理解する。
6. 医療におけるインフォームド・コンセントの哲学・倫理学的な議論の概略を理解する。
7. 技術者にもとめられる説明責任の倫理的・社会的な基礎づけを理解する。
8. 製造物責任の考え方、および、製造物責任法（PL 法）の概要を理解する。
9. 健康被害を生じさせた事例から、法と社会・倫理との関係について理解する。
10. 知的財産権の考え方の概要を理解する。
11. 人々の健康・生命がかかわる分野における知的財産権が孕む問題について理解する。
12. エンハンスメントと呼ばれる倫理的問題群について概要を理解する。
13. 医療技術の存在意義について、「願望実現医療」の事例から考察できるようになる。
14. 人間の身体・生命にかかわる技術について、倫理的・社会的に考える視点を習得する。

授業計画　1学年後期・8回・必修1単位（1回の授業時間：90分）

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	授業担当者
1	10	1	技術倫理とは何か、なぜ必要か	チャレンジャー号爆発事故をめぐる技術・社会・倫理	1, 2	皆吉
2	10	8	プロフェッションとしての倫理	倫理綱領の社会的意味	3, 4	〃
3	10	15	インフォームド・コンセントと説明責任（1）	医療におけるインフォームド・コンセント	5, 6	〃
4	10	22	インフォームド・コンセントと説明責任（2）	技術者にとっての説明責任	7	〃
5	10	29	製造物責任	カネミ油症事件をめぐる技術・社会・倫理	8, 9	皆吉
6	11	5	知的財産権と人々の健康	医薬品・医療機器の特許と社会	10, 11	〃
7	11	12	人体改造の技術と倫理	エンハンストメント・願望実現医療と技術・倫理	12, 13	〃
8	11	19	歯科技工と技術倫理	歯科技工士にとっての医療倫理・技術倫理と社会	14	〃

評価方法

・レポートに、平常点（コメントペーパーの内容など）を加味して、総合的に評価する。

・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

・ 小出泰士『JABEE対応　技術者倫理入門』丸善、2010年

・ 新田孝彦・蔵田伸雄・石原孝二編『科学技術倫理を学ぶ人のために』世界思想社、2005年

・ 市野川容孝編『生命倫理とは何か』平凡社、2002年

・ 香川知晶『命は誰のものか』ディスカヴァー携書、ディスカヴァー・トゥエンティワン、2009年

・ 山中浩司『医療技術と器具の社会史』大阪大学出版会、2009年

・その他、書籍や参考になるWebサイトなどは、適宜、紹介する。

留意事項

事前に資料の配布、e-learningへのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員のオフィスアワー

安江　透　講師　随時　yasue.sdt@tmd.ac.jp

科目名	形態認識造形学
授業形態	講義
開講時期・時間数・単位	1 学年後期・15 時間・必修 1 単位
科目責任者	安江　透
授業担当者	伊藤恵夫(非常勤講師)
主な授業場所	口腔保健工学専攻第 2 講義室

学習目標(GIO)

口腔保健工学の基礎となる形態の認識と造形に関する知識を習得し、「観察力」、「認識力」、「造形力」を養う基盤とする。

到達目標(SBOs)

1. 形態認識造形学で学ぶ内容と、その理由・目的を理解し、説明する。
2. 形態を客観的に見るとはどういうことか、理論的背景を含めて理解する。
3. 形態の意味を読み取る力、すなわち認識力について理解する。
4. 自分の意図した形態を作る力、すなわち造形力について理解する。

授業計画　1 学年後期・8 回・必修 1 単位(1回の授業時間:90分)

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	授業担当者
1	10	22	概論	概論	1	伊藤
2	10	29	観察力	見えるということ	2	〃
3	11	12	〃	「かたち」と「いろ」	2	〃
4	11	26	認識力	「かたち」と「しくみ」	3	〃
5	12	10	〃	歯と系統進化	3	〃
6	1	7	造形力	「線」と「面」	4	〃
7	1	14	〃	「面」と「立体」	4	〃
8	1	28	まとめ	まとめ	1	〃

評価方法

授業への積極的な参加状況、提出物、レポートを総合的に判断し、評価する。

参考図書等

必要に応じてプリントを配布する。

留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員のオフィスアワー

安江　透　　講師　　随時　　yasue.sdt@tmd.ac.jp

科目名	形態認識造形学実習
ユニット名	形態認識造形学実習A
授業形態	実習
開講時期・時間数・単位	1 学年後期・45 時間・必修 1 単位
科目責任者・ユニット責任者	安江　透
授業担当者	安江　透、冨川紘一、伊藤恵夫（非常勤講師）
主な授業場所	口腔保健工学専攻第 4 実習室

学習目標(GIO)

形態認識造形学で学ぶ理論的背景を基に、口腔保健工学の基本的技術力の基礎となる「観察力」、「認識力」、「造形力」を養い培う。

到達目標(SBOs)

1. 形態認識造形学実習で学ぶ内容と、その理由・目的を理解し、説明する。
2. 現時点での自分の理解力・表現力を知り、ステップアップのための方法を考える。
3. 自分の意図した形態を作ることができるよう、造形力を向上させる。
4. 形態を客観的に見る力、すなわち観察力の向上をはかる。
5. パースペクティブの概要を理解する。
6. 色の三要素の理論を理解し、実際に活用する。
7. その形態に適した色彩を考え、表現する力をつける。
8. これまでに学んだ内容を基礎に、総合的に表現する。

授業計画　1 学年後期・23 回・必修 1 単位（1回の授業時間：90分）

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	授業担当者
1	10	22	概論	概論、自画像	1, 2	伊藤、安江、冨川
2	10	22	表現と構成	幾何形体による構成	3	〃
3,4	10	29	観察と表現（平面）	プロポーション	2, 4	〃
5	11	5	観察と表現（立体）	幾何形体	2, 4	〃
6	11	5	〃	立体の見え方（パース）	2, 4, 5	〃
7	11	12	線の観察	大顔面	2, 3	〃
8,9	11	19	面の観察	アグリッパ	2, 3	〃
10	11	26	面の観察	アグリッパ	2, 3	伊藤、安江、冨川

11	12	3	色彩	色の三要素	6	〃
12	12	3	〃	色による表現	6, 7	〃
13	12	10	〃	〃	6, 7	〃
14	12	17	〃	〃	6, 7	〃
15	12	17	明度の表現	グレースケールの作成	7	〃
16	1	7	造形（平面）	描写（自画像）	8	〃
17,18	1	14	〃	〃	8	〃
19-21	1	21	造形（立体）	粘土による模刻	8	〃
22	1	28	〃	〃	8	〃
23	1	28	まとめ	まとめ	1	〃

評価方法

・毎回の提出物（作品）を総合的に判断し評価する。

・ユニット「形態認識造形学実習 B」（2 年次開講）と合わせて科目「形態認識造形学実習」の評価を行う。

参考図書等

必要に応じてプリントを配布する。

留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員のオフィスアワー

安江　透　講師　随時　yasue.sdt@tmd.ac.jp

冨川　紘一　助教　随時　fukawa.peoe@tmd.ac.jp

第 1 学年　科目番号：7

科目名	メディア情報学基礎
授業形態	講義
開講時期・時間数・単位	1 学年後期・15 時間・必修 1 単位
科目責任者	杉本久美子
授業担当者	木下淳博・須永昌代（図書館情報メディア機構）、大谷啓一（硬組織薬理学分野）、佐々木好幸（う蝕制御学分野）、徳永伸一（教養部）
主な授業場所	口腔保健工学専攻第 1 講義室

学習目標（GIO）

・コンピューターによるメディア情報処理、コンテンツ作成の基礎を修得する。

・インターネットとコンピューターを利用した口腔保健活動および研究活動に必要な情報検索の方法を修得する。

到達目標（SBOs）

1. 学内無線 LAN に各自持ち込み PC を接続する。

2. インターネットにおけるセキュリティー管理、著作権保護を実践する。

3. PC 上で静止画像・プレゼンテーションファイルを作成する。

4. PC 上で動画像を編集する。

5. インターネットからの情報を適切に収集し、吟味する。

授業計画 1学年後期・8回・必修1単位（1回の授業時間：90分）

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1	11	5	オリエンテーション	コース概説、無線 LAN 概要・扱い、各自持参パソコンの無線 LAN 接続、インターネットとセキュリティー、著作権、e-learning 基礎	1, 2	木下、徳永、須永、メディア情報掛
2	11	12	プレゼンテーション入門（Power Point） メディアコンテンツ作成1	研究発表に必要なプレゼンテーション実習、静止画像処理	3	大谷、木下、須永、メディア情報掛
3	11	19	インターネット情報検索1	インターネットからの情報の収集と吟味 1	5	佐々木
4	11	26	インターネット情報検索 2	インターネットからの情報の収集と吟味 2	5	佐々木
5	12	3	メディアコンテンツ作成 2	動画像処理	4	木下、須永、メディア情報掛
6	12	10	メディアコンテンツ作成 3	動画像処理	4	木下、須永、メディア情報掛
7	12	17	インターネット情報検索 3	課題発表	5	佐々木
8	1	7	まとめ	メディアコンテンツ作成（動画像）課題発表、ネットワーク上で試験	1-5	木下、佐々木、須永、メディア情報掛

評価方法

提出課題および第 8 回に行うネットワーク上での試験で総括的評価を行う。

留意事項

・入学時の案内・ガイダンス等で指定した推奨ノートパソコンに指定のソフト（Microsoft 社製 Power Point は必須）をインストールして持参すること。

・1、2、4、5、8 回の授業は、各自、ノート PC、USB フラッシュメモリーおよびステレオイヤホンを持参すること。

担当教員のオフィスアワー

木下 淳博 教授 金 16:00-17:00 kinoshita.emdv@tmd.ac.jp

杉本 久美子 教授 火、木 16:00-18:00 ksugimoto.bohs@tmd.ac.jp

科目名	口腔保健材料力学
ユニット名	口腔保健材料力学A
授業形態	講義
開講時期・時間数・単位	1 学年後期・15 時間・必修 1 単位
科目責任者・ユニット責任者	髙橋英和
授業担当者	髙橋英和、岩崎直彦
主な授業場所	口腔保健工学専攻第 2 講義室

学習目標（GIO）

材料に引張，圧縮を加えたときに内部で生じる応力と変形について理解し，歯科で用いられている材料の特徴を説明する.

到達目標（SBOs）

1. 基本単位を説明し，長さを測定する。
2. 材料力学に必要な基礎知識を説明する。
3. 応力ーひずみ線図を説明する。
4. 引張，圧縮応力を受けた時の棒の変形を説明する。
5. 高分子材料の特徴を説明する。
6. 金属材料の特徴を説明する。
7. セラミック材料の特徴を説明する。
8. 複合材料の特徴を説明する。
9. 歯科材料の機械的性質の評価方法を説明する.

授業計画　1 学年後期・8 回・必修 1 単位（1回の授業時間：90分）

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1	11	26	基本単位と基本的な測定機器	SI 単位、長さの測定	1	高橋、岩崎
2	12	3	材料力学概説	材料力学を学ぶ目的、力のモーメントのつり合い	2, 4	高橋
3	12	10	材料力学で使う数式	よく使う数学公式、荷重の種類	2, 4	〃
4	12	17	応力ひずみ線図	応力とひずみの定義、応力ひずみ線図	3, 4	〃
5	1	7	許容応力と安全率 高分子材料概論	許容応力と安全率の考え方 歯科で用いられている高分子材料	2, 4	〃

6	1	14	金属材料概論 セラミック材料概論 複合材料概論	歯科で用いられている金属材料概論 歯科で用いられているセラミック材料 歯科で用いられている複合材料	6-8	高橋
7	1	21	歯科材料の特性比較歯科材料の基礎的性質	歯質と歯科材料の特性の比較 歯科材料の機械的資質	5-9	〃
8	1	28	機械的性質の評価方法	粘弾性、物理的性質	1, 9	〃

評価方法

・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。

・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

・ユニット「口腔保健材料力学B」(3 年次開講)の成績と合わせて科目「口腔保健材料力学」の評価を行う。

教科書

・「スタンダード歯科理工学 —生体材料と歯科材料—」第 4 版 鈴木一臣、楳本貢三、岡崎正之、中嶌 裕、西山典宏編 学研書院、2011

参考図書等

・「コア歯科理工学」 小倉英夫、高橋英和、宮崎 隆、小田 豊、楳本貢三、小園凱夫編 医歯薬出版、2008

・「JSME テキストシリーズ 材料力学」 日本機械学会編 丸善、2007

・「JSME テキストシリーズ 演習:材料力学」 日本機械学会編 丸善、2007

・「よくわかる材料力学」 辻 智章 講談社、2002

留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

担当教員のオフィスアワー

高橋 英和 教授 月、火 16:00-18:00 takahashi.bmoe@tmd.ac.jp

岩崎 直彦 助教 月、火 16:00-18:00 iwasaki.bmoe.bmoe@tmd.ac.jp

第 1 学年 科目番号:14

科目名	人体の構造と機能 I
授業形態	講義
開講時期・時間数・単位	1 学年後期・30 時間・必修 2 単位
科目責任者	杉本久美子
授業担当者	杉本久美子、田畑 純(硬組織構造生物学分野)
主な授業場所	口腔保健工学専攻第 2 講義室

学習目標(GIO)

人体の構造と機能ならびにその分子的基盤を学ぶことにより、生命が営まれるメカニズムを分子レベルから個体レベルに至るまで理解する。さらに、機能の異常と疾患、使用される薬物について概要を理解する。

到達目標（SBOs）

1. 生命の基本単位である細胞の構造、構成要素とその働きを説明する。
2. 人体の構成ならびに構造、機能の概要を理解する。
3. 上皮組織、支持組織、筋組織および神経組織の構成成分、構造および機能の概要を理解する。
4. 骨格系の構成と骨の代謝について理解する。
5. 全身の筋の構造と筋収縮のメカニズムについて理解する。
6. 末梢神経系および中枢神経系の構造と機能、およびその疾患について説明する。
7. 運動器系の構成と機能、およびその疾患について説明する。
8. 循環器系の構造と機能、その疾患について理解する。
9. 血液成分と働きおよびその疾患について理解する。
10. 呼吸器系の構造と機能、およびその疾患について説明する。
11. 感覚器系の構造と機能、およびその疾患について説明する。
12. 泌尿器系の構造と機能、尿の生成機序とその疾患について説明する。
13. 生体の恒常性維持機構（体温調節、体液組成および体液量の調節）を概説する。
14. 内分泌系の構造、機能、およびホルモンの作用とその異常について説明する。
15. 様々な疾患に使用される薬物について概要を理解する。

授業計画　1学年後期・15回・必修2単位（1回の授業時間：90分）

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1	10	1	はじめに、細胞の構造と機能	人体の構成、細胞小器官、細胞の基本的機能	1, 2	杉本
2	10	8	組織学概論 1	四大組織（上皮組織、支持組織）	3	田畑
3	10	15	組織学概論 2	四大組織（筋組織、神経組織）	3	〃
4	10	22	解剖学概論 1	骨学、筋学	4	〃
5	10	29	解剖学概論 2	脈管学、神経学	5	田畑
6	11	5	神経系の構成と機能 1	神経系の構成、末梢神経系、自律神経系の機能、興奮伝導のメカニズム	6	杉本
7	11	12	神経系の構成と機能 2	中枢神経系、神経伝導路、反射のしくみ、神経系の疾患と薬物	6	〃
8	11	19	筋の機能	筋の種類、筋の収縮と代謝、骨格筋収縮のタイプ、筋電図	5	〃
9	11	26	運動器系	運動（反射と随意運動）、運動器系の疾患	7, 15	〃
10	12	3	循環器系の構造と機能	心臓と血管の働き、心電図、心機能の調節、心臓疾患	8, 15	〃
11	12	10	血液	血液の成分と働き、血液の疾患	9, 15	〃

12	12	17	呼吸器系	呼吸器の構成、外呼吸と内呼吸、呼吸運動、ガス交換、呼吸の調節、肺の疾患と薬物	10, 15	〃
13	1	7	感覚器系の構造と機能	感覚器の構造、感覚の基本的性質、体性・内臓感覚、特殊感覚(視覚、聴覚、平衡感覚)	11	〃
14	1	14	排泄 体温調節	尿の生成と排尿 体熱の産生と放散、体温調節、発熱と解熱	12, 13, 15	〃
15	1	21	内分泌	内分泌器官とホルモン、内分泌異常と薬物	14, 15	〃

評価方法

・期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。

・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

・「解剖生理学」 高野廣子著　南山堂

・「図解生理学」第2版　中野昭一編　医学書院

・「カラーで学ぶ解剖生理学」 ゲーリー・A・ティボドー、ケビン・T・パットン著　コメディカルサポート研究会訳　医学書院

・「標準生理学」第5版　本郷利憲、廣重力監修　医学書院

・「基礎歯科生理学」 第 5 版　森本俊文、山田好秋編　医歯薬出版

・最新歯科衛生士教本「人体の構造と機能1」 全国歯科衛生士教育協議会監修　医歯薬出版

留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

担当教員のオフィスアワー

杉本　久美子　教授　火、木　16:00-18:00　ksugimoto.bohs@tmd.ac.jp

田畑　純　准教授　随時　tabatamj.bss@tmd.ac.jp

Ⅴ．履修に関する規則等

東京医科歯科大学学則

（平成１６年４月１日
規程第４号）

第１章　総則

第１条　本学は、医学及び歯学の理論並びに応用を教授研究し、併せて人格の陶冶をなすものである。

２　各学科における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的については、当該学科において別に定める。

第２条　本学に、国立大学法人東京医科歯科大学組織運営規程（平成１６年規程第１号。以下「組織運営規程」という。）の定めるところにより、次の学部及び学科を置く。

医学部　医学科
　　保健衛生学科
歯学部　歯学科
　　口腔保健学科

２　医学部保健衛生学科に、看護学専攻及び検査技術学専攻を置く。

３　歯学部口腔保健学科に、口腔保健衛生学専攻及び口腔保健工学専攻を置く。

４　本学に、組織運営規程の定めるところにより、教養部を置く。

第３条　医学部医学科及び歯学部歯学科の修業年限は６年、医学部保健衛生学科及び歯学部口腔保健学科の修業年限は４年とする。

第４条　学生の入学定員、編入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

学　部	学科・専攻	入学定員	編入学定員	収容定員
医学部		人	人	人
	医　学　科	１０１	５（２年次編入）	６３１
	保健衛生学科			
	看護学専攻	５５		２２０
	検査技術学専攻	３５		１４０
歯学部				
	歯　学　科	５３		３１８
	口腔保健学科			
	口腔保健衛生学専攻	２２	６（３年次編入）	１００
	口腔保健工学専攻	１０	５（２年次編入）	５５

第２章　授業科目

第５条　削除

第６条　本学の授業科目は、全学に共通する教育科目（以下「全学共通科目」という。）と専門に関する教育科目（以下「専門科目」という。）とする。

２　全学共通科目は教養部において、専門科目は各学部において行う。
３　全学共通科目の開設授業科目及び単位数は、別に定める。
４　専門科目の開設授業科目及び単位数は、別に定める。

第３章　学年、学期及び休業日

第７条　学年は、４月１日に始り、翌年３月３１日に終る。

第８条　学年を分けて、次の学期とする。
前期　４月１日から９月３０日まで
後期　１０月１日から翌年３月３１日まで

第９条　授業を行わない日（以下「休業日」という。）は次のとおりとする。
⑴ 日曜日及び土曜日
⑵ 国民の祝日に関する法律（昭和２３年法律第１７８号）に規定する休日
⑶ 本学創立記念日　　１０月１２日
⑷ 春季休業　　４月１日から４月７日まで
⑸ 夏季休業　　７月１１日から９月１０日まで
⑹ 冬季休業　　１２月２５日から翌年１月７日まで
２　前項の規定にかかわらず学長が必要と認めたときは、休業日を変更し、又は臨時に休業日を定めることができる。

第４章　入学、休学、転学及び退学

第１０条　入学は、学年の始めにおいてする。

第１１条　本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。
⑴ 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者
⑵ 通常の課程による１２年の学校教育を修了した者又は通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者
⑶ 外国において、学校教育における１２年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
⑷ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
⑸ 文部科学大臣の指定した者
⑹ 大学入学資格検定規程（昭和２６年文部省令第１３号）により文部科学大臣の行う大学入学資格検定に合格した者
⑺ 相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると、本学で認めた者

第１２条　大学医学部医学科の卒業者で歯学部歯学科に、大学歯学部歯学科の卒業者で医学部医学科に編入学を希望する者があるときは、欠員がある場合に限り、選考の上、相当の学年に入学の許可をすることがある。

第１３条　大学医学部医学科の学生で医学部医学科に､大学歯学部歯学科の学生で歯学部歯学科に、大学（短期大学並びに外国の大学及び短期大学を含む。）の学生で医学部保健衛生学科又は歯学部口腔保健学科に転入学を希望する者があるときは、欠員がある場合に限り、選考の上、相当の学年に入学を許可することがある。

第１４条　医学部医学科の２年次に編入学をすることができる者は、次の各号の一に該当する者で、選考の上、入学を許可する。
⑴ 大学を卒業した者（医学を履修する課程を卒業した者を除く。）
⑵ 学校教育法（昭和２２年法律第２６号）第１０４条第４項の規定により学士の学位を授与された者
⑶ 外国において、学校教育における１６年の課程を修了した者（学校教育における１５年の課程を修了し、学士の学位に相当する学位を取得したと大学において認めた者を含む。）

第１５条　削除

第１６条　医学部保健衛生学科の２年次に編入学することができる者は、四大学連合憲章に基づく協定による複合領域コースを履修しており、かつ、協定大学の学部に２年次以上在学した者で、選考の上、入学を許可する。

第１７条　削除

第１８条　歯学部口腔保健学科口腔保健衛生学専攻の３年次編入学をすることができる者は、次の各号の一に該当する者で、選考の上、入学を許可する。
⑴ 歯科衛生士を養成する短期大学を卒業した者
⑵ 歯科衛生士を養成する専修学校の専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者

第１８条の２　歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻の２年次編入学をすることができる者は、次の各号の一に該当する者で、選考の上、入学を許可する。
⑴ 高等専門学校又は短期大学を卒業した者
⑵ 大学を卒業した者
⑶ 歯科技工士を養成する専修学校の専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者

第１９条　本学学生で退学した者が再び入学を請うときは、欠員がある場合に限り、選考の上、原学年以下に入学を許可することがある。
２　前項に規定するもののほか、第２５条の規定による休学者が退学（休学期間満了のため学部を退学した者をいう。）し、本学医学部医学科又は歯学部歯学科に再び入学を志願するときは、原学科の原学年以上に入学を許可する。ただし、懲戒事由等に相当する事由があると認められる志願者の入学については、選考の上許可するものとする。
３　前２項に規定するもののほか、第３１条の２の規定による退学者が本学医学部医学科又は歯学部歯学科に再び入学を志願するときは、退学時の在籍学科の在籍学年以上に入学を許可する。ただし、懲戒事由等に相当する事由があると認められる志願者の入学については、選考の上許可するものとする。

第２０条　編入学、転入学及び再入学により入学し、その後所定の年限在学した者は、第３条に規定する年限を在学したものとみなす。

第２１条　本学に入学を志願する者は、所定の手続により、願い出なければならない。

第２２条　入学志願者については、別に定めるところにより選考を行う。

第２３条　前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、定められた期日までに宣誓簿に署名し、誓約書その他所定の書類を提出するとともに、入学料を納付するものとする。ただし、第４５条の規定により入学料の免除又は徴収猶予を申請し受理された者にあっては、当該免除又は徴収猶予を許可し又は不許可とするまでの間、入学料の徴収を猶予する。
２　学長は、前項の手続を完了した者に入学を許可する。

第２４条　学生は、病気その他の事由により引き続き３月以上休学しようとするときは、所定の手続きにより、学長に願い出て許可を受けなければならない。

第２５条　本学医学部医学科又は歯学部歯学科に４年以上在学した者が引き続き大学院医歯学総合研究科博士課程に在学するために休学しようとするときは、所定の手続により、学長に願い出て許可を受けなければならない。

第２６条　前２条の規定による休学者で、休学期間中にその事由が消滅したときは、所定の手続きにより、復学の許可を学長に願い出ることができる。

第２７条　休学期間は、通算して２年を超えることはできない。ただし、特別の事由があるときは、さらに１年以内の休学を許可することがある。
２　大学院医歯学総合研究科博士課程に在学する者の第２４条の規定による休学期間及び第２５条の規定による休学期間は、第１項の規定にかかわらず、通算して３年を超えることができない。ただし、特別の事由があるときは、さらに１年以内の休学を許可することができる。
３　休学した期間は、修業年限及び在学年限に算入しない。

第２８条　学長は、学生が病気その他の事由により修学が不適当と認められるときは、当該学部教授会の議（全学共通科目を履修している学生については、教養部長から当該学部長への通知による。）を経て、休学を命ずることがある。

第２９条　学生は、学長の許可なくして、他の大学、本学の他の学科又は専攻に入学を志願することはできない。

第３０条　学生が転学しようとするときは、所定の手続きにより、学長に願い出て許可を受けるものとする。
２　前項の許可を与えたときは、退学とする。

第３１条　学生が病気その他の事由で退学しようとするときは、所定の手続きにより、学長に願い出てその許可を受けるものとする。

第３１条の２　四大学連合憲章に基づく協定による複合領域コースを履修している者が協定大学に編入学するために退学しようとするときは、所定の手続きにより、学長に願い出て許可を受けなければならない。

第３２条　医学部医学科及び歯学部歯学科の学生は１０年を、医学部保健衛生学科及び歯学部口腔保健学科の学生は８年を超えて在学することができない。
２　編入学、転入学及び再入学により入学した者の在学年限は、各学部において定める。

第３３条　学長は、学生が次の各号の一に該当するときは、当該学部教授会の議（全学共通科目を

履修している学生については、教養部長から当該学部長への通知による。）を経て、退学を命ずることがある。
⑴ 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
⑵ その他病気等の事由により、成業の見込みがないと認められる者

第５章　履修方法及び単位等

第３４条　学生が授業科目を履修し、試験に合格したときは、所定の単位を与える。
２　前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究等の授業科目については、その学修の成果を評価して試験によらずに単位を与えることができる。

第３５条　前条に定める他、履修及び学習の評価方法については、各学部及び教養部において定める。

第３６条　１単位の授業科目を、４５時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学習等を考慮して、１単位当たりの授業時間を次の基準により、各学部及び教養部において定める。
⑴ 講義及び演習については、１５時間から３０時間の範囲
⑵ 実験、実習及び実技については、３０時間から４５時間の範囲

第３７条　本学の教育上有益と認めるときは、本学に入学（編入学、転入学等を除く。）する前の大学（短期大学並びに外国の大学及び短期大学を含む。）において修得した単位を合計３０単位を限度として、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。ただし、第３条に定める修業年限を短縮することはできない。
２　前項に係る手続き等については、各学部及び教養部において定める。

第３８条　本学の教育上有益と認めるときは、学生が本学の定めるところにより他の大学において履修した授業科目について修得した単位を、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
２　前項に係る手続き等については、各学部及び教養部において定める。

第６章　卒業及び学位

第３９条　卒業の認定は、第３条に定める年限を在学し、かつ、第６条第３項に定める授業科目を、医学部医学科においては２０９単位以上、歯学部歯学科においては２２０単位以上、医学部保健衛生学科看護学専攻においては１２４単位以上、医学部保健衛生学科検査技術学専攻においては１３５単位以上、歯学部口腔保健学科口腔保健衛生学専攻においては１２８単位以上、歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻においては１２６単位以上を修得した者に対し、当該学部教授会の議を経て学長が行う。

第４０条　前条による卒業者には、次の区分により学士の学位を授与する。

学　部	学科・専攻	学　　位
医　学　部	医学科 保健衛生学科	学士（医　　学）

	看護学専攻	学士（看　護　学）
	検査技術学専攻	学士（保　健　学）
歯　学　部	歯学科	学士（歯　　学）
	口腔保健学科	学士（口腔保健学）

第７章　検定料、入学料及び授業料

第４１条　授業料、入学料及び検定料の額については、別に定める。

第４２条　入学志願者は、出願と同時に検定料を納付しなければならない。

第４３条　授業料は、次の２期に分けて納付しなければならない。

前期　　４月中

後期　　１０月中

２　前項の規定にかかわらず、学生の申出があったときは、前期に係る授業料を徴収するときに、当該年度の後期に係る授業料を併せて徴収するものとする。

３　入学年度の前期又は前期及び後期に係る授業料については、第１項の規定にかかわらず、入学を許可される者の申出があったときは、入学を許可するときに徴収するものとする。

４　第１項の授業料納入の告知・督促は、所定の場所（医学部掲示板・歯学部掲示板・教養部掲示板）に掲示するものとする。

第４４条　既納料金は、如何なる理由があっても返還しない。

２　第４２条の規定に基づき徴収した検定料について、第１段階目の選抜で不合格となった者から返還の申出があったときは、前項の規定にかかわらず、第２段階目の選抜に係る額に相当する額を返還する。

３　前条第３項の規定に基づき授業料を納付した者が、入学年度の前年度の３月３１日までに入学を辞退した場合には、第１項の規定にかかわらず、納付した者の申出により当該授業料に相当する額を返還する。

４　前条第２項及び第３項の規定に基づき授業料を納付した者が、後期分授業料の徴収時期以前に休学又は退学した場合には、第１項の規定にかかわらず、後期分の授業料に相当する額を返還する。

第４５条　本学に入学前１年以内において、入学する者の学資を主として負担している者（以下「学資負担者」という。）が死亡し、又は入学する者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、入学料の納付が著しく困難であると認められる者及び当該者に準ずる者であって、学長が相当と認める事由がある者については、本人の申請により、入学料の全額又は半額を免除することがある。

２　本学に入学する者であって、経済的理由によって納付期限までに入学料の納付が　困難であり、かつ、学業優秀と認められる者、入学前１年以内において学資負担者が死亡し、又は入学する者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、納付期限までに入学料の納付が困難であると認められる者及びその他やむを得ない事情があると認められる者については、本人の申請により、入学料の徴収猶予をすることがある。

３　入学料の免除の申請をした者で、免除を許可されなかつた者又は半額免除を許可された者のう

ち、前項該当する者は、免除の不許可又は半額免除の許可を告知した日から起算して１４日以内に徴収猶予の申請をすることができる。
４　前３項の取扱いについては、別に定める。

第４６条　停学に処せられた者の授業料は徴収するものとする。

第４７条　行方不明、その他やむを得ない事情がある者の授業料は本人又は保証人の申請により徴収を猶予することがある。

第４８条　死亡又は行方不明のため除籍され、或は授業料の未納を理由として退学を命ぜられた者の未納の授業料は全額を免除することがある。

第４９条　毎学期開始前に休学の許可を受けた者及び休学中に休学延期の許可を受けた者の休学中の授業料は免除する。ただし、各学期の中途で休学の許可を受けた者の授業料は、月割計算により休学当月の翌月から復学当月の前月までに相当する額を免除する。
２　各学期の中途で復学する者のその期の授業料は、復学当月から次の授業料徴収期の前月まで月割計算により復学の際徴収する。

第５０条　経済的理由によって授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者及び学生又は学生の学資負担者が風水害等の災害を受け、授業料の納付が困難と認められる者については、本人の申請により授業料の全額若しくはその一部を免除又は徴収猶予することがある。
２　前項の取扱いについては別に定める。

第５１条　入学料の免除の申請をした者で、免除を許可されなかった者又は半額免除を許可された者が、納付すべき入学料を免除の不許可又は半額免除の許可を告知した日から起算して１４日以内に納付しない場合は、除籍する。ただし、第４５条第３項の規定により徴収猶予の申請をした者を除く。
２　入学料の徴収猶予の申請をした者で、徴収猶予を許可されなかつた者が、納付すべき入学料を徴収猶予不許可を告知した日から起算して１４日以内に納付しない場合は、除籍する。
３　入学料の徴収猶予の申請をした者で、徴収猶予を許可された者が、納付期限までに入学料を納付しない場合は、除籍する。

第５２条　授業料を所定の期間内に納付しない者で、督促を受け、なおかつ怠る者は退学を命ずる。
２　前項の督促は文書をもってするものとする。

第８章　大学院

第５３条　本学に、組織運営規程の定めるところにより、大学院を置く。
２　大学院の学則は、別に定める。

第９章　外国人留学生

第５４条　外国人で、大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する者があるときは、本学の教育研究に支障のない場合に限り、選考の上、外国人留学生として入学を許可することがある。
２　外国人留学生については、別に定める。

第１０章　科目等履修生、聴講生及び特別聴講学生

第５５条　本学の学生以外の者で、本学が開設する一又は複数の授業科目を履修することを志願する者があるときは、選考の上、科目等履修生として入学を許可することがある。
２　前項により入学した者には、第３４条の規定を準用し、単位を与える。
３　その他科目等履修生については、別に定める。

第５６条　特定の授業科目について聴講を志願する者があるときは、選考の上、聴講生として入学を許可することがある。
２　聴講生については、別に定める。

第５７条　他の大学の学部学生で、当該大学との協定に基づき、本学が開設する一又は複数の授業科目の履修を志願する者があるときは、選考の上、特別聴講学生として入学を許可する。
２　特別聴講学生については、別に定める。

第１１章　懲　戒

第５８条　学長は、学生が本学の諸規則に違反し、その他学生の本分に反する行為をしたときは、当該学部教授会の議（全学共通科目を履修している学生については、教養部長から当該学部長への通知による。）を経て、これを懲戒する。
２　懲戒は、退学、停学、訓告とする。
３　前項の退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。
⑴　性行不良で改善の見込みがないと認められる者
⑵　学業を怠り成業の見込みがないと認められる者
⑶　学内の秩序を著しく乱し、その他学生の本分に著しく反した者

第１２章　寄　　宿　　舎

第５９条　本学に寄宿舎を置く。
２　寄宿舎に関する規定は、別に定める。

附　則

１　この学則は、平成１６年４月１日から施行する。
２　第４条の規定にかかわらず、歯学部口腔保健学科の平成１６年度から平成１８年度までの３年次編入学員及び収容定員は、次のとおりとする。

年度 区　分	平　成 16年度	平　成 17年度	平　成 18年度
３年次編入学定員	―	―	１０
収容定員	２５	５０	８５

３　国立大学法人の成立前の東京医科歯科大学に平成１６年３月３１日に在学し、引き続き本学の在学者となった者（以下「在学者」という。）及び平成１６年４月１日以後在学者の属する学年に再入学、転入学び編入学する者の教育課程の履修については、この学則の規定にかかわらず、なお従前の例による。
４　この学則の施行前に廃止前の東京医科歯科大学学則（昭和２７年学規第１号）の規定によりなされた手続その他の行為は、この学則の相当規定によりなされた手続その他の行為とみなす。

附　則（平成１７年３月２３日規程第２号）

１　この学則は、平成１７年４月１日から施行する。

２　平成１７年３月３１日において現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成１７年４月１日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表（２）の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（平成１８年３月２８日規程第１号）

１　この学則は平成１８年４月１日から施行する。

２　平成１８年３月３１日において現に本学に在学する者（以下在学者という。）及び平成１８年４月１日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の第３９条、別表（１）及び別表（２）の規定にかかわらず、なお従前の例による

附　則（平成１９年３月２９日規程第３号）

１　この学則は、平成１９年４月１日から施行する。

２　平成１９年３月３１日において現に本学に在学する者（平成１８年度に入学した者を除く。以下「在学者」という。）及び平成１９年４月１日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表（２）の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（平成２０年１月１６日規程第１号）

１　この学則は、平成２０年４月１日から施行する。

２　改正後の第４条の規定にかかわらず、医学部保健衛生学科及び歯学部口腔保健学科の平成２０年度から平成２２年度までの収容定員は、次のとおりとする。

学部・学科・専攻	収　容　定　員		
	平成２０年度	平成２１年度	平成２２年度
医学部保健衛生学科			
看護学専攻	２１５	２１０	２１５
検査技術学専攻	１３５	１３０	１３５
歯学部口腔保健学科	１１８	１１６	１１８

附　則（平成２０年３月２６日規程第５号）

１　この学則は、平成２０年４月１日から施行する。

２　平成２０年４月１日において現に本学に在学する者（平成１８年度に入学した者を除く。以下「在学者」という。）及び２０年４月１日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表（１）及び別表（２）の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（平成２１年１月８日規程第１号）

１　この学則は、平成２１年４月１日から施行する。

２　この学則改正前に、本学に４年以上在学し、引き続き大学院医歯学総合研究科博士課程に入学するため、平成２１年４月１日より休学を願い出ている者については、改正後の東京医科歯科大学学則第２５条の２の規程を適用する

３　この学則の施行の際限に本学に４年以上在学し、引き続き大学院医歯学総合研究科博士課程に入学するため、退学した者が再び入学を志願する場合の取扱いは、なお従前の例による。

４　平成２１年３月３１日において現に本学に在学する者（以下｢在学者｣という。）及び平成２１年４月１日以降在学者の属する学年に再入学、転入学する者については、改正後の別表（２）の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（平成２１年３月１９日規程第３号）

１　この学則は、平成２１年４月１日から施行する。

２　改正後の第４条の規定にかかわらず、医学部医学科の平成２１年度から平成２５年度までの収容定員は、次のとおりとする。

学部・学科	収　容　定　員				
	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度	平成２５年度

医学部医学科	４８０	４９０	５００	５１０	５２０

３　平成２１年３月３１日において現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成２１年４月１日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表（１）及び別表（２）の規定にかかわらず、なお従前の例による。ただし、平成２１年４月１日以降に歯学部口腔保健学科に３年次編入学する者については、改正後の別表（２）の規定を適用する。

附　則（平成２１年１２月１８日規程第９号）

この規程は、平成２２年１月１日から施行する。

附　則（平成２２年３月３０日規程第３号）

１　この学則は，平成２２年４月１日から施行する。

２　改正後の第４条の規定にかかわらず、医学部医学科の平成２２年度から平成２６年度までの収容定員は、次のとおりとする。

学部・学科	収　容　定　員				
	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度	平成２５年度	平成２６年度
医学部医学科	５００	５２０	５４０	５６０	５８０

３　平成２２年３月３１日において現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成２２年４月１日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（平成２３年３月４日規程第１号）

１　この学則は、平成２３年４月１日から施行する。

２　改正後の第４条の規定にかかわらず、医学部医学科の平成２３年度から平成２７年度までの収容定員は、次のとおりとする。

年度／区分	収　容　定　員				
	平成２３年度	平成２４年度	平成２５年度	平成２６年度	平成２７年度
収容定員	５２５	５５０	５７５	６００	６１５

３　改正後の第４条の規定にかかわらず、歯学部歯学科の平成２３年度から平成２７年度までの収容定員は、次のとおりとする。

年度／区分	収　容　定　員				
	平成２３年度	平成２４年度	平成２５年度	平成２６年度	平成２７年度
収容定員	３５８	３４６	３３４	３２２	３２０

４ 改正後の第４条の規定にかかわらず､歯学部口腔保健学科の平成２３年度から平成２５年度までの収容定員は、次のとおりとする。

	年度／区分	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
口腔保健衛生学専攻	収容定員	１１５	１１０	１０５
口腔保健工学専攻	２年次編入定員		５	５
	収容定員	１０	２５	４０

附　則（平成２３年６月３０日規程第６号）

この学則は、平成２４年４月１日から施行する。

附　則（平成２４年３月３０日規程第３号）

１　この学則は、平成２４年４月１日から施行する。

２　改正後の第４条の規定にかかわらず、医学部医学科の平成２４年度から平成２７年度までの編入学定員等は、次のとおりとする。

区分＼年度	平成２４年度	平成２５年度	平成２６年度	平成２７年度
編入学定員	５（２年次編入） ５（３年次編入）	５（２年次編入）	５（２年次編入）	５（２年次編入）
収容定員	５５５	５８０	６０５	６２０

３　平成２４年度においては、改正後の第１４条の「２年次」は「３年次及び２年次」と読み替えるものとする。

附　則（平成２４年９月２８日規程第８号）

この学則は、平成２４年１０月１日から施行する。

附　則（平成２５年３月１２日規程第２号）

１　この学則は、平成２５年４月１日から施行する。

２　改正後の第４条の規定にかかわらず、医学部医学科の平成２５年度から平成２９年度までの収容定員は、次のとおりとする。

区分＼年度	平成２５年度	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度
収容定員	５８１	６０７	６２３	６２９	６３０

東京医科歯科大学全学共通科目履修規則

（平成１６年４月１日
規則第２１７号）

（趣旨）

第１条　東京医科歯科大学における全学に共通する教育科目（以下「全学共通科目」という。）の履修に関しては、東京医科歯科大学学則（平成１６年規程第４号。以下「学則」という。）に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

（授業科目の編成）

第２条　全学共通科目における授業科目は、次の４系をもって編成する。

自由教育講義系
自由教育実習系
自由教育セミナー系
基礎教育系

（授業科目及び単位数）

第３条　前条の各系に属する授業科目及び修得すべき単位数等は、別表１に定めるとおりとする。

２　前項の授業科目及び修得すべき単位数等は、教養部教授会の議を経て定めるものとする。

（１単位当たりの授業時間）

第４条　学則第３６条に定める１単位当たりの授業時間は、次のとおりとする。

⑴ 講義については、１５時間
⑵ 演習については、３０時間
⑶ 実験及び実習については、４５時間

（履修届）

第５条　学生は、別に定める授業科目の中から、履修しようとする授業科目を所定の期日までに届け出なければならない。

（定期試験）

第６条　履修した授業科目については、試験を行う。

２　前項の規定にかかわらず、実験、実習を伴う授業科目又は試験を行うことが困難な授業科目等で、平常の学修の成果を評価して成績を与えることが適切と認められる場合には、試験によらず、指定した課題についての報告等をもって試験に代えることができる。

３　第１項の試験については、別に定める。

４　試験に合格したときは、所定の単位を与える。

（学習の評価）

第７条　履修した授業科目の成績については、別表２により学習の評価を行う。

２　前項の規定にかかわらず、前条第２項に該当する授業科目のうち、第１項により難い場合の学習の評価は、別表３により行う。

３　第１項及び第２項の学習の評価に、平常の学修の成果を加味することができる。
４　教養部長は、学習の評価の結果を学生に通知する。

（再履修）
第８条　前条により、「不可」又は「不合格」の評価を得た授業科目については、所定の手続きにより再履修することができる。

（懲戒）
第９条　教養部長は、懲戒に相当すると思われる行為があったときは、学則第５８条に定める懲戒の手続きをとるものとする。なお、手続きについては別に定める。

（進級要件）
第１０条　別表１（１）に定める単位をすべて修得しなければ、第２学年に進級することができない。
２　別表１（２）に定める単位をすべて修得しなければ、第３学年に進級することができない。
３　別表１（３）に定める単位をすべて修得しなければ、第４学年に進級することができない。
４　全学共通科目の単位の認定については、教養部教授会の議を経て、教養部長がこれを行う。
５　教養部長は、前項の認定の結果について各学部長に通知する。
６　２年以内に、別表１（１）に定める単位をすべて修得することができない学生には、学則第３３条による退学を命ずる。ただし、当該期間には、休学の期間を算入しない。

（歯学部口腔保健学科編入学生の履修）
第１１条　学則第１８条及び第１８条の２に定める歯学部口腔保健学科編入学生の全学共通科目に係る履修については、別に定める。

（補則）
第１２条　この規則に定めるもののほか、全学共通科目の履修に関する必要な事項は、教養部教授会が別に定める。

附　則
１　この規則は、平成１６年４月１日から施行する。
２　国立大学法人の成立前の東京医科歯科大学に平成１６年３月３１日に在学し、引き続き本学の在学者となったもの（以下「在学者」という。）及び平成１６年４月１日以後在学者の属する学年に再入学、転入学及び編入学する者の教育課程の履修については、この規則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（平成１８年３月３１日規則第１０号）
１　この規則は、平成１８年４月１日から施行する。
２　平成１８年３月３１日において、現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）および平成１８年４月１日以降に在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表１の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（平成２０年３月31日規則第８号）
１　この規則は、平成２０年４月１日から施行する。
２　平成２０年３月３１日において現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成２０年４月１日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表（１）の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（平成２１年３月１９日規則第１１号）

１　この規則は、平成２１年４月１日から施行する。

２　平成２１年３月３１日において現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成２１年４月１日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表（１）の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（平成２２年３月３０日規則第４０号）

１　この規則は、平成２２年４月１日から施行する。

２　平成２２年３月３１日において、現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成２２年４月１日以降に在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表１、別表２及び別表３の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（平成２３年３月４日規則第１４号）

１　この規則は、平成２３年４月１日から施行する。

２　平成２３年３月３１日において、現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成２３年４月１日以降に在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、この規則にかかわらず、なお従前の例による。

全学共通科目履修規則　別表1

(1)第1学年

授業科目			修得すべき単位数 医学部 医学科	医学部 保健衛生学科 看護学専攻	医学部 保健衛生学科 検査技術学専攻	歯学部 歯学科	歯学部 口腔保健学科 口腔保健衛生学専攻	歯学部 口腔保健学科 口腔保健工学専攻	備考
自由教育講義系	人文科学・社会科学	哲学Ⅰ	8	8	8	8	8	8	1科目2単位
		哲学Ⅱ							
		倫理学Ⅰ							
		倫理学Ⅱ							
		心理学Ⅰ							
		心理学Ⅱ							
		宗教学Ⅰ							
		宗教学Ⅱ							
		芸術Ⅰ							
		芸術Ⅱ							
		歴史学Ａⅰ							
		歴史学Ａⅱ							
		歴史学Ｂⅰ							
		歴史学Ｂⅱ							
		民俗学Ⅰ							
		民俗学Ⅱ							
		科学史Ⅰ							
		科学史Ⅱ							
		文学Ａⅰ							
		文学Ａⅱ							
		文学Ｂⅰ							
		文学Ｂⅱ							
		法学Ⅰ							
		法学Ⅱ							
		政治学Ⅰ							
		政治学Ⅱ							
		経済学Ⅰ							
		経済学Ⅱ							
		社会学Ａⅰ							
		社会学Ａⅱ							
		社会学Ｂⅰ							
		社会学Ｂⅱ							
		社会心理学Ⅰ							
		社会心理学Ⅱ							
		社会思想史Ⅰ							
		社会思想史Ⅱ							
		文化人類学Ⅰ							
		文化人類学Ⅱ							
		社会科学特論ＡⅠ							
		社会科学特論ＡⅡ							
		社会科学特論ＢⅠ							
		社会科学特論ＢⅡ							
		＊日本事情ＡⅠ（注1）							
		＊日本事情ＡⅡ							
		＊日本事情ＢⅠ							
		＊日本事情ＢⅡ							
	自然科学	物理学入門	1（注2）		1（注2）	1（注2）			
		生物学入門		1			1	1	
		化学入門							
		数学	2			2			
		数学基礎			1				
		統計学		1	1		1	1	
		物理学	2		2	2			
		化学	2		2	2			
		化学基礎		1			1	1	
		生物学	2		2	2			
		生物学基礎		1			1	1	
自由教育実習系		英語	4	4	4	4	4	4	
	外国語	＊日本語	4	4	4	4	4	4	1科目4単位
		ドイツ語							
		フランス語							
		中国語							
		スペイン語							
	自然科学	物理学実験	1			1			
		化学実験	1			1			
		生物学実験	1			1			
		科学基礎実験		1	1		1	1	
		科学基礎演習		（注3）			（注3）	（注3）	
		情報科学		1	1		1	1	
		情報処理	1			1			
	保健体育	スポーツ・健康科学	1	1	1	1	1	1	
		フィットネスマネージメント	1	1	1	1	1	1	

授業科目			修得すべき単位数 医学部 医学科	医学部 保健衛生学科 看護学専攻	医学部 保健衛生学科 検査技術学専攻	歯学部 歯学科	歯学部 口腔保健学科 口腔保健衛生学専攻	歯学部 口腔保健学科 口腔保健工学専攻	備考
自由教育セミナー系	共通領域	（自由選択科目）	2	1	1	2	1	1	科目名は毎年度定める
基礎教育系	共通領域	教養総合講座	1	1	1	1	1	1	
	連携教育	医療人間学概論（倫理学）		1					
		医療人間学概論（法学）		1	1				
		医療人間学セミナーⅠ		1					
		医療人間学セミナーⅡ							
第1学年　小計			34	29	32	34	26	26	

（注）

1　＊印を冠する科目は、外国人留学生のみ履修できる。

2　医学部医学科、保健衛生学科検査技術学専攻及び歯学部歯学科の学生については物理学入門、生物学入門、化学入門のうちから1科目（1単位）を選択する。

3　保健衛生学科看護学専攻及び口腔保健学科の学生については科学基礎実験または科学基礎演習のいずれか1科目（1単位）を選択する。

(2)第2学年

授業科目			修得すべき単位数 医学部 医学科	医学部 保健衛生学科 看護学専攻	医学部 保健衛生学科 検査技術学専攻	歯学部 歯学科	歯学部 口腔保健学科 口腔保健衛生学専攻	歯学部 口腔保健学科 口腔保健工学専攻	備考
基礎教育系	教養教育	生命科学基礎	2			2			
		主題別選択Ⅰ	1			1			科目名は毎年度定める
	連携教育	教養英語				4			
		情報科学演習				1			
		サイエンスＰＢＬ				1			
		生命科学（人体の生物学）				2			
		生命科学（生物物理化学）				2			
		人文社会科学総合講義				2			
第2学年　小計			3			15			

(3)第3学年

授業科目			修得すべき単位数 医学部 医学科	医学部 保健衛生学科 看護学専攻	医学部 保健衛生学科 検査技術学専攻	歯学部 歯学科	歯学部 口腔保健学科 口腔保健衛生学専攻	歯学部 口腔保健学科 口腔保健工学専攻	備考
基礎教育系	教養教育	主題別選択Ⅱ	1			1			科目名は毎年度定める
		主題別人文社会科学セミナー	2			2			
第3学年　小計			3			3			
全学共通科目　合計			40	29	32	52	26	26	

別表2

摘要	成績区分	評価区分	単位認定
第７条第１項に該当する授業科目	100～90点	秀	合格
	89～80点	優	
	79～70点	良	
	69～60点	可	
	59～0点	不可	不合格

別表3

摘要	成績区分	評価区分	単位認定
第７条第２項に該当する授業科目	―	合格	合格
	―	不合格	不合格

東京医科歯科大学試験規則

（平成２３年４月１日
規　則　第　１　号）

（趣旨）

第１条　この規則は、東京医科歯科大学における全学に共通する教育科目及び専門に関する教育科目（以下「授業科目」という。）の試験に関して、東京医科歯科大学学則（平成１６年規程第４号。以下「学則」という。）、東京医科歯科大学全学共通科目履修規則（平成１６年規則第２１７号。）及び東京医科歯科大学学部専門科目履修規則（平成２２年規則第４１号。）に定めるもののほか、必要な事項を定める。

（試験の種類）

第２条　試験は、本試験、追試験及び再試験とする。

（試験の方法）

第３条　試験は、筆答試験、コンピュータ活用試験、口答試験及び実地試験のいずれかによって行う。

（本試験）

第４条　本試験は、定期試験及び共用試験をいう。

２　共用試験は、医学部医学科及び歯学部歯学科において行う。

（定期試験）

第５条　定期試験とは、履修した授業科目について行う試験をいう。

２　定期試験の実施日時は、試験実施日の２週間前までに公示する。

３　定期試験を受験することのできる者は原則として次のとおりとする。

(1) 講義及び演習　　当該授業科目の授業時間数の３分の２以上履修した者

(2) 実習　　当該授業科目の授業時間数の４分の３以上履修した者

４　定期試験の結果は、公示する。

５　第３項に定めるもののほか、定期試験の受験資格に関し必要な事項は、医学部、歯学部又は教養部（以下「部局」という。）において別に定めることができる。

（共用試験）

第６条　共用試験とは、知識・問題解決能力を主として評価する多肢選択形式のコンピュータ活用試験（ＣＢＴ）及び技能・態度を主として評価する客観的臨床能力試験（ＯＳＣＥ）をいう。

２　共用試験の実施日時は、試験実施日の２週間前までに公示する。

３　共用試験を受験することのできる者は医学部医学科及び歯学部歯学科において

別に定める。
４　共用試験の結果は、公示する。

（追試験）
第７条　追試験とは、病気、その他止むを得ない理由により本試験を受験できなかった者に対して行う試験をいう。ただし、追試験は原則として１回限りとする。
２　追試験を受験しようとする者（以下「追試験申請者」という。）は、所定の受験申請書に医師の診断書等の証明書類を添えて、本試験終了後原則として５日以内に医学部長、歯学部長又は教養部長（以下「学部長等」という。）に願い出て、許可を受けなければならない。
３　学部長等は、前項の申請について、教育委員会又は教務委員会と協議のうえ、その可否を決定し、追試験申請者に通知するものとする。
４　追試験受験決定が否の場合は、本試験を不合格とする。
５　試験の結果は、公示する。
６　第２項に定めるもののほか、追試験の申請に関し必要な事項は、部局において別に定めることができる。

（再試験）
第８条　再試験とは、本試験又は追試験を受験し、不合格となった者に対し行う試験をいう。ただし、再試験は、原則として１回限りとする。
２　再試験の実施日時は、指定の期日までに公示する。
３　再試験は当該学部長等の判断により、受験を許可しないことがある。
４　再試験受験決定が否の場合は、当該授業科目を不合格とする。
５　試験の結果は、公示する。
６　第３項に定めるもののほか、再試験の許可に関し必要な事項は、部局において別に定めることができる。

（試験の成績）
第９条　本試験及び追試験による成績については、科目責任者が１００点満点で採点し、６０点以上を合格とする。
２　再試験の成績については、科目責任者が採点する。ただし成績は、６０点を上限とする。
３　共用試験の成績については、前２項の規定にかかわらず、医学部医学科及び歯学部歯学科において別に定める。

（成績の報告）
第１０条　科目責任者は、本試験、追試験及び再試験について所定の用紙に採点結果を記入し、指定の期日までに当該学部長等に報告しなければならない。
２　医学科教育委員会委員長又は歯学科教育委員会委員長は、共用試験について所定の用紙に採点結果を記入し、指定の期日までに当該学部長に報告しなければならない。

（罰則）

第１１条　試験において不正行為があったときは、学則第５８条の規定による懲戒の手続きをとるものとする。

（補則）

第１２条　この規則に定めるもののほか、試験に関し必要な事項は別に定める。

附　則

１　この規則は、平成２３年４月１日から施行する。

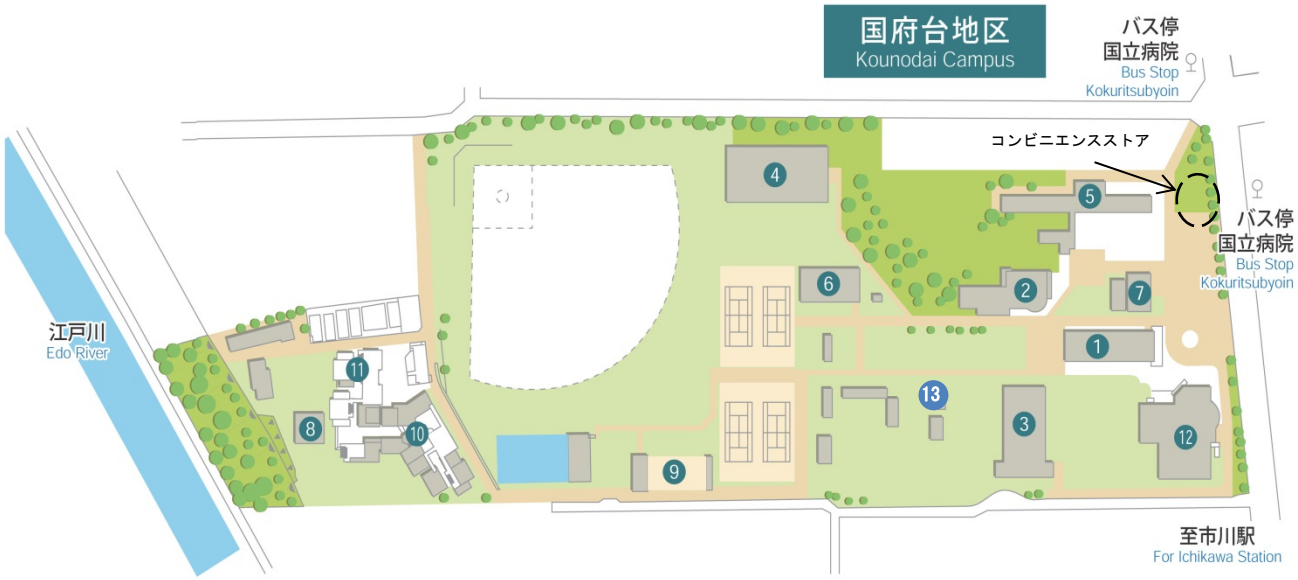
２　東京医科歯科大学医学部試験規則（平成１６年規則２０２号）は廃止する。

３　東京医科歯科大学歯学部試験規則（平成１６年規則２１４号）は廃止する。

４　この規則は、平成23年3月31日において現に医学部または歯学部に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成23年4月1日以降在学者が所属する学年に再入学、転入学するものについては、改正後の規則にかかわらず、なお従前の東京医科歯科大学医学部試験規則または東京医科歯科大学歯学部試験規則の例による。

VI. 建物配置図・専任教員連絡先

国府台地区建物配置図



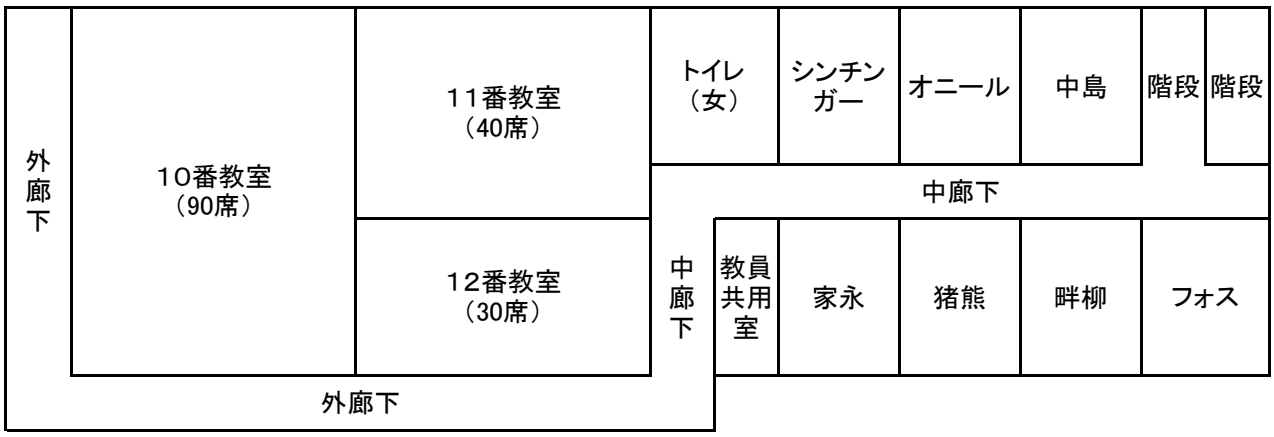
1	管理研究棟	6	武道館	11	国際学生宿舎
2	シャン･ドゥ･コーズリー	7	サークル室	12	ヒポクラテスホール（校舎棟）
3	図書館分館	8	合宿研修所	13	13 番教室
4	体育館	9	弓道場		
5	里見寮	10	国際交流会館		

【教室・実習室配置場所】

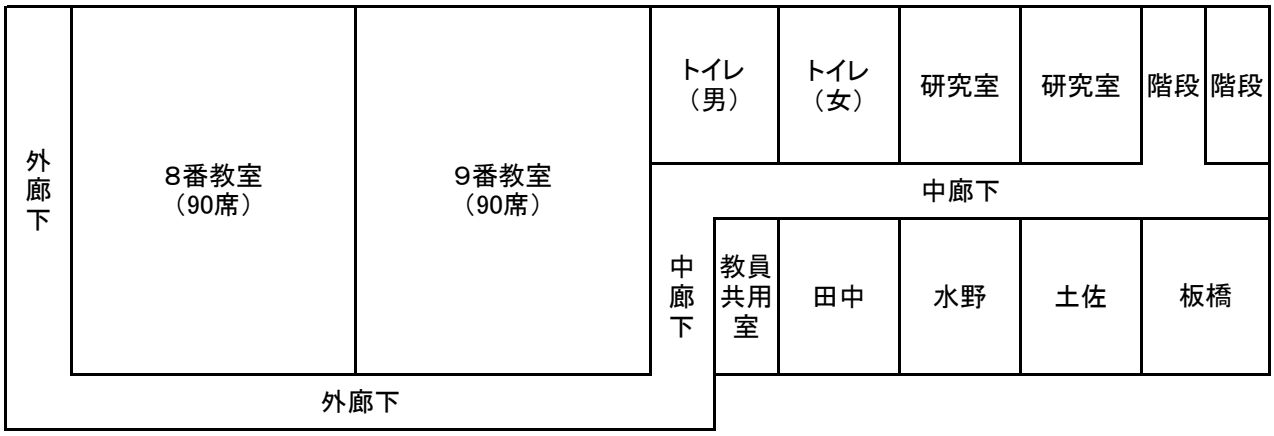
1～7 番教室　　：[１２]ヒポクラテスホール（校舎棟）
計算機実習室･実験室：[１２]ヒポクラテスホール（校舎棟）
8～12 番教室　　：[1]管理研究棟

1 管理研究棟

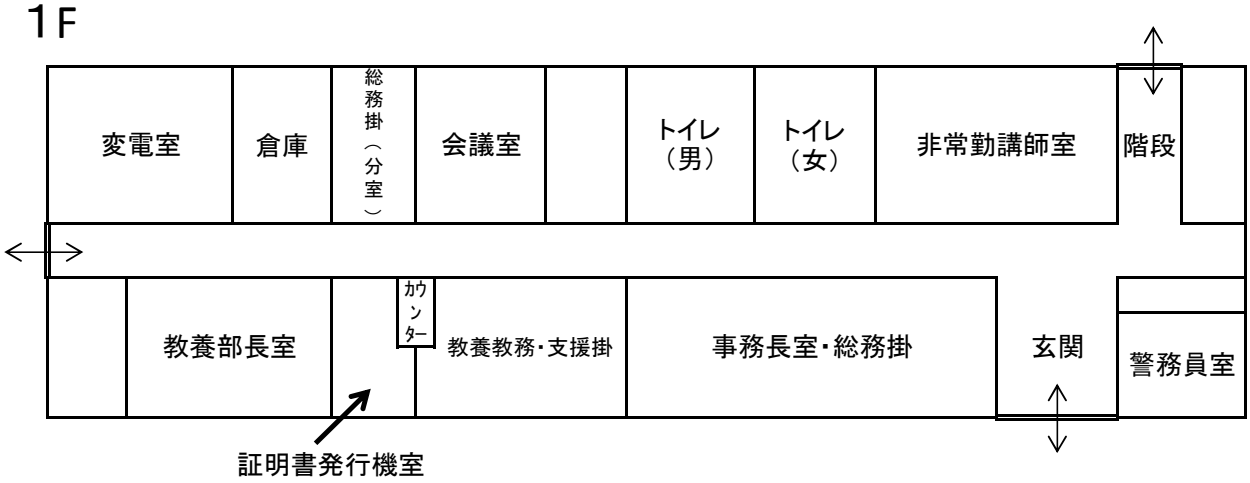
3F



2F

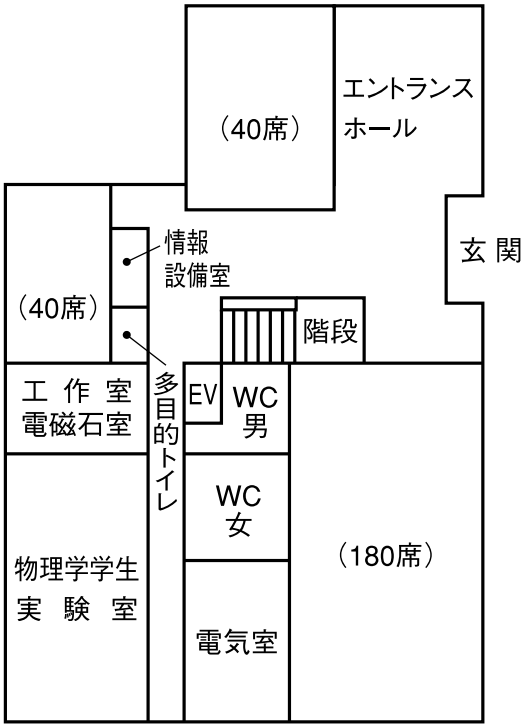


1F

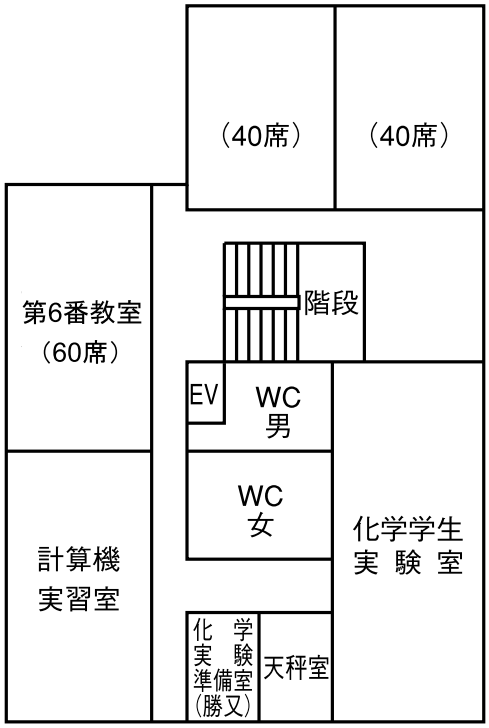


ヒポクラテスホール

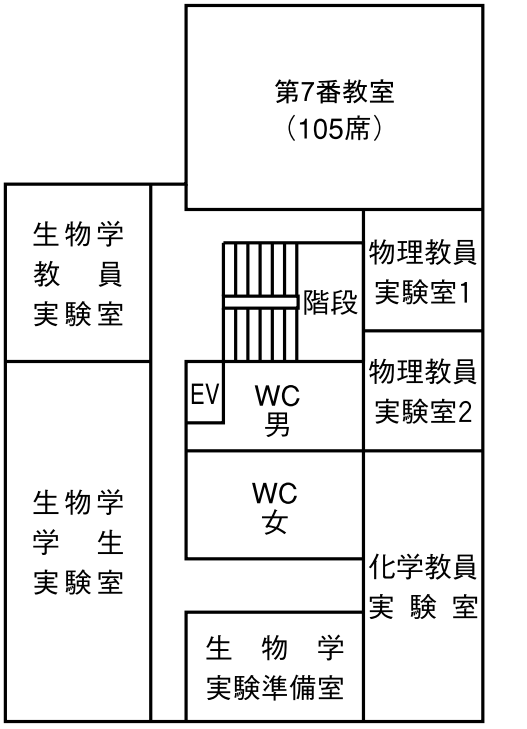
1F



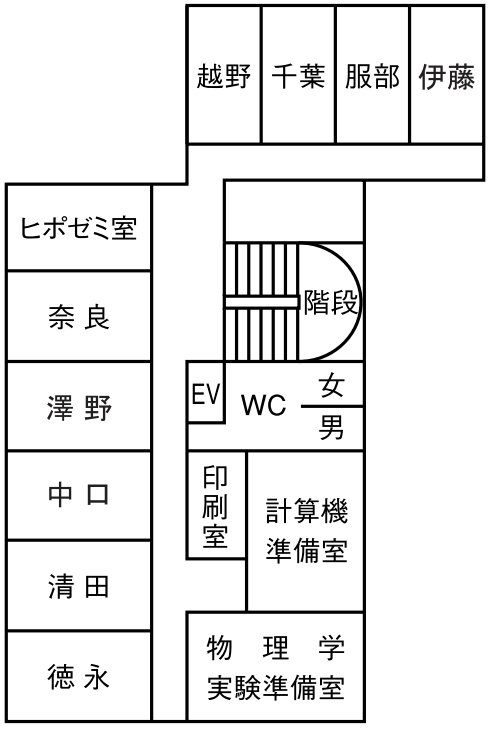
2F



3F

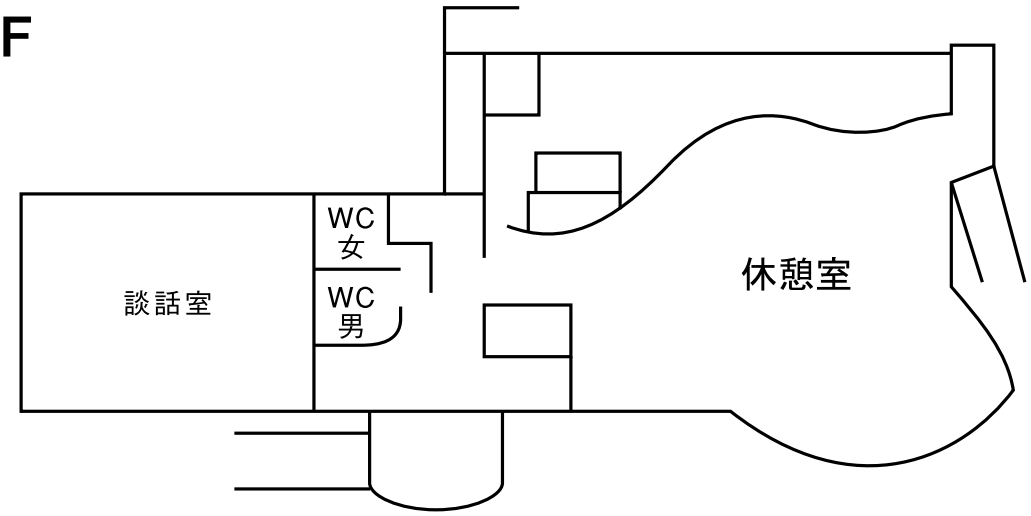


4F

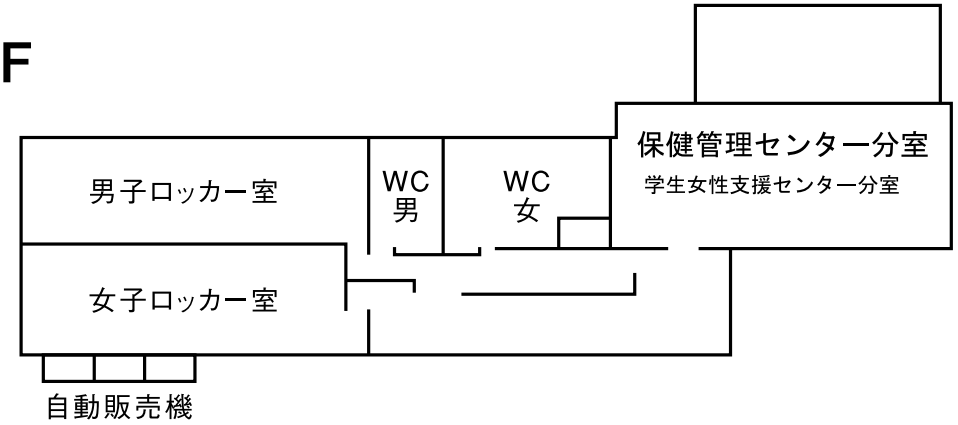


2　シャン・ドゥ・コーズリー

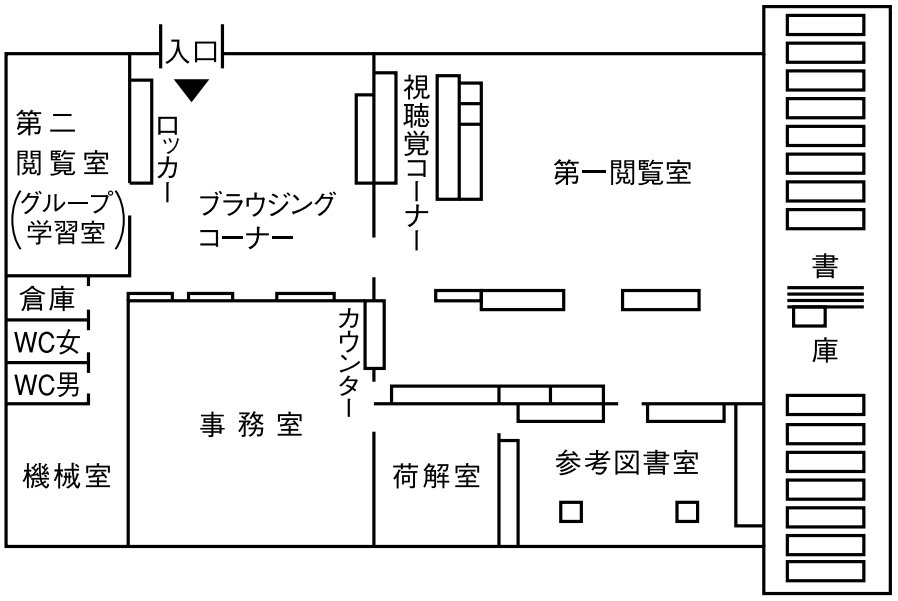
2F



1F



3　図書館分館



湯島地区建物配置図

1	1 号館西 【1 号館・管理棟】	8	駐車場（工事中）	15	8 号館南 【共同研究棟】
2	2 号館 【2 号館・附属教育施設等】	9	医科 A 棟 【医科新棟】	16	8 号館北 【RI 実験施設棟】
3	1 号館東 【歯科研究棟】	10	医科 B 棟 【医科新棟】	17	生体材料工学研究所
4	7 号館 【歯学部校舎棟】	11	3 号館 【医歯学総合研究棟（Ⅰ期棟）】	18	難治疾患研究所
5	歯科棟北 【歯科棟】	12	M&D タワー 【医歯学総合研究棟（Ⅱ期棟）】	19	12 号館 【駿河台臨床研究棟】
6	歯科棟南 【歯科外来事務棟】	13	5 号館 【保健管理センター】	20	看護師宿舎 （レジデンス茗芳）
7	10 号館【総合教育研究棟】	14	6 号館		

湯島地区使用講義室一覧

共用講義室１	１２：M&D タワー2F	ＯＨ第４講義室	1：1 号館西 8F
共用講義室２	１２：M&D タワー2F	ＯＥ第１講義室	2：2 号館 3F
医学科講義室１	１１：3 号館 2 階	ＯＥ第４講義室	2：2 号館 2F
医学科講義室２	１１：3 号館 3 階	ＯＥ第４実習室	2：2 号館 4F
医学科症例検討室	１０：医学部附属病院 5F		
医学科臨床講堂	9:医学部附属病院 B1F		
保健衛生学講義室１	１１：3 号館 18F		
保健衛生学講義室２	１１：3 号館 8F		
保健衛生学講義室３	１１：3 号館 8F		
保健衛生学講義室４	１１：3 号館 7F		
カンファレンス室３	１１：3 号館 5F		
カンファレンス室４	１１：3 号館 5F		
歯学部第 1 講義室	4：7 号館 1F		
歯学部第 2 講義室	4：7 号館 2F		
歯学部第 3 講義室	4：7 号館 2F		
歯学部第 4 講義室	4：7 号館 4F		
歯学部第 1 ゼミナール室	3：1 号館東 7F		
歯学部第 2 ゼミナール室	3：1 号館東 7F		
歯学部第 3 ゼミナール室	3：1 号館東 6F		
歯学部第 4 ゼミナール室	4：7 号館 6F		
演習室	6：歯科棟南 4F		
歯学部特別講堂	6：歯科棟南 4F		
歯学部演習室１～１１	1：1 号館西 6F		
ＯＨ第１～３講義室	1：1 号館西 7F		

※　□内は前ページ建物番号に準ずる。